

**福岡県立大学 中期計画に関わる  
自己点検・評価報告書**

**令和4年6月  
公立大学法人福岡県立大学**

## 法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡県立大学
所在地	福岡県田川市大字伊田4395番地
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	8,530,220,100円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>昭和20年(1945)4月 福岡県立保健婦学校開設</p> <p>昭和27年(1952)7月 福岡県立保育専門学院開設</p> <p>昭和42年(1967)4月 福岡県社会保育短期大学(保育科、社会福祉科)開学</p> <p>平成 4年(1992)4月 福岡県立大学(人間社会学部)開設</p> <p>平成 9年(1997)4月 大学院人間社会学研究科(修士課程)開設</p> <p>平成15年(2003)4月 看護学部開設</p> <p>平成18年(2006)4月 公立大学法人福岡県立大学に移行</p> <p>平成19年(2007)4月 大学院看護学研究科(修士課程)開設</p>
法人の目標	<p>公立大学法人福岡県立大学は、地(知)の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命とする。</p> <p>理事長のリーダーシップの下、魅力ある大学づくりを一層推進し、社会から高く評価される大学となるために、以下について取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成する。</li> <li>・地域の保健・医療・福祉の発展や大学の特色ある教育に有用な研究を重点的に推進するとともに、地域社会のニーズを踏まえた実践的な研究に取り組む。</li> <li>・大学の特色を生かして、社会人のリカレント教育の充実や、県民の生涯学習を推進するとともに、地域の教育活動を支援する取組や保健・福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。</li> </ul> <p>1 教育:(1)特色ある教育の展開、(2)教育活動の活性化、(3)意欲ある学生の確保、(4)学生支援の充実</p> <p>2 研究:(1)特色ある研究の推進、(2)研究の実施体制等の整備</p> <p>3 地域貢献及び国際交流:(1)地域社会への貢献、(2)国際交流の推進</p> <p>4 業務運営の改善及び効率化:(1)大学運営の改善、(2)事務等の効率化・合理化、(3)社会的責任・安全管理の徹底</p> <p>5 財務内容の改善:(1)財務基盤の強化、(2)経費の節減</p> <p>6 自己点検評価及び情報の提供:(1)自己点検・評価、(2)情報公開・広報</p>
法人の業務	<p>1 福岡県立大学を設置し、これを運営すること。</p> <p>2 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。</p> <p>3 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。</p> <p>4 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。</p> <p>5 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。</p> <p>6 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。</p>

2. 組織・人員情報			
(1) 役員			
役員の数、公立大学法人福岡県立大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また、役員任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。			
役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	柴田 洋三郎	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	昭和46年 3月 九州大学医学部卒業 昭和56年 7月 シカゴ大学客員准教授 昭和63年 9月 九州大学教授 平成 8年 9月 九州大学学生部長 平成 9年 4月 九州大学副学長(～平成14年3月) 平成15年10月 九州大学副学長 平成16年 4月 九州大学理事・副学長 平成22年 4月 独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官 平成24年 4月 公立大学法人 福岡県立大学 理事長・学長
常務理事(事務局長)	奥園 秀史	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日	昭和59年 4月 福岡県採用 平成30年 4月 総務部防災危機管理局長 平成31年 4月 人事委員会事務局長 令和 3年 4月 公立大学法人福岡県立大学 常務理事(事務局長)
理事(学外)	古野 金廣	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	昭和47年 5月 麻生セメント(株)入社 平成 元年 4月 麻生教育サービス(株)代表取締役社長 平成19年 7月 学校法人麻生塾副理事長 平成19年12月 麻生レコードマネジメント(株)代表取締役 社長 平成28年 6月 公立大学法人福岡県立大学理事 令和 2年 4月 学校法人福岡双葉学園副理事長
理事(学外)	芳賀 晟壽	令和2年4月1日 ～令和4年3月31日	昭和51年 1月 (社)北九州青年会議所理事長 昭和56年 8月 (株)芳賀代表取締役社長・会長 昭和56年12月 芳賀教育文化振興会理事長 昭和62年10月 福岡県教育委員会委員・委員長 平成 2年11月 社会福祉法人年長者の里理事長 平成 3年 7月 北九州商工会議所常議員 平成14年10月 (社)北九州高齢者福祉事業協会会長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成20年 4月 北九州市社会福祉協議会会長

理事(学内)	上野行良	令和2年4月1日 ~令和4年3月31日	平成6年3月 東京都立大学人文科学研究科 博士課程単位取得退学 平成5年10月 福岡県立大学講師 平成10年2月 福岡県立大学助教授 平成19年4月 福岡県立大学准教授 平成20年4月 福岡県立大学教授 平成30年4月 福岡県立大学人間社会学部長 兼人間社会学研究科長 令和2年4月 福岡県立大学教員兼務理事					
理事(学内)	松浦賢長	令和2年4月1日 ~令和4年3月31日	平成2年3月 東京大学医学系研究科博士課程修了 平成3年3月 カリフォルニア大学バークレー校研究助手 平成5年4月 京都教育大学教育学部助教授 平成9年3月 カリフォルニア大学バークレー校客員研究員 平成15年4月 福岡県立大学看護学部教授 平成20年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属図書館長 平成22年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属研究所長 平成25年4月 福岡県立大学教員兼務理事					
監事	井上道夫	平成30年4月1日~令和3年度の 財務諸表の承認の日	平成元年4月 弁護士開業 平成6年4月 井上法律事務所開設 平成30年4月 公立大学法人福岡県立大学監事					
監事	梅田久和	平成30年4月1日~令和3年度の 財務諸表の承認の日	昭和60年4月 麻生セメント入社 平成7年10月 センチュリー監査法人入所 平成17年6月 新日本監査法人マネージャー 平成17年7月 梅田公認会計事務所開設 平成28年4月 公立大学法人福岡県立大学監事					
(2)教員								
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
教員数	常勤(正規)	108人	113人	112人	111人	106人	105人	
	内訳	教授	21人	25人	24人	25人	25人	25人
		准教授	34人	31人	32人	32人	29人	31人
		講師	24人	25人	24人	22人	23人	22人
		助教	21人	20人	22人	23人	20人	19人
		助手	8人	12人	10人	9人	9人	8人
非常勤講師	68人	63人	63人	56人	57人	55人		
合計		176人	176人	175人	167人	163人	160人	
教員数増減の主な理由								

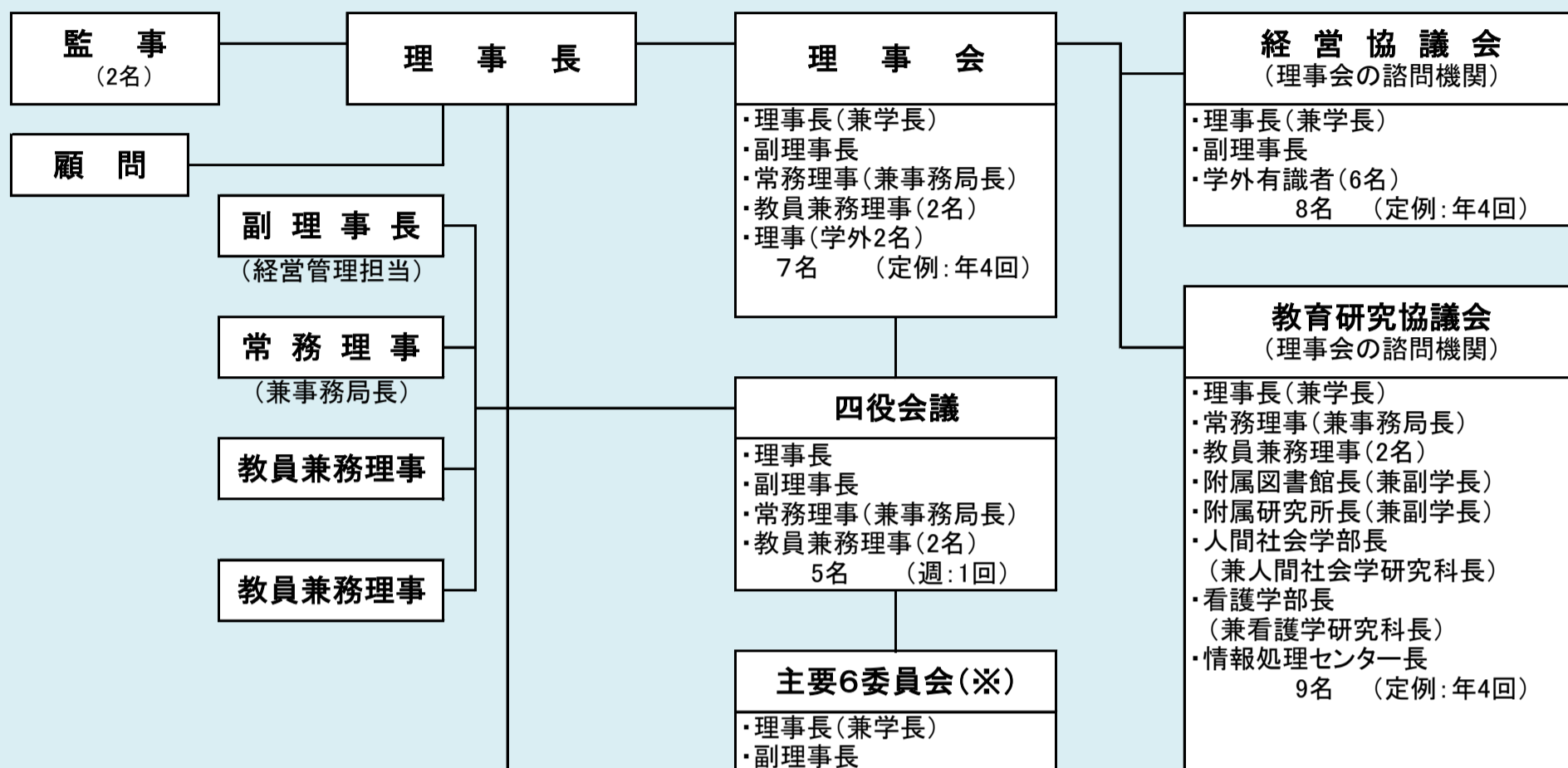
(3)職員										
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
職員数	事務局長	1人	1人	1人	1人	1人	1人			
	正規職員	県派遣	14人	14人	13人	13人	13人	13人		
		プロパー	7人	7人	8人	8人	8人	8人		
		他団体派遣	0人	0人	0人	0人	0人	0人		
		その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人		
		計	21人	21人	21人	21人	21人	21人		
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	15人	13人	14人	14人	15人	14人			
合計	37人	35人	36人	36人	37人	36人				
職員数増減の主な理由										
(4)法人の組織構成										
別紙のとおり										
3. 学生に関する情報										
関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)					
					28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
人間社会学部	計	630人	685人	109%	112	112	114	112	110	109
内訳	人間社会学部	600人	657人	110%	112	114	115	113	111	110
	公共社会学科	200人	221人	111%	113	111	113	109	109	111
	社会福祉学科	200人	212人	106%	113	116	117	114	110	106
	人間形成学科	200人	224人	112%	112	114	114	115	114	112
	大学院 人間社会学研究科	30人	28人	93%	97	83	93	100	93	93
看護学部	計	384人	407人	106%	101	98	105	110	109	106
内訳	看護学部	360人	382人	106%	101	98	106	110	108	106
	看護学科	360人	382人	106%	101	98	106	110	108	106
	大学院 看護学研究科	24人	25人	104%	100	100	96	121	104	104
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由										
看護学部の定員充足率が100%を超えている主な理由は、入学者数が定員を超過しているため。										

4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	柴田洋三郎	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長
学外委員	二場公人	令和2年4月1日～令和4年3月31日	田川市長
	齋藤明	令和2年4月1日～令和4年3月31日	元 独立行政法人大学入試センター 監事
	亀川寿	令和2年4月1日～令和4年3月31日	田川商工会議所 会頭
	秋吉一明	令和2年4月1日～令和4年3月31日	福岡県立大学と共に歩む会 会長
	野口久美子	令和2年4月1日～令和4年3月31日	福岡県立大学同窓会 会長
	八色俊之	令和2年4月1日～令和4年3月31日	福岡県立田川高等学校 校長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	柴田洋三郎	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長
学部長	池田孝博	令和2年4月1日～令和4年3月31日	人間社会学部長兼人間社会学研究科長
	江上千代美	令和2年4月1日～令和4年3月31日	看護学部長兼看護学研究科長
学内組織の長	小池祐子	令和2年4月1日～令和4年3月31日	副学長兼附属図書館長
	石崎龍二	令和2年4月1日～令和4年3月31日	副学長兼附属研究所長、情報処理センター長
	上野行良	令和2年4月1日～令和4年3月31日	教員兼務理事
	松浦賢長	令和2年4月1日～令和4年3月31日	教員兼務理事
	奥園秀史	令和3年4月1日～令和4年3月31日	事務局長

# 公立大学法人福岡県立大学組織図

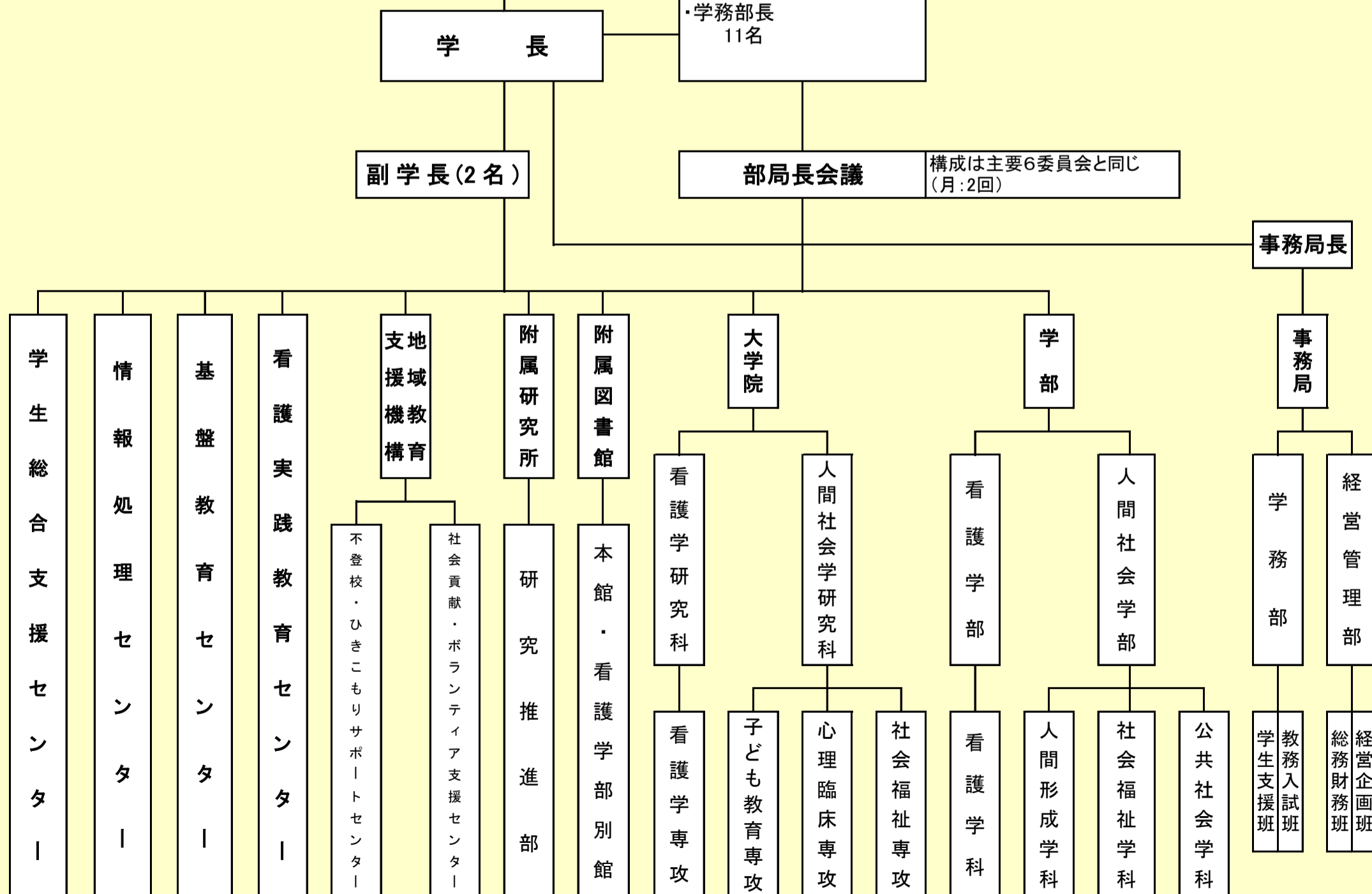
令和3年4月1日現在

## 法人



(※)改革推進、総務人事、予算、  
教務入試、学生、地域連携  
注 令和3年4月1日現在 副理事長は欠員

## 大学



全体評価

中期目標項目	法人自己評価	評価委員会意見・コメント等
I.全体	<p>【令和3年度】</p> <p>公立大学法人である本学は、福祉系の公立大学として保健・医療・福祉の高度な専門的人材の養成、地域に貢献する研究及び社会活動の推進の役割を担っています。第3期中期計画期間の4年目となるR3年度は学長のリーダーシップのもと、引き続き大学改革を推進し、コロナ禍2年目となる中で安定した大学教育の推進に努めました。</p> <p>R2年度は臨機応変に対応する高い“機動力”が必要となりましたが、R3年度はその上で安定した大学教育を展開できる“恒常力”が求められました。学長主導のもと、個人から組織のあらゆるレベルにおける内部質保証サイクルの向上を目指し、その不断のプロセスを“恒常力”解発の基盤としました。一例としては、教育の質向上・授業改善について学生と教員の“往還”をこれまで以上に重視し、後期には授業評価アンケートを中間と終了時の2回実施することにより、それら学生からの結果・要望について教員が速やかに同一授業内で確認・対応できるようにしました。</p> <p>入口管理は、教職協働体制のもとR2年度に引き続きオンラインにてオープンキャンパスを2回実施し、1200名を超える参加を得ることができました。オンライン形式のオープンキャンパスに向けては、教職員や学生が協働して紹介動画の作成にあたり、手作りではありますが、キャンパスの雰囲気や画面上で伝えることができました。また、高校生にも門戸を広げた学部の授業参観ウィークを実施し、多くの参加生徒から高い評価を得ました。また新たに国立大学初となる「全国児童養護施設推薦特別選抜入試」を実施しました。これらの結果、学部・一般入試の志願倍率は4.5倍となり、目標とする4倍を上回りました。</p> <p>出口管理は、学生委員会の下に置かれた進路・生活支援部会を中心に、各学科・コースにおいて国家試験対策に取り組み、新卒者における看護師合格率は99%、保健師90%、助産師100%、社会福祉士73%、精神保健福祉士91%と、保健師を除いても全国平均を上回る合格率を達成することができました。就職対策については、学生支援班のキャリア支援担当、就業力向上支援室、キャリアサポートセンターの3部署を学生支援センター内に統合し、学生就職支援のワンストップ拠点を構築・運用しました。その結果、就職率は人間社会学部において98%、看護学部において100%となりました。</p> <p>教育は、全学横断型教育プログラムの「データサイエンス・プログラム」と「キャリアマネジメント・プログラム」において学修証明書を計55名の学生に発行しました。コロナ禍2年目のキャンパスライフの状況については学生生活総合調査を実施し、学修面と生活面の両面から学生の状況を把握しました。学生生活総合調査の結果については、自由記載に表れたニーズを含め各学部において共有し、教育の質向上と生活支援の各種取り組みにつなぐことができました。eラーニングシステムの利用については、281コースを開設し、学生の利用率は98%となりました。</p> <p>経済的に修学が困難な学生に対する支援については、修学支援新制度に基づく授業料減免、大学独自の授業料減免、分割納付による学生支援を実施しました。本学独自の支援制度については、学生2名が和田奨学基金の給付対象となりました。さらに国や自治体の支援制度を積極的に周知・活用することにより、R2年度と同水準の支援を実施することができました。これにより、経済的理由による就学困難者の発生を防ぐことができました。</p> <p>研究は、積極的に外部研究資金の導入を推進しました。外部研究資金の応募件数は60件、獲得件数は40件と目標を大きく上回りました。研究倫理の徹底については、対面会議方式でおこなった研修・説明会を動画撮影し、全学教職員が随時視聴できるようにしました。研究成果の公表については、附属研究所と図書館が連携し、附属研究所研究奨励交付金の成果報告書を機関リポジトリに収録しました。</p> <p>地域連携に基づく活動はコロナ禍の影響を受けながらも、各センターを中心に着実に行うことができました。とくに不登校・ひきこもりサポートセンターにおいてはスタッフの調整のもと2300人(延べ人数)を超える学生が活動を行いました。また福岡県重点課題事業として「不登校社会的自立支援事業」を受託し、福岡県教育委員会との協働のもと新たな観点から福岡県の不登校児童生徒数減少に向けた取り組みを開始しました。</p> <p>国際交流については、協定締結校とのオンラインイベントを複数開催することができ、教員交流数は27名、イベント参加学生は70名に上りました。留学に関してはR3年度もコロナ禍の影響を受け、派遣留学生は無かったものの、オンラインによる受入留学生は12名となりました。オンラインによる短期留学に関する新たな交流協定を大邱韓医大と締結しました。</p> <p>総合的にはコロナ禍の影響を受けながらも、安定した大学教育の推進ができた年となりました。大小の変革を常に行っていくことによって安定した大学教育が推進されるという学長のリーダーシップのもと、激動する環境・危機的な環境を乗り越えることができたことと自己評価しています。その基盤は、内部質保証サイクル向上のためには大学組織レベルから教職員個々人のレベルまであらゆるレベルでの積極的関与が求められるという考え方が学内に浸透してきたことにあります。危機に強い大学として、そして安定した大学として引き続き使命に応えることのできる大学を追求します。</p>	



※ I 全体の続き

【中期目標期間(平成30～令和5年度)】

公立大学法人である本学は、福祉系の公立大学として保健・医療・福祉の高度な専門的人材の養成、地域に貢献する研究及び社会活動の推進の役割を担っています。第3期中期計画期間について4年が経過しました。コロナ禍以前の2年間とコロナ禍の2年間は、大学教育の様相も大きく異なりましたが、学長の掲げる「学生ファースト」の理念のもと大学改革を推進し、安定した大学教育の推進に努めました。

コロナ禍以前の2年間(H30年度、R1年度)については本学の“基礎体力”を培った期間でした。学長主導のもと、めまぐるしく打ち出される国の高等教育改革に迅速に対応できる大学の“基礎体力”の増進とそれを可能にする意思決定の柔軟性向上に全学挙げて取り組みました。これらの全学的取り組みにおいては、公立大学としての福岡県立大学の使命を常に問い直し、共有していくというプロセスが不可避となり、教職員や各組織間の意思疎通がより無駄を削ぎ落とした形で可能になりました。先の見えない将来を見通す試みの中で、福祉系総合大学としての方向性を打ち出すことのできる基盤ができたといえます。コロナ禍のR2年度は、年度初めからのコロナ禍において臨機応変に対応する高い“機動力”が必要となりましたが、学長主導のもと、内部統制・ガバナンスを向上させ“機動力”を磨くことにより、教育研究におけるコロナ禍の影響を最小限に留めることができました。特に、福岡県の全面的な支援により、年度当初にいち早く遠隔授業に対応する環境を整備しました。同時に新入生に対する遠隔授業研修会も実施し、その結果学年暦通りに授業を開始することができました。そしてコロナ禍2年目となるR3年度には、困難な状況においても安定した大学教育を展開できる“恒常力”が求められました。学長主導のもと、個人から組織のあらゆるレベルにおける内部質保証サイクルの向上を目指し、その不断のプロセスを“恒常力”解発の基盤としました。

R1年度からR2年度にかけて注力したことが内部質保証と内部統制の強化・向上でした。これについては、まず組織の見直しを行いました。これまで内部質保証を担ってきたIR推進室に加え、内部質保証・サイクル推進会議を設置し運用を開始しました。内部質保証・サイクル推進会議は、内部質保証の観点から大学活動のPDCAサイクル推進について絶えず取り組み、IR推進室によるPDCAサイクル評価を受けて、大学活動の改善を行うことを目的としています。さらに、IRサイクル総合会議を設置しました。IRサイクル総合会議は、内部質保証サイクル推進について進捗管理及び随時評価を行い、大学活動の改善を行うことを目的としています。これらの重層的な組織改編により、内部質保証の取り組みが偏ることのないよう進められ、教職員が教育活動のあらゆるレベルにおいて積極的なサイクル推進を心がける意識改革に繋がりました。

入口管理は、引き続き教職協働体制のもとオープンキャンパスを実施しましたが、コロナ禍によりR2年度からはオンラインにて実施しました。オンライン開催により高校3年生の増加、遠隔地からの参加が増え、裾野の拡大につながりました。R3年度にはオンラインにて1200名を超える参加を得ることができました。オンライン形式のオープンキャンパスに向けては、教職員や学生が協働して紹介動画の作成にあたり、手作りではありますが、キャンパスの雰囲気や画面で伝えることができました。また、H30年度から高校生にも門戸を広げた学部の授業参観ウィークを実施しており、多くの参加生徒から高い評価を得ています。さらに、新たに国公立大学初となる「全国児童養護施設推薦特別選抜入試」を実施しました。これらの結果、学部・一般入試の志願倍率はいずれの年度においても目標の4倍を超えました。

出口管理は、学生委員会の下に置かれた進路・生活支援部を中心に、各学科・コースにおいて国家試験対策に取り組み、各国家試験合格率はR3年度の保健師国家試験を除きいずれも全国平均を上回ることができました。

就職対策については、R3年度に学生支援班のキャリア支援担当、就業力向上支援室、キャリアサポートセンターの3部署を学生支援センター内に統合し、学生就職支援のワンストップ拠点を構築・運用しました。H30年度からの就職率はいずれも目標とする95%以上となっており、特にR1年度については100%を達成することができました。

教育は、R3年度に全学横断型教育プログラムのうち、「データサイエンス・プログラム」と「キャリアマネジメント・プログラム」の学修証明書を計55名の学生に発行しました。コロナ禍における教育については、緊急事態宣言等の発出に合わせ、対面授業と遠隔授業を切り替えながら教育を進めましたが、その間の学生ニーズを把握するために、R2年度から学生生活総合アンケートを複数回行っています。学生生活総合アンケートの結果は、学修面と生活面の両面から迅速に評価され、部局長会議等で共有した上で、教育の質向上と生活支援の各種取り組みにつながりました。eラーニングシステムの利用については、R2年度以降は遠隔授業導入の影響もあり、コース数と学生利用率は高い水準となりました。

その間の学生ニーズを把握するために、学生生活総合調査を行いました。学生調査の結果は、学修面と生活面の両面から迅速に評価され、部局長会議等で共有しました。それにより、教育の質向上と生活支援の各種取り組みにつながることができました。eラーニングシステムの利用については、375コースを開設し、学生の利用率は99%となりました。

経済的に修学が困難な学生に対する支援については、特にコロナ禍のR2年度以降、授業料に関しては修学支援新制度に基づく授業料減免・大学独自の授業料減免・分割納付による学生支援を実施し、奨学金等に関しては学内外の制度を最大限活用いたしました。本学独自の支援制度としてR2年度には真島・市場特別奨学金制度を設立することができました。国や自治体の支援制度を積極的に周知・活用することにより、R2年度以降は高い水準の支援を実施しています。これにより、コロナ禍においても経済的理由による就学困難者の発生を防ぐことができています。

研究は、引き続き積極的に外部研究資金の導入を推進しました。外部研究資金の応募件数・獲得件数はいずれの年度も目標を上回りました。また、学内の研究奨励交付金については、重点領域研究枠を設け、年平均3件の採択をしています。研究倫理の徹底については、コロナ禍のR2年度以降に、それまで対面会議方式でおこなった研修・説明会を動画撮影し、全学教職員が随時視聴できるようにしました。研究果の公表については、附属研究所と図書館が連携し、R3年度に附属研究所研究奨励交付金の成果報告書(R2年度報告書)を機関リポジトリに収録しました。

地域連携に基づく活動は、コロナ禍以前は大変活発なレベルにありました。コロナ禍のR2年度以降は、各センターを中心にオンライン活動を取り入れながら、着実に行っています。とくに不登校・ひきこもりサポートセンターにおいては、R3年度にはスタッフの調整のもと2300人(延べ人数)を超える学生が活動を行いました。またH30年・R1年には福岡県教育委員会重点課題事業として「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を受託・実施しました。R3年度からは福岡県重点課題事業として「不登校児童生徒社会的自立支援事業」を受託・実施し、福岡県教育委員会との協働のもと新たな観点から福岡県の不登校児童生徒数減少に向けた取り組みを開始しました。

※ I 全体の続き

国際交流については、コロナ禍以前は多くの学生・教職員が活動し、また留学生の派遣・受入も高いレベルにありました。コロナ禍のR2年度は、国際交流の機会はほとんどありませんでしたが、R3年にはオンラインによる国際交流が複数起動し、教員交流数が増加しました。また、オンラインを中心に留学生の受入も進んでいるところです。オンラインによる国際交流のトレンドを汲み、R3年度には大邱韓医大とオンライン短期留学に関する新たな交流協定を締結しました。

総合的には、コロナ禍以前のH30年度、R1年度に培った大学教育の“基礎体力”を土台にして、コロナ禍のR2年度以降においても安定した大学教育の推進ができたと言えます。今後とも、学長の掲げる「学生ファーストの大学」という理念を現実の教育に落とし込みつつ、大小の変革を常に行っていくことにより激動する困難な環境を乗り越えることが求められています。その基盤となるのは内部質保証サイクルですが、大学組織レベルから教職員個人のレベルまであらゆるレベルで積極的関与がなされるよう引き続き取り組みを推進していきます。基礎体力のある大学として、危機に強い大学として、引き続き「学生ファースト」の大学を常に追求し、使命に応えていきます。

Ⅱ 中期目標項目別  
1. 教育

【令和3年度】

1 専門的支援力の養成等

特色ある体系的な教育課程の編成については、2つの全学横断型教育プログラムで内容が改善されました。まずデータサイエンス・プログラムの科目群に「個人情報法制」と新設「マルチメディア論」「地理情報システム論」「情報ネットワーク演習」の計4科目を追加しました。キャリアマネジメント・プログラムにおいては、「問題解決演習」で企業とオンラインでつなぎ、双方向型授業を実施しました。教養教育の充実として、R3年度は、授業の特質と新型コロナウイルス感染症のまん延状況等に応じて(1)当初からオンラインで実施する、(2)対面授業を実施する、(3)オンラインと対面を併用するという形にすることで、授業の実施形態を改善しました。また、英語クラスの学生数および習熟度が異なる学生が混在する問題を解決するために、全学共通習熟度別英語クラス編成案(R5年度開始)を作成しました。人間社会学部における専門教育の充実については、多様なニーズに包括的に対応できる専門的実践力を強化するため、データサイエンス、キャリアマネジメント等、総合人間社会コースのプログラムを実施しました。履修要件を満たした学生に対し、学修証明書を交付しました(データサイエンス(基礎)40名、データサイエンス11名、キャリアマネジメント(基礎)4名)。看護学部における専門教育の充実については、学生が主体的に看護技術の練習ができるように、看護技術室の整備に加え、「看護技術極め隊(学生の主体的活動グループ)」の活動支援を行いました。他大学との連携による講義相互受講については、「キャリア像確立講義Ⅰ」に4名、「災害看護学」に87名の受講がありました。各種の国家試験合格率(看護師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士)は、全国平均を上回りました。

2 高度専門職業人の人材育成

大学院各研究科における体系的な教育課程の編成については、改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育・評価方法を実施できているか検討を行いました。連合大学院構想の他大学との調整については、R3年度は関西の大学にコンタクトを行いました。人間社会学研究科の子ども教育専攻と看護学研究科の看護学専攻において、社会人の学生等のニーズを考慮し、メディア授業科目を設置しました。人間社会学研究科の学外実習については、一部予定を変更して実施することができました。また実習先の選択に当たっては、領域・分野の制限を緩和し、学生のニーズに応じて実習先を選択できるように配慮しました。大学院の学修成果検証については、在学生の満足度調査を10月に実施した後、11月に大学院FDセミナーを開催しました。セミナーでは在学生の満足度調査結果を報告し、学修成果の検証を行いました。

3 教育活動の活性化

効果的なFD活動の推進については、教員を対象とした指導方法研修を対面とオンラインを用いて実施しましたが、これまでで最大の教員参加率を得ました。また、授業参観ウィークをR2年度に引き続き実施しましたが、これまでで最大の教員による参観が得られました。授業評価アンケートを前期に1回(終了時)、後期に2回実施(中間、終了時)しました。中間アンケートの結果はオンラインで教員が即座に閲覧することができ、そこに書かれた学生からの改善要求等に教員が終了時までどのように対応するのかを学生に向けて掲示する“往還”の仕組み(授業自己評価・対応プラン)を実施しました。「学生生活総合アンケート」を実施し(205名回答)、コロナ禍における学生の生活時間の課題やストレス状況を把握しました。とくに自由記載等にかかれたニーズに関しては、各学部で共有し、臨機応変に対応しました。教育活動の定期的・多角的な評価の実施については、①R2年度卒業時アンケート結果分析、②成績評価アンケート結果分析、③受講者数と成績分布結果分析、④卒業生・就職先アンケート結果分析を各学科等に文書にて報告し共有しました。また、各学科・コースに関する科目レポート「授業実施評価レポート」と「学位プログラムDプレビュー」を作成し全学に共有しました。

4 アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

入学者のAP認知率は目標を上回る83.6%となりました。オープンキャンパスはR2年度に引き続き全面オンライン開催(1,276名参加)とし、高評価を得ました。大学院ではオープンキャンパスでの個別相談に加え、学外者の個別相談を行いました。学部・一般入試の志願倍率が目標とする4.5倍となりました。学校推薦型選抜においては集団面接を行わず、調査書記載事項および推薦書により、本学アドミッション・ポリシーへの適合性の評価を行いました。一般選抜試験についても新型コロナウイルスへの対応を行いながら実施しました。R4年度入試より看護学部の入学試験において全国の公立大学初となる「全国児童養護施設推薦特別選抜(看護学部)」を実施し、1名の受験者を得ました。「高大連携教職員合同研修会」は秋のオープンキャンパスと同日にオンラインによる個別相談形式にて実施しました。また、梅光学院高等学校より高大連携の依頼があり、生徒の卒業研究のプレゼンに対し教員と本学在学生がフィードバックを行いました。

5 学生の学修支援と生活支援

学生の学修環境の整備については、図書館分館のラーニング・コモンズにおける学生の自主学習を促すため、ラーニング・コモンズのレイアウトを変更し、併せてパソコン更新などの整備を行いました(利用者数:338人)。また、学生からの要望が多かった図書館本館入館時の手荷物持込みを認める試行を10月～2月に実施しました。図書館資料のより一層の活用を図る目的で文献検索演習を3回実施し、計60名が参加しました。連携する7大学共同の学生コンソーシアムについては、本学学生委員は2年生2名が活動しました。学生コンソーシアム会議はオンラインにて3回あり、学生フェスティバル等を企画運営しました。学生フェスティバル(かんたま祭)には、高校594校にも声掛けを行い、九州沖縄の7県14校計31名の高校生の参加を得ました。経済的に修学が困難な学生に対する支援については、修学支援新制度に基づく授業料減免、大学独自の授業料減免、分割納付による学生支援を実施しました。減免対象となった学生数はR2年度と同水準となり、経済的理由による就学困難者の発生を防ぐことができました。この成果は、学生生活総合アンケートにおいて、経済的な理由により就学継続が「非常に困難だと感じる」との回答割合が極めて低率であったことから読み取ることができました。外部資金等を活用した本学独自の支援策については、和田奨学基金の利用が2件ありました。日本学生支援機構等の学外からの支援制度の利用はR2年度に引き続き高水準となり、結果として総学生数に対する受給学生数(受給率)については69.3%となりました。

6 キャリア支援

学生のキャリア支援体制の充実・強化については、授業「ライフキャリア論」において企業・行政機関に加え、医療福祉のキャリア形成領域の学習を加えることによって、全学科の低学年からのキャリア形成への動機付けを行いました。プレ・インターンシップでは、体験先から与えられた課題に取り組む課題解決型学習を取り入れました。問題解決演習では、SDGsに即した課題提示を協力企業(ロイヤルホールディングス(株))から受け、キャリアスキルの修得を進めました。

県内の産業界等との連携強化については、プレ・インターンシップ受入先企業・団体が学生に期待する内容を把握するため、受入先企業・団体に対して学生の社会人基礎力に関する評価アンケートを実施しました。さらにその結果を学生に提供し、今後の大学での学びに関する目標を作成しました。

実施事項別評価は、Aを1項目、Bを19項目とします。

【中期目標期間(平成30～令和5年度)】

1 専門的支援力の養成等

特色ある体系的な教育課程の編成については、R2年度に教育に係る3つのポリシーの改訂と体系的な教育課程の編成を行いました。全学横断型教育プログラムであるデータサイエンス・プログラムとキャリアマネジメント・プログラムにおいて、新設科目を開講するとともに、R3年度には学修証明書の交付を開始しました。

教養教育の充実として、H30年度に「ライフキャリア論」「入門・数字で見る日本社会」を新たに開講しました。コロナ禍にあったR2年度以降は、入学直後の1年生に対して新型コロナ感染禍対策用に改訂した教養演習テキストを利用することで、eラーニングの使用方法和情報処理機器の操作を遠隔授業で指導しました。これらの対策・対応により、R2年度は本学すべての全学共通科目においてオンラインによる遠隔授業の実施に至りました。学修成果の検証として、教務・共通教育部会においてR2年度「卒業時アンケート」「成績評価アンケート」「受講者数と成績分布」について結果分析を行いました。また、進路生活支援部会にてR2年度「卒業生・就職先アンケート」の結果分析を行いました。各種の国家試験合格率(看護師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士)は、R3年度の保健師合格率以外はすべて全国平均を上回りました。

2 高度専門職業人の人材育成

大学院各研究科における体系的な教育課程の編成については、H30年度より3つのポリシーの検討を開始しました。その後、改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育・評価方法を実施できているか検討・対応を行いました。連合大学院構想の他大学との調整については、連携候補の大学と調整を行ってきました。専門教育の充実として、R3年度に人間社会学研究科の子ども教育専攻と看護学研究科の看護学専攻において、社会人の学生等のニーズを考慮し、メディア授業科目を設置しました。

大学院の学修成果の検証については、毎年度「在学生アンケート調査」「修了生アンケート調査」を実施し、結果を研究科委員会に報告しました。そこで出た意見等を、大学院生との座談会に共有し、学生－教員間の往還による学修向上に取り組みました。

3 教育活動の活性化

効果的なFD活動の推進については、R2年度以降に教員を対象とした指導方法研修を対面とオンラインを用いて実施しましたが、高い教員参加率を得ることができました。H30年度から毎年度授業参観ウィークを実施しています。授業評価アンケートについては前期・後期の各終了時に紙媒体にて実施してきましたが、R2年度からオンライン化しました。R3年度後期は授業評価アンケートを授業中間時と終了時の2回実施しました。授業評価アンケートに書かれた学生からのニーズについて、担当教員がどのように対応するかを掲示する「授業自己評価・対応プラン」(H29年度導入)は引き続き毎年度実施し、教員－学生間の往還による教育活動向上に取り組みました。

学生の主体的学修の促進については、学生の学修時間を含む生活時間に着目し、アンケート調査結果をもとに取り組みを続けました。H30年度は学部FD部会による「生活時間調査」、R1年度は文部科学省による「全国学生調査」、そしてR2年度以降は学部SD・FD部会による「学生生活総合アンケート」の結果をもとに学生の学修時間の実態を把握し、それらからシラバスの改訂(必要とされる学修時間の明記等)に結びつけました。コロナ禍においては、アルバイト等の環境が大きく変わったため、「学生生活総合アンケート」結果から経済的な支援を要する学生を把握し、適切な修学支援制度の採用に結びつける等の支援を行い、学生の主体的な学びを保証する環境整備に取り組みました。

教育活動の定期的・多角的な評価の実施については、成績評価の客観性・厳格性の担保に関する全学的体制の整備を行いました。成績評価の分布に関する調査及び検証については継続的に実施し、R2年度には報告書を取りまとめ、R3年度には一部をアセスメント・プランに組み込みました。

4 アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

学部のアドミッション・ポリシーについては、R3年度に改訂を行いました。高校訪問・オープンキャンパスでの広報活動及び大学案内等にアドミッション・ポリシーを明記することにより、R2年度以降のAP認知率は目標の80%を超える状況になっています。オープンキャンパスはコロナ禍以前には2,000人を超える参加者を得ておりましたが、コロナ禍となるR2年度以降はオンライン開催に切り替えることにより、R3年度には1,000名を超える参加を得ています。また、オンライン開催により、高校3年生の増加や遠隔地からの参加という裾野の拡大につながりました。

入学者選抜方法の検証については、R1年度(R2年度入試)よりアドミッション・オフィスの試行及びインターネット出願を開始しました。R2年度およびR3年度は、コロナ禍のため学校推薦型選抜では集団面接を行わず、調査書および推薦書によりアドミッション・ポリシーへの適合性の評価を行いました。R3年度(R4年度入試)より看護学部の入学試験において全国の国公立大学初となる「全国児童養護施設推薦特別選抜(看護学部)」を実施し、1名の受験者を得ました。

高大連携の推進については、毎年度高大連携事業を実施し、良好な評価を得ています。R3年度には福岡県立西田川高等学校と「連携教育に関する連携協定」を締結し、R4年度から高校生を受講を受け入れることになりました。また、すでに協定を締結していた福岡県立博多青松高等学校からはR2年度に1名の高校生の受講を受け入れました。

※1 教育の続き

5 学生の学修支援と生活支援

学生の学修環境の整備については、学生の自主的学修を促すため、継続的に学生および教員に分館ラーニング・コモンズの使用方法と活用事例などを広報してきました。R2年度以降は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、分館ラーニング・コモンズを個別学習の場として活用し、その活用促進のために古くなったパソコンを更新しました。情報環境面からは、H30年度に安全な情報ネットワークの活用を徹底するために情報セキュリティマニュアルを作成し、教職員および学生への周知徹底を図りました。R1年度には情報処理教室の機器更新を行いました。R2年度には、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、eラーニングシステムの増強、リアルタイム型の授業を行うためのZoomの有償契約、大容量の動画データを配信するためのVimeoの有償契約を行うことなど、全学的な遠隔授業の実施に臨機応変に即応しました。R3年度には、R4年度から導入する新eラーニング・システムのMoodle導入に向けて教職員・学生向けのMoodle講習会を開催しました。

連携する7大学共同の学生コンソーシアムについては、毎年度本学学生委員が複数名活動しました。R2年度以降、学生コンソーシアム会議はオンラインにて行われており、各大学の学生が協働して学生フェスティバル等を企画運営しました。R2年度以降は学生フェスティバル(かんたま祭)開催にあたっては高校にも声掛けを行い、九州沖縄の高校生の参加を得ました。

多様な学生の支援については、引き続きGPA2.0以下の成績不振の学生に対して、学年担任・アドバイザー・ゼミ担当教員等が面談の上、支援を提供しています。また、R2年度に学生総合支援センターを設置し、R3年度より学内規則に基づき、障がいのある学生への支援を実施しています。

経済的に修学が困難な学生に対する支援については、特にコロナ禍のR2年度からは学内外の各種制度を活用し、支援に漏れがないよう努めました。授業料については、修学支援新制度に基づく授業料減免、大学独自の授業料減免、分割納付による学生支援を実施しました。減免対象となった学生数はR2年度から大幅に増加しています。奨学金等については、外部資金等を活用した本学独自の支援策を実施しました。R2年度には真島・市場特別奨学金制度を開始しました。学外制度としては、日本学生支援機構からの支援がR2年度以降に高水準となっています。結果として総額整数に対する受給学生数(受給率)については70%前後で推移しました。これらの取り組みにより、コロナ禍においても経済的理由による就学困難者の発生を防ぐことができました。この成果は、学生生活総合アンケートにおいて、経済的な理由により就学継続が「非常に困難だと感じる」との回答割合が極めて低率であったことから読み取ることができました。

6 キャリア支援

学生のキャリア支援体制の充実・強化については、R3年度にキャリア支援に関わる3部署を統合し、学生のキャリア支援を一元化する体制を整備しました。

県内の産業界等との連携強化については、R2年度からはプレインターンシップをオンラインと対面のハイブリッドで実施しました。就職説明会の開催についてもR2年度からはオンラインで開催しました。またR3年度には、より少人数で開催するために学科毎や業界ごとに就職説明会を開催したことにより、開催回数は大きく増加しました。

実施事項別評価は、A+を1項目、Aを1項目、Bを18項目とします。

<p>2. 研究</p>	<p>【令和3年度】</p> <p>1 特色ある研究の推進 福祉社会の実現に寄与する研究の推進に関しては、附属研究所運営部会を中心に取り組みました。学際的研究プロジェクトである重点領域研究を公募し、3件を採択しました。また、本学の研究と地域社会のニーズとのマッチングを推進するために、ホームページ上に「研究シーズ集」(21件)を掲載し、そのうち3件について問い合わせがありました。学術成果については査読付き論文等が131件となり、目標とする100件を上回りました。</p> <p>2 研究の実施体制等の整備 附属研究所研究推進部を中心に、積極的に外部研究資金の導入を推進しました。外部研究資金の応募件数は60件、獲得件数は40件と目標を大きく上回りました。研究倫理の徹底については、対面会議方式でおこなった研修・説明会を動画撮影しました。それを全学教職員が視聴可能なクラウドサーバー上にアップロードし、オンデマンド聴講を可能にした結果、教員受講率は99%となりました。</p> <p>3 研究水準向上と成果の公表 研究水準向上のための取り組みについては、附属研究所運営部会が推進しました。学内研究奨励交付金における募集枠として、重点領域研究を強化するため、新規・継続4件分を設けました。科研費獲得に向けた助成を強化するため、科研費申請審査結果が「B」であった教員に対する科研費申請補助成額を増やしました。研究成果の公表については附属研究所と図書館が連携し、附属研究所研究奨励交付金のR2年度の成果報告書をR3年度に機関リポジトリに収録・公表しました。</p> <p>実施事項別評価は、Bを8項目とします。</p>	
	<p>【中期目標期間(平成30～令和5年度)】</p> <p>1 特色ある研究の推進 福祉社会の実現に寄与する研究の推進に関しては、附属研究所運営部会を中心に取り組みました。学際的研究プロジェクトである重点領域研究を公募し、毎年2件～4件の実績を上げました。R3年度には本学の研究と地域社会のニーズとのマッチングを推進するために、ホームページ上に「研究シーズ数」(21件)を掲載し、そのうち3件について問い合わせがありました。学術成果については、H30年度とR3年度に査読付き論文等が目標とする100件以上となりました。</p> <p>2 研究の実施体制等の整備 附属研究所研究推進部を中心に、積極的に外部研究資金の導入を推進しました。いずれの年度においても、外部研究資金の応募件数・獲得件数は目標を上回りました。研究倫理の徹底については、R2年度からは対面会議方式でおこなった研修・説明会を動画撮影しました。それを全学教職員が視聴可能なクラウドサーバー上にアップロードし、オンデマンド聴講を可能にした結果、教員受講率はR2年度、R3年度ともに99%となりました。</p> <p>3 研究水準向上と成果の公表 研究水準向上のための取り組みについては、R1年度に「科研費申請補助」を新設、R2年度に「データサイエンス研究」の新規設置、「科研費申請補助」の対象を拡大しました。R3年度には「重点領域研究」の募集枠を拡充し、科研費申請補助「B」の助成額を増やしました。研究成果の公表については、研究成果の公表については附属研究所と図書館が連携し、附属研究所研究奨励交付金のR2年度の成果報告書をR3年度に機関リポジトリに収録・公表しました。また、R2年度、R3年度に附属研究所研究奨励交付金事業成果報告会を実施しました。</p> <p>実施事項別評価は、Bを8項目とします。</p>	

3. 地域貢献及び  
国際交流

【令和3年度】

1 地域社会との連携

公開講座を4回実施しました。すべてオンライン講座としましたが、参加人数は289人となりました。リカレント教育については、現役の看護師を対象とした「看護師の特定行為研修」をR3年度から開講し、初めての修了生を輩出しました。看護学部では新たにリカレント教育部会が設置され、これまで各分野で行われていたリカレント教育を取りまとめて実施しました。人間社会学部では福岡県立大学社会福祉学会の協力を受けながら、社会福祉士・精神保健福祉士等を対象に研修会を実施しました。

2 地域活性化への支援

不登校・ひきこもりサポートセンターの県大子どもサポーター派遣事業では実人数217名、延べ2,327名の学生が活動しました。フリースクール事業では、延べ874名の児童生徒が通級しました。登校開始率は72.2%でした。福岡県の重点課題事業として「不登校児童・生徒に対する社会的自立支援事業」を開始し、福岡県の不登校減少に向けた取り組みを進めました。社会貢献ボランティア支援センターでは、外部ボランティア団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、団体登録が230件、活動学生数が延べ96人となりました。ペアレントトレーニング関連の研修会については計24回開催し、延べ72名が参加しました。またペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアッププログラムを5回開催し、延べ130名が参加しました。

3 国際交流の推進

国際交流協定締結大学との交流については、オンラインイベント等を通じて、教員交流数27名を達成し、またイベント参加学生(本学学生)数は延べ70名となりました。コロナ禍により実際の留学生派遣や留学生受入が難しい状況にありましたが、オンライン留学のかたちで計12名の留学生を受け入れました。また、大邱韓医大とオンライン交流プログラムに関する新しい協定を締結することができました。

実施事項別評価は、Aを2項目、Bを3項目とします。

【中期目標期間(平成30～令和5年度)】

1 地域社会との連携

公開講座を毎年実施してきました。コロナ禍のR2年度からはオンラインによる公開講座に切り替えました。また、保健・福祉・教育・心理等をテーマとするフォーラムをR1年度(コロナ禍による影響)を除き毎年実施してきました。リカレント教育については、現役の看護師を対象とした「看護師の特定行為研修」をR3年度から開講し、初めての修了生を輩出しました。看護学部ではR3年度に新たにリカレント教育部会を設置し、これまで各分野で行われていたリカレント教育を取りまとめて実施することにしました。人間社会学部では福岡県立大学社会福祉学会の協力を受けながら、社会福祉士・精神保健福祉士等を対象に研修会を実施しました。また、公認心理師や臨床心理士の資格保持者等を対象に年数回の研修会を実施してきました。コロナ禍以降は、開催方法を対面だけでなくZoom等のオンラインも活用し、研修の機会を確保しました。

2 地域活性化への支援

不登校・ひきこもりサポートセンターの県大子どもサポーター派遣事業では毎年延べ1000人～3000人の学生が活動していました。同センターのフリースクール事業では、毎年延べ1000人前後の不登校児童生徒が通級しました。登校開始率は全国平均の約2倍程度を維持しました。福岡県重点課題事業としてH30年度・R1年度には「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を受託・実施しました。R3年度からは「不登校児童・生徒に対する社会的自立支援事業」を受託し、福岡県の不登校減少に向けた取り組みを開始しました。社会貢献ボランティア支援センターでは、外部ボランティア団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、活発な学生活動が行われました。ペアレントトレーニング関連の研修会については毎年複数回開催し、多くの参加者を得ました。R3年度にはペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアッププログラムを開催しました。

3 国際交流の推進

国際交流協定締結大学との交流については、R2年度はコロナ禍の影響を受け、教員交流が無くなりましたが、R3年度にはオンラインイベント等を通じて、教員交流数がコロナ禍以前のレベルに戻りました。地域住民との連携事業についてはコロナ禍により事業を縮小しましたが、コロナ禍以前にはホームビジット等の積極的な取り組みを展開しました。国際交流チューターや留学生チューター等の本学学生が活躍する留学説明会や留学生サポートを実施することができました。留学生の派遣・受入については、コロナ禍のR2年度は語学研修や派遣プログラムを実施できませんでしたが、H30～R1年度については実施することができました。H30年に三育大と交流協定を更新し、R3年には大邱韓医大とオンラインプログラムのための協定を新たに締結しました。コロナ禍のR3年度にはオンライン留学として計12名の留学生を受け入れることができました。留学生支援としては、コロナ禍以前のH30年度までは短期派遣留学生に奨学金を給付しました。また、オンライン派遣交換留学をする学生に対して通信費補助の奨学金を給付することをR3年度に決定しました。

実施事項別評価は、Aを2項目、Bを3項目とします。

<p>4. 業務運営の改善及び効率化</p>	<p><b>【令和3年度】</b></p> <p>1 組織運営の改善・強化          学内組織や学内資源の配分見直しについては、既存の地域文化資料室を「FPUホール」に改修し、学生がいつでも集える場として活用できるようにしました。また、管理棟の教務入試班(各種証明書の発行)、2号館のキャリアオフィス(就職相談)、そして3号館の学生支援班(奨学金受付等)の3箇所に分かれていた学生支援窓口を既存の学生支援センター内に移設しました。          教員の士気を高めるための教育環境整備については、ベストティーチャー表彰を行いました(1名)。          SD等の推進については、事務担当等職員に対する会計研修に計7名が参加しました。また、公立大学協会主催の「公立大学の経営課題に関する研修会」に3名参加しました。新たな取組として、事務局職員が勤務年数に応じた研修を計画的、効率的、効果的に受講できるよう、研修体系表を作成しました。R3年度から本格的に導入した事務局プロパー職員に対する人事評価については、職員のモチベーションを更にアップし、業務に対する意欲や熱意等を向上維持させることを目的に、評価結果を給与へ反映できるよう関係規定の改正を行いました。</p> <p>2 事務事業等の効率化          事務処理省力化については、事務局職員が手作業で配付している「給与明細書」の電子化を行い、業務委託料(印刷費)の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られました。          外部委託化については、地場企業の「たがわ情報センター」にITに関する学生及び教職員からの相談対応業務を委託し、教職員の業務軽減及び業務の効率化を図りました。</p> <p>3 人権尊重、法令遵守の徹底及びリスクマネジメント体制の整備          コロナ禍により田川郡人権・同和対策推進協議会主催の前期研修が中止となったことから、県立大学単独で開催しました。後期研修は、例年通り田川郡人権・同和対策推進協議会主催の研修会に参加しました。また、人権委員会の主催で、管理職員等(33名)を対象とした人権研修会(ハラスメント防止対策)を開催しました。          リスクマネジメント体制の整備等については、大学ホームページ内に危機管理に関する情報の掲載ページを設け、いつでも危機管理マニュアル等を確認できるようにしました。また、R3年度も引き続き、大学ホームページへの掲載やメール配信等を通じ、新型コロナウイルスの感染予防対策及び感染状況等を学内外に積極的に配信することにより、学生、教職員及び学内関係者の感染防止に努めました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを2項目、Bを6項目とします。</p>	
	<p><b>【中期目標期間(平成30～令和5年度)】</b></p> <p>1 組織運営の改善・強化          学内組織や学内資源の配分見直しについては、H30年度は附属研究所長へ各センター事業を含めた予算管理権限を付与するとともに、各センター事業の見直しを行いました。R1年度は新たな教育研究拠点として発展させるため、「不登校・ひきこもりサポートセンター」を附属研究所から独立させました。R2年度は特定行為指定研修機関の指定を受け、R3年4月に開所しました。学生に向けた施設・機能等の整備については、既存の地域文化資料室を「FPUホール」に改修し、学生がいつでも集える場として活用できるようにしました。また、管理棟の教務入試班(各種証明書の発行)、2号館のキャリアオフィス(就職相談)、そして3号館の学生支援班(奨学金受付等)の3箇所に分かれていた学生支援窓口を既存の学生支援センター内に移設し、学生支援窓口を一本化しました。          教員の士気を高めるための教育環境整備については、ベストティーチャー表彰を毎年行いました。また、理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図るため、研究奨励交付金制度の見直しを行いました。R1年度には「科研費申請補助」を新設、R2年度には「データサイエンス研究」、「科研費申請補助「B」」を新設しました。R3年度には「重点領域研究」の募集枠を拡充し、「科研費申請補助「B」」の助成額を増やしました。          SD等の推進については、全国市町村研修財団主催研修、公立大学協会主催研修、九州大学主催研修、NPO法人学校経理研究会主催研修等、学外で開催される研修に積極的に参加してきました。事務局プロパー職員の人事評価制度については、R1年度から試行し、R3年度から本格的に導入しました。プロパー職員のモチベーションをさらにアップし、業務に対する意欲や熱意等を向上維持させることを目的に、評価結果を給与へ反映できるよう関係規定の改正も行いました(R4年度から適用予定です)。</p> <p>2 事務事業等の効率化          事務処理省力化については、R1年度にインターネット出願システムと電子シバラスシステムの導入を行いました。R2年度には、授業評価アンケートの集計業務を外部委託していたものを教務システムで集計できるようシステム改修を行ったことにより、経費を節減できました。R3年度には、事務局職員が手作業で配付している「給与明細書」をR4年1月からデジタル化することにより、業務委託料(印刷費)の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られました。また、R2年度から地場企業の「たがわ情報センター」にITに関する学生及び教職員からの相談対応業務を委託し、教職員の業務軽減及び業務の効率化を図りました。</p> <p>3 人権尊重、法令遵守の徹底及びリスクマネジメント体制の整備          人権尊重等の徹底については、田川郡人権・同和対策推進協議会主催の研修会に参加するとともに、本学独自の人権研修会も企画・実施し、人権に対する認識を深めることができました。          リスクマネジメント体制の整備等については、大学ホームページ内に危機管理に関する情報の掲載ページを設け、いつでも危機管理マニュアル等を確認できるようにしました。特に、R2年度からは大学ホームページへの掲載やメール配信等を通じ、新型コロナウイルスの感染予防対策及び感染状況等を学内外に積極的に配信することにより、学生、教職員及び学内関係者の感染防止に努めました。本学情報保全規則の遵守を徹底するとともに、情報システム等の脆弱性の解消を図るため、R3年度にはシステム更新の準備を行いR4年度稼働に備えました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを2項目、Bを6項目とします。</p>	



<p>5. 財務内容の改善</p>	<p><b>【令和3年度】</b></p> <p>1 自己収入の積極的確保  外部資金の積極的確保については、適宜ホームページに外部資金等の公募情報を掲載し、科学研究助成事業に関する学内研修会を開催しました。また、R3年度も引き続き研修会を撮影し、教員がいつでも応募方法等を確認できる体制をとりました。寄付金の受け入れについては常時ホームページに掲載するとともに、大学広報誌(春号・秋号)に掲載しました。外部資金の獲得額は5,146万円となり、目標を上回りました。また、R3年度は大学体育館を新型コロナウイルスワクチン広域接種会場として、福岡県に6月から7月までの2か月間有償で貸し出しを行いました。</p> <p>2 業務効率化による経費の節減  管理経費の節減については、随時既設の電灯管をLEDに更新しました。また、事務局職員が手作業で配布していた給与明細書をデジタル化した結果、業務委託料(印刷費)の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを1項目、Bを2項目とします。</p>	
	<p><b>【中期目標期間(平成30～令和5年度)】</b></p> <p>1 自己収入の積極的確保  外部資金の積極的確保については、適宜ホームページに外部資金等の公募情報を掲載し全教員にメールを発信するとともに、科学研究助成事業に関する学内研修会を開催しました。R2年度からは研修会を撮影し、教員がいつでも応募方法等を確認できる体制をとりました。寄付金の受け入れについては常時ホームページに掲載するとともに、大学広報誌(春号・秋号)に掲載しました。外部資金の獲得額は目標とする5,000万円以上をいずれの年度も超えることができました。R3年度は大学体育館を新型コロナウイルスワクチン広域接種会場として、福岡県に6月から7月までの2か月間有償で貸し出しを行い、施設使用料を得ました。</p> <p>2 業務効率化による経費の節減  H30年度は、改正された業務方法書に基づく内部統制システム構築に向けた業務の一部を外部委託し、業務量の大幅軽減を図りました。また、インターネット出願導入に併せて、入学検定料の収納業務を代行業者に委託しました。R2年度は、授業評価アンケートの集計業務を教務システムで集計できるようにシステムを改修し、業務委託料を節減しました。さらに、除草業務を業務委託から非常勤職員の任用に切り替えたことで年間100万円削減できました。R3年度は、事務局職員が手作業で配布していた給与明細書をデジタル化した結果、業務委託料(印刷費)の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを1項目、Bを2項目とします。</p>	

6. 自己点検・評価及び情報の提供	<p>【令和3年度】</p> <p>1 内部質保証システムによる大学の質の維持・向上          大学認証評価(大学教育質保証・評価センター)受審のための準備をIRサイクル総合会議が中心となり、全学体制で取り組んで来ました。11月には受審の正式申込みを行い、その後3月末までに2回の事前相談を行うことができました。          内部質保証体制を強化するための大学改革セミナーを開催しました。認証評価と法人評価にも対応できる普段からの質向上サイクルを推進することを周知共有しました。また、本学学生(R3年度は3年生)の社会人基礎力を測るGPSアカデミック調査を受検し、その結果を大学改革セミナーを通して共有しました。</p> <p>2 県大ブランドイメージの醸成          R2年度に引き続き、R3年度もオンラインによるオープンキャンパスを実施しました。オープンキャンパスの参加者は、夏・秋合わせて1276名となり、前年比432名の増加となりました。アンケート結果も「満足以上の評価」が約99%と好評でした。          高校訪問は33校へ、入試説明会は6回、出前講座は14回開催し、本学の情報を発信しました。</p> <p>実施事項別評価は、Bを4項目とします。</p>	
	<p>【中期目標期間(平成30～令和5年度)】</p> <p>1 内部質保証システムによる大学の質の維持・向上          内部質保証と内部統制の強化・向上については、R2年度に組織の見直しを行いました。これまで内部質保証を担ってきたIR推進室に加え、内部質保証・サイクル推進会議を設置し運用を開始しました。内部質保証・サイクル推進会議は、内部質保証の観点から大学活動のPDCAサイクル推進について絶えず取り組み、IR推進室によるPDCAサイクル評価を受けて、大学活動の改善を行うことを目的としました。さらに、IRサイクル総合会議を設置しました。IRサイクル総合会議は、内部質保証サイクル推進について進捗管理及び随時評価を行い、大学活動の改善を行うことを目的としました。          これらの重層的な組織改編により、内部質保証の取り組みが偏ることのないよう進められました。これら3つの組織が共同で大学改革セミナーを開催し、全学の教職員に内部質保証の取り組みへの参画を促し、普段からの質向上サイクルを推進することを周知・共有しました。          大学認証評価(大学教育質保証・評価センター)受審のための準備をIRサイクル総合会議が中心となり、全学体制で取り組んできました。R3年度には受審の正式申込みを行い、同年度3月末までに2回の事前相談を行うことができました。</p> <p>2 県大ブランドイメージの醸成          コロナ禍の影響を受け、R2年度からはオンラインによるオープンキャンパスを実施してきました。オンラインによるオープンキャンパスの参加者は、R2年度は約700人、R3年度は約1300人の参加を得ました。オンライン形式にしたことにより、受験直前の高校3年生の参加が増えたこと、並びに遠方からの参加ができたことにより、従来あまり見られない地域からの合格者が見られたという成果につながりました。入試説明会への参加はコロナ禍の影響を受け若干落ち込んだものの、訪問高校数はR3年度には33校と持ち直すことができました。</p> <p>実施事項別評価は、Bを4項目とします。</p>	

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 1 教育に関する目標</p>	<p>(1) 特色ある教育の展開 ア 学士課程 人間と社会とを総合的に理解し、他の専門職と協働して問題解決に取り組み、福祉社会の実現を目指す人材を育成する。 また、看護の専門職としての確かな判断力と実践能力を備え、他の専門職と協働し、健康上の課題に主体的・創造的に対応できる人材を育成する。 イ 大学院課程 地域社会、福祉政策、対人援助の専門知識を持ち、高度福祉社会の実現に貢献できる人材を育成する。 また、地域の保健・医療・福祉分野の施策展開を推進できる高度な職業人としての看護職や、看護学の創造と発展に貢献できる研究者・教育者を育成する。</p> <p>(2) 教育活動の活性化 教育活動を定期的・多角的に評価するとともに、効果的なファカルティ・ディベロップメント等の組織的な取組を推進し、授業内容・方法の改善など全学的な教育力の向上を図る。</p> <p>(3) 意欲ある学生の確保 明確な入学受入れ方針の下、効果的・戦略的な広報活動の展開、高等学校との連携強化を図り、大学の魅力を広く伝えるとともに、入学選抜改革を推進し、大学が求める資質・能力を持った学ぶ意欲の高い学生を確保する。</p> <p>(4) 学生支援の充実 ア 学修支援・学生生活支援 留学生や障がいのある学生を含め、多様な学生が自主的・多面的な学修を行い、健康で充実した学生生活を送るため、学修環境の整備や学修・学生生活支援体制の充実・強化を図るとともに、経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援を行う。 イ キャリア支援 学生の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育に取り組み、就職に関する相談や企業を知る機会の拡充など、就職支援の充実・強化を図る。 また、県内の産業界等との連携強化や進学等の希望に対応する支援を行う。</p>
----------------------------	---

項目	実施事項	令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
			年度	中期		年度	中期		年度	中期	
1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力を養成する教育内容や多様なニーズに包括的に対応できる教育内容の充実を図る。	1 【特色ある体系的な教育課程の編成】 ①教育に係る3つのポリシーを検討し、改訂する。 ②ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと整合した体系的な教育課程の編成と定期的な点検・見直しを実施する。 ③ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法を検討し、実施する。 ④保健・医療・福祉各分野の専門的知識を包括的に学べる専門教育プログラムを導入する。 ⑤社会の変化に対応できる汎用的な資質・能力を育成する全学横断型教育プログラムの充実を図る。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・教育に係る3つのポリシー改訂 : H32年度の実施 ・体系的な教育課程の編成 : H33年度の実施 ・包括的な専門教育プログラムの導入 : H34年度の実施	1-1 【令和3年度計画】 【特色ある体系的な教育課程の編成】  ①改訂したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを公表する。また、定期的な検証を実施する。 ②新たなディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいた教育課程を実施する。また定期的な点検・見直しを実施する。 ③ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法を実施する。 ④保健・医療・福祉各分野の専門的知識を包括的に学べる専門教育プログラムを作成する。 ⑤アフターコロナの時代に、全学横断型教育プログラムで習得をめざすべき汎用的な資質・能力を検討するとともに、引き続き教育内容を改善する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・体系的な教育課程の編成 : R3年度の実施	2		【令和3年度の実施状況】 【特色ある体系的な教育課程の編成】  ①[組織状況] 教務・共通教育部会で学部の教務部会と連携を取りながら行った。 [実施状況] R3年度より改訂したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを大学ホームページで公表した。また看護師資格カリキュラムの改訂に合わせ、定期的な検討を行い、R4年度に向け看護学部のカリキュラム・ポリシーの改訂を行った。 ②[組織状況] 教務・共通教育部会で学部の教務部会と連携を取りながら行った。 [実施状況] 新たなディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な教育課程を実施した。ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの点検に伴いR4年度のカリキュラムツリーやカリキュラムマップの確認を行った。 ③[組織状況] 教務・共通教育部会でディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づいて教育が行われているか、各学部の教務部会を通してシラバスで確認した。 [実施状況] ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づいた教育方法についての確認を、各学部でシラバス作成時に行った。  ④[組織状況] 教務・共通教育部会において取り組んだ。 [実施状況] 包括的な教育プログラムとして「多職種連携プログラム」を立ち上げ、科目の決定を行った。また、全学生が該当科目の単位取得ができるよう、学部履修規則の整備を行った。 ⑤[組織状況] 基盤教育センターが中心となり、人間社会学部総合人間社会コース担当者会議と連携して取り組んだ。 [実施状況] 全学横断型教育プログラムで必ず学ぶべき知識・資質・能力とそれを教える新設科目を検討するとともに、それらの授業を展開するために必要となる教育内容について検討した。 <データサイエンス・プログラム> 汎用的な資質・能力を検討し、高等学校教諭一種免許状(情報)教職課程新設科目の中から、データサイエンス・プログラムの科目群に「個人情報法制」と新設「マルチメディア論」「地理情報システム論」「情報ネットワーク演習」の計4科目を追加した。 <キャリアマネジメント・プログラム> アフターコロナの時代に習得をめざすべき汎用的な資質・能力を検討し、「問題解決演習」で企業とオンラインでつなぎ、双方向型授業を実施した。  ○目標実績 ・体系的な教育課程の編成 : 新たなディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、体系的な教育課程の編成を行った。	B		【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		1	

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期														
				2	<p>【平成30～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①R2年度に教育に係る3つのポリシーの改訂を行った。                      ②R2年度に体系的な教育課程の編成を行った。                      ③毎年ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいた教育方法を確認した。                      ④プログラムの原案作りを行い、科目選定や付随する規則の整備など、プログラムを立ち上げた。                      ⑤データサイエンス・プログラムとキャリアマネジメント・プログラムにおいて、新設科目を開講するとともに、学修証明書の交付を開始し、発行した。学修証明書の発行数は以下の通り。</p> <p>学修証明書発行数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>データサイエンス(基礎)</td> <td>40名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>データサイエンス</td> <td>11名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>キャリアマネジメント(基礎)</td> <td>4名</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○目標実績                      [教育に係る3つのポリシー改訂]: R2年度に教育に係る3つのポリシーの改訂を実施した。                      [体系的な教育課程の編成]: R3年度に新たなディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づき、体系的な教育課程の編成を行った。</p> <p>【令和4、5年度の実施予定】</p> <p>①ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを継続的に検証する。                      ②ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーと整合した体系的な教育課程の検証を行う。                      ③ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいた教育方法の改善と検証を行う。                      ④『包括的な専門教育プログラムの導入』について、R4年度より実施する。                      ⑤既存科目の教育方法・内容の見直しなどにより、引き続き全学横断型教育プログラムの充実を図る。データサイエンス・プログラムでは新設科目を順次開講する。</p>		R3年度	R4年度	R5年度	データサイエンス(基礎)	40名			データサイエンス	11名			キャリアマネジメント(基礎)	4名			B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		1
	R3年度	R4年度	R5年度																						
データサイエンス(基礎)	40名																								
データサイエンス	11名																								
キャリアマネジメント(基礎)	4名																								

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	2【教養教育の充実】 ①導入教育の充実により、大学教育への円滑な移行を図る。 ②教養科目において導入教育の中心となっている「教養演習」の授業内容及び方法を継続的に改善する。 ③語学教育科目の充実を図る。 ④科目区分の再編により、社会変化に柔軟に対応可能な教養教育カリキュラムを構築する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・導入教育科目の新設 :2科目(既存科目の改編を含む)(期末) ・科目区分の再編 :1回以上(期末)	2-1【令和3年度計画】 【教養教育の充実】 ①既存の導入教育科目を、改善しながら実施する。 ②教養演習実施後の改善点を踏まえて、教養演習テキストの改訂及び授業計画について改善を行う。 ③語学教育を強化し、内容の充実を図る。 ④教養教育カリキュラムの改善に向けて、既存科目の更なる見直し案を学部教務部に提案する。	1		【令和3年度の実施状況】 【教養教育の充実】 ①【組織状況】 基盤教育センターが中心となり実施した。 【実施状況】 R2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症への対応を行いつつ、前期及び後期の全学共通科目を実施した。R3年度は、授業の特質と新型コロナウイルス感染症のまん延状況等に応じて(1)当初からオンラインで実施する、(2)対面授業を実施する、(3)オンラインと対面を併用するという形にすることで、授業の実施形態を改善した。 ②【組織状況】 基盤教育センターが中心となり取り組んだ。 【実施状況】 新年度教養演習テキストについて、学生編集委員と共に編集作業・校正作業を完了し、計画通り年度末に出版した。 ③【組織状況】 基盤教育センター所属の語学教員により、それぞれの言語教育及び語学教育全般の指導方法、及び課題解決に取り組んだ。 【実施状況】 ・英語クラスの学生数および習熟度が異なる学生が混在する問題を解決すべく、全学共通習熟度別英語クラス編成案(R5年度開始)を作成し教務・共通教育部会及び教授会を経て、教務入試委員会で承認された。コロナ禍における語学教育の取組として、動画やオンラインテストを活用したオンライン授業と感染対策を十分に講じた対面授業の双方を活用し、授業内容・指導方法の充実と自律的学修の促進に努めた。 ・大学院語学カリキュラムに関して、「Postgraduate presentation skills development in English」をR4年度から新規開講することを決定した。 ・中国語の検定試験(HSK)、韓国語検定に関する情報提供し、必要に応じて学習指導を行った。 ④【組織状況】 基盤教育センターが中心となり実施した。 【実施状況】 全学共通科目(教養科目・基礎科目)、全学横断型科目の再編の一環として、上記科目が本学の实情に則しているかを確認し、「全学共通科目(教養科目)」を「基盤教育科目(教養科目)」とした適切な名称変更を提案提出したうえ、その中にある「総合科目」の区分を今後のさらなる科目区分再編のために、「複合領域」という区分に名称変更した。これは、教務・共通教育部会及び教授会を経て、教務入試委員会で承認された。	B			【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		2
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①H30年度に「ライフキャリア論」「入門・数学で見る日本社会」を新たに開講し、他の既存の導入教育科目と併せて改善実施を毎年行った。R2年度以降は新型コロナウイルス感染症への対応として、入学直後の1年生に対して、新型コロナウイルス感染対策用に改訂した教養演習テキストを利用することで、eラーニングの使用法と情報処理機器の操作を遠隔授業で指導した。さらに、これらの対策・対応により、本学すべての全学共通科目においてオンラインによる遠隔授業の実施に成功した。R3年度においても、一部の授業で遠隔授業を実施した。 ②新型コロナウイルスでのオンライン授業方法の必要性を踏まえ、新型コロナウイルスにおいてオンラインによる遠隔講義に対応できるように教養演習テキストを適宜適切に改訂した上、オンラインを利用した教養演習の遠隔授業やすべての全学共通科目のオンライン遠隔授業を実施することができた。 ③語学教育を強化し、内容の充実を図った。 ・中国語検定試験(HSK)にも対応できるよう取り組んだ。その結果、R2年度～R3年度は数名の学生が中国語能力試験(HSK)3級に合格し、R2年度には1名がHSK4級に合格した。 ・新型コロナウイルスのなか、動画などを駆使し学生が初めて接する中国語や韓国語の発音教育に工夫を凝らした。 ④再編前まで人間社会学部のみが受講可能であった「Introduction to studying English」を基礎ゼミ(全学的に受講可能)の区分に科目再編することによって、R3年度より看護学部の受講ができるよう整備を行った。また、既存科目区分の更なる見直しを検討し、「全学共通科目(教養科目)」を「基盤教育科目(教養科目)」に、教養科目の中の区分の一つである「総合科目」を「複合領域」に改め、今後の科目の再編に備えた。  【令和4、5年度の実施予定】 ①既存の導入教育科目を、改善しながら実施する。 ②教養演習実施後の改善点を踏まえて、教養演習テキストの更なる改訂及び授業計画について改善を行う。 ③語学教育を強化し、内容の充実を図る。 ④社会変化に柔軟に対応可能な教養教育カリキュラムの改善を引き続き行う。	A		【高く評価する点】 新型コロナウイルスでのオンライン授業方法の必要性を鑑み、オンラインやデジタル講義等への学生の速やかな理解導入のために教養演習テキストにオンラインやデジタル機器に関する新たな章を付与し改訂した。この改訂により、教養演習のみならず、本学すべての全学共通科目において、eラーニングも利用したオンラインによる遠隔授業の実施が可能となった。  【実施(達成)できなかった点】		2	

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	3【専門教育の充実(人間社会学部)】 ①カリキュラムと科目内容の見直しにより、社会福祉・保育・心理等の分野で求められる対人援助力等を養成する教育を推進する。 ②総合人間社会コースの保健福祉情報教育プログラム等の充実により、多様なニーズに包括的に対応できる専門的実践力を強化する教育を推進する。 ③他大学との連携による教育を充実する。(県内福祉系大学とのボランティア教育に関する連携に向けた検討)  ○評価指標(指標及び達成目標) ・カリキュラムと科目内容の見直し 改善 : 全専門科目(期末)	3-1【令和3年度計画】 【専門教育の充実(人間社会学部)】 ①各種専門資格等のカリキュラムの実施 ・幼稚園教諭一種免許・保育士資格、新教職課程(H31開始、3年目) ・公認心理師資格(H30開始、R3完成年度) ・社会福祉士・精神保健福祉士(R3開始) 併せて実習教育の充実を図る。 ②多様なニーズに包括的に対応できる専門的実践力を強化するため、データサイエンス、キャリアマネジメント等、総合人間社会コースのプログラムを実施する。 ③他大学とのボランティア教育に関する連携に向けた検討を行う。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・カリキュラムと全科目の科目内容を点検する。	1	1	【令和3年度の実施状況】 【専門教育の充実(人間社会学部)】 ①【組織状況】 いずれの資格も当該コース会議と学部教務部会が連携して対応した。 【実施状況】 ・幼稚園教諭一種免許・保育士資格では、コロナ禍によるR2年度の新開講科目をR3年度に開講する履修計画を策定し、実施した。幼稚園教育実習Ⅱ、保育実習ⅡA・ⅡBは、コロナ禍の変更対応を検討し、R3年度内に終了できなかったものについてR4年度での実施計画を策定した。中高教職課程は3年次後期までのカリキュラムが予定通り実施され、「学校インターンシップ」と「教育実習」は、R3年度の対象学生全員の実習が完了した。 ・公認心理師は、予定通り学修を終了した。実習科目は、コロナ禍に伴う対応を行って実施した(心理実習Ⅰ：一部オンデマンド、心理実習Ⅱ・Ⅲ、スケジュール変更、代替措置として実習指導者の講義)。 ・社会福祉士・精神保健福祉士についてはコロナ禍の影響で、一部日程や実習施設等の変更を行いながら、すべての学外実習を終了した。 総じて、実習教育は、コロナ禍に伴う施設からの要請に応じて計画を調整しながら実施した。また、感染状況に応じて、「コロナ対策ガイドライン」(R2年度策定)の見直しを行った。 ②【組織状況】 コース担当者会議と基盤教育センターが連携して取り組んだ。 【実施状況】 履修要件を満たした学生に対し、学修証明書を交付した(データサイエンス(基礎)40名、データサイエンス11名、キャリアマネジメント(基礎)4名)。 ③【組織状況】 社会福祉コースが、福岡県内の福祉系大学と連携して実施した。 【実施状況】 福岡県内の福祉系大学とボランティア教育に関する情報交換を継続して行った。R3年度も他大学の教員を講師として招き、研修会を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催できなかったため、電話等での情報交換を行った。その結果、他大学においても学生のボランティア派遣が著しく低下している現状が明らかになった。  ○目標実績 カリキュラムと全科目の科目内容について点検を実施した。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	3	3	
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①公認心理師のカリキュラムは、H30年度から開始された。R2年度以降のコロナ禍においても、コロナ対応を目的に策定したガイドラインに基づいて実習を実施し、R3年度に無事完成年度を迎えた。保育士・幼稚園免許カリキュラムは、H30年度に改定案を策定し、R1年度から実施した。R2年度からは実習の種別ごとに教員を配置し、実習指導教育の充実を図った。同じくR1年度に改訂カリキュラムをスタートした中高教職課程も、3年次まで順調に進行した。社会福祉士・精神保健福祉士養成について、H30年度に国家試験対策の科目、R1年度には「手話」の開設を決定し、法令改正に伴う新カリキュラムをR2年度中に申請し、R3年度よりスタートさせた。総じて、すべての実習教育(学外)においてコロナ対応のガイドラインを策定するなど、実習先施設との理解と協力を得るかたちで順調に資格養成教育を実施することができた。 ②総合人間社会コースの横断プログラムは、H30年度に2科目の新規開講を行い、R1年度に完成年度を迎えた。R2年度には、社会的ニーズに即してプログラムの名称変更やプログラム修了者への学修証明書発行ルールの策定を行うなど、恒常的にプログラムの見直しや改善に努めた。 ③H30年度に県内福祉系6大学を対象にボランティア教育の状況などの確認を行い、R1年度はそのうち4大学との情報交換を実施した。R2年度はコロナの感染拡大期を避けて、学外から担当教員を招いての研修会を実施した。  【令和4、5年度の実施予定】 ①②③カリキュラムと科目内容の見直し・改善は、継続的に検討・実施を行う。また、各コースにおける実習教育、総合人間社会コースのプログラムは一層の充実を図る。ボランティア教育に関する連携については、コロナの感染状況に鑑み、可能な範囲で他大学と連携しながら、充実策を検討する。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			3

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに対応できる人材の育成の続き	4【専門教育の充実(看護学部)】 ①看護技術強化のための統合科目を開設する。 ②看護実践力強化のための臨地実習教育を充実させる。 ③他大学との連携による教育を充実させる。 (ケアリング・アライアンス九州沖縄コンソーシアムによる連携) ○評価指標(指標及び達成目標) ・カリキュラムと科目内容の見直し。 改善 : 全専門科目(期末) ・モデル・コア・カリキュラムを参考にしたカリキュラムの改訂 : H31年度の実施 ・看護技術統合科目の開設 : H35年度の実施	4-1【令和3年度計画】 【専門教育の充実(看護学部)】 ①看護技術強化のための統合科目と内容を検討する。 ②看護実践力強化のために、臨地実習前の演習科目の教育内容を検討する。 ③他大学との連携による講義の相互受講システムの課題を検証し、改善を行う。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・カリキュラムと全科目の科目内容を点検する。 ・R4年度入学生に向けた看護技術統合科目の開設	1	1	【令和3年度の実施状況】 【専門教育の充実(看護学部)】 ①【組織状況】 R3年度は授業(専門科目の演習)における看護技術に関する教育内容の現状把握の再調査を教務部会(看護技術WG)で行い、カリキュラムWG、科目責任者と協力し対応した。 【実施状況】 看護技術を強化するために、授業における看護技術に関する教育内容の現状把握を行い、現カリキュラムでの看護技術を強化するための教育内容と方法について検討を行った。さらに、R4年度開始する新カリキュラムでの看護技術を強化するための各専門科目の演習、新しく新設している「統合演習」科目について、段階的に科目間で接続しながら行う教育内容と方法について、科目責任者会議やFD研修を通して検討した。学生が主体的に看護技術の練習ができるように、看護技術室の整備に加え、「看護技術極め隊(学生の主体的活動グループ)」の活動支援を行った。 ②【組織状況】 R3年度は臨地実習前教育を充実できるように教務部会、実習運営部会、科目責任者にて検討している。さらに、FDを開催し教員間で意見交換を行い、臨地実習前教育の充実に向けて取り組んだ。 【実施状況】 ②看護実践力のコアとなる演習科目である「看護過程」および「看護技術」については、段階的に科目間で接続して行う必要があるため、教育内容と方法について、科目責任者会議やFD研修を通して検討を行った。さらに、看護実践力のコアになる看護倫理、フィジカルアセスメント(身体的健康上の問題を明らかにするために、問診とフィジカルイグザミネーション(視診、触診、聴診、打診)を用いて、全身の状態を系統的に査定する)を強化することとなった。 ③【組織状況】 戦略連携室より、特別聴講学生募集要項を各大学やコンソーシアムホームページにて配信し、各大学の教務等を窓口で募集を行った。他大学から応募があった場合には、本看護学部教務部会、教授会を経て、本学教務から応募大学教務課等に通知がなされ、学生は受講を開始する体制を整えている。 【実施状況】 R3年度前期は、8科目を開講(オンデマンド受講分)したが受講生は無かった。後期は9科目を開講し、「キャリア像確立講義Ⅰ」を4名(2名単位修得、2名一部受講)、「災害看護学」を87名が受講(全員単位修得した)。また、「キャリア像確立講義Ⅰ」「キャリア像確立講義Ⅱ」の2科目に関しては、撮影から5年が経過していることから、ケアリング・アライアンス九州沖縄コンソーシアム連携推進会議にて授業内容の再構築検討を継続し、動画教材の作成を進めている。さらに、R2年度の録画状況に課題がある「災害看護学」の再録画・再編集の調整を行った。また、看護師国家資格に対応した学びを基盤とし、さらなる付加価値を身に付け、医療の高度化・細分化、国際化等の変化に対応できる人材の養成を目的とし、学修証明書を発行する「ケアリング・ナーシング・プログラム」を検討し、R4年度から開始することとなった。  ○目標実績 ・カリキュラムと全科目の科目内容を点検する : 計画通り点検を実施した。 ・R4年度入学生に向けた看護技術統合科目の開設 : 計画通り看護技術統合科目(統合演習)を開設した。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.20 「大学間連携」	4	
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①看護技術を強化するために、授業における看護技術に関する教育内容の現状把握を行い、現カリキュラムでの看護技術を強化するための教育内容と方法について検討を行った。さらに、R4年度開始する新カリキュラムでの看護技術を強化するための各専門科目の演習、新カリキュラムにて新設している統合演習科目について、段階的に科目間で接続しながら行う教育内容と方法について、科目責任者会議やFD研修を通して教員間の共有理解を行った。学生が主体的に看護技術の練習ができるように、看護技術室(真島・市場シミュレーションルーム、5号館1階)の整備に加え、看護技術極め隊の活動支援を行った。 ②看護実践力のコアとなる演習科目である看護過程および看護技術について段階的に科目間で接続しながら行う教育内容と方法について、科目責任者会議やFD研修を通して検討を行った。さらに、看護実践力のコアになる看護倫理、フィジカルアセスメントを強化することとなった。 R4年度入学生に向けた看護技術統合科目の開設: 統合演習2単位(R3年度文部科学省承認) ③H30年度から前後期合わせて17科目を開講している。R2年度よりコンソーシアム連携作成科目「災害看護学」を開講し、本学では必修科目のため他の科目と合わせて受講生は100名前後で推移している。キャリア像確立講義Ⅰ・Ⅱについては、作成から5年が経過しているため再構築を検討している。また、R3年度には「ケアリング・ナーシング・プログラム」の検討を行い、R4年度から開始することとなった。  ○目標実績 【カリキュラムと科目内容の見直し・改善】: H30にカリキュラムと全科目の科目内容を点検した。R1年度に、H30年度からの文科省コアカリキュラムの方針に沿い、全科目の科目点検のうえ、5科目の検討を行った。R2年度、R3年度にカリキュラムと全科目の科目内容を点検した。 【モデル・コア・カリキュラムを参考にしたカリキュラムの改訂】: H30にモデル・コア・カリキュラムを参考にカリキュラムを決定した。R1年度に、「看護倫理学」「医療安全」「チーム医療論」「災害看護学」「健康科学」を改正した。 【看護技術統合科目の開設】: R3年度に看護技術統合科目を開設した  【令和4、5年度の実施予定】 ①②授業(専門科目の演習)における看護技術に関する教育内容の現状把握をもとに、教務部会(看護技術WG)、教育編成WG、科目責任者と協力し、取り組む。 ・統合科目を含む全専門科目の演習で実施する教育内容(対象者、健康レベル、生活障害等)と看護技術項目の確定 ・新カリキュラムで新たに設定した統合演習科目と専門科目の演習について取り組む看護技術の決定 ・客観的臨床能力試験(OSCE: Objective Structured Clinical Examination)の実施継続 ③キャリア像確立講義Ⅰ・ⅡのODDの新規・再編を完成し、R4年度後期から使用するともに、他の開講科目についても再編を検討する。また、R4年度より「ケアリング・ナーシング・プログラム」を開始する。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.20 「大学間連携」	4	

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期																																															
※1 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成の続き	5【学修成果の検証】 各種データを用いた学修成果の検証を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・授業の学修到達目標に対する達成度(授業評価アンケート) : 全学平均3以上 (4段階) 評定(単年) ・DP到達度(卒業時アンケート) : 全学平均4以上(5段階評定)(単年) ・国家試験合格率 : 看護師 98%以上(単年) 保健師 90%以上(単年) 社会福祉士 65%以上(単年) 精神保健福祉士 70%以上(単年)	5-1【令和3年度計画】 【学修成果の検証】 ①R2年度に決定したアセスメント・プランに基づき各種データ(授業評価・卒業時・卒業生・就職先アンケート等)を用いて学修成果を検証する。また実行したアセスメント・プランの妥当性を確認する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・授業の学修到達目標に対する達成度(授業評価アンケート) : 全学平均3以上(4段階評定) ・DP到達度(卒業時アンケート) : 全学平均4以上(5段階評定) ・国家試験合格率 : 看護師 98%以上 保健師 90%以上 社会福祉士 65%以上 精神保健福祉士 70%以上	1		【令和3年度の実施状況】 【学修成果の検証】 ①【組織状況】 教務・共通教育部会、進路生活支援部会、学部SD・FD部会においてそれぞれのアンケートの実施と結果分析、学部において国家資格等合格率の把握を実施した。 【実施状況】 アセスメント・プランの指標として、教務・共通教育部会においてR2年度卒業時アンケート、成績評価アンケート、受講者数と成績分布、進路生活支援部会にてR2年度卒業生・就職先アンケートの結果分析を行い、各学部・学科・コース・基盤教育センターに報告した。またいずれもR3年度のアンケートを実施した。学部SD・FD部会において前期及び後期授業アンケートを実施し、学部長及び各担当者に報告した。 ○目標実績 ・授業の学習到達目標に対する達成度(授業評価アンケート) : 3.6 / 4.0 ・DP達成度(卒業時アンケート) : 4.3 / 5.0 ・国家試験合格率 : 看護師 98.9% (92人/93人) 保健師 90.0% (9人/10人) 社会福祉士 73.3% (33人/45人) 精神保健福祉士 90.9% (10人/11人)	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.7 「資格試験合格率、免許の種類」 No.8 「学生による授業評価」	5																																																	
				【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①毎年各種データの収集を行った。R2年度にR3年度より実施するアセスメント・プランを作成した。それに伴いR2年度より、成績評価アンケートを開始した。またR2年度からアンケートの結果分析を学部・学科等に対して報告文書での通知を始めた。R3年度より報告文書は学位DPプレビューの一部として公表した。 ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業評価アンケート (4点満点中)</td> <td>3.4</td> <td>3.2</td> <td>3.6</td> <td>3.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>卒業時アンケート (5点満点中)</td> <td>4.1</td> <td>4.3</td> <td>4.2</td> <td>4.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師合格率 (%)</td> <td>97.7</td> <td>100.0</td> <td>99.0</td> <td>98.9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>保健師合格率 (%)</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>90.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会福祉士合格率 (%)</td> <td>78.0</td> <td>78.9</td> <td>67.3</td> <td>73.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>精神保健福祉士合格率 (%)</td> <td>91.7</td> <td>93.3</td> <td>100.0</td> <td>90.9</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 【令和4、5年度の実施予定】 ①引き続き毎年各種データの収集を行い、学習成果を検証する。		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	授業評価アンケート (4点満点中)	3.4	3.2	3.6	3.6			卒業時アンケート (5点満点中)	4.1	4.3	4.2	4.3			看護師合格率 (%)	97.7	100.0	99.0	98.9			保健師合格率 (%)	100.0	100.0	100.0	90.0			社会福祉士合格率 (%)	78.0	78.9	67.3	73.3			精神保健福祉士合格率 (%)	91.7	93.3	100.0	90.9			1		B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.7 「資格試験合格率、免許の種類」 No.8 「学生による授業評価」
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																																				
授業評価アンケート (4点満点中)	3.4	3.2	3.6	3.6																																																						
卒業時アンケート (5点満点中)	4.1	4.3	4.2	4.3																																																						
看護師合格率 (%)	97.7	100.0	99.0	98.9																																																						
保健師合格率 (%)	100.0	100.0	100.0	90.0																																																						
社会福祉士合格率 (%)	78.0	78.9	67.3	73.3																																																						
精神保健福祉士合格率 (%)	91.7	93.3	100.0	90.9																																																						



中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度
2 高度専門職業人の人材育成  地域社会、福祉政策、対人援助の専門知識を持ち、高度福祉社会の実現に貢献できる人材の育成および地域の保健・医療・福祉分野の施策展開を推進できる高度な職業人としての看護職者や、看護学の創造と発展に貢献できる研究者・教育者を育成するためのカリキュラムの充実を図る。	1 【体系的な教育課程の編成】  ①教育に係る3つのポリシーを検討し、改訂する。 ②ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーと整合した体系的な教育課程の編成と定期的な点検・見直しを実施する。 ③ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法を展開する。 ④修士課程を見直すとともに、博士課程の設置を検討する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・教育に係る3つのポリシー改訂 : H33年度の実施	1-1 【令和3年度計画】 【体系的な教育課程の編成】  <人間社会学研究科> ①改訂した3つのポリシーについて検証する。 ②改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーと体系的な教育課程の編成の整合性について点検する。 ③改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法を実施する。  <看護学研究科> ①改訂した3つのポリシーについて検証する。 ②改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーと体系的な教育課程の編成の整合性について点検する。 ③改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法を実施する。  <人間社会学研究科><看護学研究科> ④連合大学院構想を推進するための大学間調整を行う。	1		【令和3年度の実施状況】 【体系的な教育課程の編成】  <人間社会学研究科> [組織状況] 各専攻において検討された内容について、入試部会(アドミッションポリシー:AP)、学務部会(ディプロマポリシー:DP、カリキュラムポリシー:CP)で調整し、研究科委員会でこれらの検証を行った。 [実施状況] ①1年間の学修を通して、年度末に検証を行った。 ②DPとCPの整合性を確認し、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」の進め方や評価方法の改善を実施した。 ③DP・CPに基づく適切な教育方法として、専攻に共通する教養科目の設置について検討した。研究者として必要となる英語によるプレゼンテーションスキルを向上させるための科目を新設することを決定し、授業担当者の教員資格審査を実施した。  <看護学研究科> [組織状況] R3年度は、学務部会において改定した3つのポリシーと整合性のあるカリキュラムについて検討し、看護学研究科将来構想WG、学務部会および入試部会と連携をとり検討した。 [実施状況] ①1年間の学修の評価をするために、3月末に大学院生のアンケートを行い、それに基づいて検証を行った。 ②検証結果をもとに、体系的な教育課程の編成の整合性について3月末にシラバスを点検した。 ③改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいた適切な教育方法を実施できているか検討を行った。  <人間社会学研究科><看護学研究科> ④[組織状況] 連合大学院構想は将来構想検討部会が主に議論している。大学院博士課程検討部会は「子ども」をキーワードにした博士課程設置について議論したところであり、今後両部会において協働する。 [実施状況] 関西の大学関係者と調整を行ったが、対面協議は翌年度に持ち越すこととなった。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			6
					1		【平成30～令和3年度の実施状況概略】  <人間社会学研究科> ①H30年度より、3つのポリシーの検討を開始し、R1年度に学力の3要素に対応したDP案を策定した。R2年度にはCP、APを策定してDPとの整合性を確認し、予定よりも1年前倒しで公表した。 ②H30年度より開始されたDPの検討プロセスと並行して、DPIに基づいた教育課程の見直しを各専攻で作業を進めてきた。R2年度には論文指導を行う「特別研究」を3専攻共通のものとするため、「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」に分割するとともに、学修内容に見合った単位数に改めた。 ③DP、CPIに基づいた教育方法を実施するため、H30年度はシラバスにそれを明記するよう改善した。また、R1年度に策定された新DPIに基づいて改めて教育方法の見直しを実施した。子ども教育専攻において、R2年度には社会人入学生の学修環境整備を目的として、ポストコロナにおいてもメディア授業を実施するための検討を開始し、R4年度よりカリキュラムを開始できるよう、R3年度中に規則改正を行った。  <看護学研究科> ①1年間の学修を通して、実施した学生アンケート結果より、該当するすべての項目において、ディプロマ・ポリシーが達成されていることを確認した。 ②新たなディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な教育課程を実施した。体系的な教育課程の編成の整合性について、R4年度のシラバスならびにカリキュラムマップの確認を行った。 ③改訂したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいて適切な教育方法を実施できているか、シラバスにて確認を行った。また、授業の満足度調査においては、約85%の学生が授業方法について満足していたことが確認できた。  <人間社会学研究科><看護学研究科> ④連合大学院構想については、構成大学候補との調整をおこなってきた。  ○目標実績 [教育に係る3つのポリシー改訂]:R2年度に教育に係る3つのポリシーの改訂を実施した。  【令和4、5年度の実施予定】 ①②③<人間社会学研究科> 改訂された3つのポリシー(DP,CP,AP)を、それらの整合性やシラバス表記内容についての見直しを実施するなどしながら、同時に学習成果アンケートに基づいて、恒常的に検証(再検証)する。  ①②③<看護学研究科> 教育に係る3つのポリシーの検証を継続的に行う。  <人間社会学研究科><看護学研究科> ④連合大学院構想については、引き続き構成大学候補との調整を行う予定である。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度
※2 高度専門職業人の人材育成の続き	2【専門教育の充実(人間社会学研究科)】  高度福祉社会の実現に貢献できる職業人育成を目的とした、カリキュラムと科目内容の見直し、実習等の充実を図る。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・カリキュラムと科目内容の見直し 改善 :全科目(期末)	2-1【令和3年度計画】 【専門教育の充実(人間社会学研究科)】  全専攻で「特別研究」を「特別研究Ⅰ・Ⅱ」に変更することに伴い、中間発表会の内容・実施時期を含めた、修士論文作成スケジュールの見直しを行う。  <心理臨床専攻> H30年度に開始した公認心理師のためのカリキュラムを点検しつつ、実施するとともに、実習の充実を図る。  <社会福祉専攻> 認定社会福祉士の研修科目としての認証に併せて、授業科目の内容の見直しについて検討する。  <子ども教育専攻> 学生のニーズや傾向を踏まえて、引き続きカリキュラムと科目内容の見直しについて検討するとともに、実習の充実を図る。	1	1	【令和3年度の実施状況】 【専門教育の充実(人間社会学研究科)】  [組織状況] 各専攻の実情を踏まえながら学務部会で調整を行った。 [実施状況] 1年終了時「特別研究Ⅰ」の学修到達度の確認方法(中間発表)、提出物(研究計画書)を決定した。  <心理臨床専攻> [組織状況] 定期的開催される専攻会議の中で、学務部会員を中心にコロナ禍における実習科目実施への対応を行った。 [実施状況] 心理教育相談室の実習は、コロナ禍においても閉室せずに実施した。学外実習は、一時中断、時期の変更を行いながら、代替措置をとることなく実施した。カリキュラムに従って、2年次生は医療・福祉・教育領域、1年次生は教育領域・福祉領域の実習を終了した。  <社会福祉専攻> [組織状況] 専攻内に特別研究担当教員によるワーキング会議を設置した。 [実施状況] R3年度より「特別研究」が「特別研究Ⅰ・Ⅱ」に変更されたことに伴い、それらを改めて研修科目として申請し、認証された。また、上記のワーキング会議にてカリキュラム見直しの方向性を検討し、専攻会議に中間報告を行った。  <子ども教育専攻> [組織状況] 定期的開催される専攻会議で、学生のニーズをふまえた授業方法やカリキュラムについて検討し、またコロナ禍における実習科目実施への対応を行った。 [実施状況] 社会人の学生等のニーズを考慮し、メディア授業科目を設置した。学外実習は、一部予定を変更して実施した。実習先の選択に当たって、領域・分野の制限を緩和し、学生のニーズに応じて実習先を選択できるように配慮した。	B	7	7	7	
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 <心理臨床専攻> H30年度は、新設科目の開設と実習指導マニュアル、実習記録簿の作成、R1年度は実習評価票の改訂を行った。R2年度は非常勤相談員の委託制度の導入、コロナ対策の実習ガイドラインの作成など、実習教育の充実に努めた。  <社会福祉専攻> H30年度より段階的にカリキュラムを見直し、地域社会分野と社会福祉分野の統合カリキュラムを策定・実施した。論文指導の充実を目的に、特別研究担当教員の増員を実施した。  <子ども教育専攻> H30年度は専修免許の課程認定を視野にカリキュラムの見直しを実施したが、申請自体は専攻の状況等を勘案し、今後の課題とした。R1年度にはカリキュラムの充実(新設)を、R2年度にはその代替措置としての一部科目の廃止を実施した。また、実習施設の充実・多様化のため担当教員を増員した。  ○目標実績 [カリキュラムと科目内容の見直し・改善]:R1年度にカリキュラムと全科目の科目内容を検討した。R2年度にカリキュラムと科目内容の見直し・改善を行った。  【令和4、5年度の実施予定】 3専攻それぞれにおいて、また専攻共通の内容については学務部会において、カリキュラムと科目内容の見直し、実習および教育プログラムの充実について継続的に検討し、改善された内容を実施する。					B

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度
※2 高度専門職業人の人材育成の続き	3【専門教育の充実(看護学研究科)】  高度看護専門教育の充実を目的とした、カリキュラムと科目内容の見直し、実習等の充実を図る。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・カリキュラムと科目内容の見直し 改善: 全科目(期末)	3-1【令和3年度計画】 【専門教育の充実(看護学研究科)】  ①高度看護専門教育の充実を目的としたカリキュラムについて検討する。 ②カリキュラムに基づき、助産実践形成コースの実習について検討する。 ③人間社会学研究科との連携による科目を検討する。	1		【令和3年度の実施状況】 【専門教育の充実(看護学研究科)】  ①②③【組織状況】 R3年度は高度看護専門教育の充実を目的に研究コース及び助産実践形成コースカリキュラムについて学務部会にて検討した。  【実施状況】 ①高度看護専門教育の充実を目的としたカリキュラムとして、3つのポリシーに基づく科目内容として、基盤学特別研究、ヘルスプロモーション特別研究、臨床看護学特別研究の見直しを行った。加えて、高度看護専門教育のカリキュラムの充実を目的として修了後の進路について現状を把握し検討した。 ②助産実践形成コースの実習については新カリキュラムに対応できるように改変した。 ③人間社会学研究科との連携による科目の開設として、研究倫理(人を対象とした)の科目を検討した。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			8
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①平成30年度は助産実践及び助産アドバンスの両コースに特化した学習内容を検討し、電子シラバスを導入、令和元年、助産実践アドバンスコースのカリキュラムの検討を行いコースを廃止、令和2年度は令和4年度からの助産師カリキュラム改正に合わせ、現カリキュラムの見直しを行い、大学院における助産師教育の充実を検討した。 ②精神看護専門看護師、助産実践形成コースの実習教育の充実に向け、平成30年度は精神看護専門看護師の指導体制が整備されている実習施設の確保、令和元年度は実習内容についての検討、令和2年度は実習における臨床教授制について再検討を行い、見直しを行った臨床教授制を次年度から実施した。 ③平成30年度、令和元年度は人間社会学研究科と連携できる科目について検討を行い、令和2年度は看護学研究科の学生に共通科目として人間社会学研究科が開講している科目の受講希望について学務部会で調査を行い、受講希望者へ履修できるように促した。  ○目標実績 【カリキュラムと科目内容の見直し・改善】: H30年度に助産実践形成コース、助産実践アドバンスコースのカリキュラムと科目内容の見直しを行った。  【令和4、5年度の実施予定】 ①②将来構想WGと連携を取りながら、カリキュラムを検討し、カリキュラム改正に向けた準備を行う ③他研究科との連携による科目の内容の検討、施行を行う	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			8

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号										
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期								
※2 高度専門職業人の人材育成の続き	4【学修成果の検証】 各種データを用いた学修成果の検証を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・国家試験合格率:助産師100%(単年)	4-1【令和3年度計画】 【学修成果の検証】 ①大学院FDとして、在学生・修了生に対してアンケート調査を行い学修成果の検証を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・国家試験合格率:助産師100%	1		【令和3年度の実施状況】 【学修成果の検証】 ①【組織状況】 福岡県立大学大学院FD部会規則第4条に基づき大学院FD部会を定期的に開催し、在学生・修了生への満足度調査を実施し、学修成果の検証を行った。 【実施状況】 在学生の満足度調査を10月に実施した。11月に大学院FDセミナーを開催し、在学生の満足度調査結果を報告し、その結果に基づいて教員間で意見交換をし、学修成果を検証した。  ○目標実績 ・国家試験合格率:助産師100%(5名/5名)	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.7 「資格試験合格率、免許の種類」	9										
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①H30・R1年度は在学生・修了生のアンケート調査を実施し、R2年度は在学生に満足度調査を実施した後、研究科委員会に報告し、R3年度は在学生の満足度調査から大学院FDセミナーでその結果を報告した上で、教員間で意見交換を行い、学修成果を検証した。R3年度に社会人修了生の満足度調査も実施した。  ○目標実績 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国家資格合格率(助産師)</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 【令和4、5年度の実施予定】 ①R4年度も引き続き、在学生・修了生に満足度調査を実施し、学修成果の検証を行う予定である。							H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	国家資格合格率(助産師)	100%
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度													
国家資格合格率(助産師)	100%	100%	100%	100%															

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号										
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期								
3 教育活動の活性化 教育内容に対する学生の理解を促進する授業を行うため、教員の教育能力向上を図る。	1【効果的なFD活動の推進】 ①教員を対象とした指導方法研修を実施する。 ②教員間の授業参観システムを実施する。 ③他大学、他機関と連携したFD活動を実施する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・FD活動等への教員参加率:100%(単年)	1-1【令和3年度計画】 【効果的なFD活動の推進】 ①教員を対象とした指導方法研修を実施する。 ②教員間の授業参観システムを実施する。 ・授業参観ウィークを実施する。(学部) ・授業参観ウィークを実施する。(大学院) ③他大学、他機関と連携したFD活動を実施する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・FD活動等への教員参加率:100%	1	1	【令和3年度の実施状況】 【効果的なFD活動の推進】 (学部) ①[組織状況] 公立大学法人福岡県立大学SD・FD部会規則4条に則り、SD・FDセミナーの開催に取り組んだ(総合情報委員会、進路・生活支援部会、IR推進室と共催を含む)。 [実施状況] ・eラーニング講習会「Moodleはじめの一步」を実施した(8月11日;共催:総合情報委員会、学部SD・FD部会、大学院FD部会)参加人数57名。 ・eラーニング講習会「Moodleの主な機能の使い方」を実施した(9月22日;共催:総合情報委員会、学部SD・FD部会、大学院FD部会)参加人数34名。 ・第1回大学改革セミナーを実施した(9月28日;共催:IR推進室)参加人数60名。 ・ベストティーチャーによる公開授業を実施した(11月2日)参加人数6名。 ・eラーニング講習会に向けて全教員にMoodleのアカウントの発行を準備し、通知を行った。 ・研究倫理セミナーを実施した(12月22日;共催:研究倫理部会)参加人数44名。 ・第2回大学改革セミナー「GPS-Academic」を実施した(1月20日)参加人数37名。 ・FDセミナー「誰でもできるアクティブラーニング授業～次なるステップ～」を実施した(3月25日;共催:大学院FD)参加人数43名。 ②[組織状況] 大学の教育改革の一環として、学部SD・FD部会が企画し、授業参観活動に取り組んだ。 [実施状況] ・11月1日(月)～5日(金)に授業参観ウィークを実施し、教員延べ20名、高校生延べ127名が両学部の44科目の授業に参加した。また、教員と高校生に対して授業参観ウィークに関するアンケートを実施した。 ③[組織状況] 学部SD・FD部会において、学外で開催されるFDセミナーへの参加の促進、また、他大学と連携したFD活動の推進に取り組んだ。 [実施状況] 研修名:「公立大学の経営課題に関する研修会」(6月24日)3名参加。 研修名:「学修成果の可視化を評価改善に繋げたい高等教育機関の教職員」(9月4日)3名参加。  (大学院) ①[組織状況] 福岡県立大学大学院FD部会規則第4条に基づき大学院FD部会において、11月に大学院FDセミナーの企画・実施した。 [実施状況] 教員を対象とした大学院FDセミナーは、3月に学部SD・FD部会と共催で実施した。 ②[組織状況] 福岡県立大学大学院FD部会規則第4条に基づき大学院FD部会を定期的に開催し、教員間の授業参観ウィークを企画し実施した。 [実施状況] 1月に実施したR2年度のアンケート結果を踏まえ、R3年度は日程を前倒して12月6日(月)～10日(金)の5日間で実施した結果、参加者4名(学部生2名、大学院生1名、教員1名)、科目数3であった。  ○目標実績 ・FD活動等への教員参加率:99.0%	A	【高く評価する点】 ・教員を対象とした指導方法研修について、対面とオンラインを用いて実施し、これまでで最も多くの教員が参加した。 ・授業参観ウィークの実施について、アンケート結果では、授業の進め方について参考になった等の好意的な回答が多く、また、最も高い水準で教員が参観した。  【実施(達成)できなかった点】	No.9「FD」	10	10									
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①②③H30年度は、他大学の授業参観システムの情報収集を実施・検討を行った。R1年度は、実施計画案を作成した。R2年度は、1月に授業参観ウィークを実施した。R3年度は、R2年度のアンケート結果を踏まえ、12月に日程を変更して開催した。 各年度、他大学、他機関と連携したFD活動に随時参加した。  ○目標実績 <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FD活動等への教員参加率</td> <td>95.4%</td> <td>93.3%</td> <td>93.2%</td> <td>99.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 【令和4、5年度の実施予定】 (学部) ①教員を対象とした指導方法研修を実施する。 ②教員間の授業参観システムの一環として授業参観ウィークを実施する(R4年度は10月31日(月)から11月4日(金)で実施)。 ③他大学、他機関と連携したFD活動を実施する。  (大学院) ①②③R4年度は、6月に授業参観ウィークを実施する予定である。他大学、他機関と連携したFD活動に参加予定である。		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	FD活動等への教員参加率	95.4%	93.3%	93.2%	99.0%		
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度													
FD活動等への教員参加率	95.4%	93.3%	93.2%	99.0%															

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度
※3 教育活動の活性化の続き	2【学生の主体的な学修を促進する効果的な教育方法の展開】  ①学生の学修時間の実態を把握することで、学修時間確保に必要な対策を検討する。 ②アクティブ・ラーニング等、学生の主体的な学修を促す教育方法を促進する。 ③学生自習グループの活動を支援する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目数(講義科目) : 20%増加(期末)	2-1【令和3年度計画】 【学生の主体的な学修を促進する効果的な教育方法の展開】  ①学生の学修時間の実態を把握し、学修時間確保に必要な対策を立案する。 ②アクティブ・ラーニングを取り入れた授業について、学生の意識等を把握しFD活動に反映させる。 ③把握した学生自習グループの活動状況の分析結果をもとに支援する。	2	中期	【令和3年度の実施状況】 【学生の主体的な学修を促進する効果的な教育方法の展開】  ①[組織状況] 学部SD・FD部会とIR推進室の合同により「学生生活総合アンケート」の質問項目の作成に取り組んだ。 [実施状況] ・「GPS-Academic」(受検期間7月27日～8月26日)を3年生を対象に実施した。回答数:224名 ・「学生生活総合アンケート2021」(実施期間12月7日～12月25日)を全学生対象に実施した。回答数:205名。アンケート結果から遠隔授業の好ましい方法としてリアルタイム(Zoom等による受講)は10.7%(前回調査16.3%)であったが、オンデマンドでは58.5%(前回調査47.8%)であったことから、学生のオンデマンドに対する需要が高く、オンデマンドを中心とした遠隔授業に関する環境整備が引き続き必要である。 ②[組織状況] 学部SD・FD部会と総合情報委員会の共催で取り組んだ。 [実施状況] ・eラーニング講習会「Moodleはじめの一步」を実施した(8月11日;共催:総合情報委員会、学部SD・FD部会、大学院FD部会)参加人数57名。 ・eラーニング講習会「Moodleの主な機能の使い方」を実施した(9月22日;共催:総合情報委員会、学部SD・FD部会、大学院FD部会)参加人数34名。 ・「学生生活総合アンケート2021」(実施期間12月7日～12月25日)を全学生対象に実施した。回答数:205名 ・学生へのアンケート結果から「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業では、他の学生と意見が交換し易く、新たな発見に繋がった」等の回答が多数寄せられ、教員に対してアクティブ・ラーニングを取り入れた授業の理解促進に向け、FDセミナー「誰でもできるアクティブ・ラーニング授業～次なるステップへ～」を実施した(3月25日;共催:大学院FD)参加人数43名。 ③[組織状況] 後期授業期間に、学生自主グループの把握と活動状況を行った。 [実施状況] 学生自主グループの活動の分析結果から1号館1階国家試験対策室に書籍(福祉六法、社会保障の手引き等)を購入した。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	11	中期	
		【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①②③各年度、アンケート調査及び聞き取り調査を実施し、それぞれFD部会において検討を行い、学修時間確保に必要な対策を立案した。 ・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業についてFD活動に反映させた。 ・学生自習グループ活動に支援を行った。  ○目標実績 [アクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目数(講義科目)]:H30年度にアクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目数(講義科目)を把握し、期末目標に向けたベースラインを42科目に設定した。  【令和4、5年度の実施予定】 ①学生の学修時間の実態を把握することで、学修時間確保に必要な対策を検討する。 ②アクティブ・ラーニング等、学生の主体的な学修を促す教育方法を促進する。 ③学生自習グループの活動を支援する。			B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	11			

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度
※3 教育活動の活性化の続き	3【教育活動の定期的・多角的な評価の実施】 ①教育活動の調査と教育効果を検証する。 ②成績評価の分布に関する調査及び検証を行う。 ③成績評価の客観性、厳格性の担保に関する全学的体制を整備する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・成績評価の客観性、厳格性の担保に関する全学的体制の整備 : H33年度の実施	3-1【令和3年度計画】 【教育活動の定期的・多角的な評価の実施】 ①教育活動の調査を行い、教育効果を検証する。 ②成績評価の分布に関する調査及び検証を行う。 ③R2年度に決定したアセスメント・プランを実施する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・成績評価の客観性、厳格性の担保に関する全学的体制の整備 : R3年度の実施	1		【令和3年度の実施状況】 【教育活動の定期的・多角的な評価の実施】 ①【組織状況】 教務・共通教育部会において、教育効果の検証方法を検討し、実施した。 [実施状況] コロナ禍での感染予防を講じた対面授業の工夫の1つにeラーニングの活用があげられる。また、本学ではR4年度より新しいeラーニングシステムに切り替わる。そこでR3年度は、教員と学生を対象にeラーニングシステム活用に関するアンケート調査を実施した。教員では55科目、学生では302名より回答を得た。使用頻度と学習効果について分析を行った。 ②【組織状況】 教務・共通教育部会において取り組んだ。 [実施状況] 教務・共通教育部会において全科目及び学科・コース・基盤教育別の成績分布の分析を行い、データとともに分布に偏りが見られる科目の指摘を各学科等に通知した。各学科等は成績評価アンケート等と合わせて指摘された点を中心に科目毎の成績評価を検討し、必要な点については対策案を立て、授業実施評価レポートに記載し、学部長を経て教務入試委員会に報告した。 ③【組織状況】 アセスメント・プランの指標を教務・共通教育部会にて調査し、各学部・学科・コース・基盤教育センターに結果分析を報告する。これらの通知に基づき、学科・コースは科目レポートを作成し学部へ提出する。学部は以上の資料に進路生活支援部会による結果分析報告等資料を加えて学位レビューを作成し、教務入試委員会に提出する。教務入試委員会は内容についてフィードバックを行った。 [実施状況] R2年度卒業時アンケート結果分析、成績評価アンケート結果分析、受講者数と成績分布結果分析、卒業生・就職先アンケート結果分析が学科等に文書にて報告された。学科・コースにおいて科目レポート「授業実施評価レポート」を作成した。また学部において学位プログラムのレビューである「学位プログラムDPLレビュー」が作成され、教務入試委員会に提出された。  ○目標実績 ・成績評価の客観性、厳格性の担保に関する全学的体制の整備 : 全科目及び学科等別の成績分布を教務・共通教育部会が分析した結果を各学科等に通知し、新たに作られた成績評価アンケートの結果分析とともに各学科等で問題点と対策を検討し、その結果を授業実施評価レポートに記載し、学部長を経て教務入試委員会に提出し、その対策の成果を次年度の授業実施評価レポートにて報告する体制が整備された。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			12
			1		【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①R1年度はアクティブラーニングの効果について調査を行った。R2年度はコロナ禍での授業形態の変更に伴い、「遠隔授業での取り組みの実態」について教員を対象に調査を行い、複数の方法を用いた科目は主観的評価が高い傾向であることが確認できた。R3年度は授業方法に着目し、「eラーニングシステム活用による教育効果」について教員と学生に調査を行い、eラーニングシステムの使用頻度と学習効果が確認できた。 ②「成績評価の分布に関する調査及び検証」を継続して行なった。R2年度にはコロナ禍でのeラーニングの増加に伴い学科・基盤教育別にコロナ禍前後の分布比較を行い報告書にした。R3年度からは科目別学科等別の成績分布の分析結果を文書として各学科等に通知した。各学科等において対策等を授業実施評価レポートにまとめて報告する体制が整備された。 ③成績評価の客観性、厳格性の担保のための全学的体制として、R1年度に成績評価ガイドラインを作成し、R2年度から適用した。また、R2年度にアセスメント・プランを策定し、R3年度より実施した。 上記に加え、成績評価の客観性、厳格性の担保をするために、成績評価基準をシラバスに明記し、成績評価後には全科目及び学科等別の成績分布を教務・共通教育部会が分析した。分析結果は各学科等に通知し、新たに作られた成績評価アンケートの結果分析とともに各学科等で問題点と対策を検討した。検討結果は授業実施評価レポートに記載し、学部長を経て教務入試委員会に提出し、その対策の成果を次年度の授業実施評価レポートにて報告する体制が整備された。  ○目標実績 [成績評価の客観性、厳格性の担保に関する全学的体制の整備]: R3年度に全科目及び学科等別の成績分布を教務・共通教育部会が分析した結果を各学科等に通知し、新たに作られた成績評価アンケートの結果分析とともに各学科等で問題点と対策を検討し、その結果を授業実施評価レポートに記載し、学部長を経て教務入試委員会に提出し、その対策の成果を次年度の授業実施評価レポートにて報告する体制が整備された。  【令和4、5年度の実施予定】 ①引き続き「教育活動の調査と検証」を行う。 ②引き続き毎年度の「成績分布の調査」を行う。 ③整備された体制で、成績評価の客観性、厳格性を保持する。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			12

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																				
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期																																																		
4 アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保	<p>【アドミッション・ポリシーの明確化と戦略的な広報活動】</p> <p>求める学生像、入学者選抜方針をアドミッション・ポリシーとして明確化し、意欲ある学生を確保するための戦略的な広報活動を行う。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者のAP認知率 :80%以上(単年)</li> <li>・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1,000名以上、良好評価75%以上(単年)</li> <li>・入試説明会参加数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上(単年)</li> <li>・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上(単年)</li> </ul>	<p>【令和3年度計画】</p> <p>【アドミッション・ポリシーの明確化と戦略的な広報活動】</p> <p>&lt;学部&gt; 本学受験を検討する者に対して、アドミッション・ポリシーへの認知度を高める取り組みを実施する。また、戦略的な広報活動としてホームページの強化を行う。</p> <p>&lt;大学院&gt; 新たなアドミッション・ポリシーを周知する。また広報を意図したホームページの強化及び個別相談、入試説明会の充実をはかる。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者のAP認知率 :80%以上</li> <li>・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1,000名以上、良好評価75%以上</li> <li>・入試説明会参加数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上</li> <li>・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上</li> </ul>	1	1	<p>【令和3年度の実施状況】</p> <p>【アドミッション・ポリシーの明確化と戦略的な広報活動】</p> <p>&lt;学部&gt; [組織状況] 学部入学試験部会において、高校訪問・オープンキャンパス等での広報を計画的に行った。 [実施状況] 大学案内の入試概要ページにアドミッションポリシーを記載した。そして、小論文・面接問題集に、アドミッション・ポリシーと小論文の関係を記載した。また、インターネット出願において、アドミッション・ポリシーと試験内容の対応表を提示し確認を求めた。SNSを通して、入試に関する情報・オープンキャンパスの案内を更新し広報を強化している。8月7日および9月25日のオープンキャンパスはコロナ禍であるためWEB開催とし、動画の視聴およびオンラインによる個別相談を行った。オンライン形式のオープンキャンパスに際して、教職員や学生が協働して手作りの紹介動画を作成し、キャンパスの雰囲気伝えることができた。また、作成した大学案内の動画は、学校選抜型入試および一般選抜型入試の広報として公開した。13会場の入試説明会(業者主催)に申し込みを行ったが開催が中止となったものがあり、6会場への参加となった。</p> <p>&lt;大学院&gt; [組織状況] 大学院入学試験部会とアドミッション・オフィスが連携して行った。 [実施状況] 新たなアドミッション・ポリシーをホームページと募集要項に明示し、周知した。R2年度に作成したリーフレットをホームページに掲載し、随時ホームページの修正を行った。6月に約730か所の関係機関に両研究科の大学院募集ポスターと社会福祉専攻、子ども教育専攻、看護学研究科のパンフレットを送付した。さらに、子ども教育専攻のパンフレットを7月に同窓会の会報誌に同封し配布。看護学研究科のパンフレットを8月に250か所の関係機関に送付した。オープンキャンパス(8月7日、9月25日)でオンラインによる個別相談を実施し(計17名)、入試説明会は説明動画を配信した。心理臨床専攻では6月30日に進学ガイダンスを実施した(計34名)。オープンキャンパスでの個別相談以外に、学外者の個別相談を行った(両専攻計14名)。</p> <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者のAP認知率 :83.6%</li> <li>・オープンキャンパス参加数 :1276名(動画視聴:1110名、個別相談:166名)</li> <li>アンケート良好評価 :98.4%(満足・とても満足434件/回答441件)</li> <li>・入試説明会参加数及びアンケート :6会場 良好評価100%</li> <li>・高校訪問数及びアンケート :33校 良好評価99.1%</li> </ul>	B	【高く評価する点】	【実施(達成)できなかった点】	No.3 「高校訪問」 No.4 「入試説明会」 No.6 「オープンキャンパス」	13																																																			
					<p>【平成30～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>&lt;学部&gt; アドミッション・ポリシーを検討、R3年度に改訂を行い、高校訪問・オープンキャンパスでの広報活動及び大学案内等に明記し、認知率はH30年度66.6%、R1年度74.1%、R2年度84.0%、R3年度83.6%と増えている。オープンキャンパスはR2・R3年度はコロナ禍によりWEB開催となった。開催にあたっては教職員や学生が協働で手作りの紹介動画を作成し、キャンパスの雰囲気を画面上で伝えることができ、動画の視聴と個別相談を行い、参加数は1,000人以上を維持し、良好評価も95%以上を維持している。一方、入試説明会は申し込みは行ったものの、開催が中止となったものもあり、目標値10会場には到達できなかったが、開催会場の情報を取りながら6会場に参加することができた。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AP認知度 (%)</td> <td>66.6</td> <td>74.1</td> <td>84.0</td> <td>83.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>OC参加数 (人)</td> <td>2,133</td> <td>2,057</td> <td>698</td> <td>1,276</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>良好評価 (%)</td> <td>97.0</td> <td>95.3</td> <td>97.4</td> <td>98.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>入試説明会参加数 (回)</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>良好評価 (%)</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>99.4</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>訪問高校数 (校)</td> <td>41</td> <td>37</td> <td>6</td> <td>33</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>良好評価 (%)</td> <td>97.7</td> <td>97.7</td> <td>97.9</td> <td>99.1</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;大学院&gt; ・アドミッション・ポリシーの明確化: H30年度に改訂に向けた検討を行った。R2年度に学力の三要素に基づくディプロマ・ポリシーの修正に対応する形で承認された。R3年度に新たなアドミッション・ポリシーをホームページと募集要項に明示し、周知した。 ・戦略的な広報活動: オープンキャンパス、個別相談:H30・R1年度は対面で、R2・3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインで開催した。ホームページ:継続的な更新を行なった。新たに作成した人間社会学研究科のパンフレットを掲載した。 パンフレット等:毎年度6月頃に約770か所の関係機関に大学院募集ポスターを送付した。R2年度は社会福祉専攻、子ども教育専攻のパンフレットも送付した。毎年度7月頃に関係機関(246か所)に看護学研究科のパンフレットを送付した。R1年度に看護学研究科パンフレットを発行・配付した。R2年度に新たに人間社会学研究科(3専攻)のパンフレットを作成し、R3年度に同窓会の会報誌に同封し配布した。</p> <p>【令和4、5年度の実施予定】</p> <p>&lt;学部&gt; アドミッション・ポリシーの明確化については、広報活動を継続して行い意欲ある学生の確保に努める。また、オープンキャンパスも開催の方法を検討しながら、年2回の開催を実現する。入試説明会および高校訪問については、全学体制で対応し、限られた機会を逃さずに参加できるように調整を行う。</p> <p>&lt;大学院&gt; 新アドミッション・ポリシーの広報を行う。 戦略的な広報活動の実施・改善を行う。</p>							H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	AP認知度 (%)	66.6	74.1	84.0	83.6			OC参加数 (人)	2,133	2,057	698	1,276			良好評価 (%)	97.0	95.3	97.4	98.4			入試説明会参加数 (回)	10	11	8	6			良好評価 (%)	100	100	99.4	100			訪問高校数 (校)	41	37	6	33			良好評価 (%)	97.7
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																																							
AP認知度 (%)	66.6	74.1	84.0	83.6																																																									
OC参加数 (人)	2,133	2,057	698	1,276																																																									
良好評価 (%)	97.0	95.3	97.4	98.4																																																									
入試説明会参加数 (回)	10	11	8	6																																																									
良好評価 (%)	100	100	99.4	100																																																									
訪問高校数 (校)	41	37	6	33																																																									
良好評価 (%)	97.7	97.7	97.9	99.1																																																									



中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																			
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期																																	
※4 アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保の続き	2【アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生を確保するための入学選抜方法の検証と改善】  アドミッション・ポリシーに基づいた多様な入学選抜試験を実施するとともに、アドミッション・オフィスにおいてIRを活用し、入学選抜方法の検証・改善を図る。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・志願倍率<全学(学部)の志願倍率(一般入試)> (志願者数)/(募集人員):全学4倍以上(単年) ・充足率<大学院> (入学者数)/(入学定員):大学院各研究科100%(単年)	2-1【令和3年度計画】 【アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生を確保するための入学選抜方法の検証と改善】  <学部> コロナ禍の状況においてアドミッション・ポリシーに沿う入学試験が行えるよう工夫する。また、アドミッション・オフィスの試行運用を継続する。  <大学院> コロナ禍の状況においてアドミッション・ポリシーに沿う入学試験が行えるよう工夫する。また、入学選抜方法の検証を行う。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・志願倍率<全学(学部)の志願倍率(一般入試)> (入学者数)/(募集人員):全学4倍以上 ・充足率<大学院> (入学者数)/(入学定員):大学院各研究科100%	1	1	【令和3年度の実施状況】 【アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生を確保するための入学選抜方法の検証と改善】  <学部> 【組織状況】 学部入学試験部会において案を作成し、教授会を経て、教務入試委員会において決定している。 【実施状況】 R3年度も、R2年度同様に学校推薦型選抜においては、コロナ禍の影響で集団面接を行わず、調査書記載事項および推薦書により、本学アドミッション・ポリシーへの適合性の評価を行った。一般選抜試験についてもR2年度同様に、新型コロナウイルスへの対応を行いながら実施した。アドミッション・オフィスも引き続き運用している。 また、R4年度入試より看護学部の入学試験において「全国児童養護施設推薦特別選抜(看護学部)」を実施した。  <大学院> 【組織状況】 大学院入学試験部会、研究科委員会とアドミッション・オフィスが連携して行った。 【実施状況】 アドミッション・ポリシーに一層沿った入試ができるように作問者の選定範囲についての見直しを行った。事前相談を実施している子ども教育専攻は3名、看護学研究科は26名に対し面談を行った。入学試験実施にあたり別室受験室を設け、さらに新型コロナウイルス感染症の影響がある志願者への対応準備を行った。子ども教育専攻では、早期修了希望者の受入れのため、出願前相談を学務部と連携して行った。 また、人間社会学専攻では、近隣の大学の情報収集(社会福祉専攻15校、心理臨床専攻8校、子ども教育専攻3校)を行い、社会福祉専攻は、他大学院で英語を課している大学院は3校であること、心理臨床専攻、子ども教育専攻は、すべての大学院が英語を課していることを確認した。心理臨床専攻では、学内選抜入試についても現在実施している2校から情報収集した。引き続き、情報収集を行い検討していくこととした。  ○目標実績 ・志願倍率<全学(学部)の志願倍率(一般入試)> (志願者数)/(募集人員):833人/170人=4.9倍 ・充足率<大学院> (入学者数)/(入学定員):人間社会学研究科(入学者数12名)/(入学定員15名):80.0% :看護学研究科(入学者数8名)/(入学定員12名):66.7%	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.1 「①入学選抜試験(学部) ②入学選抜試験(大学院)」	14																																			
			1	1	【平成30～令和3年度の実施状況概略】 <学部> H30年度より、アドミッション・オフィス設置に向けての準備およびインターネット出願への移行準備を進め、R1年度(R2年度入試)よりアドミッション・オフィスの試行及びインターネット出願を開始した。一方、R2年度およびR3年度は、コロナ禍のため学校推薦型選抜では集団面接を行わず、調査書および推薦書によりアドミッション・ポリシーへの適合性の評価を行った。入学試験の実施においては、感染拡大の防止の観点から、会場の収容人数の50%以下の受験数とし、換気、トイレ案内や退出時の誘導の工夫などを行った。  ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>志願倍率(倍)</td> <td>7.7</td> <td>5.1</td> <td>7.0</td> <td>4.9</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  <大学院> H30年度に、社会人志願者の確保のため、人間社会学研究科では英語を小論文に代えて受験する受験者の受験資格のうち、社会人経験年数を短縮した(4年→社会福祉専攻2年、心理臨床専攻・子ども教育専攻3年)。R1年度に看護学研究科の入試選抜を改編した。人間社会学研究科では、入学選抜方法の検証に向けて情報収集を行った。  ○目標実績 ・充足率(入学者数)/(入学定員) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間社会学研究科</td> <td>73.3%</td> <td>73.3%</td> <td>66.7%</td> <td>80.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学研究科</td> <td>108.3%</td> <td>66.7%</td> <td>75.0%</td> <td>66.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  【令和4、5年度の実施予定】 <学部> 受験生のアドミッション・ポリシーへの適合性の評価については、入学選抜方法を引き続き検討していく。また、入学選抜方法と入学後の成績との関連も検討を行う。R5年度入試より、人間社会学部の学校推薦型特別選抜において、“社会的擁護を必要とする者”への受験料免除などの配慮を実施する。  <大学院> 入試選抜方法の検証を継続的に実施する。		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	志願倍率(倍)	7.7	5.1	7.0	4.9				H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	人間社会学研究科	73.3%	73.3%	66.7%	80.0%			看護学研究科	108.3%	66.7%	75.0%	66.7%			B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.1 「①入学選抜試験(学部) ②入学選抜試験(大学院)」	14
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																						
志願倍率(倍)	7.7	5.1	7.0	4.9																																								
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																						
人間社会学研究科	73.3%	73.3%	66.7%	80.0%																																								
看護学研究科	108.3%	66.7%	75.0%	66.7%																																								

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号										
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期								
※4 アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保の続き	3【高大連携の取組の推進】 高等学校等と緊密な連携のもと、高校生に対し大学での学修内容への興味や進学意欲を高める高大連携の取組を推進する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・高大連携授業への参加者の満足度 : 良好評価80%以上(単年)	3-1【令和3年度計画】 【高大連携の取組の推進】  高等学校との意見交換のために「高大連携教職員合同研修会」を実施する。高校生を対象としたセミナー等を行う。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・高大連携授業への参加者の満足度 : 良好評価80%以上	1	1	【令和3年度の実施状況】 【高大連携の取組の推進】  [組織状況] 学部入学試験部会が企画し、両学部の協力のもとに実施する。 [実施状況] R3年度の「高大連携教職員合同研修会」は秋のオープンキャンパスの同日(9月25日)にリモートで実施した。R3年度は高校側からの個別相談の形式で行った。高等学校のニーズによる「出前講義」は継続的に実施した。また、梅光学院高等学校より高大連携の依頼があり、生徒の卒業研究のプレゼンに対し教員と本学在学生在がフィードバックを行った。高大連携授業はオープンキャンパスと同日に行い、参加者38名の満足度も良好であった。  ○目標実績 ・高大連携授業(オープンキャンパスと同時に実施)への参加者の満足 : 良好評価100% ・出前講義14回 : 参加者483名 良好評価99.5%	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.5 「出前講義」	15	15									
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 高大連携教職員合同研修会は、オープンキャンパスと同時開催し、H30年度とR1年度は本学において、高校の先生向けの受験指導セミナーや個別相談を行った。R2年度およびR3年度はWEB開催とし、R2年度は入試の動向のディスカッション、R3年度は個別相談を行った。高大連携授業及び出前講義を実施し、R2年度とR3年度はWEB開催となったが、参加者の満足度は高かった。連携教育に関する協定に基づき、R2年度に博多青松高校から1名の生徒の受講を受け入れた。また、西田川高校と協定を結び、R4年度から受講を受け入れる。  ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高大連携授業への参加者の満足度 良好評価 (%)</td> <td>96.0</td> <td>100</td> <td>92.3</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  【令和4、5年度の実施予定】 高等学校との意見交換については、連携を推進するためにテーマを検討しながら継続して行う。高大連携授業のオアタムスクールや出前講義も広報活動を行い、継続して実施する。		H30年度				R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	高大連携授業への参加者の満足度 良好評価 (%)	96.0	100	92.3
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度													
高大連携授業への参加者の満足度 良好評価 (%)	96.0	100	92.3	100															

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度
5	学生の学修支援と生活支援	1-1	1	1	【令和3年度の実施状況】 【学生の学修環境の整備】	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.13 「図書館」	16	
	<p>学生が自主的で多様な学修活動が行えるような学修環境の整備や、留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援体制の充実・強化を図るとともに、経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援を行う。</p> <p>1【学生の自主的学修の整備】</p> <p>学生の自主的学修を促すために、学術情報基盤としての図書館や情報ネットワーク環境等を整備するとともに、社会人学生が学びやすい学修環境を整備し、大学間の学生コンソーシアムを構築する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館入館者数 : 36,000人以上(単年)</li> <li>・図書貸出数 : 24,000冊以上(単年)</li> <li>・eラーニングコース開設数 : 110以上(単年)</li> <li>・eラーニングシステムの学生利用率 : 全学平均80%以上(単年)</li> <li>・社会人学生の満足度 : 良好評価70%以上(単年)</li> </ul>	<p>1-1【令和3年度計画】</p> <p>【学生の学修環境の整備】</p> <p>①学生の自主的学修を促すために、ラーニング commons(本館)の設置を含めた学習環境の整備計画を立案し、既に設置しているラーニング・commons(分館)の活用法の周知を学生・教職員に行い、図書館資料のより一層の活用を図る。</p> <p>②情報ネットワーク環境等を整備するために学内LAN再構築の計画を進め、eラーニングシステムの改善やポートフォリオ導入を検討する。</p> <p>③大学間の学生コンソーシアム構築のため、学生コンソーシアム会議の開催、及び学生フェスティバルの開催を支援する。</p> <p>④社会人学生が学びやすい学修環境整備を図る。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館入館者数 : 36,000人以上</li> <li>・図書貸出数 : 24,000冊以上</li> <li>・eラーニングコース開設数 : 110以上</li> <li>・eラーニングシステムの学生利用率 : 全学平均80%以上</li> <li>・社会人学生の満足度 : 良好評価70%以上</li> </ul>			<p>【令和3年度の実施状況】</p> <p>【学生の学修環境の整備】</p> <p>①[組織状況] 図書館運営部会において教育分野ワーキンググループを設置し、ラーニング・commonsの利用を含めた学生の図書館利用促進について検討を行った。</p> <p>[実施状況] 分館のラーニング・commonsの利用者数は338人であった。R3年度も新型コロナウイルス感染防止のため、ラーニング・commonsをグループ学習の場として活用することは見合わせているが、学生の自主的学修を促すために、個別学習の場としてレイアウトを変更し、併せてパソコン更新などの整備を行った。感染収束後を見据えてラーニング・commonsにおけるワークショップ案等の検討も行った。また、本館のラーニング・commonsの設置に関する過去の整備計画案を収集して、それを含めた学習環境整備の検討を始めた。さらに、学生からの要望が多かった本館入館時の手荷物持込みを認める試行を10月～2月に実施した。図書館資料のより一層の活用を図る目的で文献検索演習(4/26、4/28、5/11)も実施し、60名が参加した。</p> <p>②[組織状況] 総合情報委員会が取り組んだ。教育環境整備に直結する事項については学部SD・FD部会、大学院FD部会、IR推進室と連携して取り組んだ。</p> <p>[実施状況] 学内LAN再構築とポートフォリオ導入について検討し、R4年度に学内LANの再構築を行うことを決定した。eラーニングシステムについては、H21年度に導入し、運用してきたシステムをR4年度から新システムのMoodleに更新することとし、教員向けのMoodleの講習会(8月11日、9月22日)を開催し、57名(8月11日)、34名(9月22日)が参加した。</p> <p>③[組織状況] 本学では6名の教員がケアリング・アイランド大学コンソーシアム事務局を兼任し、本学戦略連携室として運営にあたっており、うち4名が学生コンソーシアムの運営を支援している。なお、R3年度の学生委員は2年生2名が活動している。</p> <p>[実施状況] 《学生コンソーシアム会議》 かんたま祭の企画運営のためのオンライン会議を3回開催した。 《学生フェスティバル「かんたま祭」》 かんたま祭は、R4年3月5日にオンライン開催した。本年度の幹事校は福岡県立大学である。看護系大学を目指す高校生の参加を促すために九州・沖縄の高等学校594校に案内をコンソーシアム事務局より郵送し、九州沖縄の7県14校から31名の高校生の参加があった。参加総数は120名であった。</p> <p>《かえる場(大学を越えたアクティブラーニングの場)》 かえる場は、R4年2月22日にナーシングキャリアカフェ(卒業生やプロフェッショナルの看護職の先輩方との交流の場)との同日にオンライン開催し、2大学7名の参加があった。</p> <p>④[組織状況] 福岡県立大学大学院FD部会規則第4条に基づき大学院FD部会を定期的に開催し、社会人学生が学びやすい学修環境の整備した。また、教員との座談会を企画・開催した。</p> <p>[実施状況] 10月に実施した在学生の満足度調査から社会人学生を抽出して、その結果を踏まえた座談会を11月17日に開催した。この座談会の記録を研究科委員会に報告した。座談会に参加できなかった在学生に対し、座談会での意見などを院生室に提示して周知した。その後、3月17日に社会人修了生の満足度調査を実施し、その結果、81.8%の良好評価を得た。</p> <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館入館者数 : 113,036人(機関リポジトリ利用も含む)</li> <li>・※リポジトリを含まない学生入館数の全体における割合 : 93.4%</li> <li>・図書貸出数 : 104,114冊(機関リポジトリ利用も含む)</li> <li>・※リポジトリを含まない学生貸出数の全体における割合 : 76.7%</li> <li>・eラーニングコース開設数 : 281</li> <li>・eラーニングシステムの学生利用率 : 98.2%</li> <li>・社会人学生の満足度 : 在学生調査では良好評価58.3%(修了時調査では良好評価81.8%)</li> </ul>					

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																									
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度	中期																																								
				1	<p>【平成30～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①学生の自主的学修を促すため、継続的に学生および教員に分館ラーニング・commonsの使用方法和活用事例などを広報すると同時に、パーティション及びモニターを設置した。本館に設置した40台のパソコンを無線から有線LANに切り替え、学習環境を整備した。R2年度以降は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、分館ラーニング・commonsを個別学習の場として活用し、その活用促進のために古くなったパソコンを更新した。また、感染収束後を見据えてラーニング・commonsにおけるワークショップ等の企画案などの検討、図書館利用・資料検索のための文献検索演習の開催、学生からの要望が多かった本館入館時の手荷物持ち込みを認める試行などを実施し、継続する予定である。将来の図書館構想を検討するため、電子書籍に関する学習会も実施した。</p> <p>②H30年度に、安全な情報ネットワークの活用を徹底するために情報セキュリティマニュアルを作成し、教職員および学生への周知徹底を図った。R1年度に、情報処理教室の機器更新を行った。R2年度に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、eラーニングシステムの増強、リアルタイム型の授業を行うためのZoomの有償契約、大容量の動画データを配信するためのVimeoの有償契約を行うことなど、全学的な遠隔授業の実施に対応した。R3年度に、R4年度に実施する学内LAN再構築計画を立て、R4年度から新システムのMoodle導入に向けて教員向けのMoodleの講習会を開催した。</p> <p>③学生フェスティバル「かんだま祭」は年に1回開催し、R3年度で13回目を迎えた。R2年度、3年度はともにオンラインで開催し、また高校生への案内を強化し、多くの高校生の参加を得ている。大学を越えたアクティブラーニングの場「かえる場」は、R1年度から開始し、第1回は対面にて、2回目、3回目はオンラインで開催している。</p> <p>④社会人大学院生が学びやすい学修環境整備を図るため、H30・R1年度は在学生・修了生のアンケート調査を実施し、R2年度は在学生に満足度調査を実施し、R3年度は在学生・社会人修了生の満足度調査を実施し、それらから満足度の状況を把握した。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入館者数 (人)</td> <td>37,084</td> <td>45,403</td> <td>39,158</td> <td>113,036</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>貸出数 (冊)</td> <td>24,143</td> <td>29,627</td> <td>35,974</td> <td>104,114</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※R2年度・R3年度の入館者数及び貸出数は機関リポジトリの利用も含まれている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>eラーニングコース開設数</td> <td>135</td> <td>142</td> <td>375</td> <td>281</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>eラーニング学生利用率</td> <td>87.6%</td> <td>88.8%</td> <td>98.8%</td> <td>98.2%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和4、5年度の実施予定】</p> <p>①学生の自主的学修を促すために、分館ラーニングcommonsの活用法の周知を学生および教職員に行い、より一層の活用を図る。図書館資料の活用を促す演習およびワークショップを継続して実施する。情報集約機関として電子コンテンツの収集や閲覧を含め、総合的な学習環境となるよう整備を行う。</p> <p>②R4年度に情報ネットワーク環境等を整備するために学内LAN再構築及びeラーニングシステムの更新を実施する。ポートフォリオ導入を検討する。</p> <p>③次年度以降も学生フェスティバル「かんだま祭」並びにその企画会議である学生コンソーシアム会議の開催を支援し、学生のキャリア支援や相互交流に加えて、高校生への案内を継続し高次接続の一翼としていく。かえる場についても、継続開催し、学生の大学を越えた学びの交流の場を設け展開していく。</p> <p>④R4年度以降も、在学生・修了生に満足度調査を実施し、それらに基づいて社会人大学院生が学びやすい学修環境整備を図っていく予定である。</p>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	入館者数 (人)	37,084	45,403	39,158	113,036			貸出数 (冊)	24,143	29,627	35,974	104,114				H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	eラーニングコース開設数	135	142	375	281			eラーニング学生利用率	87.6%	88.8%	98.8%	98.2%			<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.13 「図書館」	16
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																												
入館者数 (人)	37,084	45,403	39,158	113,036																																														
貸出数 (冊)	24,143	29,627	35,974	104,114																																														
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																												
eラーニングコース開設数	135	142	375	281																																														
eラーニング学生利用率	87.6%	88.8%	98.8%	98.2%																																														

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度
※5 学生の学修支援と生活支援の続き	2【留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援体制の充実・強化】  ①成績不振の学生への相談支援を行う。 ②留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援の充実に向けた見直しを行う。 ③学生が安心して勉学に専念できるような相談・支援体制の整備として、学生総合支援センター(仮称)を開設する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・学生総合支援センター(仮称)の開設 : H32年度の実施	2-1【令和3年度計画】 【留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援体制の充実・強化】  ①GPA2.0以下の成績不振の学生に対し、個別面談による支援を行う(前期・後期)。 ②留学生や障がいのある学生を含めた学修・学生生活支援の充実を図るための支援体制を改善する。 ③学生総合支援センターにおける支援を実施する。	1		【令和3年度の実施状況】 【留学生や障がいのある学生を含む多様な学生に対する学修・学生生活支援体制の充実・強化】  ①【組織状況】 教務・共通教育部会、学部教務部会、教務入試班が連携して実施した。 【実施状況】 前期はR2年度後期、後期はR3年度前期のGPAに基づいて支援を行った。いずれも学科・コース等の担当者会議で、GPA2.0以下の学生の情報を共有し、支援の必要性を検討した。支援が必要と判断された学生は、学年担任、アドバイザーやゼミ担当教員等が個別面談し、状況に応じて学生相談室や学生支援班につないで、連携して支援を行った。教員から連絡が取れない学生については、教務入試班と連携して対応した。支援内容は教務部会員に報告し、教務・共通教育部会で共有を行った。R3年度は、延べ161人(前期95人、後期66人)を対象として支援を実施した。 ②③【組織状況】 学生総合支援センターにおいて実施した。 【実施状況】 4月1日より施行された「福岡県立大学における障がいのある学生の支援に関する規則」に基づき、7件の申請に対して修学上の支援計画を決定した。また、申請には至らないが考慮が必要と考えられる学生3名につき、学生相談室・保健室と連携して対応した。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			17
				1	【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①②③GPA2.0以下の成績不振の学生に対して、学年担任、アドバイザー、ゼミ担当教員等が面談の上、支援を提供した。また、R2年度に障がいのある学生に対する支援を実施する学生総合支援センターを設置し、R3年度より学内規則に基づき障がいのある学生への支援を実施した。  ○目標実績 [学生総合支援センター(仮称)の開設]: R2年度に学生総合支援センターを開設した。  【令和4、5年度の実施予定】 ①②③成績不振学生に対する個別面談支援を実施するとともに、学生総合支援センターを中心として多様な学生に対する支援を実施する。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			17

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																																																																														
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期																																																																																																												
※5 学生の学修支援と生活支援の続き	3【経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援】 ①授業料減免制度及び分納制度等の運用について改善策を検討する。 ②外部資金等を活用した本学独自の支援策を検討する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・授業料減免制度及び分納制度等の運用について改善策の検討 :H35年度の実施	3-1【令和3年度計画】 【経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援】 ①国の高等教育の修学支援新制度に基づく授業料減免制度を実施するとともに、分納制度等の運用について改善策を試行する。 ②真島・市場特別奨学金等を活用した支援策を実施する。	1		【令和3年度の実施状況】 【経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援】 ①②【組織状況】 進路・生活支援部会、学生支援班において実施した。 【実施状況】 入学生料減免39人 修学支援新制度に基づく授業料減免(前期:164人)(後期:155人) 大学独自の授業料減免(前期:5人)(後期:6人) 分割納付(前期:12人)(後期:10人) の支援を実施した。 外部資金等を活用した本学独自の和田奨学金について、2名の学生に給付を行った。(真島・市場特別奨学金による支援は、R3年度は申請なし。)	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.10 「奨学金受給」	18																																																																																																														
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①寄付金を活用した特別奨学金「真島・市場特別奨学金」を新設し、支援を行った。 ②本学独自の授業料減免及び分割納付を実施した。  「授業料減免実施人数」 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全額減免</td> <td>16</td> <td>18</td> <td>182 (10)</td> <td>178 (0)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2/3減免</td> <td></td> <td></td> <td>109 (0)</td> <td>94 (0)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>半額減免</td> <td>90</td> <td>79</td> <td>13 (13)</td> <td>11 (11)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1/3減免</td> <td></td> <td></td> <td>58 (0)</td> <td>47 (0)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>106</td> <td>97</td> <td>362 (23)</td> <td>330 (11)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※( )内は、大学独自の制度による減免・内数 ※R2年度より国の修学支援新制度実施</p> 「外部資金等を活用した修学支援実施人数」 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学内制度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>  和田奨学金(H19.10創設)</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>  特別奨学金(H28.12創設、R2.3廃止)</td> <td></td> <td>1</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>  真島・市場特別奨学金(R2.4創設)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>学外制度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>  日本学生支援機構</td> <td>648</td> <td>641</td> <td>790</td> <td>749</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  その他各自治体奨学金</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  その他</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>  受給学生数合計</td> <td>673</td> <td>663</td> <td>816</td> <td>766</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  受給率   (受給学生数/総学生数)</td> <td>59.80%</td> <td>58.70%</td> <td>73.80%</td> <td>69.30%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 【令和4、5年度の実施予定】 ①授業料減免及び分割納付については、現行の制度で引き続き運用を行う。 ②経済的に支援の必要な学生については、随時、相談を受け、支援策を講じる。							H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	全額減免	16	18	182 (10)	178 (0)			2/3減免			109 (0)	94 (0)			半額減免	90	79	13 (13)	11 (11)			1/3減免			58 (0)	47 (0)			計	106	97	362 (23)	330 (11)				H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	備考	学内制度						和田奨学金(H19.10創設)		1	2	2	2	特別奨学金(H28.12創設、R2.3廃止)		1	0			真島・市場特別奨学金(R2.4創設)				3	0	学外制度						日本学生支援機構	648	641	790	749		その他各自治体奨学金	9	10	9	3		その他	14	10	12	12		合計						受給学生数合計	673	663	816	766		受給率 (受給学生数/総学生数)
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																																																																																																	
全額減免	16	18	182 (10)	178 (0)																																																																																																																			
2/3減免			109 (0)	94 (0)																																																																																																																			
半額減免	90	79	13 (13)	11 (11)																																																																																																																			
1/3減免			58 (0)	47 (0)																																																																																																																			
計	106	97	362 (23)	330 (11)																																																																																																																			
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	備考																																																																																																																		
学内制度																																																																																																																							
和田奨学金(H19.10創設)		1	2	2	2																																																																																																																		
特別奨学金(H28.12創設、R2.3廃止)		1	0																																																																																																																				
真島・市場特別奨学金(R2.4創設)				3	0																																																																																																																		
学外制度																																																																																																																							
日本学生支援機構	648	641	790	749																																																																																																																			
その他各自治体奨学金	9	10	9	3																																																																																																																			
その他	14	10	12	12																																																																																																																			
合計																																																																																																																							
受給学生数合計	673	663	816	766																																																																																																																			
受給率 (受給学生数/総学生数)	59.80%	58.70%	73.80%	69.30%																																																																																																																			

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																							
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期																					
6 キャリア支援 学生の社会的・職業的自立を図るため、キャリア教育を行うとともに、キャリア支援体制を強化する。	1【学生のキャリア支援体制の充実・強化】 ①キャリア形成支援プログラム関連科目の充実により、全学的キャリア教育を推進する。 ②正課外の系統的キャリア形成支援講座を、キャリア教育の授業科目と連携して実施する。 ③キャリアオフィスの体制を整備し、学生キャリア支援を改善実施する。 ④卒業生に対する就職相談や情報提供を行う。 ⑤正課外活動等を対象に含めた学生への評価・表彰制度を実施する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・就職率(就職者数/就職希望者数):95%以上(単年)	1-1【令和3年度計画】 【学生のキャリア支援体制の充実・強化】 ①既存のキャリア形成支援関連科目を改善実施する。 ②正課外の系統的キャリア形成支援講座を、キャリア教育の授業科目と連携して実施する。 ③キャリアオフィスの体制を整備し、学生キャリア支援を改善実施する。 ④卒業生に対する就職相談や情報提供を行う。 ⑤正課外活動等を対象に含めた学生への評価・表彰制度を実施する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・就職率(就職者数/就職希望者数):95%以上	1	1	【令和3年度の実施状況】 【学生のキャリア支援体制の充実・強化】 ①[組織状況] 基盤教育センター及び総合人間社会コースにおいて実施した。 [実施状況] ライフキャリア論では、企業・行政機関に加え、医療福祉のキャリア形成領域の学習を加えることによって、全学部の低学年からのキャリア形成への動機付けを行った。プレ・インターンシップでは、体験先から与えられた課題に取り組む課題解決型学習を取り入れ、学生の社会人基礎力を向上させた。問題解決演習では、SDGsに即した課題提示を協力企業(ロイヤルホールディングス(株))から受け、キャリアスキルの修得を進めた。 ②[組織状況] キャリアオフィスにて実施した。 [実施状況] ナビ会社3社のキャリアサポーターによる講座を全7回実施した。 講座内容は「就活キックオフ講座」「自己分析講座」「企業研究講座」「選考対策①書類確認」「選考対策②筆記試験確認」「面接対策講座」「就活直前総まとめ講座」。 ③[組織状況] キャリアオフィスにて実施した。 [実施状況] 学内における就職支援関連イベント(学内就職ガイダンスなど)をキャリアオフィスが主催し、学生の認知度を高めるとともに、学生キャリア支援をより充実させる施策を行った。また、デスクの配置を集約できたので情報共有がやりやすくなり学生に対する支援の強化につながった。 ④[組織状況] キャリアオフィス及び各学科教員において実施した。 [実施状況] 本学に届く求人情報の公開、キャリアカウンセラーによる本学就職相談室の開放、各学科ゼミ担当教員による支援を行った。 ⑤[組織状況] 進路・生活支援部会において実施した。 [実施状況] 表彰対象となる活動につき、教職員への推薦を依頼を行ったが、R3年度は該当者がいなかった。  ○目標実績 ・就職率(就職者数/就職希望者数):98.7%(人間社会学部:97.9% 看護学部:100%)	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.16 「就職状況」	19																							
		【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①②キャリアマネジメント関連科目の既存科目を改善実施した。 ③キャリアに関わる部署間においては、情報共有を行い学生の支援強化を行い、R2年度には、3部署を統合し、学生のキャリア支援を一元化に支援する体制を整備した。 ④本学が得た求人情報について卒業生へ情報提供を実施。また、キャリアカウンセラーによる就職相談も行った。 ⑤学生への評価・表彰制度について評価対象活動の拡大を行い、令和元年度に不登校・ひきこもりサポートセンターの活動参加者に対する表彰を行った。また、各年度において教職員へ推薦依頼を実施している。  ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間社会学部就職率(%)</td> <td>99.3</td> <td>100</td> <td>97.8</td> <td>97.9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学部就職率(%)</td> <td>98.7</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>全体就職率(%)</td> <td>99.1</td> <td>100</td> <td>98.7</td> <td>98.7</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 【令和4、5年度の実施予定】 ①②キャリア形成支援プログラム関連科目の充実を図り、キャリア教育を推進する。 ③④学生のキャリア支援体制を充実させ、目標達成に向けたより細かな支援を行う。 ⑤表彰対象となる活動につき、教職員への推薦依頼を行う。								H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	人間社会学部就職率(%)	99.3	100	97.8	97.9			看護学部就職率(%)	98.7	100	100	100			全体就職率(%)	99.1	100
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																										
人間社会学部就職率(%)	99.3	100	97.8	97.9																												
看護学部就職率(%)	98.7	100	100	100																												
全体就職率(%)	99.1	100	98.7	98.7																												

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期						
※6 キャリア支援の続き	2【県内の産業界等との連携強化と企業を知る機会の拡充】  ①既存のインターンシップ実施体制を検証し、継続的キャリア形成の観点から効果的なインターンシップの推進を図る。 ②企業等に対する調査を行い、求めるスキルや潜在的求人ニーズなどの情報を収集する。 ③県内各種団体と協力し、学内における企業等就職説明会を開催する。 ④企業等のニーズと学生の適性とのマッチングを行なうシステムを導入を行う。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・学内就職説明会 :2回以上(単年)	2-1 【令和3年度計画】 【県内の産業界等との連携強化と企業を知る機会の拡充】  ①インターンシップを巡る情勢の変化に対応した、学生への情報周知・指導を実施する。 ②就職先アンケートを実施し、情報を収集する。 ③企業・団体に対する理解を深める説明会(オンラインを含む)を開催する。 ④企業等のニーズと学生の適性とのマッチングを行なうシステムを導入する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・学内就職説明会 :2回以上	1	1	【令和3年度の実施状況】 【県内の産業界等との連携強化と企業を知る機会の拡充】  ①[組織状況] 基盤教育センター及び総合人間社会コースにおいて実施した。 [実施状況] R2年度同様、プレ・インターンシップとその前後学習をオンラインと対面のハイブリッドで実施した。受入先は、5団体、履修学生は9名であった。企業・団体が学生に期待する内容を把握するため、受入先企業・団体に、学生の社会人基礎力に関する評価アンケートを実施した。その結果を学生に提供した。学生は、個人で「今後の大学での学び」に関する目標を作成した。 ②[組織状況] キャリアオフィスにて実施した。 [実施状況] H31年3月卒業生および同卒業生の卒業時の就職先を対象に、7月末にアンケートを郵送にて送付した。卒業生アンケートの回答率は38.2%(送付数228件 回答数87件)   内訳: 公共社会30.8%   社会福祉39.2%   人間形成40.8%   看護40.8% であり、就職先アンケートの回答率は28.0%(送付数168件 回答数47件)であった。 ③[組織状況] 進路生活支援部会、キャリアオフィス、各学科・コース担当者会議にて実施した。 [実施状況] 学内における就職支援関連イベント(学内就職ガイダンスなど)をキャリアオフィス、各学科・コースにおいて実施した。2月14日～18日の5日間、WEB型の業界研究セミナーを開催。一般企業、官公庁、福祉施設について全17事業所が参加した。学生の参加者は、延べ115名となった。 ④[組織状況] キャリアオフィスにて実施した。 [実施状況] R3年12月より就職支援システム「キャリアスUC」の導入を決定した。 R4年4月の学生リリースに向けた準備を完了した。  ○目標実績 ・学内就職説明会 :33回実施	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	20	20								
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①コロナ禍における対応として、プレ・インターンシップをオンラインと対面のハイブリッドで実施した。 ②就職先アンケートを実施した。回収率を上げるため学生へは企業経由で渡すことやフォームでの回答を実施した。 ③コロナ禍における対応としてオンラインでの就職等説明会を開催した。また、少人数で開催するため学科毎や業界ごとに開催した。 ④キャリアスUCの導入を決定した。  ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学内就職説明会 (回数)</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>16</td> <td>33</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  【令和4、5年度の実施予定】 ①効果的なインターンシップの実施。 ②オンラインでの就職説明会等の実施、協力企業の開拓。 ④キャリアスUCの活用。		H30年度			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	学内就職説明会 (回数)	2	2
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度											
学内就職説明会 (回数)	2	2	16	33													



中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度	中期
		ウェイト総計	3年度 22	中期 22						3年度 20	中期 20

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

- ・通し番号1 保健・医療・福祉の各分野の専門的知識を包括的に学べる専門教育プログラムを導入するとともに体系的な教育課程を編成する。
- ・通し番号11 自ら考え、行動できる力を伸ばすため、アクティブ・ラーニング等、学生の主体的な学修を促す教育方法を促進する。

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

- ・通し番号1 保健・医療・福祉の各分野の専門的知識を包括的に学べる専門教育プログラムを導入するとともに体系的な教育課程を編成する。
- ・通し番号11 自ら考え、行動できる力を伸ばすため、アクティブ・ラーニング等、学生の主体的な学修を促す教育方法を促進する。

教育に関する特記事項(令和3年度)

- ①高等学校教諭一種免許状(情報)の教職課程が認定された。
- ②英語クラスを習熟度別に全学展開することを決定した。
- ③データサイエンス・プログラムの学修証明書51名に対して発行した。
- ④学生の自主学習グループである看護技術「極め隊」が活動を開始し、基礎的な看護技術をマスターするための協力的な学びを推進している。教員は適宜アドバイスを行い、自主学習環境の整備(患者役等の募集含む)をはかっている。
- ⑤後期に授業評価アンケートを中間時点と終了時点の2回実施した。
- ⑥大学院においてメディア授業制度を導入した(子ども教育専攻、看護学専攻)。
- ⑦全国児童養護施設推薦特別選抜を実施し、1名の受験生を得た。

教育に関する特記事項(平成30年度～令和3年度)

- (令和1年度)
- ①R1年度、総合人間社会コースにおける卒業生4名(公共3名、福祉1名)が初めて誕生した。
  - ②学修成果として、各学科就職率100%、および各種国家試験における高合格率を達成した。
- (令和2年度)
- ③前期授業開始直前の遠隔授業研修  
新入生向けのeラーニング研修会を急遽1年生全員に4月3日と6日に実施し、さらに4月7日と8日に個別対応を行ったことで、新入生が初回授業から混乱なく、スムーズに遠隔授業を受けられる体制を整えることができた。
  - ④遠隔授業に係る環境重点整備  
前期からの全学的なオンライン授業を実施するため、県の全面的な財政支援を受け、eラーニングシステムの増強、テレビ・Web会議ツール「Zoom」の有償契約(41本)、動画サーバーVimeo年間契約、学生貸出用としてポケットWi-Fi 50回線(年間契約)、iPad50台を購入などの環境整備を重点的にを行い、年間を通して遠隔授業を実施することができた。
  - ⑤大学コンソーシアムにおけるマンスリー会議の開催  
コロナ禍における各連携大学(7大学)の情報共有を図る目的で、連携会議とは別に、8月より月に1回の“マンスリー会議”を開催した(計7回)。マンスリー会議では、授業方法、実習状況、経済支援状況、PCR検査の受検状況、ワクチンの接種予定状況などについて情報共有した。また、学生の行動制限や個人情報の取り扱いについての共有や疑問から、FD研修会の企画・開催(法的観点からみた行動制限)につなげた。
  - ⑥西田川高校との教育連携協定締結  
2020年8月、本学と県立西田川高校(フレックス型単位制高校)の間で連携教育に関する協定を締結した。これにより、西田川高校の2年次以降の生徒が科目等履修生として本学の正規の授業を受講することが可能となった。この受講単位は西田川高校において卒業単位の一部として認定されるとともに、大学でも単位認定を可能とするものである。県内だけでなく、全国的にも先駆的な協定(Advance Placement)である。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 2 研究に関する目標</p>	<p>(1) 特色ある研究の推進 地域の特性や時代の先端を見据え、地域の保健・医療・福祉の発展や大学の特色ある教育に有用な研究を重点的に推進するとともに、地域に根差した研究拠点として、地域社会のニーズを踏まえた実践的な研究に取り組む。 (2) 研究の実施体制等の整備 研究活動を更に活性化するため、研究支援体制の充実・強化を図るとともに、国内外の大学、研究機関、企業、行政機関等との連携体制の整備や外部資金の導入を推進する。 (3) 研究水準の向上と成果の公表 研究水準の向上を図る取組を推進するとともに、研究成果を積極的に公表し、社会に還元する。</p>
----------------------------	--

中期計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																		
項目	実施事項	令和3年度計画	年度 中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期																
<p>1 特色ある研究の推進</p> <p>保健・医療・福祉等、福祉社会の実現に寄与する本学の特徴を生かした研究を推進する。各センターの特徴と機能及び学内にある研究シーズを生かし、学際的研究プロジェクトを推進する。また、社会のニーズに対して、本学の研究シーズを生かした受託研究・共同研究を活性化させる方法を検討・実施する。</p>	<p>1【福祉社会の実現に寄与する研究の推進】</p> <p>保健・医療・福祉等、福祉社会の実現に寄与する本学の特徴を生かした研究を推進する。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・学術成果件数(査読付き論文又は学術書、その他の論文等) : 100件以上 (うち、査読付き論文又は学術書50件以上) (単年)</p>	<p>1-1【令和3年度計画】</p> <p>【福祉社会の実現に寄与する研究の推進】</p> <p>①保健・医療・福祉等の本学の特徴を生かした研究成果の発信方法を強化し、研究の促進を図る。</p> <p>○評価指標(指標及び達成目標) ・学術成果件数(査読付き論文又は学術書、その他の論文等) : 100件以上 (うち、査読付き論文又は学術書50件以上)</p>	<p>1</p>	<p>【令和3年度の実施状況】</p> <p>【福祉社会の実現に寄与する研究の推進】</p> <p>①【組織状況】 附属研究所運営部会を中心に取り組んだ。 【実施状況】 保健・医療・福祉等の研究成果の効果的な発信方法を検討し、附属研究所ホームページにR3年度採択された重点領域研究成果の発信を開始した。R2年度に整備した共同研究室の利用を開始した。</p> <p>○目標実績 ・学術成果件数(査読付き論文又は学術書、その他の論文等) : 131件(うち、査読付き論文又は学術書95件)</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	<p>No.18 「論文等の実績」</p>	21																		
				<p>【平成30～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①本事業の評価指標として、学術成果件数(査読付き論文又は学術書、その他の論文等)を単年で100件以上(うち、査読付き論文又は学術書50件以上)の数値目標を設定している。以下は、これまでの評価指標の推移である。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>査読付き論文又は学術書、その他の論文等</td> <td>100</td> <td>96</td> <td>85</td> <td>131</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上記の内、査読付き論文又は学術書</td> <td>70</td> <td>56</td> <td>42</td> <td>95</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○目標実績</p>		H30年度				R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	査読付き論文又は学術書、その他の論文等	100	96	85	131			上記の内、査読付き論文又は学術書	70	56	42	95
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																				
査読付き論文又は学術書、その他の論文等	100	96	85	131																						
上記の内、査読付き論文又は学術書	70	56	42	95																						
		<p>【令和4、5年度の実施予定】</p> <p>①保健・医療・福祉等の本学の特徴を生かした研究成果の発信方法を強化し、研究の促進を図る。</p>																								

中期計画		令和3年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																									
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期																																							
※1 特色ある研究の推進の続き	2【附属研究所の機能を生かした学際的研究プロジェクトの推進】  各センターの特徴と機能及び学内にある研究シーズを生かし、福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。地方自治体及び国の研究機関、行政機関等と連携・協力して、地域の課題解決等福祉社会の実現に寄与する共同研究を推進する。また、社会のニーズとのマッチングを円滑にする大学の研究シーズの公表方法を検討し、積極的に発信する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・学際的研究プロジェクトの実施:2件以上(単年) ・研究プロジェクトの成果報告会:1回以上(隔年) ・研究シーズ公表方法の検討・発信:H33年度の実施	2-1	2	2	【令和3年度の実施状況】 【附属研究所の機能を生かした学際的研究プロジェクトの推進】  ①②③[組織状況] 附属研究所研究推進部を中心に取り組んだ。 [実施状況] ①学際的研究プロジェクトである重点領域研究を公募し、3件を採択した。 研究名:「子どもの健康と保育に関する専門職連携の模索—医療及び保育の現場での実態調査と養成校の実績—」 研究名:「地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断モデル開発」 研究名:「神経の構築と情報処理機能の総合的解析—医療・福祉・教育の基盤となる医学神経科学研究—」 ②三者連携協定を締結している福智町との共同研究「地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断モデルの開発」を行った。 ③本学の研究と地域社会のニーズとのマッチングを推進するために、ホームページ上に「研究シーズ集」(21件)を掲載し、そのうち3件について問い合わせがあった。  ○目標実績 ・学際的研究プロジェクトの実施:3件 ・研究プロジェクトの成果報告会:1回(3月14日開催) ・研究シーズ公表方法の検討・発信:ホームページにて発信 ・地域の関連機関との合同研修会の実施:2回(ケアカフェ田川(12月10日、3月4日開催))	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		22																																									
		2	2	2	【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①H30年度より、学際的研究プロジェクトである重点領域研究を毎年2件以上採択した。 ②R2年度から、三者連携協定を締結している福智町との共同研究を始めた。福岡女子大学をR2年度に訪問、R3年度にオンライン会議を実施し、大学間の連携による研究の推進を行うための情報交換を行った。 ③本学の研究と地域社会のニーズとのマッチングを推進するために、R3年度にホームページ上に「研究シーズ集」を掲載した。 以下は、これまでの評価指標の推移である。  ○目標実績 学際的研究プロジェクトの実施数(件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重点領域研究</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 研究プロジェクトの成果報告会 発表数(件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発表件数</td> <td>-</td> <td>13</td> <td>6</td> <td>9</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 地域の関連機関との合同研修会の実施数(件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 【令和4、5年度の実施予定】 ①本学の特色を生かした福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②地域の関連機関等と連携・協力して、地域の課題解決に向けての共同研究の体制を構築する。 ③附属研究所の機能を生かし、地域社会のニーズとのマッチングを推進するために大学の研究シーズの公表を実施する。		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	重点領域研究	4	3	2	3				H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	発表件数	-	13	6	9				H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	実施件数	0	1	2	2			B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																												
重点領域研究	4	3	2	3																																														
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																												
発表件数	-	13	6	9																																														
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																												
実施件数	0	1	2	2																																														

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度	中期
2 研究の実施体制等の整備 福祉社会の実現に寄与する特色ある研究を推進するための基盤整備を行う。附属研究所の組織・システムの見直し等により研究機能を強化し、研究支援体制を充実・強化する。	1【研究支援体制の充実・強化】 研究活動を更に活性化させるため、研究支援体制の充実・強化を図る。若手研究者の研究環境整備を支援する取り組みを推進する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・研究支援体制の充実・強化方法の検討及び実施 :H33年度の実施	1-1【令和3年度計画】 【研究支援体制の充実・強化】 ①研究推進部を中心に、教員の研究活動の支援体制の充実・強化を図るとともに若手研究者への研究支援を実施する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・研究支援体制の充実・強化 :実施・検証	1	1	【令和3年度の実施状況】 【研究支援体制の充実・強化】 ①【組織状況】 附属研究所運営部会を中心に取り組んだ。 【実施状況】 科研費申請のための研修会にて、科研費の若手研究採択者による体験談を実施した(8月18日)。また、若手研究者を対象とした科研費申請研究計画支援として個別相談を8月27日に実施した。 ○目標実績 ・研究支援体制の充実・強化 :若手研究者を対象とした科研費説明会と個別相談を組み合わせ実施した。	B		【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			23
				【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①若手研究者への研究支援として研究支援セミナーを実施してきた。R1年度は、計画書作成のコツについての講義、質疑応答、R2年度は、個別相談、R3年度は科研費申請のための研修会にて若手研究採択者による体験談と個別相談を組み合わせ実施した。 ○目標実績 【研究支援体制の充実・強化】:R3年度に若手研究者を対象とした科研費説明会と個別相談を組み合わせ実施した。 【令和4、5年度の実施予定】 ①教員の研究活動の支援体制の充実・強化を図るとともに若手研究者への研究支援を実施する。		1	B		【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度
※2 研究の実施体制等の整備の続き	2【附属研究所の組織・システムの見直し等による研究機能の強化】  本学の特色を生かした研究活動の支援、他大学や行政機関等との連携による研究の推進、既存の事業部門との連携促進等により、研究支援機能・研究推進機能を強化するという考えの下、附属研究所の組織・システムの見直し等を行う。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・附属研究所の組織・システムの見直しによる、新たな組織・システムの整備 :H33年度の実施	2-1【令和3年度計画】 【附属研究所の組織・システムの見直し等による研究機能の強化】  ①研究推進部を中心とした研究支援体制の下で、他大学や行政機関等と連携した研究の推進や既存事業との連携促進のため、附属研究所の組織・システムの整備を行う。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・附属研究所の新たな組織・システムの整備 :R3年度の実施	1	1	【令和3年度の実施状況】 【附属研究所の組織・システムの見直し等による研究機能の強化】  ①【組織状況】 研究推進部を中心に、附属研究所の組織・システムの整備について検討した。 【実施状況】 R3年度から附属研究所内の各センター間の調整を行うための調整部会を廃止し、本学の学術研究水準の向上や高度福祉社会の創出に寄与することを目的とした事業を附属研究所が中心となって行うための運営部会を設置し、運用を開始した。研究推進部への兼任研究員を置き、重点領域研究の各研究の進捗状況等について情報交換を行い、研究の進捗状況をホームページに公開した。また、R2年度まで生涯福祉研究センターで行っていた「特別支援教育スキルアッププログラム」「お父さんとお母さんの学習室」について、心理教育相談室にて引き継いで実施した。  ○目標実績 ・附属研究所の新たな組織・システムの整備 : 研究推進部に兼任研究員を置いて重点領域研究を推進した。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		24	
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①R1年度に、研究支援機能・研究推進機能を強化するため、研究事業を研究推進部直轄にすることとした。それに伴い、ヘルスプロモーション実践研究センターをR1年度末、生涯福祉研究センターをR2年度末に閉所した。R3年度から運営部会を設置し、運用を開始した。研究推進部への兼任研究員を置き、重点領域研究を推進した。  ○目標実績 【附属研究所の新たな組織・システムの整備】:上記①の通り。  【令和4、5年度の実施予定】 ①研究推進部を中心とした研究支援体制の下で、他大学や行政機関等と連携した研究の推進や既存事業との連携促進のため、附属研究所の組織・システムの整備を行う。					

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期														
※2 研究の実施体制等の整備の続き	3【外部研究資金の導入の推進】  研修会の開催により、科研費をはじめとする外部研究資金獲得の増加を目指す。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・外部研究資金獲得件数(継続を含む) :30件以上(単年) ・外部研究資金応募件数(新規分) :50件以上(単年)	3-1【令和3年度計画】 【外部研究資金の導入の推進】  ①外部研究資金獲得のための研修会を実施する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・外部研究資金獲得件数(継続を含む) :30件以上 ・外部研究資金応募件数(新規分) :50件以上	1	1	【令和3年度の実施状況】 【外部研究資金の導入の推進】  ①【組織状況】 附属研究所研究推進部を中心に取り組んだ。 【実施状況】 科研費申請のための研修会を実施した(8月18日)。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研修会を録画し、事後視聴を可能とした。  ○目標実績 ・外部研究資金獲得件数(継続を含む) :41件(3月末現在) ・外部研究資金応募件数(新規分) :60件(3月末現在)	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.17 「研究(研究推進の状況、外部研究資金獲得の状況)」	25	25															
		【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①本事業の評価指標として、外部研究資金獲得件数(継続を含む)30件以上(単年)、外部研究資金応募件数(新規分)50件以上(単年)の数値目標を設定して、取り組んだ。  ○目標実績 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部研究資金獲得件数(継続を含む)</td> <td>36</td> <td>46</td> <td>42</td> <td>41</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外部研究資金応募件数(新規分)</td> <td>82</td> <td>60</td> <td>55</td> <td>60</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  【令和4、5年度の実施予定】 ①外部研究資金獲得のための研修会を実施する。									H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	外部研究資金獲得件数(継続を含む)	36	46	42	41			外部研究資金応募件数(新規分)	82
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																			
外部研究資金獲得件数(継続を含む)	36	46	42	41																					
外部研究資金応募件数(新規分)	82	60	55	60																					

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号											
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期									
※2 研究の実施体制等の整備の続き	4【研究倫理の徹底】 ①全ての研究者等を受講対象とする研修を実施し、研究倫理及び不正行為の防止を図る。 ②説明会の開催などにより、研究費の適正使用を徹底する。 ③研究倫理部会委員の学外研修により、研究倫理審査能力の向上を図る。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・研究倫理・不正行為防止研修の受講率 :100%(単年)	4-1【令和3年度計画】 【研究倫理の徹底】 ①研究倫理・不正行為防止研修を実施する。 ②研究費の適正使用に関する説明会を開催する。 ③研究倫理部会委員の学外研修を行う。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・研究倫理・不正行為防止研修の受講率 :100%	1		【令和3年度の実施状況】 【研究倫理の徹底】 ①②③[組織状況] 適正な研究活動推進委員会が中心となり、研究倫理・不正行為防止研修および研究費の適正利用に関する説明会の企画・実施を行った。研究倫理部会が中心となり部会員の学外研修に取り組んだ。 ①②③[実施状況] 研究倫理・不正行為防止研修および研究費の適正利用に関する説明会の企画・実施を行った(8/18)。また、R3年度は研究倫理セミナーを12月に開催した。対面会議方式でおこなった研修・説明会について動画を撮影し、全学教職員が随時視聴できるようにした。 研究倫理部会員の学外研修については、3/5にオンラインにて受講した。  ○目標実績 ・研究倫理・不正行為防止研修の受講率 :99.0%	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		26											
			1	【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①研究倫理・不正行為防止研修を実施した。 ②研究費の適正使用に関する説明会を開催した。 ③研究倫理部会委員の学外研修を行った。  ○目標実績 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究倫理・不正行為防止研修受講率 (%)</td> <td>95.5</td> <td>96.4</td> <td>99.1</td> <td>99.0</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  【令和4、5年度の実施予定】 ①研究倫理・不正行為防止研修を実施する。 ②研究費の適正使用に関する説明会を開催する。 ③研究倫理部会委員の学外研修を行う。		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	研究倫理・不正行為防止研修受講率 (%)	95.5	96.4	99.1	99.0			B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度														
研究倫理・不正行為防止研修受講率 (%)	95.5	96.4	99.1	99.0																

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度	中期
3 研究の水準向上と成果の公表  研究水準の向上を図るための課題を明確化し、課題解決のための取組を推進するとともに、多様な研究成果を積極的に公表し、社会に還元する。	1【研究水準の向上を図る取組の推進】  ①研究水準の向上に向けた課題を整理する。 ②研究推進のための学内資源の適正配分を実施する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・学内資源の適正配分の実施 : H34年度の実施	1-1【令和3年度計画】 【研究水準の向上を図る取組の推進】  ①研究水準を把握するための調査を実施し、課題を整理する。 ②研究推進のための研究費の適正配分に向けて試行する。	1		【令和3年度の実施状況】 【研究水準の向上を図る取組の推進】  ①②[組織状況] 附属研究所運営部会で取り組んだ。 [実施状況] ①外部研究資金の応募・獲得状況について調査した。また、奨励研究を推進するための対策について検討した。 ②研究奨励交付金における募集枠として、重点領域研究を強化するため、新規2件から新規・継続4件分を設け、科研費獲得に向けた助成を強化するため、科研費申請審査結果が「B」であった教員に対する助成額を増やした。	B		【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		27	
				1	【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①研究水準を把握するために、調査を実施した。 ②研究推進のために研究奨励交付金の見直しを行った。R1年度に「科研費申請補助」を新設した。R2年度に、「データサイエンス研究」の新規設置、「科研費申請補助」の対象を拡大した。R3年度に、「重点領域研究」の募集枠を新規2件から新規・継続4件に拡充し、科研費申請補助「B」の助成額を増やした。  【令和4、5年度の実施予定】 ①②研究水準を把握するために、調査実施と課題を整理し、研究推進のために研究費の適正配分を実施する。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			27	



中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度
※3 研究の水準 向上と成果の公 表の続き	2【研究成果の公表の推進】  ①研究成果の多様な公表内容や方法について検証を行う。 ②学内において研究成果発表の場や機会獲得のための支援を行う。 ③図書館に報告書を収蔵する。 ④情報検索・閲覧・発信システムの充実により研究成果の公表を行う。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・学内での研究成果発表の場や機会の設定 :H35年度の実施 ・図書館での報告書の収蔵、情報検索・閲覧・発信システムの充実 :H34年度の実施	2-1	1	1	【令和3年度の実施状況】 【研究成果の公表の推進】  ①②【組織状況】 附属研究所と図書館とで連携して取り組んだ。 [実施状況] ①附属研究所と図書館が連携し、附属研究所研究奨励交付金のR2年度の成果報告書を機関リポジトリに収録・公表した。 ②研究成果発表の場や機会獲得のため、3月14日に附属研究所研究奨励交付金事業成果報告会を実施した(参加者33名)。 ③④【組織状況】 図書館運営部会において研究分野ワーキンググループを設置し取り組んだ。 ③④【実施状況】 細則に則り、R3年度、新たに機関リポジトリに人間社会学部紀要30巻を収蔵、看護学研究紀要および心理教育相談室紀要もR3年度末に収蔵した。また、細則別表中の学生便覧の試行登録作業も行き、機関リポジトリ個人登録が問題なく実施できることを確認した。これを受けて、機関リポジトリ個人登録マニュアルの作成を行った。さらに、情報検索、閲覧、発信システムの更新、充実に向け、大学ホームページへの掲載方法を検討した。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		28	
				1	1	【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ① 附属研究所と図書館とで連携し、附属研究所研究奨励交付金のR2年度の成果報告書をR3年度中に機関リポジトリに収録・公表することをR2年度に決定し、R3年度に収録・公表した。 ② 研究成果発表の場や機会獲得のための支援のあり方について検討し、R2年度、R3年度に附属研究所研究奨励交付金事業成果報告会を実施した。 ③④H30年度に図書館規則の検討をし、現行の規則に沿って機関リポジトリ細則を定めた。細則に則り機関リポジトリに本学発行の紀要を収蔵した。また、学生便覧の機関リポジトリへの試行登録およびその他の報告書の登録準備を行い、機関リポジトリの個人コンテンツuploadマニュアルおよびアカウント登録申請書を作成した。さらに、情報検索、閲覧、発信システムの更新と充実を図った。  【令和4、5年度の実施予定】 ①附属研究所と図書館が連携した研究の公表を実施すると共にその検証を行う。 ②学内における研究成果発表の場を設けると共にその検証を行う。 ③④機関リポジトリの個人コンテンツuploadマニュアルを公表し、機関リポジトリバナーを作成し図書館ホームページなどに貼り、運用に向けた準備を行う。また、機関リポジトリ細則に則り、報告書の収蔵システムを更新し適切に収蔵するとともに、情報検索・閲覧・発信システムのさらなる充実を図り研究成果の公表を行うとともに、その検証を行う。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		28

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度	中期
		ウェイト総計	3年度 9	中期 9					項目数計	3年度 8	中期 8

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

・通し番号22 附属研究所の機能及び学内にある研究シーズを生かし、福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

・通し番号22 附属研究所の機能及び学内にある研究シーズを生かし、福祉社会の実現に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。

研究に関する特記事項(令和3年度)

①研究シーズ集を作成(21件)・公表したところ、そのうちの3件について外部から問い合わせがあった。

研究に関する特記事項(平成30年度～令和3年度)

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 3 地域貢献及び国際交流に関する目標</p>	<p>(1) 地域社会への貢献 ア 地域社会との連携 大学の特色を生かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラムや、県民の生涯学習を推進する公開講座等を実施するとともに、県の各種施策との連携を深め、地域の教育活動を支援する取組や保健・福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 イ 地域活性化への支援 大学が有する人的・物的資源や教育研究成果を地域社会に還元し、地域の諸課題の解決、地域社会の活性化に貢献する。 (2) 国際交流の推進 国際化を推進するための体制を充実・強化し、アジアをはじめとする外国の大学等との交流を戦略的に展開する。</p>
------------------------------------	---

中期計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																			
項目	実施事項	年度	中期		年度	中期		年度	中期																		
1 地域社会との連携 大学の特色を生かして、県民の生涯学習を推進する公開講座等を実施するとともに、資格・免許保持者のキャリアアップやスキルアップ等に資するリカレント教育等を実施する。	1【県民の生涯学習を推進する公開講座等の実施】 ①附属研究所における3センター(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター)を中心とした公開講座を実施する。 ②保健・福祉・教育・心理等でテーマを設定し、セミナーやフォーラムを実施する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・公開講座の実施回数 :3回以上(単年)	1-1	1	<p>【令和3年度の実施状況】</p> <p>【県民の生涯学習を推進する公開講座等の実施】</p> <p>①②[組織状況] 公開講座については、附属研究所公開講座小部会で取り組んだ。保健・福祉・教育・心理等のテーマでセミナーやフォーラムについては附属研究所運営部会で取り組んだ。 [実施状況] ①R3年度の公開講座は、「ヤングケアラー～実態、理解、早期発見と支援～」をテーマに11月からオンライン開催で計3回(第1回目:11月10日～1月31日動画配信、第2回目:11月22日オンラインディスカッション、第3回目:1月13日オンラインディスカッション)延べ228人、「紙芝居を通じて見る筑豊の歴史～王塚跳原作、服部団次郎改作『筑豊一代』」をテーマに1回(2月18日オンライン配信)開催した(延べ61人)。 ②「ICTを活用した新しい教育支援」をテーマとしたフォーラムを3月3日に実施した。</p> <p>○目標実績 ・公開講座の実施回数 :4回実施</p>	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.21 「公開講座等」	29																			
			1	<p>【平成30～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①公開講座を毎年以下のように実施した。 ②保健・福祉・教育・心理等をテーマとするフォーラムを、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止をしたR1年度を除き、毎年実施した。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加者人数(延べ)</td> <td>116</td> <td>192</td> <td>762</td> <td>289</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和4、5年度の実施予定】 ①附属研究所を中心とした公開講座を実施する。 ②保健・福祉・教育・心理等のテーマでセミナーやフォーラムを実施する。</p>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	実施回数	5	5	4	4			参加者人数(延べ)	116	192	762	289			B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																					
実施回数	5	5	4	4																							
参加者人数(延べ)	116	192	762	289																							

中期計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		通し番号																																																												
項目	実施事項	年度	中期		年度	中期	年度	中期																																																											
※1 地域社会との連携の続き	2【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①看護臨床実習における実習指導者を対象とした、教育力向上のための研修会を開催する。 ②看護師等の資格・免許保持者を対象とする研修会の開催、または研修会の講師等として参画する。	2-1	1	【令和3年度の実施状況】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①【組織状況】 実習運営部会にて研修会及び連絡会議については企画、運営を行った。さらに、臨床実習指導者会議・研修会WGにて研修会および連絡会議の明確化と、アンケート内容の検討を行った。 【実施状況】 看護学部リカレント教育部会の設置について検討し、R3年11月より部会運営を開始し、本研修会ならびに各職種リカレント教育の開催や広報等を統括して進めていくこととなった。 臨床実習指導者研修会および臨床実習連絡会議は、新型コロナウイルス感染症拡大により、オンラインで実施した(R4年3月15日)。参加者は、臨床実習指導者研修会および臨床実習連絡会議ともに65名であった。 実施にあたって、開催前の課題の明確化と開催後の課題解決の効果を把握するために、事前事後アンケートの内容を変更した。 臨床実習連絡会議では、事前アンケート(回答34名)結果において要望のあった実習科目ごとに実習内容および学生の学習目標の達成度についての情報提供を行い、臨床実習指導者と分科会で意見交換を行うことで、実習場との情報共有および連携強化を図った。臨床実習指導者研修会では、実習指導に活かせる内容としてコロナ禍の感染対策およびコーチングの研修を行った。事後アンケートでは研修会は92.5%、連絡会議は92.3%の参加者が「とても満足であった、満足であった」と回答した。 ②【組織状況】 保健師課程の教員で企画実施していたが、R3年11月から看護学部リカレント教育部会と合同で検討を行った。 【実施状況】 看護師リカレント:筑豊地区の医療機関(卒業生就職先含む)を対象に、「地域看取りケア・デスクカンファレンス」に関する研修会(12月10日WEB)、「医療倫理」に関する研修会(3月4日WEB)を実施した。12月は29名、3月は28名が参加した。 保健師リカレント:卒業生を対象に研修会を開催し、コロナ禍における保健師活動について情報共有を行い、課題と対応について意見交換を行った(12月11日WEB)。アドバイザーのベテラン保健師から助言を得た。アンケートの結果、参加者6名中5名が「参加してとてもよかった」と回答した。 助産師リカレント:卒業生を含む助産師を対象にオンライン研修会を開催した(7月25日)。内容は①帝王切開と母乳育児支援(助産師)、②母乳分泌の解剖生理生化学(医師)であった。参加者250人であり、アンケートの結果参加満足度は9割超が「とてもよかった」「よかった」と回答があった。 ③【組織状況】 福岡県立大学社会福祉学会の協力(後援)を受けながら、人間社会学部社会福祉学科主催で実施した。 【実施状況】 12月11日(土)に「デンマークの対人援助職“ベタゴ”から学ぼう」というテーマで、人間形成学科こどもコースとの共催で対面(一部オンライン)にて実施した(参加者109名)。また、3月5日(土)に「スーパービジョン」をテーマに、Zoomにて実施した(参加者67名)。 ④【組織状況】 福岡県立大学大学院心理教育相談室が主体となり、実施した。 【実施状況】 コロナ禍のため、Zoomを利用した研修会を実施した。今年度は、5月2日(日)(第1回目「現代自己心理学・間主観性理論の最前線」講師:甲南大学 富樫公一、57名参加)、6月13日(日)(第2回目「発達障がい特性に合わせた支援」講師:カウンセリングルーム小箱 坂口美由紀、42名参加)、8月29日(日)(第3回目「発達障がい特性に合わせた支援2—思春期の心の育ちとその対応—」講師:カウンセリングルーム小箱 坂口美由紀、41名参加)、11月27日(土)(第4回目「ロールシャッハを味わうために」講師:福岡県立大学 吉岡和子、43名参加)、12月11日(土)(第5回目「うつ病のゲーム教材」講師:福岡県立大学 小嶋秀幹、34名参加)、2月27日(日)(第6回目「乳児研究と大人の心理臨床への応用」講師:甲南大学 富樫公一、27名参加)の合計6回実施した。	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			30																																																											
			1	【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①臨床実習指導者研修会および臨床実習連絡会議は、年に1回ずつ開催している。R2年度、R3年度はオンラインで開催し、実習施設への本学の教育方針の伝達共有や指導力向上の機会となっている。 ②各職種の対象や時機に応じた内容でリカレント教育(研修会)を実施した。R3年11月からリカレント教育部会が発足し、運営や広報の一本化を進めた。 ③福祉従事者に対し、年1～2回リカレント教育を実施し、コロナ禍以降は、開催方法を対面だけでなくZoom等のオンラインも活用した。 ④公認心理師や臨床心理士の資格保持者等を対象に年数回の研修会を実施し、コロナ禍以降はオンラインでの研修会を実施し、研修の機会を確保した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①</td> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>0※</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>のべ参加人数</td> <td>165</td> <td>0</td> <td>117</td> <td>130</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②</td> <td>開催回数</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>のべ参加人数</td> <td>397</td> <td>321</td> <td>183</td> <td>313</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③</td> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>0※</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>のべ参加人数</td> <td>168</td> <td>0</td> <td>123</td> <td>176</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">④</td> <td>開催回数</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>のべ参加人数</td> <td>389</td> <td>165</td> <td>297</td> <td>244</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※R1年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため急遽中止となり、参加予定者には資料のみ配布  【令和4、5年度の実施予定】 ①臨床実習指導者研修会および臨床実習連絡会議の時期を検討し、感染拡大状況に応じた方法でそれぞれ年間各1回開催する。 ②各職種の対象や時機に応じた内容をリカレント教育部会とそれぞれの担当が共同開催し、卒業生や地域を中心とした専門職の質向上を目指すとともに、研修会の方法ではDXの活用を促進する。 ③福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育を実施していく。開催方法については、新型コロナウイルス感染状況も踏まえ柔軟に対応していく。 ④公認心理師や臨床心理士の資格保持者等を対象とした研修会を実施していく。開催方法については、新型コロナウイルス感染状況も踏まえ柔軟に対応していく。		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	①	開催回数	2	0※	2	2		のべ参加人数	165	0	117	130		②	開催回数	10	8	6	4		のべ参加人数	397	321	183	313		③	開催回数	2	0※	1	2		のべ参加人数	168	0	123	176		④	開催回数	6	5	6	6		のべ参加人数	389	165	297	244		【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			30
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																																													
①	開催回数	2	0※	2	2																																																														
	のべ参加人数	165	0	117	130																																																														
②	開催回数	10	8	6	4																																																														
	のべ参加人数	397	321	183	313																																																														
③	開催回数	2	0※	1	2																																																														
	のべ参加人数	168	0	123	176																																																														
④	開催回数	6	5	6	6																																																														
	のべ参加人数	389	165	297	244																																																														

中期計画		令和3年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度
2 地域社会への貢献	1 【地域に対する包括的支援の充実】 ①学内で地域に対する支援を実施している部署の連携体制を構築する。 ②不登校・ひきこもりサポートセンターや社会貢献・ボランティア支援センター等による地域に対する福祉・教育等の相談・支援の充実を図る。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・参加者・相談者アンケート : 良好評価70%以上(単年)	1-1 【令和3年度計画】 【地域に対する包括的支援の充実】 ①学内で地域に対する支援を実施している部署の連携体制を構築する。 ②不登校・ひきこもりサポートセンターや社会貢献・ボランティア支援センター等による地域に対する福祉・教育等の相談・支援の充実を図る。 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ・県大子どもサポーター派遣事業及びキャンパス・スクール事業を実施する。 ・全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施し、課題を検討する。 ・不登校児童・生徒に対する社会的自立支援に向けた新たな事業を実施する。 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ・学生のボランティアコーディネート及び支援を実施する。 ・福岡県事業(学習ボランティア派遣事業)である「土曜の風」を地域教育支援機構のもと推進する。 ＜心理教育相談室＞ ・ペアレントトレーニング等の地域住民等に対する相談・支援の取組を行う。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・参加者・相談者アンケート : 良好評価70%以上	2		【令和3年度の実施状況】 【地域に対する包括的支援の充実】 [組織状況] 附属研究所、各センター、心理教育相談室の間で連携して取り組んだ。 [実施状況] ①2月より不登校・ひきこもりサポートセンターと社会貢献・ボランティア支援センターのコーディネーターによる定期的な連携会議を開催することとした。 ②相談業務の効率化や学生による支援活動の充実のため、地域教育支援機構のもと、相談記録や学生の活動記録の共通フォーマット作成に向けて、2月のコーディネーター会議で具体的な検討を始めた。 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞3月末時点 ・県大子どもサポーター派遣事業及びキャンパス・スクール事業を実施した。 ⇒県大子どもサポーター派遣事業は実人数217人、延べ2,327人が活動を実施した。 ⇒キャンパス・スクール事業は登校開始率72.22%(義務教育課程生徒76.47%)、延べ874人が通級した。 ⇒オンラインでのボランティア活動では、10人の児童生徒に対し、18人のサポーターが延べ101回活動を実施した。 ・全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施し、課題を検討した。 ⇒サポーター活動に参加した学生からの聞き取り等から、授業内容についての課題を明らかにした。学生からは、発達障害の傾向のある児童生徒への関わり方、子どもが何をしたいかを把握する能力、オンライン支援の具体的方法について知りたいというニーズが多く、これらを授業内容に反映するよう検討した。さらに、オンラインボランティアの活動の充実化を図るため、検討を始めた。 ・R3年度より、県の事業である不登校児童生徒社会的自立支援事業を実施した。 ⇒県内の5中学校区(中学校5校、8小学校)をモデル校とし、不登校情報の分析や不登校支援会議へ介入した。大学から延べ90回、延べ146人が学校を訪問し、情報分析の結果の提示や具体的な支援方法の提案などを行った。 ⇒モデル校、教育委員会、関係支援機関等による「小中学校不登校児童生徒社会的自立支援事業ネットワーク会議」を立ち上げ、不登校支援にかかる情報の共有等を行った。2回実施し、参加者は計54人であった。 ⇒高校、教育委員会、関係支援機関等による「公立私立高校社会的自立支援ネットワーク会議」を立ち上げ、高校生年代の不登校に固有の課題や情報の共有等を行った。2回実施し、参加者は計36人であった。 ⇒R4年度からの人材育成(社会的自立包括支援コーディネーター、不登校情報分析コーディネーター)に向けて、教育庁(義務教育課)との調整を行った。 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ・外部団体の登録件数は230件となり、40件のボランティア依頼情報を学生に提供し、延べ96人の学生が活動に参加した。延べ262人の学生相談に応じた。 ・福岡県事業(学習ボランティア派遣事業)である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと実施した。地域の教育委員会主催の学習支援を実施している14箇所に学生を派遣、延べ781回学生を派遣し、派遣学生延べ数は1,149人であった。 ＜心理教育相談室＞ [組織状況] R3年度より本事業を生涯福祉研究センターから心理教育相談室に引き継いだ。相談室運営委員会及び心理臨床専攻会議においてペアレントトレーニング等の担当者を中心に実施への対応を行った。 [実施状況] ・ペアレントトレーニング開催 2021年度春クラス(期間:4月～6月) 10回開催のべ30人参加 2021年度秋クラス(期間:10月～11月) 10回開催のべ30人参加 2020年度春クラスの6か月フォロー(6月) 1回開催 3名参加 2020年度秋クラスの6か月フォロー(7月) 1回開催 3名参加 2021年度春クラスの3か月フォロー(9月) 1回開催 3名参加 2021年度秋クラスの6か月フォロー(12月) 1回開催 3名参加 ・ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアッププログラム開催 5回開催(期間:6月～8月) のべ130名参加 ○目標実績 ・参加者・相談者アンケート : 良好評価100%	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.31 「生涯福祉研究センター活動実績」 No.32 「不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況」	31	

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																													
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期																											
※2 地域社会への貢献の続き				2	<p>【平成30～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①R1年度末にヘルスプロモーション実践研究センター、R2年度末に生涯福祉研究センター閉所に伴い、地域に対する支援業務の体制を整理した。</p> <p>②地域から福祉・教育などの相談について、不登校・ひきこもりサポートセンターと社会貢献・ボランティア支援センターが連携して対応する体制整備に取り組んだ。ペアレントトレーニングについては、H30年度からR2年度まで生涯福祉研究センターが実施し、R3年度より心理教育相談室が引き継いだ。</p> <p>・H30年度より、不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、県大子どもサポーターの活動促進を目的に、通算活動回数が100回を超えたサポーターをマイスターとして認定し、表彰する制度を実施した。これまでに43人のサポーターが表彰を受けた。</p> <p>・R3年度より、県の事業である不登校児童生徒社会的自立支援事業を実施し、県内の5中学校区(中学校5校、8小学校)をモデル校とし、大学から延べ90回、延べ146人が不登校情報の分析や不登校支援会議へ介入した。さらに延べ4回のネットワーク会議を開催し、計90名が参加した。</p> <p>マイスター認定者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定者数</td> <td>15人</td> <td>17人</td> <td>7人</td> <td>4人</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○目標実績</p> <p>参加者・相談者アンケート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>良好評価</td> <td>99.2%</td> <td>86.6%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和4、5年度の実施予定】</p> <p>①学内で地域に対する支援を実施している部署の連携体制を構築する。</p> <p>②不登校・ひきこもりサポートセンターや社会貢献・ボランティア支援センター等による地域に対する福祉・教育等の相談・支援の充実を図る。</p> <p>&lt;不登校・ひきこもりサポートセンター&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県大子どもサポーター派遣事業及びキャンパス・スクール事業を実施する。</li> <li>・全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施し、課題を検討する。</li> <li>・不登校児童生徒社会的自立支援事業を実施する。</li> </ul> <p>&lt;社会貢献・ボランティア支援センター&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のボランティアコーディネート及び支援を実施する。</li> </ul> <p>&lt;心理教育相談室&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレントトレーニング等の地域住民等に対する相談・支援の取組を行う。</li> </ul>		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	認定者数	15人	17人	7人	4人				H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	良好評価	99.2%	86.6%	100%	100%			B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.31 「生涯福祉研究センター活動実績」 No.32 「不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況」		31
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																
認定者数	15人	17人	7人	4人																																		
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																																
良好評価	99.2%	86.6%	100%	100%																																		

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期						
3 国際交流の推進 国際化を推進するための体制を充実・強化し、アジアをはじめとする外国の大学等との交流を充実させる。	1【国際交流センターを中心とした教育研究の国際交流推進体制の充実と学生交流の推進】 ①協定締結校との文化・学術交流事業を実施する。 ②国際理解を深める文化交流プログラムを推進する。 ③国際交流センターの事業を推進する。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・教員交流数 :延20名以上(単年)	1-1【令和3年度計画】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際交流推進体制の充実と学生交流の推進】 ①大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、威徳大学校、吉林大学珠海学院との教員交流を推進する。 ②地域住民との連携事業としての文化交流プログラムを推進する。 ③国際交流チューター等を活用した国際交流支援を行う。 ※①②③についてはオンラインの活用を含む。 ○評価指標(指標及び達成目標) ・教員交流数 :延20名以上	1	1	【令和3年度の実施状況】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際交流推進体制の充実と学生交流の推進】 ①[組織状況] 国際交流推進部会で取り組みを行った。 [実施状況] 韓国三育大学校と遠隔(Zoom)による学生および教員交流を7月7日に実施し、本学学生6名・教員7名、三育大学校学生4名・教員4名が参加した。また、中国南京師範大学との遠隔(Zoom)による交流を10月18日に実施し、本学学生6名・教員5名、南京師範大学学生3名・教員2名が参加した。さらに、威徳大学校との遠隔(Zoom)による交流を3月23日・29日に実施し、本学学生14名、教員7名、威徳大学校学生28名、教員2名が参加した。 ②[組織状況] 国際交流推進部会で取り組みを行った。 [実施状況] R3年度も新型コロナウイルス感染拡大により留学生のキャンパスへの受け入れを停止したため、留学生と地域住民との交流活動は実施できなかったが、本学の国際交流の取り組みをホームページに公表することにより、本学の国際交流行事に協力して頂いている筑豊地区の団体に対し、現在の国際交流の取り組みについて周知を行った。 ③[組織状況] 国際交流推進部会で取り組みを行った。 [実施状況] 国際交流チューターの留学体験紹介動画(R2年度末 完成)を国際交流ホームページに公開した。R2年度韓国協定締結校への派遣留学生(1名)がR3年度国際交流チューターに委嘱され、三育大学校との交流イベント(7月7日)の計画・実施に積極的に参加した。R3年度後期科目をオンラインで受講している三育大学校からの留学生2名と南京師範大学からの留学生3名のサポートを学生チューター4名が行った。オンライン日本語研修プログラム(2月7日～16日、大邱韓医大学校学生7名参加)のサポートに、国際交流チューターおよび国際交流に関心のある本学学生15名と後期にオンライン留学中の三育大学校生2名が積極的に参加した。 ○目標実績 ・教員交流数 :27名	A	No.22 「国際交流協定」	32	32								
		【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①教員交流を推進し、R3年度は教員交流数27名を達成できた。 ②コロナ禍のR1・2年度は地域住民との連携事業を縮小したが、他の時期は国際交流センターにおける留学生歓迎会やホームビジット等を通して連携を深めた。 ③国際交流チューター・留学生チューターによる留学説明会や留学生サポートを実施できた。 ○目標実績 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員交流数(人)</td> <td>23</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>27</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 【令和4、5年度の実施予定】 ①大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、威徳大学校、吉林大学珠海学院との教員交流を推進する。 ②地域住民との連携事業としての文化交流プログラムを推進する。 ③国際交流チューター等を活用した国際交流支援を行う。 ※①②③についてはオンラインの活用を含む。								H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	教員交流数(人)	23
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度											
教員交流数(人)	23	9	0	27													

中期計画		令和3年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期														
※3 国際交流の推進の続き	2【留学生への支援体制の充実】 ①短期研修制度の拡充により、派遣留学生の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援体制を作る。 ③留学生(派遣・受入)に対する支援体制について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学締結について検討・実施する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・留学生(派遣・受入)数 :30人以上(うち、受入数20人以上)(単年)	2-1【令和3年度計画】 【留学生への支援体制の充実】 ①英語短期語学演習(単位認定)及び文化交流を目的とした短期研修プログラムの実施や、専門分野を学ぶ短期研修プログラムの検討および実施に向けた取り組みを行い、短期研修制度の充実を図る。 ②留学生の派遣中の修学・生活上の課題を留学生が毎月提出するレポートによって把握しその課題改善に取り組む。 ③受入留学生支援事業を実施する。また、受入留学生に対する国際交流センターを活用した地域住民との交流機会を提供する。 ④短期派遣留学生の奨学金給付を実施する。また交換留学締結について検討する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・留学生(派遣・受入)数 :30人以上(うち、受入数20人以上)	1	1	【令和3年度の実施状況】 【留学生への支援体制の充実】 ①[組織状況] 国際交流推進部会で取り組みを行った。 [実施状況] 夏季に実施している英国短期語学演習と、春期の韓国短期研修は、新型コロナウイルス感染症拡大により中止した。学生の異文化理解を促す試みとして、韓国の協定締結校の三育大学校および威徳大学校、中国の協定締結校南京師範大学と学生交流のイベントをオンラインで実施し(7月7日(三育)・10月18日(南京)・3月23日と29日(威徳))、本学生延べ26名が参加した。また、オンライン日本語研修プログラム(2月7日～16日、大邱韓医科大学学生7名参加)を実施し、大邱韓医科大学学生と15名の本学生が日本語研修を通して交流した。 ②[組織状況] 学生支援班を窓口とし、国際交流推進部会で対応を行った。 [実施状況] R3年度は新型コロナウイルス感染症拡大を受けて協定締結校への学生派遣を中止したため実施していない。 ③[組織状況] 学生支援班の国際交流担当の職員を中心に取り組んだ。 [実施状況] 現在R3年度留学生5名の受け入れを後期のオンライン授業のみで実施し、キャンパスへの受け入れを停止したため、支援事業及び地域住民との交流会は実施できなかった。 ④[組織状況] 国際交流推進部会で取り組みを行った。 [実施状況] R3年度短期派遣留学については新型コロナウイルス感染症拡大を受けて中止となったため奨学金給付は無かったが、R4年度よりオンライン派遣交換留学をする学生に対して通信費等補助の奨学金を給付することを決定した。交換留学の締結については、大邱韓医科大学と新たにオンラインプログラムについての協定を締結した。  ○目標実績 ・留学生(派遣・受入)数 :12名 交換留学生:南京師範大学(中国/3名)、三育大学校(韓国/2名) オンライン日本語研修プログラム参加学生7名(大邱韓医科大学/韓国)	A	A	No.22 「国際交流協定」 No.23 「学生、教員の国際交流」	33	33															
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①コロナ禍のR2～3年度は語学研修や派遣プログラムを実施できなかったが、H30～R1年度については実施できた。また、R3年度にはオンラインでの研修プログラムを4回実施できた。 ②留学生派遣の無かったR3年度を除き、留学生派遣中は提出されたレポートや定期的な連絡によって留学生生活の改善に努めた。 ③H30～R1年度は年約5回の受入留学生支援事業を実施した。また国際交流センターを活用し、留学生歓迎会や送別会等地域住民との交流の機会を提供した。 ④コロナ禍以前のH30年度までは短期派遣留学生に奨学金を給付した。また、R4年度よりオンライン派遣交換留学をする学生に対して通信費補助の奨学金を給付することを決定した。また、H30年2月に三育大学校との学術交流及び交換留学協定を更新、R3年2月に大邱韓医科大学とオンラインプログラムのための協定を新たに締結した。  ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣数(人)</td> <td>39</td> <td>19</td> <td>1</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受入数(人)</td> <td>25</td> <td>28</td> <td>0</td> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 【令和4、5年度の実施予定】 ①英語短期語学演習(単位認定)及び文化交流を目的とした短期研修プログラムの実施や、専門分野を学ぶ短期研修プログラムの検討および実施に向けた取り組みを行い、短期研修制度の充実を図る。 ②留学生の派遣中の修学・生活上の課題を留学生が毎月提出するレポートによって把握しその課題改善に取り組む。 ③受入留学生支援事業を実施する。また、受入留学生に対する国際交流センターを活用した地域住民との交流機会を提供する。 ④短期派遣留学生の奨学金給付を実施する。また交換留学締結について検討する。							H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	派遣数(人)	39	19	1	0			受入数(人)
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																			
派遣数(人)	39	19	1	0																					
受入数(人)	25	28	0	12																					



中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度
		ウェイト総計	3年度 6	中期 6		項目数計			3年度 5	中期 5

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

・通し番号31 学内で地域支援を行っている部署間の連携体制を強化し、地域連携・地域支援を推進する。

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

・通し番号31 学内で地域支援を行っている部署間の連携体制を強化し、地域連携・地域支援を推進する。

社会貢献に関する特記事項(令和3年度)

①大邱韓医大との「オンライン短期交換留学プログラムにおける覚書」を交わした。

社会貢献に関する特記事項(平成30年度～令和3年度)

(平成30年度)

- ①不登校・ひきこもりサポートセンターの扱う相談件数が5,000件となった。
- ②寄附金をもとに、災害ボランティア活動に必要な装備一式(5組)を購入した。
- ③初となる男子寮の運用を開始し、8名(+男子留学生3名)が入寮した。

(令和2年度)

- ④特定行為研修の開始  
国の「特定行為に係る看護師の研修制度」に基づき、筑豊地域初となる特定行為研修の研修指定機関に本学が指定を受けた。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 4 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p>	<p>(1) 大学運営の改善 学術研究の進展や社会及び地域情勢の変化に的確に対応するため、教育研究組織や学内資源配分を恒常的に見直し、理事長のリーダーシップの下、自主性・自律性を生かした活力ある大学運営を行う。 また、多様な人材を確保・育成するとともに、教職員の意欲向上を図るため、能力と業績を適正に評価する。併せて、スタッフ・ディベロップメント等の取組を推進し、複雑化・専門化する大学運営の充実を図る。</p> <p>(2) 事務等の効率化・合理化 継続的な業務見直しや事務体制の見直し等により、事務等の効率化・合理化を図る。</p> <p>(3) 社会的責任・安全管理の徹底 人権尊重、法令遵守の徹底など、公立大学法人としての社会的責任を果たすとともに、学生と教職員の健康の確保や事故、犯罪、災害等の未然防止、情報セキュリティ対策などの安全管理に万全を期す。 また、事故等が発生した場合に迅速に対処できる危機管理体制を確立する。</p>
--------------------------------------	--

中期計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項	令和3年度計画	年度 中期		年度	中期		年度 中期	年度
<p>1 組織運営の改善・強化 理事長のリーダーシップの下、社会情勢等の変化に対応して学内組織や学内資源の配分を見直す等、的確な大学運営を行うとともに、教職員の能力と業績の適正評価による意欲の向上や多様な人材を育成するためにスタッフ・ディベロップメント(SD)等の取り組みを推進し、職員の資質向上を図る。</p>	<p>1【学内組織や学内資源の配分見直し】 社会情勢の変化に併せて学内組織や学内資源の配分を改変する。</p>	<p>1-1【令和3年度計画】 【学内組織や学内資源の配分見直し】 ①実情に応じ、学内組織や学内資源配分の見直し等を検討する。</p>	1	<p>【令和3年度の実施状況】 【学内組織や学内資源の配分見直し】 ①【組織状況】 改革推進委員会を取り組んだ。 【実施状況】 R3年度は、2号館2階の地域文化資料室を「FPUホール」に改修し、学生がいつでも集える場として活用できるようにした。また、&lt;管理棟&gt;教務入試班(各種証明書の発行)、&lt;2号館&gt;キャリアオフィス(就職相談)、&lt;3号館&gt;学生支援班(奨学金受付等)の3箇所に分かれていた窓口を一本化するため、R4年2月に2号館2階FPUホール内にあるキャリアオフィスを3号館1階学生支援センター内に移設した。(R4年9月までには教務入試班も学生支援センター内に移設予定)さらに、R3年度にはR2年度に整備した共同研究室の利用を開始した。</p>	A	<p>【高く評価する点】 本学が掲げる「学生ファースト」の理念の下、学生窓口の一本化を図ることができた。 【実施(達成)できなかった点】</p>		34	
					1	<p>【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①・H30年度は、附属研究所長へ各センター事業を含めた予算管理権限を付与するとともに、各センター事業の見直しを行った。 ・R1年度は、新たな教育研究拠点として発展させるため、「不登校・ひきこもりサポートセンター」を附属研究所から独立させた。また、ヘルスプロモーション実践研究センターを開所した。 ・R2年度は、生涯福祉研究センターを開所した。また、特定行為指定研修機関の指定を8月に受け、附属研究所2階に看護実践教育センター特定行為研修室を設置し、R3年4月1日に開所した。また、看護学部においてもコロナ禍における学内実習を充実させるため、ヘルスプロモーション実践研究センター跡に真島・市場総合シミュレーションルームを併設し、生涯福祉研究センター跡については、人間社会学部のこども教育の研究拠点として、保育・幼児教育ルームに活用した。また、R3年度にはR2年度に整備した共同研究室の利用を開始した。 ・R3年度は、2号館2階の地域文化資料室を「FPUホール」に改修し、学生がいつでも集える場として活用できるようにした。また、&lt;管理棟&gt;教務入試班(各種証明書の発行)、&lt;2号館&gt;キャリアオフィス(就職相談)、&lt;3号館&gt;学生支援班(奨学金受付等)の3箇所に分かれていた窓口を一本化するため、R4年2月に2号館2階FPUホール内にあるキャリアオフィスを3号館1階学生支援センター内に移設した。(R4年9月までには教務入試班も学生支援センター内に移設予定)さらに、R3年度にはR2年度に整備した共同研究室の利用を開始した。</p> <p>【令和4、5年度の実施予定】 ①3号館1階の学生支援センターにR4年9月までに学務部教務入試班を移設し、学生窓口の一本化を図る。</p>	A	<p>【高く評価する点】 限られた学内資源を有効に活用することができた。また、本学が掲げる「学生ファースト」の理念の下、学生窓口の一本化を図ることができた。 【実施(達成)できなかった点】</p>	

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度
※1 組織運営の改善・強化の続き	2【教員の士気を高める教育環境整備】 ①教員表彰制度(Best Teacher's Award、研究費優遇、学内外公表、長期派遣研修等)を実施する。 ②全学的視点からの戦略的配分推進のため、理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図る。	2-1【令和3年度計画】 【教員の士気を高める教育環境整備】 ①教員表彰制度(Best Teacher's Award等)を実施する。 ②理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図る。	1	1	【令和3年度の実施状況】 【教員の士気を高める教育環境整備】 [組織状況] ①については学部SD・FD部会、②については附属研究所運営部会で取り組んだ。 [実施状況] ①授業参観ウィークにおける学外者へのアンケート結果を基に学部SD・FD部会で審議を経て、顕著な功績のあった1名の教員を表彰した。 ②理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図るため、研究奨励交付金制度の見直しを行い、重点領域研究の募集枠の拡充、科研費申請補助「B」の助成額を増やした。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		35	
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①毎年、教員表彰制度により、教員を表彰した。 ②理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図るため、研究奨励交付金制度の見直しを行った。R1年度に「科研費申請補助」を新設した。R2年度に、「データサイエンス研究」、科研費申請補助「B」を新設した。R3年度に、「重点領域研究」の募集枠を新規、2年目を含めて4枠に拡充し、科研費申請補助「B」の助成額を増やした。  【令和4、5年度の実施予定】 ①教員表彰制度(Best Teacher's Award等)を実施する。 ②理事長裁量の研究奨励交付金制度の充実を図る。					

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度
※1 組織運営の改善・強化の続き	3【教員個人業績評価制度の適切な運用】  教員の個人業績評価システムの検証・改善を実施する。	3-1【令和3年度計画】 【教員個人業績評価制度の適切な運用】  ①教員の個人業績評価システムを検証し、改善に向けた検討を行う。	1		【令和3年度の実施状況】 【教員個人業績評価制度の適切な運用】  ①【組織状況】 個人業績評価委員会が個人業績評価システムの検証を行った。 【実施状況】 教員の個人業績評価システムを検証し、教員の入力作業及び事務局の確認作業の軽減を図ることを目的に、Excel様式にプルダウン入力やエラーチェックを組み込んだ。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			36
				1	【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①教員の個人業績評価システムを検証し、改善に向けた検討を行った。 H30年度:評価様式に関する検討を行った。 R1年度:評価様式に関する検討を行った。 R2年度:デジタルデータ提出方式に変更し、教職員の負担を軽減した。 R3年度:教員の個人業績評価システムを検証し、教員の入力作業及び事務局の確認作業の軽減を図ることを目的に、Excel様式にプルダウン入力やエラーチェックを組み込んだ。  【令和4、5年度の実施予定】 ①教員の個人業績評価システムを検証し、改善に向けた検討を行う。		B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度
※1 組織運営の改善・強化の続き	4【SD等の取組推進による職員の資質向上】 ①積極的に各種専門研修等へ参加させるとともに、意欲向上等を目的とした学内研修の実施を検討し、多様な状況にも対応できる人材の育成を図る。 ②事務局プロパー職員に対する人事評価制度を導入する。	4-1【令和3年度計画】 【SD等の取組推進による職員の資質向上】 ①積極的に学外研修の受講を推奨し、職員の技能向上を図るとともに、引き続き、他大学との合同も含めた独自研修の実施を検討する。また、R2年度に改正した「SD・FD部会」の下でSD研修の更なる活性化を図る。 ②R1年度から2年間試行してきた事務局プロパー職員の人事評価制度をR3年度から本格実施する。	1	1	【令和3年度の実施状況】 【SD等の取組推進による職員の資質向上】 ①②【組織状況】 学部SD・FD部会に対応した。 【実施状況】 ①事務担当等職員に対する会計研修には4月6日に4名、8月5日に3名参加した。また、6月には(一社)公立大学協会主催の「公立大学の経営課題に関する研修会」に3名参加した。 また、新たな取組として、事務局職員が勤務年数に応じた研修を計画的、効率的、効果的に受講できるよう、研修体系表を作成した。(R4年度から実施予定) ②R1年度から試行、R3年度から本格的に導入した事務局プロパー職員に対する人事評価については、職員のモチベーションを更にアップし、業務に対する意欲や熱意等を向上維持させることを目的に、評価結果を給与へ反映できるよう関係規定の改正を行った。(R4年度から適用予定)	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.24 「SD」	37	37
		【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①全国市町村研修財団主催研修、公立大学協会主催研修、九州大学主催研修、NPO法人学校経営研究会主催研修等、学外で開催される研修に積極的に参加してきた。 ②R1年度から試行、R3年度から本格的に導入した事務局プロパー職員に対する人事評価については、職員のモチベーションを更にアップし、業務に対する意欲や熱意等を向上維持させることを目的に、評価結果を給与へ反映できるよう関係規定の改正を行った。(R4年度から適用予定)  【令和4、5年度の実施予定】 ①引き続き、積極的に学外研修の受講を推奨していくとともに、R4年度からは、R3年度に作成した研修体系表を基に事務局職員に対する研修を実施する。 ②R4年度から実施する人事評価結果の給与への反映状況を検証し、必要に応じて見直しを行う。			B					

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度
2 事務事業等の効率化 業務や事務体制の見直し等により、業務の効率化・合理化を図るとともに、ワークライフバランスの取り組みを推進する。	1【事務処理省力化・簡素化】 ①業務の電子化(システム化)の検討を行う。 ②業務マニュアル、情報の共有化等により事務作業の簡素化を図る。	1-1【令和3年度計画】 【事務処理省力化・簡素化】 ①費用対効果を主眼に更なる業務の電子化等の可能性を検討する。 ②事務作業簡素化を図るため、引き続き、業務マニュアルの見直しを検討し、適宜変更を行う。	1		【令和3年度の実施状況】 【事務処理省力化・簡素化】 ①②【組織状況】 事務局の班長以上で構成する事務局会議で検討した。 【実施状況】 ①R3年度は、事務局職員が手作業で配付している「給与明細書」の電子化をR4年1月より行った。これにより約30万円の業務委託料(印刷費)の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られた。 ②決算業務マニュアルは随時更新を予定している。その他の既存業務マニュアルについても、随時関係職員にて内容をチェックし、見直しの有無及び内容の充実に向けた検討を行った。	A	【高く評価する点】 給与明細書のデジタル化には、各個人から同意を得ることが法律により義務付けられていることから、職員一人一人に丁寧に説明することで、ほぼ全員から同意を得ることができた。 【実施(達成)できなかった点】			38
				1	【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①R1年度は、インターネット出願システム、電子シバラスの導入を行った。R2年度は、授業評価アンケートの集計業務を委託していたものを教務システムで集計できるようシステム改修を行ったことにより、年間150万円が節減できた。R3年度は、事務局職員が手作業で配付している「給与明細書」をR4年1月からデジタル化することにより、年間約30万円の業務委託料(印刷費)の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られた。 ②H30年度は、図書管理の適正化を図るため、図書管理システムマニュアルを策定した。  【令和4、5年度の実施予定】 ①今後も更なる業務の電子化等の可能性を検討する。 ②事務作業の簡素化を図るため、引き続き、業務マニュアルの見直しを検討する。	A	【高く評価する点】 給与明細書のデジタル化には、各個人から同意を得ることが法律により義務付けられていることから、職員一人一人に丁寧に説明することで、ほぼ全員から同意を得ることができた。 【実施(達成)できなかった点】			38

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度
※2 事務事業等の効率化の続き	2【外部委託化】 業務の外部委託化の検討を行う。	2-1 【令和3年度計画】 【外部委託化】 ①費用対効果を主眼に、引き続き、更なるアウトソーシングの可能性を検討する。	1	1	【令和3年度の実施状況】 【外部委託化】 ①【組織状況】 経営管理部及び学務部で検討した。 ①【実施状況】 ・引き続き「たがわ情報センター」にITに関する学生及び教員からの相談対応業務等の業務委託を行った。 ・R3年度は、事務局職員が手作業で配付している「給与明細書」をR4年1月からデジタル化(アウトソーシング)することにより、年間約30万円の業務委託料(印刷費)の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られた。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		39	
					【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①・H30年度は、改正された業務方法書に基づく、内部統制システム等の整備業務の一部を外部委託したことにより、職員の業務量の大幅な軽減を図ることができた。 ・R1年度は、インターネット出願導入に併せて、入学検定料の収納業務を代行業者に委託した。 ・R2年度から「たがわ情報センター」にITに関する学生及び教職員からの相談対応業務やWEB授業に利用する著作物に関する講習会の実施、遠隔授業に関する学生アンケート実施等の業務委託を行い、教職員の業務軽減及び業務の効率化を図った。 ・R3年度は、事務局職員が手作業で配付している「給与明細書」をR4年1月からデジタル化(アウトソーシング)することにより、年間約30万円の業務委託料(印刷費)の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られた。  【令和4、5年度の実施予定】 ①引き続き、更なるアウトソーシングの可能性を検討する。					

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																											
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度	中期																									
3 人権尊重、法令遵守の徹底及びリスクマネジメント体制の整備  法令等遵守の徹底や意識の醸成を図るとともに、リスクマネジメント体制を強化し確立する。	1【人権尊重、法令遵守の徹底】  ①法令遵守等の徹底及び意識醸成に係る啓発を行う。 ②人権等研修を実施する。	1-1【令和3年度計画】 【人権尊重、法令遵守の徹底】  ①教職員の更なる倫理観向上のための啓発を行い、周知・浸透を図る。 ②本学人権委員会主催の人権研修を開催するとともに田川郡人権・同和対策推進協議会主催研修への教職員参加により、人権意識の醸成を図る。	1	1	【令和3年度の実施状況】 【人権尊重、法令遵守の徹底】  ①②【組織状況】 経営管理部及び人権委員会で検討した。 【実施状況】 ①法令遵守等の徹底については、随時、県からの通知文を部局長会議で報告し、教授会で周知した。 ②R3年度もコロナ禍により田川郡人権・同和対策推進協議会主催の前期研修が中止となったことから、県立大学単独で9月8日に開催した(100名参加、参加率80%)。後期研修は、例年通り田川郡人権・同和対策推進協議会主催で1月12日、14日に3回に分けて参加した(83名参加、参加率89.2%)。また、人権委員会の主催で、管理職員等(33名)を対象とした人権研修会(ハラスメント防止対策)を12月22日に開催した(27名参加、参加率87.1%)。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		40																											
			1	1	【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①法令遵守等の徹底については、随時、県からの通知文を部局長会議で報告し、教授会で周知した。 ②研修会への参加実績  (単位:人) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>田川郡人権・同和対策推進協議会主催(前期研修)</td> <td>93</td> <td>89</td> <td>108</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>田川郡人権・同和対策推進協議会主催(後期研修)</td> <td>92</td> <td>96</td> <td>89</td> <td>83</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人権委員会主催人権研修会</td> <td></td> <td>51</td> <td>68</td> <td>27</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 【令和4、5年度の実施予定】 ①法令遵守等の徹底については、引き続き県からの通知文を部局長会議で報告し、教授会で周知する。 ②引き続き、田川郡人権・同和対策推進協議会主催の人権・同和問題職員研修への参加並びに人権委員会主催の人権研修会を開催し、教職員の人権意識の向上に努める。		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	田川郡人権・同和対策推進協議会主催(前期研修)	93	89	108	100			田川郡人権・同和対策推進協議会主催(後期研修)	92	96	89	83			人権委員会主催人権研修会		51	68	27			B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																														
田川郡人権・同和対策推進協議会主催(前期研修)	93	89	108	100																																
田川郡人権・同和対策推進協議会主催(後期研修)	92	96	89	83																																
人権委員会主催人権研修会		51	68	27																																



中期計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		通し番号		
項目	実施事項	年度	中期		年度	中期	データ番号	年度	中期
※3 人権尊重、法令遵守の徹底及びリスクマネジメント体制の整備の続き	2【リスクマネジメント体制の整備・確立】 ①学内危機管理体制を確立する。 ②危機管理マニュアルの検証・変更を実施する。 ③防災訓練、防犯講習会を実施する。 ④情報セキュリティー体制の検証・変更を実施する。	2-1	1	【令和3年度の実施状況】 【リスクマネジメント体制の整備・確立】 ①②③④【組織状況】 常設の危機管理委員会で対応した。 【実施状況】 ①大学ホームページ内に危機管理に関する情報の掲載ページを設け、いつでも危機管理マニュアル等を確認できるようにした。また、R3年度も引き続き、大学ホームページへの掲載やメール配信等を通じ、新型コロナウイルスの感染予防対策及び感染状況等を学内外に積極的に配信することにより、学生、教職員及び学内関係者の感染防止に努めた。 ②個別の危機管理マニュアルについては、必要に応じ見直しを検討した。 ③学生寮を対象とした消防訓練をR3年7月28日に実施した。また、全学を対象とした消防訓練は11月19日に実施した。 ④本学情報保全規則の遵守を徹底するとともに、情報システム等の脆弱性の解消を図るため、システム更新の準備を行った。(R4年度稼働)	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		41	
			1	【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①大学ホームページ内に危機管理に関する情報の掲載ページを設け、いつでも危機管理マニュアル等を確認できるようにした。特に、R2年度及びR3年度は、大学ホームページへの掲載やメール配信等を通じ、新型コロナウイルスの感染予防対策及び感染状況等を学内外に積極的に配信することにより、学生、教職員及び学内関係者の感染防止に努めた。 ②個別の危機管理マニュアルについては、必要に応じ見直しを検討した。 ③新入生防犯訓練、学生寮消防訓練、全学消防訓練は、実施時期を学内行事及び関係機関と調整の上、適切な時期に実施してきた。 ④本学情報保全規則の遵守を徹底するとともに、情報システム等の脆弱性の解消を図るため、R3年度はシステム更新の準備を行った。(R4年度稼働)	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		41	

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
新入生防犯訓練	4月	4月	※1	※1		
学生寮消防訓練	5月	5月	7月	7月		
全学消防訓練	11月	11月	11月	11月		

※1 コロナ禍により中止したため、代替策として福岡県警作成の防犯講習動画を教務システムで視聴できるようにした。

【令和4、5年度の実施予定】  
①大学ホームページへの掲載やメール配信等を通じ、新型コロナウイルスの感染予防対策及び感染状況等を学内外に配信する。  
②危機管理マニュアル等については、今後必要に応じて見直しを行う。  
③防犯訓練及び消防訓練については毎年度適切な時期に実施する。  
④新規学内LANIについては、R4年度内に稼働する。

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度	中期
		ウェイト総計	3年度 8	中期 8					項目数計	3年度 8	中期 8

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

業務運営に関する特記事項(令和3年度)

①特定行為研修の修了生をはじめて輩出した。

業務運営に関する特記事項(平成30年度～令和3年度)

(令和1年度)

①インターネット出願の運用を開始し、事務作業の大幅な省力化を図ることができた。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 5 財務内容の改善に関する目標</p>	<p>(1) 財政基盤の強化 教育研究活動等の活性化のため、外部資金の獲得等による自己収入の増加を図り、財政基盤を強化する。 また、資産を適正に管理し、財産の有効活用を図るとともに、資金の安全確実な運用を行う。</p> <p>(2) 経費の節減 大学の運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、適正な予算執行を進めるとともに、業務の効率化により、経費の節減を図る。</p>
---------------------------------	--

中期計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号												
項目	実施事項	年度	中期		年度	中期		年度	中期											
1 自己収入の積極的確保 外部資金の積極的獲得や資産の有効活用により、自己収入の増加を図り、財政基盤を強化する。	1【外部資金の積極的確保】 ①科学研究費、受託研究費等の外部資金の積極的獲得を全学的に取り組み、獲得に向けた支援体制を整備する。 ②寄付金の受入れを促進するため、申込手続きの簡素化や広報活動を推進する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・外部資金獲得額:5千万円以上(単年)	1-1	【令和3年度計画】 【外部資金の積極的確保】 ①ホームページへの外部研究資金公募情報掲載の充実や科学研究費応募率向上のための研修会を開催する。 ②寄付金の受入れの増加に向け、あらゆる機会を通じた広報活動を実施する。  ○評価指標(指標及び達成目標) ・外部資金獲得額:5千万円以上	1	【令和3年度の実施状況】 【外部資金の積極的確保】 ①②[組織状況] 附属研究所と経営管理部とで連携し対応を行った。 [実施状況] ①適宜、ホームページに外部資金等の公募情報を掲載し、科学研究助成事業に関する学内研修会を8月18日に開催した(39名参加)。また、R3年度もR2年度に引き続き研修会を撮影し、教員がいつでも応募方法等を確認できる体制をとった。 ②常時ホームページに掲載するとともに、大学広報誌(春号・秋号)に掲載した。  ○目標実績 ・外部資金獲得額 :5,146万円(3月末時点)	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.17 「研究(研究推進の状況、外部研究資金獲得の状況)」	42											
			【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①適宜、ホームページに外部資金等の公募情報を掲載し、科学研究助成事業に関する学内研修会を開催した。また、R2年度からは研修会を撮影し、教員がいつでも応募方法等を確認できる体制をとった。 ②常時ホームページに掲載するとともに、大学広報誌(春号・秋号)に掲載した。  ○目標実績  (単位:万円) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部資金獲得額</td> <td>5,436</td> <td>6,776</td> <td>5,822</td> <td>5,146</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 【令和4、5年度の実施予定】 ①引き続き、ホームページに外部資金等の公募情報を掲載する。また、科学研究費応募率向上のため、科学研究助成事業に関する学内研修会を開催するとともに、学内研修会を撮影し、教員がいつでも応募方法等を確認できる体制を継続する。 ②寄付金の受入れ増加に向け、大学ホームページ及び大学広報誌(春号・秋号)等あらゆる機会を通じて広報活動を実施する。		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	外部資金獲得額	5,436	6,776	5,822	5,146			1	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度														
外部資金獲得額	5,436	6,776	5,822	5,146																

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度
※1 自己収入の積極的確保の続き	2【大学施設の有効活用】 大学のホームページに大学施設の利用手続き等を掲載し大学施設の利用を促進する。	2-1 【令和3年度計画】 【大学施設の有効活用】 ①大学施設の利用について、一層の周知を図る。	1	1	【令和3年度の実施状況】 【大学施設の有効活用】 ①【組織状況】 経営管理部、学務部及び附属図書館運営部会で検討した。 【実施状況】 大学ホームページの「施設貸し出しについて」に、利用時間、利用料金、申込み方法等を掲載し、外部者の利用について周知を行ったが、現在、新型コロナウイルス感染症対策として外部者の利用を中止している。今後の感染拡大状況を注視し、施設貸し出しの再開を検討した。なお、R3年度は大学体育館を新型コロナウイルスワクチン広域接種会場として、福岡県に6月から7月までの2か月間有償で貸し出しを行った。(施設使用料収入額 1,729,200円)また、改築中である伊田中学校に学内施設(体育館、グラウンド、プール等)をR2年度に引き続き無償で貸し出しを行った。	A	【高く評価する点】 伊田中学校への学内施設無償貸出とコロナワクチンの接種会場として体育館を県に貸し出したことは大きな地域貢献につながった。 【実施(達成)できなかった点】		43	
		【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①・R1年度には施設利用料金の改正を行い、R2年4月1日から施行した。 ②・R2年度は、伊田中学校の移転・改築のため、R2年度から4年度末まで学内施設(体育館、グラウンド、プール等)を無償で貸し出しを行うことを決定した。 ③・R3年度は、大学体育館を新型コロナウイルスワクチン接種広域会場として、福岡県に6月から7月までの2か月間有償で貸し出しを行った。(施設使用料収入額 1,729,200円)また、改築中である伊田中学校に学内施設(体育館、グラウンド、プール等)をR2年度に引き続き無償で貸し出しを行った。 【令和4、5年度の実施予定】 ①今後も新型コロナウイルス感染拡大状況を注視し、施設貸し出しの再開を検討する。			【高く評価する点】 伊田中学校への学内施設無償貸出とコロナワクチンの接種会場として体育館を県に貸し出したことは大きな地域貢献につながった。 【実施(達成)できなかった点】					

中期計画		令和3年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度
2 業務効率化による経費の節減 業務の効率化により経費の節減を図る。	1【業務効率化による管理経費の節減】 ①照明のLED化、老朽設備更新等、省エネ対策推進による経費節減を図る。 ②費用対効果を重視した外部委託化の検討を行う。	1-1【令和3年度計画】 【業務効率化による管理経費の節減】 ①引き続き、学内照明のLED化を進めていくとともに、老朽化した空調機器等の更新を行うなど省エネ対策の推進を図る。 ②費用対効果を主眼に、引き続き、既存外部委託業務の見直しや更なる外部委託化の可能性等を検討する。	1		【令和3年度の実施状況】 【業務効率化による管理経費の節減】 ①②【組織状況】 経営管理部及び学務部で検討した。 【実施状況】 R3年度は、既設電灯管82本をLEDに交換したほか、図書館本館2階の空調機更新、大講義室の映像音響設備更新を行い、省エネ対策を推進した。 ②R3年度は、事務局職員が手作業で配布していた給与明細書をR4年1月からデジタル化した結果、年間約30万円の業務委託料(印刷費)の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られた。	B		No.27 「経費削減」	44	
				1	【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①R1年度は、老朽化した空調機器4カ所の更新、R2年度は、大講義室の映像設備の更新、R3年度は、既設電灯管82本のLEDへの交換等。省エネ対策を推進した。 ②H30年度は、改正された業務方法書に基づく内部統制システム構築に向けた業務の一部を外部委託し、業務量の大幅軽減を図った。また、インターネット出願導入に併せて、入学検定料の収納業務を代行業者に委託した。R2年度は、授業評価アンケートの集計業務を教務システムで集計できるようにシステムを改修し、業務委託料を節減した。さらに、除草業務を業務委託から非常勤職員の任用に切り替えたことで年間100万円削減できた。R3年度は、事務局職員が手作業で配布していた給与明細書をR4年1月からデジタル化した結果、年間約30万円の業務委託料(印刷費)の節減と事務局職員の給与支給業務の省力化が図られた。  【令和4、5年度の実施予定】 ①今後は小まめに消灯する等全学を挙げた節電に努めるとともに、R4年度は、講堂・管理棟空調用冷却塔改修工事及び既設電灯79本のLED化を実施する。その他引き続き学内施設のLED化を進め省エネ対策の推進を図る。 ②R4年度以降も費用対効果を主眼に、引き続き、既存外部委託業務の見直しや更なる外部委託化の可能性等を検討する。	B		No.27 「経費削減」	44	

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度
		ウェイト総計	3年度 3	中期 3				項目数計	3年度 3	中期 3

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

財務に関する特記事項(令和3年度)

財務に関する特記事項(平成30年度～令和3年度)

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標</p>	<p>(1) 自己点検・評価 教育、研究その他大学運営全般の自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を受け、その結果を公表し、大学運営の改善に速やかに反映させる。</p> <p>(2) 情報公開・広報 公立大学法人としての社会への説明責任を果たし、広く県民の理解を得るため、大学情報を積極的に公開するとともに、効果的な広報を展開し、大学の存在感を高める。</p>
--	--

中期計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項	年度	中期		年度	中期		年度	中期
<p>1 内部質保証システムによる大学の質の維持・向上</p> <p>中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。次期認証評価に向けて、計画的に準備を行う。</p>	<p>1【自己点検・評価の実施】</p> <p>①中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。</p> <p>②次期認証評価に向けた準備を行うとともに、IR機能を強化し、内部質保証システムの充実を図る。</p>	1-1	<p>【令和3年度計画】</p> <p>【自己点検・評価の実施】</p> <p>①各事業年度の、教員の教育・研究・社会貢献活動、授業評価等をもとに自己点検・評価報告書を作成する。</p> <p>②IR機能の強化を図りながら、一般財団法人大学教育質保証・評価センターの認証評価受審のためのポートフォリオ(審査ドキュメント)作成を行う。</p>	2	<p>【令和3年度の実施状況】</p> <p>【自己点検・評価の実施】</p> <p>①【組織状況】 IR推進室が中心となって作業を行った。 【実施状況】 R3年度の各教員の教育・研究・社会貢献活動の集約を行った。R2年度の中期計画の進捗状況を集約し、自己点検・評価報告書の作成を行った。</p> <p>②【組織状況】 IRサイクル総会議(IR推進室及び内部質保証・サイクル推進会議)が中心となって、基準1から3について、ポートフォリオ(大学教育質保証・評価センターが定める提出書類様式)を作成する。 【実施状況】 基準1については、見直し作業を行いポートフォリオ初案を作成した。基準2(「授業の質改善サイクルに関する取組」「学生生活総合調査に基づく学習環境支援に関する取組」「教員の個人業績評価に関する取組」)及び基準3(「データサイエンスプログラムに関する取組」「児童生徒を対象とした不登校・引きこもりサポートセンターの取組」「大学間連携協働教育推進に関する取組」「キャリア・インターンシップ支援に関する取組」「国家資格支援プロジェクトに関する取組」)について関係する部会メンバー及びIR推進室が中心となりポートフォリオの作成に着手し、下書き案の作成を行い、IR推進室にて修正作業を行った。また各ポートフォリオに関連する資料の作成を行った。作成した各ポートフォリオ及び関連資料に基づき、大学教育質保証・評価センターとの事前相談を2回行った。</p> <p>※基準1～3の各評価内容について 基準1 基盤評価:法令適合性の保証に関すること 基準2 水準評価:教育研究の水準の向上に関すること 基準3 特色評価:特色ある教育研究の進展に関すること</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	45	
					<p>【平成30～令和3年度の実施状況概略】</p> <p>①各事業年度の、教員の教育・研究・社会貢献活動、授業評価等をもとに自己点検・評価報告書を作成した。</p> <p>②一般財団法人大学教育質保証・評価センターの認証評価受審のためのポートフォリオ作成を行った。</p>	2	<p>【令和4、5年度の実施予定】</p> <p>①教員の教育・研究・社会貢献活動、授業評価等をもとに自己点検・評価報告書を作成する。</p> <p>②IR機能の強化を図りながら、一般財団法人大学教育質保証・評価センターの認証評価を受審し、その後の改善に活用する。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度	中期
※1 内部質保証システムによる大学の質の維持・向上の続き	2【自己評価及び外部評価結果の大学運営の改善への反映】  自己点検・評価結果、外部評価結果を学内にフィードバックし、教育研究活動、地域貢献活動及び大学運営等の改善を図る。	2-1 【令和3年度計画】 【自己評価及び外部評価結果の大学運営の改善への反映】  ①大学改革セミナー開催等により、学内教職員への自己点検・評価結果を周知し、教育研究活動、地域貢献活動及び大学運営等の改善につなげる。	1		【令和3年度の実施状況】 【自己評価及び外部評価結果の大学運営の改善への反映】  ①【組織状況】 IR推進室、内部質保証・サイクル推進会議、IRサイクル総合会議、学部SD・FD部会、大学院FD部会が連動して取り組んだ。 【実施状況】 大学改革セミナーを2回開催した。1回目のテーマは「法人評価、認証評価」であり、内部質保証・サイクル推進会議が担当し、法人評価・認証評価における内部質保証サイクルの向上について周知した。2回目のテーマは「GPSアカデミック報告(社会人基礎力等調査結果報告)」であり、学部SD・FD部会が担当し、本学学生(今回は3年生が対象)の社会人基礎力について学科別状況を共有した。大学認証評価受審の申込みはIR推進室が担当し、11月初旬に行った。IRサイクル総合会議が主となり、3月末までに2回の認証評価受審に関する事前相談を行った。	B		【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			46
				1	【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①大学改革セミナー開催等により、学内教職員への自己点検・評価結果を周知した。また、大学認証評価受審に向けた準備を行った。 H30年度:大学改革セミナーにて法人評価結果等の共有を行った。 R1年度:大学改革セミナーにて法人評価結果等の共有を行った。 R2年度:大学改革セミナーにて法人評価・認証評価について周知し、とくに認証評価についてはそのスキームについて共有した。 R3年度:大学改革セミナーにて法人評価・認証評価に関するPDCAサイクルの向上について周知をはかった。  【令和4、5年度の実施予定】 ①大学改革セミナー開催等により、学内教職員への自己点検・評価結果を周知する。また、大学認証評価を受審し、その結果を各種改善につなぐ取組を行う。	B		【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】			46



中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																											
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度	中期																									
2 県大ブランドイメージの醸成  大学情報を積極的に公開するとともに、効果的な広報活動を展開し、県大の存在感をアピールする。	1【大学情報の積極的公開】  ①県大ブランドとなる教育方針、教育プログラム等を広く学外に発信する。 ②ホームページ掲載情報の適切な管理に努める。	1-1【令和3年度計画】 【大学情報の積極的公開】  ①教育情報を、ホームページや出前講義等、あらゆる機会を通じて広く学外へ発信する。 ②適宜、ホームページの掲載情報をチェックし、新しい情報に更新させるとともに、掲載情報の整理・追加等により、一層の情報の提供を図る。	1		【令和3年度の実施状況】 【大学情報の積極的公開】  ①②[組織状況] 教務入試委員会等の関連する委員会・部会及び経営管理部で対応した。 [実施状況] ①高校訪問(個々の高校へ訪問し、各学部のガイダンス・入試情報の発信を行う):33校 入試説明会(複数大学合同の説明会に参加し、各学部のガイダンス・入試情報の発信を行う):6回 出前講座(個々の高校へ訪問し、実際の講義に近い授業を行う):14回 を実施した。 ②R3年度も引き続き、学生や地域住民に向け、大学の新型コロナウイルス感染症関連情報を発信した。	B		【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	N0.3 「高校訪問」 No.4 「入試説明会」 No.5 「出前講義」	47																										
			1		【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①②毎年度、高校訪問、入試説明会及び出前講義を実施し、教育情報を発信した。 <table border="1" data-bbox="1329 583 2050 701"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高校訪問(校)</td> <td>41</td> <td>37</td> <td>6</td> <td>33</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>入試説明会(回)</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>出前講座(回)</td> <td>19</td> <td>22</td> <td>14</td> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 【令和4、5年度の実施予定】 ①今後は、高校訪問、入試説明会、出前講座を全学体制で取り組む。 ②引き続き、学生や地域住民に向け、新型コロナウイルス感染症関連情報はじめとした大学の最新の情報を発信する。		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	高校訪問(校)	41	37	6	33			入試説明会(回)	10	11	8	6			出前講座(回)	19	22	14	14			B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	N0.3 「高校訪問」 No.4 「入試説明会」 No.5 「出前講義」
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度																														
高校訪問(校)	41	37	6	33																																
入試説明会(回)	10	11	8	6																																
出前講座(回)	19	22	14	14																																

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期		年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	年度
※2 県大ブランドイメージの醸成の続き	2【効果的な広報活動の実施】 ①ホームページの充実を図る。 ②多様な媒体を活用した広報活動の充実を図る。 ③マスメディアへの積極的な情報提供を行う。 ④大学案内パンフレットの充実を図る。	2-1【令和3年度計画】 【効果的な広報活動の実施】 ①ホームページに学内イベント情報や報告などの情報を積極的に掲載するとともに、適宜、更新等が必要な情報の更新を行っていく。 ②SNSや出版物等多様な媒体や出前講義の実施を通して積極的な広報を行っていく。 ③マスメディアに対し、本学が主催や関与する公開講座やフォーラム、シンポジウム等の情報を積極的に発信する。 ④毎年更新作成する、大学案内パンフレットを充実させるとともに、必要に応じ地域に貢献する大学プロジェクト等のリーフレットの更新も行う。	1	1	【令和3年度の実施状況】 【効果的な広報活動の実施】 ①②③④【組織状況】 経営管理部及び学務部において対応を行った。 【実施状況】 ①ホームページに学内イベント情報や報告などの情報を積極的に掲載し、掲載内容の更新を適宜行った。 ②入試マガジン「福岡県立大学で学びませんか」(Facebook)及び人間社会学部公共社会学科のInstagramの更新を適宜行った。また、大学広報誌の発行(4月、9月)や、8月7日及び9月25日にはR2年度に引き続きオンラインによるオープンキャンパスを実施した。オープンキャンパスの参加者は、夏・秋合わせて1276名となり、前年比432名の増加となった。アンケート結果も「満足以上の評価」が約99%と好評であった。 ③積極的に大学イベント等の情報をソーシャルメディア(公共社会学科Facebook等)に対し発信した。公開講座の開催情報について、福岡県や田川市に情報提供を行い、広く県民に周知をしている。 ④R3年度も大学案内パンフレット(2種)を更新作成した。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		48	
		【平成30～令和3年度の実施状況概略】 ①ホームページに学内イベント情報や報告などの情報を積極的に掲載し、掲載内容の更新を適宜行った。 ②入試マガジン「福岡県立大学で学びませんか」(Facebook)及び人間社会学部公共社会学科のInstagramの更新を適宜行った。また、大学広報誌の発行(4月、9月)やオンラインによるオープンキャンパスを実施した。 ③積極的に大学イベント等の情報をマスメディアに対し発信した。 ④大学案内パンフレット(2種)を更新作成した。  【令和4、5年度の実施予定】 ①ホームページに学内イベント情報や報告などの情報を積極的に掲載し、掲載内容の更新を適宜行う。 ②入試マガジン「福岡県立大学で学びませんか」(Facebook)及び人間社会学部公共社会学科のInstagramの更新を適宜行う。また、大学ホームページ、大学広報誌、オープンキャンパス等を活用し、大学の最新情報を積極的に発信する。 ③積極的に大学イベント等の情報をマスメディアに対し発信する。 ④大学案内パンフレット(2種)を更新作成する。			B					

中期計画		令和3年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項		年度	中期		年度	中期	年度評価理由 又は 中期目標期間評価理由	データ 番号	年度	中期
		ウェイト総計	3年度 5	中期 5					項目数計	3年度 4	中期 4

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

・通し番号45 次期認証評価に向けた準備を行うとともに、IR機能を強化し、内部質保証システムの充実を図る。

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

・通し番号45 次期認証評価に向けた準備を行うとともに、IR機能を強化し、内部質保証システムの充実を図る。

評価及び情報公開に関する特記事項(令和3年度)

評価及び情報公開に関する特記事項(平成30年度～令和3年度)

特記事項(中期目標項目の枠組みにとらわれず、特に力を入れて取り組んでいる事項やアピールしたい事項)

特記事項(令和3年度)	関連する 通し番号
<p><b>【教育】</b></p> <p>①高等学校教諭一種免許状(情報)の教職課程が認定された。</p> <p>②英語クラスを習熟度別に全学展開することを決定した。</p> <p>③データサイエンス・プログラムの学修証明書を51名に対して発行した。</p> <p>④学生の自主学習グループである看護技術「極め隊」が活動を開始し、基礎的な看護技術をマスターするための協働的な学びを推進している。教員は適宜アドバイスを行い、自主学習環境の整備(患者役等の募包含む)をはかっている。</p> <p>⑤後期に授業評価アンケートを中間時点と終了時点の2回実施した。</p> <p>⑥大学院においてメディア授業制度を導入した(子ども教育専攻、看護学専攻)。</p> <p>⑦全国児童養護施設推薦特別選抜を実施し、1名の受験生を得た。</p> <p><b>【研究】</b></p> <p>⑧研究シーズ集を作成(21件)・公表したところ、そのうちの3件について外部から問い合わせがあった。</p> <p><b>【社会貢献】</b></p> <p>⑨大邱韓医大との「オンライン短期交換留学プログラムにおける覚書」を交わした。</p> <p><b>【業務運営】</b></p> <p>⑩特定行為研修の修了生をはじめて輩出した。</p> <p><b>【その他】</b></p> <p>⑪医療人材育成事業の交付決定を受けた。 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、医学部生をはじめとする医療人材養成課程の学生等が患者を対象に行う実習が中止又は縮小を余儀なくされる中で、現在、いわば補完的に実施されているオンライン教育やシミュレーション教育を、デジタルトランスフォーメーション(DX)の技術を活用して大幅に向上させ、新型コロナウイルスの感染拡大以前の水準以上の実践的な教育プランを構築し、即戦力となり得る高度な医療人材を継続的に養成するための経費として文部科学省「ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に応募し、交付決定を受けた。</p> <p>⑫感染防止対策事業補助金の交付決定を受けた。 看護学部実習代替環境整備として、ICT環境整備事業の交付決定を受けた。これにより、感染拡大等により臨地での実習が困難な状況下でも、感染防止を配慮したうえでの学内実習やオンライン教育を継続し、教育の質低下を防止する。</p> <p>⑬本学学生・教職員と地域教育関係者等を対象に、大学拠点接種を3回(計5,071件接種)行った。</p> <p>⑭大学体育館を新型コロナウイルスワクチン広域接種会場として県に貸出を行った。</p> <p>⑮田川市からの応援商品券(新入生:276名分)及び衛生用品(女子学生全員対象)の交付を受け、学生支援班の職員が窓口にて配布を行った。また、地元企業団体からも生活支援物資(米、インスタントラーメン、レトルカレー等)の寄贈を受け、学生支援班の職員が窓口にて配布を行った。</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>14</p> <p>22</p> <p>33</p> <p>34</p> <p>43</p>

## 特記事項(中期目標項目の枠組みにとらわれず、特に力を入れて取り組んでいる事項やアピールしたい事項)

特記事項(平成30年度～令和3年度)	関連する通し番号
(平成30年度)	
①不登校・ひきこもりサポートセンターの扱う相談件数が5,000件となった。	31
②寄附金をもとに、災害ボランティア活動に必要な装備一式(5組)を購入した。	31
③初となる男子寮の運用を開始し、8名(+男子留学生3名)が入寮した。	31
(令和1年度)	
④R1年度、総合人間社会コースにおける卒業生4名(公共3名、福祉1名)が初めて誕生した。	3
⑤学修成果として、各学科就職率100%、および各種国家試験における高合格率を達成した。	5,9,19
⑥インターネット出願の運用を開始し、事務作業の大幅な省力化を図ることができた。	38,39,44
(令和2年度)	
⑦前期授業開始直前の遠隔授業研修	
新入生向けのeラーニング研修会を急遽1年生全員に4月3日と6日に実施し、さらに4月7日と8日に個別対応を行ったことで、新入生が初回授業から混乱なく、スムーズに遠隔授業を受けられる体制を整えることができた。	16
⑧遠隔授業に係る環境重点整備	
前期からの全学的なオンライン授業を実施するため、県の全面的な財政支援を受け、eラーニングシステムの増強、テレビ・Web会議ツール「Zoom」の有償契約(41本)、動画サーバVimeo年間契約、学生貸出用としてポケットWi-Fi 50回線(年間契約)、iPad50台を購入などの環境整備を重点的にを行い、年間を通して遠隔授業を実施することができた。	16
⑨大学コンソーシアムにおけるマンスリー会議の開催	
コロナ禍における各連携大学(7大学)の情報共有を図る目的で、連携会議とは別に、8月より月に1回の“マンスリー会議”を開催した(計7回)。マンスリー会議では、授業方法、実習状況、経済支援状況、PCR検査の受検状況、ワクチンの接種予定状況などについて情報共有した。また、学生の行動制限や個人情報取り扱いについての共有や疑問から、FD研修会の企画・開催(法的観点からみた行動制限)につなげた。	16
⑩特定行為研修の開始	
国の「特定行為に係る看護師の研修制度」に基づき、筑豊地域初となる特定行為研修の研修指定機関に本学が指定を受けた。	30
⑪西田川高校との教育連携協定締結	
2020年8月、本学と県立西田川高校(フレックス型単位制高校)の間で連携教育に関する協定を締結した。これにより、西田川高校の2年次以降の生徒が科目等履修生として本学の正規の授業を受講することが可能となった。この受講単位は西田川高校において卒業単位の一部として認定されるとともに、大学でも単位認定を可能とするものである。県内だけではなく、全国的にみても先駆的な協定(Advance Placement)である。	15,48
⑫田川市から応援商品券(学生全員対象)の交付を受け、学生支援班の職員が窓口にて配布を行った。(配布実施1,014名/1,107名)また、近隣の方からもお米の寄贈を受け、多くの学生に行き渡るよう小分け作業を行い配布した。(230kg:300名分)	
(令和3年度)	
⑬高等学校教諭一種免許状(情報)の教職課程が認定された。	1
⑭データサイエンス・プログラムの学修証明書を51名に対して発行した。	3
⑮全国児童養護施設推薦特別選抜を実施し、1名の受験生を得た。	14
⑯本学学生・教職員と地域教育関係者等を対象に、大学拠点接種を3回(計5,071件接種)行った。	
⑰田川市から応援商品券(新入生:276名分)及び衛生用品(女子学生全員対象)の交付を受け、学生支援班の職員が窓口にて配布を行った。また、地元企業団体からも生活支援物資(米、インスタントラーメン、トイレットペーパー等)の寄贈を受け、学生支援班の職員が窓口にて配布を行った。	

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			
		計画	実績		
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)			
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)
		費用の部	1,975	1,856	▲ 119
		経常費用	1,975	1,856	▲ 119
		業務費	1,756	1,618	▲ 138
		教育研究経費	378	330	▲ 48
		受託研究費等	-	0	0
		人件費	1,377	1,287	▲ 90
		一般管理経費	218	234	16
		(減価償却費 再掲)	▲ 63	▲ 74	▲ 11
		財務費用	0	2	2
		臨時損失	0	0	0
		収益の部	1,958	1,888	▲ 70
		経常収益	1,958	1,888	▲ 70
		運営費交付金収益	1,124	1,086	▲ 38
		授業料収益	589	542	▲ 47
		入学金収益	115	108	▲ 7
		検定料収益	23	19	▲ 4
		その他業務収益	-	0	0
		受託研究等収益	-	0	0
		受託事業等収益	-	0	0
		補助金等収益	38	30	▲ 8
		寄付金収益	-	4	4
		資産見返負債戻入	35	49	14
		財務収益	0	0	0
		雑益	32	45	13
		臨時利益	-	0	-
		純利益	▲ 17	32	49
		前中期目標期間繰越積立金取崩額	17	6	▲ 11
		目的積立金取崩額	-	-	-
		総利益	-	39	39

中期計画		年度計画			
		計画		実績	
2. 資金計画予算	区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	
	資金支出	2,097	2,075	▲ 22	
	業務活動による支出	1,891	1,703	▲ 187	
	投資活動による支出	18	42	24	
	財務活動による支出	29	30	1	
	翌年度への繰越金	157	298	141	
	資金収入	2,097	2,075	▲ 22	
	業務活動による収入	1,922	1,810	▲ 112	
	運営費交付金による収入	1,124	1,108	▲ 16	
	授業料等による収入	727	620	▲ 107	
	受託研究等による収入	-	0	0	
	補助金等による収入	38	30	▲ 8	
	寄附金等による収入	-	3	3	
	その他収入	32	46	14	
	投資活動による収入	0	0	0	
財務活動による収入	-	-	-		
前年度からの繰越金	174	264	90		
II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 2億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。			該当なし	
III 出資等に係る不要財産等の処分に関する計画	該当なし			該当なし	
IV IIIに規定する財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし			該当なし	
V 剰余金の用途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び組織運営の改善に充てる。			・前中期目標期間繰越積立金6百万円を取り崩し、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充当した。 ・令和3年度決算において発生した剰余金39百万円は、令和3年度財務諸表の承認を得て、教育研究等改善目的積立金に積み立てる。	
VI その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし			該当なし	

2021（令和3）年度

教育・研究・社会貢献活動一覽

福岡県立大学



## 【 凡 例 】

- (1) この「教育・研究・社会貢献活動一覧」は、2021（令和3）年度、福岡県立大学に専任教員として在籍した者を対象とし、2021（令和3）年3月の時点で、1人あたり2頁を目安に報告をまとめている。
- (2) 「主な研究分野」は、専門研究者向けではなく、一般の方向けの自己PRとして記載している。
- (3) 「研究業績」は、過去3年間分を記載している<2019（令和元）年度～2021（令和3）年度>。業績数が多い教員については、一部省略している場合がある。
- (4) 「外部研究資金」は、2021（令和3）年度に資金を得ているものを記載している。
- (5) 「受賞」は、2021（令和3）年度の実績を記載している。
- (6) 「所属学会」は、2021（令和3）年度の所属状況を記載している。
- (7) 「担当授業科目」は、原則として2021（令和3）年度の担当授業を記載している。なお、助手については、補助業務を担当している授業科目を記載している。
- (8) 「社会貢献活動」は、2021（令和3）年度の状況を記載している。
- (9) 「学外講義・講演」は、2021（令和3）年度の実績を記載している。学会での講演は、「研究業績」欄に記載し、ここにはそれ以外のものを記載している。また、会場は学内であっても、学外者向けのものはこちらに含まれている。なお、大学等での非常勤講師は含まれていない。
- (10) 「附属研究所の活動等」は、2021（令和3）年度の状況を記載している。
- (11) 記載事項は、以上の9項目であるが、該当なしの場合は、項目そのものを記載していない。

## ＜目 次＞

**【掲載順】**

人間社会学部については、職名順とし、同一職名内は姓の50音順である。看護学部については、学系ごとに職名順とし、同一職名内は姓の50音順である。

### 〈人間社会学部〉

教授	池田	孝博	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
教授	石崎	龍二	・・・・・・・・・・・・・・・・	4
教授	岩橋	宗哉	・・・・・・・・・・・・・・・・	7
教授	岡本	雅享	・・・・・・・・・・・・・・・・	9
教授	神谷	英二	・・・・・・・・・・・・・・・・	11
教授	小嶋	秀幹	・・・・・・・・・・・・・・・・	14
教授	杉野	寿子	・・・・・・・・・・・・・・・・	17
教授	Stuart	Gale	・・・・・・・・・・・・・・・・	20
教授	住友	雄資	・・・・・・・・・・・・・・・・	23
教授	本郷	秀和	・・・・・・・・・・・・・・・・	26
教授	村山	浩一郎	・・・・・・・・・・・・・・・・	29
教授	吉岡	和子	・・・・・・・・・・・・・・・・	32
特任教授	福田	恭介	・・・・・・・・・・・・・・・・	35
特任教授	細井	勇	・・・・・・・・・・・・・・・・	38
准教授	池	志保	・・・・・・・・・・・・・・・・	41
准教授	井上	奈美子	・・・・・・・・・・・・・・・・	44
准教授	奥村	賢一	・・・・・・・・・・・・・・・・	47
准教授	金	恩愛	・・・・・・・・・・・・・・・・	50
准教授	河野	高志	・・・・・・・・・・・・・・・・	52
准教授	柴田	雅博	・・・・・・・・・・・・・・・・	54
准教授	堤	圭史郎	・・・・・・・・・・・・・・・・	57
准教授	寺島	正博	・・・・・・・・・・・・・・・・	60
准教授	中原	雄一	・・・・・・・・・・・・・・・・	63
准教授	中村	晋介	・・・・・・・・・・・・・・・・	66
准教授	廣田	久美子	・・・・・・・・・・・・・・・・	68
准教授	藤澤	健一	・・・・・・・・・・・・・・・・	70
准教授	美谷	薫	・・・・・・・・・・・・・・・・	72
准教授	麦島	剛	・・・・・・・・・・・・・・・・	75
准教授	陸	麗君	・・・・・・・・・・・・・・・・	78
准教授	鷺野	彰子	・・・・・・・・・・・・・・・・	81

講師	伊勢	慎	.....	83
講師	鬼塚	香	.....	86
講師	河本	恵美	.....	89
講師	小林	亮太	.....	91
講師	坂無	淳	.....	94
講師	櫻井	晋伍	.....	97
講師	董	秋艶	.....	99
講師	福本	純子	.....	101
講師	松岡	佐智	.....	104
助教	中藤	広美	.....	107
助教	畑	香理	.....	109
助教	二見	妙子	.....	112
助手	佐藤	繁美	.....	115

〈看護学部〉

教授	石田	智恵美	.....	117
教授	江上	千代美	.....	119
教授	尾形	由起子	.....	122
教授	永嶋	由理子	.....	125
教授	福田	和美	.....	127
教授	松浦	賢長	.....	130
教授	村方	多鶴子	.....	133
准教授	石村	美由紀	.....	135
准教授	櫛	直美	.....	138
准教授	芋川	浩	.....	141
准教授	加藤	法子	.....	144
准教授	四戸	智昭	.....	146
准教授	杉野	浩幸	.....	148
准教授	田中	美樹	.....	150
准教授	中井	裕子	.....	152
准教授	古庄	夏香	.....	154
准教授	増満	誠	.....	156
准教授	山下	清香	.....	160
准教授	吉田	恭子	.....	163
准教授	吉田	静	.....	165
講師	小野	順子	.....	167
講師	小出	昭太郎	.....	170

講師	塩田	昇	.....	172
講師	藤野	靖博	.....	174
講師	政時	和美	.....	176
講師	安河内	静子	.....	178
講師	安永	薫梨	.....	180
講師	吉川	未桜	.....	182
助教	猪狩	崇	.....	184
助教	江崎	千尋	.....	186
助教	於久	比呂美	.....	188
助教	梶原	由紀子	.....	189
助教	清原	智佳子	.....	192
助教	佐藤	繭子	.....	194
助教	手島	聖子	.....	197
助教	道園	亜希	.....	199
助教	中本	亮	.....	201
助教	平塚	淳子	.....	204
助教	廣瀬	理絵	.....	206
助教	村田	和子	.....	208
助手	大場	美緒	.....	210
助手	笹山	万紗代	.....	212
助手	田原	千晶	.....	214
助手	中村	美穂子	.....	216
助手	山口	馨子	.....	219
助手	吉田	麻美	.....	221

人間社会学部／こどもコース	職名	教授	氏名	池田 孝博
---------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

- 1992.3 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
- 1992.4-1997.3 慶應義塾中等部 教諭
- 1997.4-2009.3 佐賀短期大学（現；西九州大学短期大学部）講師→准教授
- 2009.3 福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士課程後期修了  
博士（スポーツ健康科学）
- 2009.4 本学着任
- 2017.4 福岡県立大学大学院人間社会学研究科 子ども教育専攻 教授  
発育発達研究、スポーツ測定評価、スポーツ統計学

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <論文>

- ・ 中原雄一・池田孝博，コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の実態：2020年度と2021年度で相違はみられるのか．大学体育スポーツ学研究．19：（印刷中），2022．
- ・ 池田孝博・中原雄一，コロナ禍での緊急事態宣言下における福岡県立大学新入生の健康状態とその関連要因．福岡県立大学人間社会学部紀要．30(1): 191-199, 2021．
- ・ 池田孝博・秋山大輔・岩本貴光・竹中健太郎・前阪茂樹・下川美佳・本多壮太郎，コロナ禍において策定された暫定的な剣道試合・審判法は大学生レベルの試合にどう影響したか？．武道学研究．54(1): 75-86, 2021．
- ・ 池田孝博・杉野寿子・大久保淳子・鷲野彰子・中原雄一・伊勢慎，保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題．福岡県立大学人間社会学部紀要．29(2): 215-223, 2021．
- ・ 中原雄一・池田孝博，コロナ禍における緊急事態宣言下の大学新入生の身体活動状況と精神的健康度．福岡県立大学人間社会学部紀要．29(2): 115-122, 2021．
- ・ Tomoko Ikeda・Takahiro Ikeda・Osamu Aoyagi・Taehee Choi・Namik Han・Yuju Hong・Kwangsoo Koo・Younshin Nam・Younghwan Seo, A comparative investigation into the propensities of Japanese and Korean university to engage in physical activity and influence of nationality, gender, BMI and weight control．The Korean Journal of Growth and Development, 28(4): 449-458, 2020．
- ・ 杉野寿子・田中美樹・吉川未桜・中原雄一・吉田麻美・池田孝博，保育士養成課程における保健・健康に関する学びの研究．福岡県立大学人間社会学部紀要．29(1): 73-80, 2020．
- ・ Namik Han・Taehee Choi・Younghwan Seo・Younshin Nam・Kwangsoo Koo・Takahiro Ikeda・and Osamu Aoyagi, Comparison of Effect of Physical Education Preferences on Physical Education Classes Content, Motor Skill, Exercise Environment, and Pleasure derived from Physical Activity Factors of among Elementary Students in Korea and Japan. The Korean Journal of Growth and Development, 28(1): 43-54, 2020.
- ・ 池田孝博・中原雄一・陸麗君・松岡佐智・佐藤繁美，福岡県立大学人間社会学部紀要の査読制

度導入後の現状と諸課題. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 28(2): 123-131, 2020.

- ・ 中原雄一・池田孝博, 幼児期を対象に運動・スポーツ活動の取り組みを行っている自治体の特徴. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 28(1): 27-35, 2019.
- ・ 中原雄一・西脇雅人・藤本敏彦・池田孝博, 大学体育における実技と講義の同時開講が大学生の健康度・生活習慣に与える影響. 大学体育スポーツ学研究, 16: 13-18, 2019.
- ・ 金子珠世・池田孝博・鷺野彰子, サウンド・エデュケーションに関する研究の動向と課題. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 27(2): 1-16, 2019.

## ②その他最近の業績

### <学会発表>

- ・ 中原雄一・池田孝博 (オンライン発表) コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の実態—2020年度と2021年度で相違はみられるのか—. 九州体育・スポーツ学会第70回記念大会 (西南学院大学), 2021.
- ・ 中原雄一・角田憲治・藤本敏彦・池田孝博 (オンライン発表) コロナ禍に伴う緊急事態宣言下の身体活動促進の効果. 第76回日本体力医学会大会 (三重大学), 2021.
- ・ Ikeda, T. and Nakahara, Y. (e-poster session) An investigation into the relationship between lifestyle, health status, mental stress and virus-fixated anxiety among university freshmen during the Covid-19 pandemic. 25th Virtual congress of the European College of sport science (ECSS)
- ・ 中原雄一・池田孝博 (口頭発表) コロナ禍に伴う緊急事態宣言が大学新入生の身体活動状況と精神的健康度に及ぼす影響. 第9回大学体育スポーツ研究フォーラム, 2021.
- ・ Ikeda, T., Sakaguchi, H., Annoura, T., Aoyagi, O., Hong, Y., Han, N., Choi, T., Nam, Y., Koo, K., Seo, Y. What factors make young people do exercise regularly? 25th annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Online), 2020.
- ・ Ikeda, To., Ikeda, T., Yaita, A., Sakaguchi, H., Aoyagi, O., Choi, T., Han, N., Hong, Y., Koo, K., Nam, Y. (Poster session) Relationship among Physical Activity, Body Mass Index and Weigh Control in Japanese and South Korean University Students. The 31th International Sport Science Congress in Korean Alliance for Health, Physical Education, Recreation, and Dance (KAHPERD) (Seoul National university, KOR), 2019.
- ・ 池田孝博・青柳領・高橋健太郎 (ポスター発表) 剣道に適した専用サーフェイスの開発: 大学生剣道部員による試作マットと改良マットの主観評価の比較. 日本体育学会第70回大会 (慶應義塾大学), 2019.
- ・ 池田孝博・本多壮太郎・高橋健太郎・青柳領 (口頭発表) 剣道専用サーフェイスの開発とその使用感に関する日英比較. 日本武道学会第52回大会 (國學院大学), 2019
- ・ Ikeda, T., Aoyagi, O., Han, N., Choi, T., Koo, K., Seo, Y., and Ikeda, To. (Conventional poster session) The effect of nationality, gender, and grade upon motivation for physical education among elementary school children in Japan and South Korea. 24th annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Prague, Czech Republic), 2019.
- ・ 金子珠世・池田孝博 (ポスター発表) 保育者養成校で学ぶ学生が作成したサウンドマップの分析. 日本保育者養成教育学会第3回大会 (東北福祉大学), 2019.

- 池田孝博（ポスター発表） 幼児の社会的スキルと体格・体力および運動有能感の関連. 日本保育者養成教育学会第3回大会（東北福祉大学），2019.

### ③過去の主要業績

- 池田孝博・本多壮太郎・岩切公治・太田順康・大坪壽・前阪茂樹・鍋山隆弘・八木沢誠・瀧田伸吾・青柳領， 剣道場の床面塗装とスポーツ傷害・障害および床面の機能性に関する主観的評価の関連. 武道学研究, 45(1): 23-34. 2012. (学会優秀論文賞 受賞)
- Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between test characteristics and movement patterns, physical fitness, and measurement characteristics: suggestions for developing new test items for 2- to 6-year-old children. Human Performance Measurement5: 9-22, 2008. (学会賞 受賞)

## 5. 所属学会

日本体育・スポーツ・健康学会，日本発育発達学会，日本体育測定評価学会，日本体育科教育学会，日本学校保健学会，日本健康心理学会，日本武道学会，日本武道学会剣道分科会，九州体育・スポーツ学会，The European College of sport science (ECSS：ヨーロッパスポーツ科学会)，日本保育者養成教育学会

## 6. 担当授業科目

<学 部>

健康科学実習Ⅰ・1単位・1年・前期，健康科学実習Ⅱ・1単位・1年・後期，

体育Ⅰ・1単位・2年・通年，体育Ⅱ・1単位・3年・通年，幼児と健康・2単位・3年・前期、保育内容の指導法・健康・2単位・3年・後期

演習・2単位・3年・通年，卒業論文・6単位・4年・通年

<大学院>

教育課題研究 B（オムニバス）・2単位・1年・後期，子ども健康教育研究・2単位・1年・前期，子ども健康教育演習・2単位・1年・後期，特別研究・4単位・1-2年・通年，地域教育課題演習・1単位・2年・前期，子ども教育実践実習Ⅰ・1単位・1年・後期，子ども教育実践実習Ⅱ・1単位・2年・前期

## 7. 社会貢献活動

田川市新中学校開校準備協議会（会長）

桂川町今後の幼児教育のあり方検討委員会（会長）

田川市特別職報酬等審議会（会長）

## 9. 附属研究所の活動等

附属研究所重点領域研究プロジェクト

研究課題名：子どもの健康と保育に関する専門職連携の模索

—福岡県の医療及び保育の現場での実態調査と養成校の実践—

研究代表者：杉野寿子

研究分担者：池田孝博・中原雄一・田中美樹・吉川未桜

研究協力者：吉田麻美

## 1. 教員紹介・主な研究分野

自然や社会の種々の現象に関する数理モデルのコンピュータ・シミュレーションやデータの統計解析を行っている。特に非平衡系にあらわれるカオスや散逸構造の統計的性質を、理論的および数値的な面から研究している。

①非定常時系列に対するエントロピーによる解析と応用、②異常拡散現象の機構の解明と新しい統計の探求、③散逸のあるクーロン多体系の数理モデルの構築と数値解析等を主な研究テーマとしている。

物理現象、生命現象、経済現象などに見られる多くの要素間の非線形な相互作用によって生じる複雑な運動形態を研究する非線形科学が発展してきている。非線形科学では、カオス、フラクタル、自己組織化臨界現象、カオスの縁、コンプレックス・カオスなど数多くの新しい概念が見出され、複雑な現象が数学的に表現され力学的な理解ができるようになってきている。コンピュータによる解析を取り入れた新しい統計的な手法を開発し、その成果を社会科学へ応用したい。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ Ryuji Ishizaki, Masayoshi Inoue, “Analysis of local and global instability in foreign exchange rates using short-term information entropy”, *Physica A*, Vol.555 No.1, pp.1-9, 2020.

### ②その他最近の業績

<調査研究報告書>

- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計演習の教育効果（2021年度）」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第30巻第2号, pp.53-66, 福岡県立大学, 2022年3月.
- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「同期型・非同期型オンライン授業による多変量解析に関する統計演習の教育効果（2020年度）」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第30巻第1号, pp.155-168, 福岡県立大学, 2021年10月.
- ・ 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博「介護サービス事業所におけるICT導入の実績とそれに伴う業務効率の意識—A県におけるアンケート調査を通じて—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第30巻第1号, pp.63-75, 2021年10月.
- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「オンデマンド型オンライン授業による統計演習の教育効果（2020）—学生の自己評価と授業改善点」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第29巻第2号, pp.163-178, 福岡県立大学, 2021年3月.
- ・ 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博「障害福祉サービス事業所におけるICTシステム導入の実績とそれに伴う業務効率の意識—T県におけるアンケート調査を通じて—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第29巻第2号, pp.47-60, 2021年3月.



- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果 (2019年度)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 29 巻第 1 号, pp.59-72, 福岡県立大学, 2020 年 10 月.
- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「統計演習科目における学生の自己評価と授業改善点 (2019)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 28 巻第 2 号, pp.71-86, 福岡県立大学, 2020 年 2 月.
- ・ 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博, 許棟翰, 藤田和利, 松崎貴之, 小松啓子「社会福祉法人における業務支援システムの導入効果と課題 - T 社会福祉法人の事例を通じて - 」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 28 巻第 1 号, pp.51-63, 2019 年 9 月.
- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果(2018年度)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 28 巻第 1 号, pp.73-87, 福岡県立大学, 2019 年 9 月.

#### <学会発表>

- ・ 石崎龍二, 井上政義「複数金融時系列における局所不安定性とその波及効果のエントロピーによる分析」, 2021 年度 MIMS 現象数理学研究拠点 共同研究会「社会物理学とその周辺」(オンライン開催), 2022 年 3 月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「金融時系列における局所的不安定性とその波及効果のエントロピーによる分析」, 日本物理学会第 77 回年次大会 (2022 年) (オンライン開催), 2022 年 3 月.
- ・ 石崎龍二「保存力学系におけるカオス拡散の統計的性質」, 日本物理学会第 127 回日本物理学会九州支部例会 (オンライン開催), 2021 年 12 月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「金融時系列における短期情報量を使った分析」, 2020 年度 統数研共同研究会「社会物理学の新展開」(オンライン開催), 2021 年 3 月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「金融時系列における変動のエントロピーによる分析」, 日本物理学会第 76 回年次大会 (2021 年) (オンライン開催), 2021 年 3 月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「金融時系列における変動のエントロピー分析」, 明治大学 MIMS 共同研究会「Data-driven Mathematical Science : 経済物理学とその周辺 2」(オンライン開催), 2020 年 12 月.
- ・ 石崎龍二「ハミルトン系におけるカオス拡散」, 日本物理学会第 126 回日本物理学会九州支部例会 (オンライン開催), 2020 年 12 月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「金融時系列における局所的不安定性と大域的不安定性のエントロピーによる分析」, 日本物理学会 2020 年秋季大会 (オンライン開催), 2020 年 9 月.
- ・ 石崎龍二「4 次元保存力学系におけるカオス拡散」, 日本物理学会第 125 回日本物理学会九州支部例会 (佐賀大学本庄キャンパス), 2019 年 11 月.

#### ③過去の主要業績

- ・ Ryuji Ishizaki, Toshikazu Shinba, Go Mugishima, Hikaru Haraguchi and Masayoshi Inoue, “Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy”, Physica A, Vol.387 No.13, pp.3145-3154, 2008.

- ・ 駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』, 朝倉書店, 1998年.
- ・ Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita, Tatsuharu Kobayashi and Hazime Mori, “Anomalous Diffusion Due to Accelerator Modes in the Standard Map”, Progress of Theoretical Physics, Vol.85 No.5, pp.1013-1022, 1991.

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本物理学会, アメリカ物理学会 (APS), 日本心理学会

### 6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、数学概論・2単位・1年・前期、情報科学・2単位・1年・後期、情報数学・2単位・2年・前期、プログラミング概論・2単位・2年・後期、データ処理とデータ解析Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、データ処理とデータ解析Ⅱ・1単位・3年・後期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期、教育方法と情報技術・1単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年

### 7. 社会貢献活動

公益財団法人飯塚研究開発機構 筑豊地域医療・福祉関連支援委員会委員

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学附属研究所長

人間社会学部／人間形成学科・心理コース	職名	教授	氏名	岩橋 宗哉
---------------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1992年九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得後退学。九州大学教育学部助手（心理教育相談室主任兼務）、緑風会水戸病院臨床心理士、久留米大学医学部神経精神医学講座助手を経て、2001年より福岡県立大学に勤務。

(1) 現在まで、主に病院において精神分析的な心理療法を行ってきた。治療関係の中でクライアントの内的世界をともに体験しながら、対象関係論的な観点からクライアントの転移を理解し、その理解をもとにどのようにクライアントに関わり、理解を伝えていくことが治療的であるのかを明確にしていくことを最も重要な研究分野としている。(2) どのような立場に立つ心理療法であれ、クライアントが主体になることを援助している側面があると考え。主体的になることを援助するかかわりとはどのようなものか、つまり、多様な心理療法に共通する中核的なかかわりとはどのようなもので、それを現実に行っていくためにはどのような条件が必要かということをも明らかにしていきたいと考えている。それは、臨床心理行為を明確化することでもある。(3) 臨床心理士養成の初期段階で、臨床心理行為の重要性と特性を習得するための養成モデルを構想していきたいと考えている。(4) 神話や文芸作品についての精神分析的な観点からの理解。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 岩橋宗哉『『彼岸過迄』須永の「内へとぐるを捲き込む性質」について』日本病跡学雑誌 第101号 2021年6月

### ②その他最近の業績

<学会発表>

### ③過去の主要業績

- ・ 岩橋宗哉「対象とのとの同一化を創造的に機能させる基盤としての結合対象へーよい対象との失われた共通基盤を求めてー」『福岡県立大学心理臨床研究』第7巻 2015年3月
- ・ 岩橋宗哉「境界領域で〈私〉が形成される物語としての古事記中巻（I）ー神武記：万能的思考によるコトへの信念とそれを維持するための三項構造ー」『福岡県立大学心理臨床研究』第6巻 2014年3月
- ・ 岩橋宗哉「「対象喪失」とその乗り越えに向かう神話としての古事記上巻（I）ー「不在の現実」についての「見るな」の禁止から「居場所」の形成へー」『福岡県立大学心理臨床研究』第5巻 2013年3月

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本人間性心理学会、日本病跡学会

### 6. 担当授業科目

心理学的支援法・2単位・2年・後期、臨床心理学概論・2単位・3年・前期、心理演習・2単位・3年・後期、演習・2単位・3年・通年、教育相談・2単位・4年・前期、卒業論文・6単位・4年・通年、臨床心理基礎実習A・1単位・1年・前期、臨床心理基礎実習B・1単位・1年・通年、臨床心理面接特論・2単位・1年2年・前期、臨床心理学特論・4単位・1年・通年（後期担当）、臨床心理実習・1単位・2年・通年、心理実践実習A・10単位・1～2年・通年、心理実践実習B・2単位・1～2年・通年、特別研究I・2単位・1年・通年、特別研究・4単位・1～2年・通年

### 7. 社会貢献活動

久留米大学病院精神神経科附属カウンセリングセンター臨床心理士  
福岡県臨床心理士会代議員  
田川市教育支援委員会委員長  
日本心理臨床学会誌「心理臨床学研究」編集委員

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学心理教育相談室 室長

人間社会学部／地域社会コース	職名	教授	氏名	岡本 雅享
----------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1997年横浜市立大学大学院国際文化研究科修士課程修了。2000年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。国際学修士。社会学博士。1991～93年、中国の北京師範学院（現在、首都師範大学）、中央民族大学民族語言三系（現在、中央民族大学少数民族語言学院）に留学、少数民族二言語教育の研究・調査を行う。2008年度、San Francisco State University (College of Ethnic Studies, Japanese American Studies)で Visiting Scholar。学内外で”Hidden Diversity of the Japanese People”に関する講演等を行う。

1989年以来、在日韓国・朝鮮人問題を起点とし、マイノリティの権利保障のための研究・活動に従事してきた。国連 ECOSOC NGO での3年間の勤務を含め、ジュネーブ国連欧州本部を中心とした国連人権活動に報告・提言の提出、会議への参加・発言等を通じて参加。

現在は、日本社会がますます多民族、多文化化する中で、あらためて明治以降の日本における Nation の創造、混合民族論から単一民族論への変遷など、民族、言語、宗教、文化の各方面から、日本人（国籍者）内部の多様性を解き明かす作業を、出身地である出雲の視点から、試みている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- ・ 『千家尊福と出雲信仰』（単著）ちくま新書、2019年
- ・ 『療法としての歴史〈知〉—いまを診る』（共著）森話社、2020年

#### <論文>

- ・ 「福岡県における近代図書館の嚆矢」『福岡県立大学人間社会学部紀要』28巻2号
- ・ 「保守とリベラル、右派と左派—日本政治のための概念整理」（前編）（後編）『福岡県立大学人間社会学部紀要』29巻2号、30巻1号

### ②その他最近の業績

- ・ 韓国日語日文学会 2019年冬季国際学術大会「多文化・多言語時代の日本研究—課題と展望」特別講演「多文化・多言語時代の日本研究—民族観の脱構築」2019年12月21日、韓国外国語大学（ソウル市）
- ・ 書評「三浦佑之『出雲神話論』—古事記研究の脱構築」『週刊読書人』2020年3月27日

### ③過去の主要業績

- ・ 『出雲を原郷とする人たち』藤原書店、2016年（単著）
- ・ 『民族の創出』岩波書店、2014年（単著）
- ・ 『中国の少数民族教育と言語政策』増補改訂版、社会評論社、2008年（単著）

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本平和学会、エミシ学会

6. 担当授業科目

政治学・2単位・1年・前期、国際政治学・2単位・1年・後期、多文化社会論・2単位・2年・前期、東アジア関係史・2単位・2年・後期、公共社会学研究・4単位・3年・通年、卒論指導・4単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

飯塚研究開発機構理事

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	教授	氏名	神谷 英二
------------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了・博士（文学）

私は、現象学を中心とする現代哲学と生命倫理を中心とする応用倫理学を主な研究分野として  
います。また、医療機関や地方自治体の人材育成にも取り組んでいます。

現在取り組んでいる主な研究テーマは、以下のとおりです。

- a. モダニズム詩に現れる形象を導きとする集合的記憶に基づく「まちの物語」の現象学的解釈学的研究
- b. 集合的記憶を媒介とした世代間コミュニケーションに関する現象学的研究
- c. インフォームド・コンセントに関する哲学的・倫理学的基礎研究とそれに基づく医療職に対する生命倫理教育プログラムの開発と実践
- d. SRHR（性と生殖に関する健康と権利）に関わる日本国内の現状分析と問題解決に関する研究と実践
- e. 医療倫理体制構築を主な手段とする医療機関の経営品質向上の研究と実践
- f. ロジカルシンキング、ロジカルライティング、文書添削及びコーチングを中心とする地方自治体における人材育成プログラムの開発と実践

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・（共著）新木真理子・神谷英二・東玲子・吉原悦子・丸山泰子「要介護高齢者の気遣いの世界一祖父母的ジェネラティヴィティの源を探る一」、『西南女学院大学紀要』Vol.21、西南女学院大学保健福祉学部、2017年、1-8
- ・（単著）「消尽と救済としての物語(1)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第26巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2018年、163-173
- ・（単著）「消尽と救済としての物語(2)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第27巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2019年、113-123
- ・（単著）「消尽と救済としての物語(3)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2020年、87-96
- ・（単著）「消尽と救済としての物語(4)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2021年、153-16
- ・（単著）「都市モダニズムと断片化(1)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第30巻第1号、福岡県立大学人間社会学部、2021年、113-125
- ・（単著）「都市モダニズムと断片化(2)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第30巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2022年

## ②その他最近の業績

### <シンポジウム>

- ・ (単独)「ポスト工業社会における新たな公私の協働」、日独国際シンポジウム「石炭産業終焉後の”地域ビジョン”をめぐって—ポスト工業社会における暮らしと文化—」提題、2017年10月14日、福岡県立大学

### <教科書>

- ・ (共著) 福岡県立大学教養演習テキスト学生編集委員会編『旅する大学生のガイドブック—レポートの書き方 2020年版』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2020年(担当箇所「第1章 教養演習—教養演習はあなたの未来への扉です」7-16、「第2章 レポートとは?」19-37)
- ・ (共著) 福岡県立大学教養演習テキスト学生編集委員会編『旅する大学生のガイドブック—レポートの書き方 2021年版』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2021年(担当箇所「第1章 教養演習—教養演習はあなたの未来への扉です」7-16、「第3章 レポートとは?」33-51)
- ・ (共著) 福岡県立大学教養演習テキスト学生編集委員会編『旅する大学生のガイドブック—レポートの書き方 2022年版』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2022年(担当箇所「第1章 教養演習—教養演習はあなたの未来への扉です」7-16、「第3章 レポートとは?」33-51)

## ③過去の主要業績

### <著書>

- ・ (共著) 千田義光・久保陽一・高山守編『講座 近・現代ドイツ哲学Ⅱ—ヘーゲル以後フッサールまで—』理想社、2006年。(担当箇所「第9章 他者経験の起源—発生的現象学におけるヒュレー・キネステーゼ・他者—」、255-277)

### <学術論文>

- ・ (単著)「遊歩者・記憶・集団の夢—ベンヤミン『パサーージュ論』による記憶論構築のために—」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第17巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2009年、67-79

### <翻訳>

- ・ (単著) A. J. スタインボック「限界現象と経験の限界性」、『思想』2000年第10号、No.916、岩波書店、2000年、218-243

## 3. 外部研究資金

日本学術振興会・科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)・基盤研究(C)(一般)、研究課題名:モダニズム詩に現れる形象を導きとする集合的記憶に基づく「まちの物語」の哲学的研究、研究代表者:神谷英二、令和3年度直接経費70万円、間接経費21万円、研究期間:令和元年度~令和5年度

## 4. 受賞



## 5. 所属学会

日本哲学会、日本倫理学会、日本現象学会、日本生命倫理学会、哲学会、科学基礎論学会、実存思想協会、日本現象学・社会科学会、日本ミシェル・アンリ哲学会、中部哲学会、西日本哲学会、九州大学哲学会、日本老年看護学会、各会員

## 6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、哲学・2単位・1年・後期、入門・数字で見る日本社会・2単位・1年・後期、論理学・2単位・2年・前期、社会人基礎力演習・1単位・2年・前期、問題解決演習・1単位・2年・後期、日本語ライティング・1単位・2年・後期、倫理学・2単位・2-3年・前期、ビジネス倫理・2単位・3年・前期、哲学要論・2単位・3年・後期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期  
卒業論文・6単位・4年・通年  
看護実践教育センター・特定行為研修部門・医療安全学／特定行為実践

## 7. 社会貢献活動

<福岡県田川市>経営評価改革推進委員会委員長、総合計画審議会会長、公共施設等運営権者モニタリング委員会会長

<福岡県直方市>消防本部職員採用試験員

<福岡県田川郡香春町>情報公開審査会会長、個人情報保護審査会会長、政治倫理審査会会長、行政改革推進委員会会長、総合戦略推進委員会委員長

<福岡県京都郡みやこ町>行政改革推進委員会委員長

<株式会社麻生・飯塚病院>倫理委員会委員、臨床研究管理委員会委員

## 8. 学外講義・講演

<公務員研修>久留米市新任主査級職員研修「マネジメント研修～文書添削指導を通じたコーチング～」

## 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	教授	氏名	小嶋 秀幹
--------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

社会精神医学、精神保健学を主な研究分野としている。特に、地域住民や対人援助職者に対する精神障害の啓発教育、自殺予防教育に取り組んでいる。こころに生じる問題、精神障害をいかにわかりやすく伝えるか、その研修方法、教材開発に興味を持っている。近年は、演劇やゲームによる啓発教材作成に取り組み、福岡県内の自殺予防ゲートキーパー研修会等で実践している。その他、勤労者の精神保健、依存の心理、児童・思春期の精神保健（不登校・ひきこもり、自傷、虐待）、司法精神医学（精神鑑定）、高齢者の精神的健康のあり方などにも興味を持って研究・実務をしている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 小嶋秀幹：こころをつなぐ～身近な人に自殺の危険が迫ったら～. 翔雲社、2022.
- ・ 小嶋秀幹：自殺予防啓発劇の実践報告～大学生のうつ病編～. 福岡県立大学心理臨床研究 14 巻、2022.
- ・ 小嶋秀幹：大学生を対象とした「依存の心理」の啓発教育の実践報告. 独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター紀要第 9 号；90-99、2021.
- ・ 馬淵可奈子、小嶋秀幹：頭痛のある女子学生に対する臨床動作法の短期介入ーからだ・心の動き・援助者に対する感じ方に注目してー. 福岡県立大学心理臨床研究 13 巻；15-23、2021.
- ・ 小嶋秀幹、田中玲衣：子の不登校を経験した母親が相談機関につながるまでの行動と心理的変化過程ー複線経路・等至性モデル（TEM）による分析ー. 福岡県立大学心理臨床研究 12 巻；3-15、2020.
- ・ 小嶋秀幹：大学と看護専門学校の教員を対象にした自殺予防ゲートキーパー自己学習教材の効果. 自殺予防と危機介入 39（2）；106-111、2019.
- ・ 中山 航、小嶋秀幹：大学生における愛着スタイルと母親への感謝の関連. 福岡県立大学心理臨床研究 11 巻；7-13、2019.

### ②その他最近の業績

#### <教材開発>

- ・ 小嶋秀幹：「依存の心理」を啓発するための演劇教育教材. NPO 法人依存学推進協議会 2019 年度助成研究成果物、2020.

#### <報告書>

- ・ 小嶋秀幹（香春町いじめに係る重大事態調査委員会）：いじめ重大事態に関する報告書、2020.
- ・ 小嶋秀幹：シニア世代のメンタルヘルス（筑豊市民大学講座第 1 回）. 第 19 期筑豊市民大学報告書；5-10、2020.
- ・ 小嶋秀幹：北九州市職員の健康づくりのための計画（第三期）評価及び第四期計画に向けての調査報告書. 2019 年度北九州市委託研究成果物、2020.

### ③過去の主要業績

- ・ 小嶋秀幹：民生委員からみた自殺対策の現状と課題—自由記述内容の質的分析から—。自殺予防と危機介入 34 (1) ; 41-47、2014.
- ・ 小嶋秀幹：民生委員が関わった自殺事例のプロセス—インタビュー内容の質的分析—。日本社会精神医学会雑誌 22 (2) ; 92 - 105、2013.
- ・ 小嶋秀幹：自殺の危険が切迫した人と関わる際の心構えとは—地域の事例を通して考えたこと—。自殺予防と危機介入 32 (1) : 68-71、2012.

### 3. 外部研究資金

- ・ 小嶋秀幹：うつ病の生涯学習を促進する対話型ゲーム教材の開発と効果検証、科学研究費基盤研究 (C)、2020～2022 年度、研究代表者、143 万円

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

- ・ 九州精神神経学会評議員・編集委員、日本精神神経学会精神科専門医
- ・ 日本精神神経学会、日本臨床心理士会、九州精神神経学会、日本社会精神医学会、日本自殺予防学会、日本司法精神医学会、日本アルコール・アディクション医学会、日本心理臨床学会、日本産業精神保健学会、福岡県臨床心理士会 各会員

### 6. 担当授業科目

<学部>精神保健学・2 単位・1 年・前期、精神保健学Ⅰ・2 単位・2 年・前期、精神医学Ⅰ（精神疾患とその治療Ⅰ）・2 単位・3 年・前期、老年期医学・2 単位・3 年・前期、精神保健学Ⅱ・2 単位・2 年・後期、公認心理師の職責・2 単位・2 年・後期（分担）、精神医学Ⅱ（精神疾患とその治療Ⅱ）・2 単位・3 年・後期、心理実習Ⅰ・1 単位・2 年・通年、心理実習Ⅲ・1 単位・3-4 年・通年、演習・2 単位・3 年・通年、卒業論文・6 単位・4 年・通年

<大学院>保健医療分野における理論と支援の展開・2 単位・1 年・前期、産業・労働分野に関する理論と支援の展開・2 単位・1 年・後期、臨床心理基礎実習 A・1 単位・1 年・前期、臨床心理基礎実習 B・1 単位・1 年・通年、心理実践実習 A・10 単位・1-2 年・通年、心理実践実習 B・2 単位・1-2 年・通年、特別研究・4 単位・1-2 年・通年

### 7. 社会貢献活動

福岡県ひきこもり対策協議会委員長、福岡県自殺対策協議会委員、福岡市自殺対策協議会委員長、香春町いじめ防止等対策委員会委員長、田川市青少年問題協議会委員、北九州いのちの電話理事、嘱託産業医（北九州市、田川市）、嘱託医（ホームレス自立支援センター北九州、田川児童相談所）、産業医科大学医学部非常勤講師、措置入院鑑定業務、心神喪失等医療観察法判定医業務

## 8. 学外講義・講演

- ・ 職場のメンタルヘルス、衛生管理者研修会（北九州市）、5月
- ・ ひとりではないと気づいて、不登校ひきこもり学習会（直方市）、7月
- ・ 学生のメンタルヘルス、福岡県看護教員研修、9月
- ・ 子どもの心理状態と対応について、大任中学校教員研修（田川保健所）、9月
- ・ 精神医学の基礎知識、北九州いのちの電話相談員養成研修、11月、12月
- ・ 大学生の心の危機、福岡教育大学ゲートキーパー研修（宗像遠賀保健所）、11月
- ・ 一人で悩まないで～こころのサインに気づいたら SOS を出そう、大任中学校生徒研修（田川保健所）、11月
- ・ うつ病のゲーム教材、福岡県立大学心理臨床研究会、12月
- ・ ストレスとうつ病、北九州市ゲートキーパー研修、2月

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ 福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター長

人間社会学部／こどもコース	職名	教授	氏名	杉野 寿子
---------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

私はこれまで国内外のさまざまな場所・地域で、困難な状況で生活をされている人々と多く出会い、交流しながらソーシャルワーク実践をしてきました。それらの出会いから「誰もが安心して主体的に暮らす」ことを研究テーマにしています。地域に根ざした取り組みやネットワーク構築に関する研究、開発途上国における福祉課題に関する研究、対人援助専門職のソーシャルワーク実践に関する研究を行っています。近年深い関心を持っているのは、保育者のソーシャルワーク実践に関する研究です。本学では、子どもとその家庭の背景をふまえ、地域での子育て支援を重視できる保育者を養成しています。

福祉社会科学修士。保育士・社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士。

## 2. 研究業績

### ① 最近の著書・論文

- ・ 杉野寿子 (単著)「乳児院での実習」『福祉施設実習テキストブック』栗山宣夫・小林徹編著, 建帛社, 2022年
- ・ 杉野寿子 (単著)「福祉型障害児入所施設での実習」『福祉施設実習テキストブック』栗山宣夫・小林徹編著, 建帛社, 2022年
- ・ 杉野寿子・稲葉美由紀・西垣千春「SDGs と地域共生社会の視点による社会福祉実践—多様な社会ニーズに対応する事例から—」草の根福祉第 51 号, 社会福祉研究センター, 2021年 12月
- ・ 池田孝博・杉野寿子・大久保淳子・鷲野彰子・中原雄一・伊勢慎 (共著)「保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題」福岡県立大学人間社会学部紀要第 29 巻第 2 号, 2021年
- ・ 杉野寿子・田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・中原雄一・池田孝博 (共著)「保育士養成課程における保健・健康の学びに関する研究」福岡県立大学人間社会学部紀要, 第 29 巻第 1 号, 2020年
- ・ 杉野寿子 (単著)「第 1 章 子ども家庭支援の意義と必要性」『保育と子ども家庭支援論』井村圭壮・今井慶宗編著, 勁草書房, 2020年
- ・ 杉野寿子 (単著)「Lesson26 社会福祉施設と権利擁護」「Lesson31 家庭 (保護者) の状況と支援方法について学ぶ」『Let's have a dialogue! ワークシートで学ぶ施設実習』和田上貴昭・那須信樹・原孝成編著, 同文書院, 2020年
- ・ 杉野寿子 (単著)「Lesson31 家庭 (保護者) の状況と支援方法について学ぶ」『Let's have a dialogue! ワークシートで学ぶ施設実習』和田上貴昭・那須信樹・原孝成編著, 同文書院, 2020年
- ・ 杉野寿子・吉田茂・佐藤陽子 (共著)「保育者のソーシャルワークの意識に関する研究: 意識調査からみた保育者の認識と実践の関係」保育ソーシャルワーク学研究第 5 号, 2019年
- ・ 杉野寿子 (単著)「保育者のソーシャルワークに関する意識調査からの一考察」福岡県立大学人間社会学部紀要第 27 巻第 2 号, 2019年

## ②その他最近の業績

### <学会発表>

- ・ 多様化する社会ニーズに対応する社会福祉実践－SDGs と地域共生社会の視点から－」日本社会福祉学会第 69 回秋季大会ポスター発表，2021 年 9 月

### <報告書>

- ・ 細井勇、伊藤篤、鬼塚香、稲葉美由紀、杉野寿子、三上邦彦、森茂起「イギリスにおける児童ケアとソーシャルペダゴジー：スコットランド及びロンドン訪問調査報告書」『2019 年度科研費研究報告書』2020 年
- ・ 古橋啓介・池田孝博・杉野寿子・大久保淳子・中原雄一・伊勢慎「田川市郡を中心とする地域における保育の質の向上を目指す取り組みの実態調査」『福岡県立大学平成 29 年度研究奨励交付金研究成果報告書』2019 年，

## ③過去の主要業績

- ・ 杉野寿子・稲葉美由紀（共著）「フィリピンの貧困と社会開発的アプローチ－あるソーシャルビジネスの取り組みから－」地域福祉サイエンス第 3 号，2016 年
- ・ 杉野寿子（単著）「ヨルダンにおける障害に関する意識調査－近年の意識傾向を探る－」社会福祉科学研究第 4 号，2015 年
- ・ 杉野寿子（単著）「CBR マトリックスを活用した地域福祉活動分析に関する一考察－日本の A 事業所の取り組みと B さんの生活を事例に－」別府大学短期大学部紀要第 33 号，2014 年

## 3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費補助金・基盤研究 (B) 細井勇代表「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究－日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」(2018～2021 年度) 研究分担者
- ・ 科学研究費補助金・基盤研究 (C) 稲葉美由紀代表「Meeting Human Needs in Today's World: The Role of Social and Solidarity Economy, Sustainable Development, and Empowerment-Oriented Community Development Strategies in Japan」(2018～2021 年度) 研究分担者

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

- ・ 日本社会福祉学会
- ・ 日本地域福祉学会
- ・ 日本保育ソーシャルワーク学会
- ・ 日本ソーシャルペダゴジー学会

## 6. 担当授業科目

〈学部〉

社会福祉Ⅰ（2単位・1年後期）、社会的養護Ⅰ（2単位・2年前期）、子ども家庭支援論（2単位・2年後期）、保育相談支援（1単位・4年前期）、社会福祉Ⅱ（2単位・4年後期）、保育実習指導Ⅰ（2単位・2～3年通年）、保育実習Ⅰ（4単位・3年前期）、保育実習指導ⅡB（2単位・3年後期）、保育実習ⅡB（2単位・3年後期）、演習（2単位・3年通年）、演習（2単位・4年前期）、卒業論文（6単位・4年後期）

〈大学院〉

子どもの福祉研究（2単位・前期）、子どもの福祉演習（2単位・後期）、教育課題研究B（2単位・後期）、子ども教育実践実習Ⅱ（1単位・前期）、子ども教育実践実習Ⅰ（1単位・後期）地域教育課題演習（2単位・前期）、特別研究（4単位・1～2年）

## 7. 社会貢献活動

- ・ 田川市子ども・子育て会議会長
- ・ 田川市児童虐待等事例検証委員会委員長
- ・ 田川市農業委員会委員
- ・ 田川市保育園整備等検討委員会委員
- ・ 香春町子ども・子育て会議会長
- ・ 福岡県教育振興審議会社会教育部会委員
- ・ 福岡県教育振興審議会学校教育部会委員
- ・ 行橋市保育園整備等検討委員会委員
- ・ 京築教育事務所発達障がい児等教育継続支援事業巡回相談員
- ・ 築上郡教育支援委員会主催教育相談・教育診断委員
- ・ 福岡県幼児教育アドバイザー
- ・ NPO法人やまびこクラブ理事

## 8. 学外講義・講演

- ・ 北九州市保育士等キャリアアップ研修（基礎）「保護者支援・子育て支援」講師
- ・ 北九州市保育所（園）中堅保育士研修「保護者に対する相談援助について」講師
- ・ 長崎県立佐世保西高等学校出前講座「保育と社会福祉」講師

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ 2021年度研究奨励交付金（附属研究所重点領域2年目）による研究「子どもの健康と保育に関する専門職連携の模索 - 福岡県の医療及び保育の現場での実態調査と養成校の実践 -」（研究代表者）

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	教授	氏名	Stuart Gale
------------------	----	----	----	-------------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

Stuart Gale was born and raised in Hertfordshire, England. After graduating from The University of Leeds with a BA in history, he briefly worked in London before pursuing a teaching career in Japan. He returned to London to study for a Master's degree in English language teaching, passing with a distinction grade in 2002. Since then, he has taught at Fukuoka Women's University, Fukuoka University, Kyushu University, Kyushu Sangyo University, and Seinan Gakuin University. He joined Fukuoka Prefectural University (FPU) as a full-time faculty member in the spring of 2007.

Stuart Gale's research activities encompass three main areas of enquiry, the first concerning the development of critical thinking skills in Japanese university students. Aside from designing courses in pursuit of this objective, he has also authored the textbooks *Provoke a Response: Critical Thinking through Data Analysis* (2016) and *Japan Goes Global! Thinking Critically about Japanese Popular Culture* (2018). His second area of research concerns academic writing and how it may be taught more effectively to Japanese university students. This (action) research is conducted in university writing classes and involves a process of ongoing evaluation and modification. The results of this research have been incorporated into the academic writing textbook *Structure, Structure, Structure: The Best Guide to Reading and Writing Ever* (2012) and FPU's virtual learning website. Stuart Gale was invited to present on the subjects of teaching academic writing and the enhancement of critical thinking skills at the Fukuoka ALT Skills Development Conference in 2012 and 2013, and the Oita ALT Skills Development Conference in 2014. His third and final area of research concerns the development of study abroad programmes and the facilitation of intercultural competence.

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- Gale, S., Namoto, T., Suzuki, S. & Eguchi, M. (2018). *Japan Goes Global! Thinking Critically about Japanese Popular Culture*. Tokyo: Nan'un-do.

### ②その他最近の業績

<学会発表>



### ③過去の主要業績

- Gale, S. (Feb., 2019). Putting the critical cat among the patriotic pigeons: guiding principles for the teaching of critical thinking as a precursor to critical writing in the Japanese EFL classroom. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 20, No. 1, pp. 1-13.
- Gale, S. (Sept., 2019). Evaluating a university preparation course for a short-term study abroad program in terms of its ability to alleviate student anxiety prior to departure. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 28, No. 1, pp. 1-25.
- Gale, S. (Feb., 2020). Addressing a supposed deficiency: a critical thinking and process-writing methodology for Japanese EFL. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 28, No. 2, pp. 19-40.

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

Member: Japan Association of Language Teachers (Fukuoka Chapter, Critical Thinking Special Interest Group).

Member: Asia TEFL

### 6. 担当授業科目

英語Ⅰ 1単位 1年 前期 後期 (3 courses per semester)

英語Ⅲ 1単位 2年 前期 後期 (3 courses per semester)

海外語学実習事前指導 (UK programme preparation course, first semester only)

海外語学実習 (UK programme, second semester only)

Introduction to studying in English (英語で学ぶ ; 入門編) (seminar course, first semester only)

Advanced English Achievement (英語で学ぶ ; 高度) (seminar course, second semester only)

Postgraduate presentation skills development in English (seminar course for postgraduate students, second semester only)

### 7. 社会貢献活動

## 8. 学外講義・講演

福岡県立大学オータムスクール

2021年9月25日(土) 13:00~14:30(90分1コマ) \*zoom 使用によるオンライン実施

【事業目的】(昨年の企画案にある「サマースクール運営要綱」より抜粋)

- ①高校生に主体的学習方法を体験してもらう。
- ②受動的な学習から、主体的な学習への転換を意識してもらえらるような授業を設定する。
- ③課題に対して知識・技能を活用できる力を育成する。

Lecture

Mobile phones: how they have changed everything, from how we communicate to how to study to how we work

## 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	住友 雄資
----------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

厚生労働省の発表によると、わが国には 300 万人を超える精神障害者がいます。精神科病院に入院している精神障害者は約 35 万人ですので、大多数は地域で生活しています。しかし、差別・偏見を受けやすい精神障害者や家族は、地域で生活しづらい状況が続いています。そこで、ソーシャルワークの視点から、精神障害者が地域で生活しやすい援助・支援法の開発とそれを下支えする社会環境を構築する方法を研究しています。そのためにはケアマネジメントという技術とケアマネジメントが有効に機能するシステムが不可欠で、両者を統合した地域サポートシステムを構築する研究をおこなっています。

またケアマネジメントを担う福祉専門職が必要になりますので、その観点から精神保健福祉士等をどのように養成するかということも研究しています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 住友雄資・鬼塚香（2020）『『精神保健福祉援助演習』におけるロールプレイ活用の到達点と課題—クライアント役を演じることを出発点に—』『福岡県立大学人間社会学部紀要』29（1），19-34.
- ・ 住友雄資・鬼塚香（2020）『『精神保健福祉援助演習』の演習教育法に関する研究動向と課題』『福岡県立大学人間社会学部紀要』28（2），1-18.

### ②その他最近の業績

#### <事例研究>

- ・ 白石裕香・住友雄資（2019）「メンタルヘルス問題のある母親への支援—ACTによるチーム支援—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』27(2)，59-73.

#### <教育実践報告>

- ・ 鬼塚香・住友雄資（2022）「2021年度教育実践報告『精神保健福祉演習』—『なりきりプレゼンテーション』導入の効果と課題—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(2)，77-85.
- ・ 畑香理・鬼塚香・住友雄資（2021）「2020年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習指導』—コロナ禍における教育実践と今後の課題—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(1)，181-190・
- ・ 鬼塚香・住友雄資（2021）「2020年度『精神保健福祉演習』—『心理情緒的支援』を学生が理解するまで—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29(2)，203-214.
- ・ 鬼塚香・住友雄資（2020）「2019年度『精神保健福祉演習』—充実した演習を行うための前提と準備—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29(1)，81-90.
- ・ 畑香理・住友雄資・奥村賢一・平川明美・浦田愛（2020）「2019年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習指導』—精神保健福祉士に必要な技能を習得するための教育の試行—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29(1)，91-97

- ・ 畑香理・住友雄資・奥村賢一・平川明美・浦田愛（2019）「2018年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習指導』－効果的な事前学習につなげる教育法の試みを中心に－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』28(1), 103-110.
- ・ 住友雄資・鬼塚香（2019）「記録の演習法—2018年度『精神保健福祉演習』の試みから—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』27(2), 169-179.
- ・ 鬼塚香・住友雄資（2019）「2018年度『精神保健福祉演習』－反転授業，アクティブ・ラーニング・チーム・ティーチングの試み—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』27(2), 157-168.

### ③過去の主要業績

- ・ 住友雄資（2007）『精神保健福祉士のための地域生活支援活動モデル』金剛出版．（単著）
- ・ 住友雄資（2001）『精神科ソーシャルワーク』中央法規出版．（単著）

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

一般社団法人日本社会福祉学会 査読委員  
 日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員  
 日本ソーシャルワーク学会 査読委員  
 日本職業リハビリテーション学会  
 日本地域福祉学会  
 一般社団法人日本精神保健福祉学会

## 6. 担当授業科目

（学部）

精神保健福祉相談援助の基盤（専門）・2単位・2年・前期，精神科リハビリテーション学Ⅱ・2単位・3年・後期，精神保健福祉援助技術各論Ⅱ・2単位・3年・後期，精神保健福祉演習・1単位・3年・前期，精神保健福祉援助演習・2単位・3～4年・通年，精神保健福祉援助実習指導・3単位・3～4年・通年，精神保健福祉援助実習・5単位・4年・通年

（大学院）

社会福祉研究法・2単位・前期，質的研究法・1単位・前期，精神保健福祉研究・2単位・前期，精神保健福祉演習・2単位・後期，特別研究・4単位・通年

7. 社会貢献活動

直方市障がい者施策推進協議会 会長

田川地区障がい者自立支援協議会 会長

田川市障がい者福祉基本計画等策定・推進委員会 会長

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	本郷 秀和
----------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

私は、福祉活動に取り組む NPO 法人において、社会福祉士・介護福祉士等として相談員や介護業務、運営管理業務等に従事した経験があることから、高齢者福祉活動に取り組む NPO 法人の役割にこれまで着目してきました。現在の主要研究テーマとしては、1)高齢者のニーズに応える生活支援サービスに関する研究、2)高齢者の権利擁護に関する研究（例：介護サービスの評価や苦情解決、高齢者虐待の予防と対応、認知症高齢者の地域支援等）、3)高齢者が住み慣れた地域で生活が継続 できるためのソーシャルワークの今後の展開（特に様々なニーズに応えられるためのサービス開発の 推進方法や管理運営等）に関するものがあります。研究上で特に意識することとしては、机上のみではなく、実際に高齢者の方や様々な専門職の方等と 顔がみえる関係を築きながら、現実の福祉問題の把握と理解に心がけながら研究を進めようと考えています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 飯干真冬花・本郷秀和「中高年知的障害者への就労支援と高齢化への課題」『九州社会福祉学』第 18 号、日本社会福祉学会九州地域部会、2021.3(予定)
- ・ 梶原浩介・本郷秀和「地域共生社会と制度の狭間の問題を抱える家族支援に関する一考察 -8050 問題に焦点を当てて-」『九州社会福祉学』第 18 号、日本社会福祉学会九州地域部会、2021.3.
- ・ 秋竹純・本郷秀和「介護付有料老人ホームに勤務する介護福祉士からみたケア意識とストレス状況」『福岡県立大学 人間社会学部紀要』第 29 巻第 2 号、2021.3.
- ・ 岩崎敦子・本郷秀和「特別養護老人ホームにおける在宅高齢者に対する食支援への意識と課題 -福岡県内の特別養護老人ホームの食支援調査を手がかりに-」『福岡県立大学 人間社会学部紀要』第 29 巻第 2 号、2021.3.
- ・ 松岡佐智・本郷秀和「介護老人福祉施設における施設内虐待防止に向けた課題」、『高齢者虐待防止研究』第 16 巻第 1 号、日本高齢者虐待防止学会、2020.3.
- ・ 本郷秀和『高齢者虐待と介護支援専門員』、中央法規、2020,2,
- ・ 秋竹純・本郷秀和 ・松岡佐智「有料老人ホーム職員のバーンアウト傾向と認知症高齢者へのケアの 状況—調査結果にみる施設内虐待の予防に向けた課題」『地域ケアリング』Vol.21. No.8、(株)北陸社 2020.6,

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 上野敦子・本郷秀和、「社会福祉法人が設置する介護老人福祉施設における在宅高齢者への食支援の可能性」日本社会福祉学会第 59 回大会九州部会口頭発表（北九州市立大学）、2019 年 6 月.
- ・ 秋竹純・本郷秀和、「特定施設（有料老人ホーム）における介護職員の虐待予防に向けた課題」日本社会福祉学会第 59 回大会九州部会口頭発表（北九州市立大学）、2019 年 6 月.

### ③過去の主要業績

- ・ 本郷秀和・西島衛二・永田俊明,「福祉移送サービスの現状の問題点と課題 -介護サービスを実施するNPO法人のケーススタディ-」『介護福祉学』Vol.12,日本介護福祉学会,2005年10月.
- ・ 本郷秀和・鬼崎信好・佐伯幸雄,「指定福祉NPOにおける社会福祉士の役割」『日本の地域福祉』第20巻,日本地域福祉学会,2006年3月.
- ・ 本郷秀和,「高齢者虐待の兆候察知における介護支援専門員の課題 -福岡市・北九州市の介護支援専門員の現状と意識-」『社会福祉学』第54号第2巻,日本社会福祉学会,2013年8月.

### 3. 外部研究資金

- 1) 平成31年度-令和5年度(5年間)、文部科学省科学研究費補助金申請、基盤研究C、「地域包括ケアシステム推進下の介護NPOの可能性」421万円(総額)\*研究代表:本郷秀和
- 2) 平成31年度-令和3年(3年間)、文部科学省科学研究費補助金申請、基盤研究C、「地域福祉計画における自治体の課題」78万円(総額)\*研究代表:村山浩一郎(研究分担者として申請)

### 4. 受賞

なし(\*但し篠栗町社会福祉協議会より感謝状.令和3年10月3日)

### 5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本高齢者虐待防止学会、日本社会福祉士会 ほか。

### 6. 担当授業科目

- 1)「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」(2単位・1年後期),2)「相談援助実習指導」(3単位・3年通年・共同),3)「相談援助実習」(4単位,3年通年),4)「相談援助実習指導」(3単位・2年通年・共同),5)「相談援助の理論と方法B」(2単位・2年前期),6)「社会福祉学演習」(4単位・3年後期~4年前期・通年).7)「卒業論文」(6単位・4年次後期),8)「相談援助演習A」(2単位・2年通年),9)「相談援助演習C」(1単位,3年後期)〈大学院:人間社会学研究科(社会福祉専攻)〉10)「高齢者福祉研究」(2単位・1年後期),11)「高齢者福祉演習」(2単位・1年前期),12)「特別研究」(4単位・1-2年通年),13)フィールドワーク」(2単位・1年後期),14)「量的研究法」(1単位・1年前期)

### 7. 社会貢献活動

- 1)福岡県社会福祉審議会 審議委員.2)福岡県社会福祉審議会 老人福祉専門分科会 会長.3)福岡県社会福祉審議会 地域福祉支援計画専門分科会 会長.4)福岡県第9次高齢者保健福祉計画策定検討委員会 委員長 5) 福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会 副会長.6) 福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会 審査部会長.7) 福岡県人権施策推進講話会専門部会 委員他

## 8. 学外講義・講演

- ・ 令和3年度 新潟市養介護施設・養介護事業所管理者向け 高齢者虐待防止研修会、講師。  
テーマ：「虐待の予兆をどのように察知し、早期介入・早期支援につなげるか」,主催：新潟市福祉部高齢者支援課（高齢者福祉係）。
- ・ 西日本新聞（筑豊版）：「高齢者向けワクチン接種予約開始」における高齢者の課題に関するコメント掲載（令和3年4月20日号）,ほか高校訪問等

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ 附属研究所調整部会 委員 ・ 福岡県立大学後援会 理事 ・ 社会福祉コース代表  
主な保持資格：社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・救急救命士・専門社会調査士



人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	村山 浩一郎
----------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は「地域福祉」です。「地域福祉」は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野ではなく、地域住民が主体となり、行政や専門職と協働しながら、援助を必要とする人を地域で支えたり、地域の共通課題の解決に取り組んだりする、地域を基盤とした福祉実践のあり方を意味しています。私の研究テーマは、このような「地域福祉」を推進するための様々な実践や方法を検討することです。具体的には、住民による小地域福祉活動、福祉NPO、コミュニティワーク、地域福祉計画など、地域福祉を推進するための住民活動、援助技術、計画・政策などについて研究を行っています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 村山浩一郎「地域福祉計画策定ガイドラインにおける策定方法の変化－新旧ガイドラインの比較より」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第1号, 2020年10月
- ・ 實崎信介・村山浩一郎「保育所の地域における公益的な取組の実施状況に関する研究－福岡県内の保育所のみを運営する社会福祉法人を対象として－」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第2号, 2021年3月
- ・ 九州社会福祉研究会編（編集委員：岩井浩英, 江口賀子, 大山朝子, 片岡靖子, 門田光司, 河谷はるみ, 鬼崎信好, 倉田康路, 滝口真, 田畑洋一, 茶屋道拓哉, 本郷秀和, 村山浩一郎）『21世紀の現代社会福祉用語辞典＜第2版＞』, 学文社, 2019年6月

### ②その他最近の業績

- ・ 福岡県社会福祉協議会市町村社協委員会専門委員会（委員長：村山浩一郎）『「社協・生活支援活動強化方針」チェックリストの効果的活用のための資料』, 福岡県社会福祉協議会, 2021年1月
- ・ 村山浩一郎「地域福祉計画の課題と展望」, 『でんしょ鳩』第227号, 北九州市障害福祉ボランティア協会, 2020年7月

### ③過去の主要業績

- ・ 村山浩一郎「第9章 地域福祉とその推進方法」, 鬼崎信好・本郷秀和編著『コメディカルのための社会福祉概論 第4版』, 講談社, 2018年12月
- ・ 村山浩一郎「『進行管理』の視点から見た地域福祉計画の特徴と課題：3自治体の第1期計画と第2期計画の比較から」, 『リハビリテーション連携科学』第14巻2号, リハビリテーション連携科学学会, 2013年12月
- ・ 福岡県社会福祉協議会市町村社協委員会専門委員会（委員長：村山浩一郎）『これからの社協の取組を考えるために～ちょっとした工夫・視点を変えるだけで～』, 福岡県社会福祉協議会, 2019年2月

### 3. 外部研究資金

- ・ 平成 31-33 年度,文部科学省科学研究費補助金【基盤研究 C】,研究課題:「地域共生社会の実現に向けた地域福祉計画の策定方法に関する方法」(研究代表:村山浩一郎,交付金額:78 万円),研究代表者
- ・ 平成 31-35 年度,文部科学省科学研究費補助金【基盤研究 C】,研究課題:「地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割」(研究代表:本郷秀和,交付金額:442 万円),研究分担者

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本社会福祉学会(九州地域ブロック担当理事),日本地域福祉学会,日本社会学会,福祉社会学会,リハビリテーション連携科学学会

### 6. 担当授業科目

<学部>地域福祉論 I (2 単位・2 年・後期),福祉行財政と福祉計画(2 単位・3 年・前期),地域福祉論 II (2 単位・3 年・前期),相談援助実習指導(3 単位・2 年~3 年・通年),相談援助実習(4 単位・3 年・通年),相談援助演習 B (2 単位・3 年・通年),相談援助演習 C (1 単位・3 年・後期),社会福祉学演習(2 単位・3 年~4 年・後期~前期),卒業論文(6 単位・4 年・後期)

<大学院>特別研究 I (4 単位・1 年),特別研究(4 単位・1~2 年・通年),フィールドワーク(2 単位・1 年・前期・後期),地域福祉研究(2 単位・1・2 年・前期),地域福祉演習(2 単位・1・2 年・後期)

### 7. 社会貢献活動

- ・ 芦屋町地域福祉計画推進委員会 委員長
- ・ 遠賀町地域福祉計画推進委員会 委員長
- ・ 大牟田市健康福祉推進会議 会長
- ・ 苅田町地域福祉推進委員会 委員長
- ・ 北九州市社会福祉審議会 委員(地域支援専門分科会 会長)
- ・ 北九州市地域福祉振興協会 副会長
- ・ 北九州市社会福祉協議会 総合企画委員会 委員長
- ・ 志免町社会福祉協議会 ボランティア育成・福祉団体等助成金配分審査会 委員長
- ・ 田川市地域包括ケアシステム推進協議会・保健(予防)・生活支援部会 部会長
- ・ 田川市地域福祉計画推進会議 委員長
- ・ 福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会 専門委員会 委員長
- ・ 福智町共に生きるまちづくり計画推進会議 アドバイザー
- ・ 福津市福祉施策策定審議会 委員長

- ・ 行橋市みんなで支えあう行橋市福祉のまちづくり推進委員会 委員長
- ・ 行橋市みんなで支えあう行橋市福祉のまちづくり推進実務者会議 座長
- ・ 行橋市成年後見制度利用促進委員会 委員長

## 8. 学外講義・講演

- ・ 苅田町地域福祉計画実務者会議 研修講師
- ・ 苅田町社会福祉協議会 地域支援検討会議 研修講師
- ・ 苅田町「ふくしの総合相談」庁内ネットワーク級長会議 研修講師
- ・ 北九州市社会福祉協議会 地域支援コーディネーター養成研修 講師
- ・ 北九州市社会福祉協議会 地域福祉活動専門研修 講師
- ・ 九州社会福祉協議会連合会ほか主催「令和3年度九州ブロック地域福祉研究会議（佐賀大会）」第1分科会 助言者
- ・ 小竹町民生委員児童委員協議会学習会 講師
- ・ 福岡県民生委員児童委員協議会 中堅民生委員児童委員研修会 講師
- ・ 福智町社会福祉協議会 役職員研修会 講師
- ・ 福津市地域福祉計画等ワーキング会議 研修講師

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ 研究奨励交付金事業（附属研究所重点領域研究）「地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断モデルの開発」研究代表者

人間社会学部／人間形成学科・心理コース	職名	教授	氏名	吉岡 和子
---------------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月に九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を満期退学。臨床心理士として、病院（精神科）、保健福祉センター、学生相談室などに勤務後、2006年10月に本学に着任しました。2007年2月に九州大学より博士（人間環境学）の学位を授与されました。

主な研究領域は、①対人関係における自己表出の在り方に関する研究②アサーショントレーニング・プログラムの実践研究③心理アセスメントを用いた本人や家族への心理的援助に関する研究です。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 吉岡和子（2019）「今の子どもたちの友だち作り（特集 今の子どもの対人関係）」『教育と医学』67(5), 394-399.
- ・ 吉岡和子（2019）「7章 地域社会・保護者との連携」『キーワード 生徒指導・教育相談・キャリア教育：子どもの成長と発達のための支援』小泉令三・友清由希子編 北大路書房.
- ・ Noriko Numata, Akiko Nakagawa, Kazuko Yoshioka, Kayoko Isomura, Daisuke Matsuzawa, Rikukage Setsu, Michiko Nakazato, Eiji Shimizu（2021）「Associations between autism spectrum disorder and eating disorders with and without self-induced vomiting: an empirical study」『Journal of Eating Disorders』9(5)
- ・ 本田（藤原）沙貴・吉岡和子（2021）「大学生の自己愛的脆弱性と友人関係の在り方及び満足感」『福岡県立大学心理臨床研究』13, 3-13.
- ・ 吉岡和子（2020）「友人との共有様式が大学1年生の友人関係の進展に及ぼす影響」についてのコメント」『青年心理学研究』31（2）, 127-130.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 田中直也・早見武人・松尾太加志・吉岡和子・福田恭介・志堂寺和則（2019）「眼画像のパターンマッチングによる前進運動を伴う観視作業中の視方向判別」日本心理学会大会発表論文集 83, 2D-038.
- ・ Kazuko Yoshioka, Ayaka Kuwabara, Emi Kodama（2019）「Comparison between Japanese and Korean college students regarding hierarchical relationships」ECP 2019 (Moscow).
- ・ Emi Kodama, Kazuko Yoshioka, Gan Chun Hong（2019）「Family image depending on Draw-Your-Family-as-an-Animal Test」ECP2019 (Moscow).

#### <自主シンポジウム>

- ・ 指定討論者「地域に出向く子育て支援と心理職の働き方支援ーそれぞれの社会課題にどう向き合うかー」（2021）日本心理臨床学会第40回大会

### ③過去の主要業績

- ・ 高橋紀子・吉岡和子編（2010）「心理臨床，現場入門：初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版.
- ・ 吉岡和子・高橋紀子編（2010）「大学生の友人関係論：友だちづくりのヒント」ナカニシヤ出版.
- ・ 吉岡和子（2007）「友人関係での自己表出における葛藤」『心理臨床学研究』24（6），日本心理臨床学会.

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本青年心理学会 日本心理臨床学会 日本教育心理学会 日本ロールシャッハ学会（理事）  
日本パーソナリティ心理学会 日本精神分析学会 九州心理学会 九州臨床心理学会

## 6. 担当授業科目

<学部>心理実習Ⅰ・1単位・2年・通年（共同），心理学的支援法・2単位・2年・後期（共同），公認心理師の職責・2単位・2年・後期（分担），心理実習Ⅱ・1単位・2年・前期（共同），心理演習・2単位・3年・後期（共同），心理的アセスメント・2単位・3年・後期（分担），心理実習Ⅲ・1単位・3年後期（共同），家族心理学・2単位・4年・前期，教育相談（幼児教育）・2単位・4年・前期，演習・2単位・3年・通年，卒業論文・6単位・4年・後期

<大学院>家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践・2単位・1・2年・前期，臨床心理基礎実習A・1単位・1年・前期，臨床心理基礎実習B・1単位・1年・通年，臨床心理査定演習・2単位・1年・後期，臨床心理実習・1単位・2年・通年，心理実践実習A・10単位・1-2年・通年，心理実践実習B・2単位・1-2年・通年，特別研究・4単位・1-2年・通年

## 7. 社会貢献活動

一般社団法人 福岡県臨床心理士会 事務局長

日本ロールシャッハ学会 理事／教育・研修委員会委員、編集委員会委員

一般社団法人 日本心理臨床学会 代議員

一般社団法人 日本臨床心理士会 代議員

NPO 法人九州大学こころとそだちの相談室 理事／相談員

福岡女学院大学大学院 心理査定委託相談員

西九州大学臨床心理相談センター 研究員

## 8. 学外講義・講演

福岡県女性相談所 婦人保護事業新任者研修「DV相談と支援」4月30日

福岡県市町村職員研修所「カウンセリング・マインド養成研修」9月6-7日

北九州LD等発達障害親の会 すばる勉強会 1月23日

## 9. 附属研究所の活動等

<心理教育相談室>

相談室委員

相談室紀要編集委員幹事

お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）の企画と運営

<人間社会学部>

人間社会学部紀要 査読担当

人間社会学部／地域社会コース	職名	特任教授	氏名	福田 恭介
----------------	----	------	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1. まばたきに関する研究：まばたきは、情報を待ちかまえたり取り込んだりしているときには抑制され、処理が終了した瞬間に発生します。このことは、まばたきが目の保護・防衛のため反射的に生じるだけでなく、期待、処理、処理終了、さらには選択的注意といった認知過程と関連していることを示しています。最近では、行動抑制課題中のまばたきを調べ、まばたきのタイミングと発達との関連を調べています。このことが明らかになれば、まばたきによる発達アセスメントが可能になります。
2. ペアレントトレーニング（ペアトレ）に関する研究：ペアトレは、親の子育て支援だけでなく、保育者や教師の子ども教育支援にも役立つことが示されています。子どもの行動をある書式に基づいて短時間観察・記録してもらおうと、子どもの行動を冷静に見ることができるようになります。その結果、子どもの不適切な行動に注目するよりも、適切な行動に注目する方が、子どもの行動が変化しやすく、親・保育者・教師の自信を回復させることを明らかにしています。
3. 基礎研究（まばたき）と心理臨床研究（ペアトレ）の統合  
 これまでは、基礎研究と心理臨床研究は別々に行ってきていました。最近になって、まばたきのタイミングと発達との関連を探ることで、基礎研究と心理臨床研究の統合を始めています。
4. 保有学位・資格：文学博士・臨床心理士

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 福田恭介・水口美咲・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人（2021）「喉まで出かかっている」ときの瞬目の抑制と発生 心理学研究, 92 巻, 2 号, 122-128.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 福田恭介・吉岡和子・早見武人・松尾太加志・志堂寺和則（2020）発達障害児における瞬目抑制・発生のタイミング 第 38 回日本生理心理学会大会 Web 発表 2020.5.24（広島大学）
- ・ 上田真由美・福田恭介（2020）保育の省察とソーシャル・サポートが保育士のストレス反応に及ぼす影響 九州心理学会第 81 回大会 2020.11.28（土）～2020.12.12（土）Web 発表（鹿児島大学）
- ・ 福田恭介・吉岡和子・早見武人・松尾太加志・田中直也・志堂寺和則（2021）発達障害児・定型発達児における Go/No-Go 課題時の瞬目発生 第 39 回日本生理心理学会大会 2021.5.22（土）～2021.5.31（月）Web 発表（日本大学）
- ・ 福田恭介・田多英興・山田富美雄・大森慈子・田中裕（2021）認知過程とまばたき・発生的過程とまばたき 日本心理学会第 85 回大会公募シンポジウム 2021.9.1（水）～2021.9.8（水）Web 発表（明星大学）

### ③過去の主要業績

- Fukuda, K. (2001) Eye blinks: New indices of detection of deception. *International Journal of Psychophysiology*, 40, 239-245.
- Fukuda, K., Stern, J.A., Brown, T.B., & Russo, M.B. (2005). Cognition, Blinks, Eye-Movements, and Pupillary Movements during Performance of a Running Memory Task. *Aviation, Space, and Environmental Medicine*, 76 (7), Section 2, C75-C85.
- 福田恭介 (編著) (2018) 「ペアレントトレーニング実践ガイドブックーきつとうまくいく。子どもの発達支援」 あいり出版

### 3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基盤研究（C））平成30年度～令和3年度 交付金額4,420千円  
研究課題：発達障害児における瞬目抑制・発生のタイミング（研究代表者）

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

九州心理学会（理事），日本生理心理学会（評議員），日本心理学会，日本行動療法学会，日本心理臨床学会，日本教育心理学会，International Organization of Psychophysiology (IOP)

### 6. 担当授業科目

<学部>

教育心理学概論・2単位・2年・後期

<大学院>

教育課題研究2単位・1年前期，教育課題演習2単位・1年後期，地域教育課題演習2単位・1年前期，子ども教育実践演習Ⅰ・1単位・1年後期，子どもの心理研究2単位・1年前期，子どもの心理演習2単位，1年後期

### 7. 社会貢献活動

九州心理学会理事，日本生理心理学会評議員

### 8. 学外講義・講演

- NPO ふくおか子どものころサポート研究所・講師 2021.4.18（日）オンライン開催
- 佐賀女子短期大学生涯学習センター「旭の未来学講座」・講師 2021.7.31（土）
- 福岡県発達障がい者支援センターゆう・もあ 講師 2021.9.9（木）
- 福岡県保育協会 令和3年度保育所（園）等職員研修会（障がい児保育研修会）・講師 2021.9.21（火）



## 9. 附属研究所の活動等

ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアッププログラム 6月18日(金),  
7月2日(金), 7月16日(金), 7月30日(金), 8月10日(火)

人間社会学部／社会福祉コース	職名	特任教授	氏名	細井 勇
----------------	----	------	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は、社会事業史研究である。日本の近代化過程の特質とは何か、その中で社会福祉は如何に形成されてきたか、それを、近代日本におけるキリスト教の受容の問題と関係させて研究してきた。その成果そして、2009年に『石井十次と岡山孤児院—近代日本と慈善事業—』を著した。しかし、それは日本型福祉国家の形成史の全体像ではなかった。これまで、筑豊の生活保護史や筑豊のキリスト教史に目を向けてきた。その成果を今、『筑豊の生活保護史とキリスト教 — 貧困問題とは、日本の近代化過程とは—』というタイトルの著作にまとめようとしている。また、2021年度 COC 奨励研究の助成を得て附属研究所地域文化資料室編として『「筑豊の子供を守る会」関係資料集成』全7巻を2022年度に刊行する予定である。

2018年4月に開始した科研費研究「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究—日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に—」は2022年3月で終了となることから、2冊の報告書をまとめた。本科研費研究はその実質においてソーシャルペダゴジーの国際研究となった。これは私にとっての第3段階の共同研究になると考えている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <論文>

- ・ 細井勇「フィリピンにおけるストリートチルドレン支援団体、カンルンガン・サ・エルマ — その設立の理念と活動について」(科研費研究基盤 B「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究—日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」(代表細井勇) 成果報告書、53-69、2022年3月
- ・ 細井勇「特集“キリスト教神学と社会福祉”に寄せて」『キリスト教社会福祉学研究』54、4-7、2022年
- ・ 細井勇「社会事業史研究の“独自性”再考」『社会事業史研究』59、2021年
- ・ 細井勇「特集“連帯と協同の社会形成に向けて”の意図について—本学会成立の経緯を振り返ることを通いて—」『キリスト教社会福祉学研究』53、6-12、2021年
- ・ 細井勇「『地域づくりに向けた多宗教間連携を考える』の背景と意図」『キリスト教社会福祉学研究』52,4-8,2020年

### ②その他最近の業績

#### <書評>

- ・ 細井勇「文献解題：西崎緑『ソーシャルワークはマイノリティをどう捉えてきたか—制度的人種差別とアメリカ社会福祉史—』」『キリスト教社会福祉学研究』53、2021年
- ・ 細井勇「救世軍人・山室軍平の思想と実践を日本の近代化の中に位置づける (書評：室田保夫『山室軍平』)」『図書新聞』3478号、2021年1月9日発行
- ・ 細井勇「書評：滝澤民夫『増野悦興研究 埋もれたキリスト者の生涯と思想』」『キリスト教社会福祉学研究』52、2020年

- ・ 細井勇「書評：岩崎晋也『福祉原理－社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか』『人間福祉学研究』12-1、151-155、2019年

<その他>

- ・ 細井勇、鬼塚香、森茂起、伊藤篤、阪野学、三上邦彦『科研費研究（基盤B）「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究－日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」（代表細井勇）研究成果報告書』全69頁、2022年3月
  - ・ 日本ソーシャルペダゴジー学会・科研費研究共催『第6回学術集会（2021年9月19日）報告書』編集発行、2022年3月
  - ・ 細井勇「(シンポジウム) 社会事業史研究の“独自性”再考」『社会事業史学会第48回大会報告要旨集』2020年5月、山口県立大学
  - ・ 細井勇、伊藤篤、鬼塚香、稲葉美由紀、杉野寿子、三上邦彦、森茂起『(2019年度科研費報告書) イギリスにおける児童ケアとソーシャルペダゴジー－スコットランド及びロンドン訪問調査報告書』全44頁、2020年
  - ・ 細井勇「日本のミューラー・石井十次、ドイツの児童福祉、そして筑豊で出会った人々」『福岡県立大学社会福祉学会第10回大会報告書』2020年
  - ・ 細井勇「ソーシャルペダゴジーと児童福祉施設」『2019年度小舎制養育研究会総会・研修会第41回大分大会報告書』33-57、2020年
  - ・ 細井勇「歴史から学ぶ社会的養護実践」『社会的養護の充実を求めて 設立10周年記念誌』日本児童養護実践学会、32-49、2020年
  - ・ 細井勇「日本の社会的養護に求められる専門性としてのソーシャルペダゴジーの役割と意義について」『社会的養護の充実を求めて 設立10周年記念誌』日本児童養護実践学会、50-68、2020年
  - ・ ティア・キンバーク、森田和子訳、細井勇監修「アメリカの里親ケア：その光と影」『石井十次資料館研究紀要』20、278-296、2019年
- <学会報告等>
- ・ 細井勇「ソーシャルペダゴジーの基本概念」日本ソーシャルペダゴジー学会主催ミニ講座（オンライン）2021年5月9日

③過去の主要業績

- ・ 細井勇・菊池義昭編・解説『岡山孤児院関係資料集成』全3巻、不二出版、2009年
- ・ 細井勇『石井十次と岡山孤児院－近代日本と慈善事業－』ミネルヴァ書房、2009年
- ・ 共著『山室軍平の研究』同朋社、1991年

3. 外部研究資金

基盤研究（B）「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究－日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」（研究代表細井勇）、直接経費 320 万円、2019 年度～2021 年度（1 年延長）

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本基督教社会福祉学会（学会誌編集委員）、社会事業史学会（理事）、日本ソーシャルペダゴジー学会（理事）、同志社大学社会福祉学会、日本子ども虐待防止学会、日本児童養護実践学会、福岡県立大学社会福祉学会（事務局長）

#### 6. 担当授業科目

（学部）

社会福祉概論Ⅰ・2単位・1年前期、社会福祉の歴史と思想・2単位・4年前期

（大学院）

社会福祉研究・2単位・前期、社会福祉演習・1単位・後期、特別研究・4単位・通年、フィールドワーク・2単位・1年後期

#### 7. 社会貢献活動

児童養護施設栄光園 評議員

#### 8. 学外講義・講演

公開講座Ⅱ「紙芝居を通じて見る筑豊の歴史」2021年2月18日

#### 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	准教授	氏名	池 志保
--------------	----	-----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2014年より福岡県立大学人間社会学部・人間社会学研究科専任講師、2019年より専任准教授として大学教育に従事しています。研究では「臨床及び発達における創造性」を研究の柱とし、1. 創造性に関する個人と環境との発達の相互交流、2. 創造性とパーソナリティとの関連を主な研究テーマとしています。これまでの心理臨床のフィールドは医療及び教育です。病院臨床では、医療法人おくら会藤戸病院の常勤心理職を経て、医療法人弘恵会ヨコクラ病院非常勤心理職、現在は川谷医院で非常勤心理職として兼業に従事しています。教育臨床では福岡県中学校スクールカウンセラーを経て、現在は本学学生相談室にて学生相談員・学生相談室部会長を兼任してきました。2007年九州大学大学院人間環境学府博士後期課程単位取得後退学。その他、中村学園大学短期大学部幼児保育学科非常勤講師（2009年度後期「精神保健学」、2015年度前期「保育内容人間関係」）、西南学院大学大学院非常勤講師（2016年度集中「発達心理学特論」）、九州歯科大学口腔保健学科非常勤講師（2018年度より現在まで。前期「総合医科学」）など。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- Martin Goßmann, Andrea Harms(Herausgeber), Shelley Doctors, Roger Fire, Jackie Gotthold, Hana Grinberg, Amy Joelson, Shiho Ike, Karin J. Lebersorger, Thomas A. Kohut, Amanda Kottler, Frank M. Lachmann, Karin J. Lebersorger, Jane Lewis, Joseph D. Lichtenberg(2019) *Krise und Kreativität*. BRANDES & APSEL.
- 井上奈美子・池志保（共著）大学1・2年生のためのインターンシップがもたらす教育的効果、福岡県立大学人間社会学部紀要 第30巻第1号, pp.21-34, 2021.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- Chair: Ann Marie Sacamore. Presenters: Carmen Domingo Peña, Shiho Ike and Laurel Silber. Interlocutors: Gerard Webster and Raimundo Guerra Cid. *Enactments in Child-Adolescent Relational Psychotherapy: Calenges and Opportunities of Interactive Regulation*. IARPP 18th Annual Conference, Pre-Conference, Los Angeles, CA, USA, 2020. (新型コロナウイルスの影響で開催延期、2022年予定)
- 池志保（企画・司会）・中村晋介（企画・話題提供者）・井ノ崎敦子（話題提供者）・中村悠里恵（話題提供者）・三吉紗矢（話題提供者）・高坂康雅（指定討論者）「現代青年期のパートナーシップ：恋愛，ファッション，親子関係に焦点をあてて考える」, 日本発達心理学会第31回大会自主シンポジウム, 2019.

#### <特集>

- 池志保（分担単独執筆）「音楽と人生」, 『特集1 音楽とところ』岩倉拓編集, 日本心理臨床学会 心理臨床の広場, 第12巻1号, 2019.

- 池志保（単著）World Map 現代の米国子どもの心理療法家：エイミー・ジョエルソン先生（NY 間主観的自己心理学者），日本心理臨床学会 心理臨床の広場，第 12 第 2 号，2019.
- 池志保（単著）World Map 国際的に活躍する日本人臨床心理士をご紹介：富樫公一先生，日本心理臨床学会 心理臨床の広場，第 13 卷 1 号，2020.
- Shiho Ike（英訳）Sachiko Mori, When “dreams” are described by infants, Talking about Children Pt 1, International Association for Psychoanalytic Self Psychology(IAPSP) eForum, 2021.  
<海外講師招聘講演会>
- 池志保（国際プロジェクト委員長・通訳・翻訳）トーマス・コフト教授招聘講演会，JAPSP 国際プロジェクト，2021.

### ③過去の主要業績

#### 【辞典】

- 池志保（分担単独執筆）「創造」，『日常臨床語辞典』北山修監督・妙木浩之編，他共同執筆者，誠信書房，pp.266-270, 2006.

#### 【学会発表】

- Presenters: Jacqueline Gotthold, Amy Lebersonger, Karin Lebersorger, Shiho Ike, Martin Gossmann & Koichi Togashi. Politics Enters the Therapy Playroom: From Anna Freud to Ornstein to... 41st IAPSP Annual International Pre-Conference, Vienna, 2018.

#### 【翻訳】

- 池志保・外山敬（共著）心理療法における共感と失敗 講演論文翻訳：講師ヨシ・タミア，福岡県立大学心理臨床研究，10 卷，pp.57-63, 2018.

### 3. 外部研究資金

日本精神分析学会 2021 年度国際交流委員会助成金採択，池志保（企画者・申請者）JAPSP 海外講師招聘講演会.

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本精神分析学会、日本教育心理学会、日本病蹟学会、IAPSP (International Association for Psychoanalytic Self Psychology)、IARPP(The International Association for Relational Psychoanalysis and Psychotherapy) (各正会員)。

[その他の研究会]

NAPI 精神分析的間主観性研究グループ、日本精神分析学会認定福岡精神分析研究会、日本精神分析的自己心理学研究会（各正会員）。

[役員]

NAPI 精神分析の間主観性研究グループ運営委員（2019年度より現在まで）、JAPSP 日本精神分析的自己心理学研究グループ運営委員（2020年度より現在まで）、福岡精神分析研究会運営委員（2022年度より現在まで）。

6. 担当授業科目

[学部] 発達心理学 I-A（2単位・前期）、発達心理学 I-B（2単位・前期）、発達心理学 II（2単位・後期）、心理アセスメント（2単位・後期）、心理実習 I（1単位・通年）、心理実習 II（1単位・前期）、心理実習 III（1単位・後期）、演習（2単位・3年前期・4年前期）、卒業論文（6単位・4年後期）。

[大学院] 発達心理学特論（2単位・前期）、心理的アセスメントに関する理論と実践（2単位・前期）、心理支援に関する理論と実践（2単位・前期）、臨床心理実習（施設）（1単位・前期）、臨床心理実習（学内）（1単位・前期）、心理実践演習 A（2単位・通年）、心理実践演習 B（1単位・通年）、臨床心理基礎実習 B（2単位・通年）。

7. 社会貢献活動

（査読）福岡県立大学心理臨床研究

8. 学外講義・講演

芦屋大学ハラスメント研修会講師「職場のハラスメント、そして私たちの心」（2021年度）

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学学生相談室 学生相談員（部会長）

福岡県立大学心理教育相談室 相談室委員

人間社会学部／総合コース	職名	准教授	氏名	井上 奈美子
--------------	----	-----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

- ・ 資格：経済学博士。経営学修士（MBA）、キャリアカウンセラー（企業や自治体でのキャリア相談や女性活躍推進のアドバイスなども行っております）
- ・ 研究分野：・キャリア教育（大学生・高校生）・就業体験（インターンシップ）・女性リーダーシップ・女性活躍推進（田川市男女共同参画推進協議会会長として講演や調査を行っております）
  - ・ ライフキャリア（仕事と職業、働き方改革）・サービスマネジメント

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 井上奈美子、「キャリア教育に関連する海外文献レビュー」福岡県立大学人間社会学部紀要 Vol.27,1、2019年9月
- ・ 井上奈美子、「低学年次のインターンシップ派遣前学修の実践報告」福岡県立大学人間社会学部紀要、第28巻、第1号、2019年
- ・ 井上奈美子、「学生と受入先の能力評価に関する比較—大学1・2年生のインターンシップを通して—」九州経済学会年報、第58集、2020年12月
- ・ 井上奈美子・聞間理、Effect of Pre-and Post-internship Trainings for Freshmen and Sophomores in University Using the Lego Serious Play Method. 福岡県立大学人間社会学部紀要、第29巻、第2号、2021年3月
- ・ 井上奈美子・池志保、「大学1・2年生のためのインターンシップがもたらす教育的効果」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第30巻、第1号、2021年10月
- ・ 井上奈美子 「宝塚歌劇団の顧客に対するサービス・マネジメント」、九州経済学会年報 59、1-8, 2021-12

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 井上奈美子、低学年次インターンシップの自己評価と受入先機関評価の比較研究、日本ビジネス実務学会研究大会、東京、2019年
- ・ 井上奈美子、Effect of Pre- and Post-internship Trainings for Freshmen and Sophomores in University Using the Lego Serious Play Method、キャリア教育学会研究大会、長崎。2019年
- ・ 井上奈美子、学生と受入先の能力評価の比較～低学年次インターンシップを通して～、九州経済学会、福岡、2019年
- ・ 井上奈美子、大学低学年インターンシップ事前事後研修の効果と職業価値観、日本ビジネス実務学会、九州研究会、福岡、2020年



- ・ 井上奈美子、宝塚歌劇団における革新による持続的成長、日本ビジネス実務学会、九州ブロック研究会、福岡、2020年
- ・ 井上奈美子、博多阪急とのオンラインPBL設計教育、日本創造学会、年次大会、2021年
- ・ 井上奈美子、学生主体の学びあいと職業体験による社会人基礎力向上効果～振り返りと3か月後の面談に注目して～、日本キャリア教育学会研究大会、2021年
- ・ 井上奈美子、課題解決型インターンシップによる学生の意識変化：マインドマップを手掛かりにして、九州経済学会年次大会、2021年

### ③過去の主要業績

- ・ 学生の「力」をのばす大学教育第12章「女子大学生の組織学習を通じたキャリア形成に関するフィールドリサーチ」地域創造研究叢書唯学書房、愛知東邦大学地域創造研究所(183ページ)、2014年11月
- ・ 「女性リーダー育成プログラムの開発と実践～九州女性ビジネススクールの成果と課題～」『日本ビジネス実務論集』第33号、日本ビジネス実務学会、67-76頁、2015年
- ・ “Women's career life in contemporary Japan.” IAEVG International Conference 2015 国際キャリア教育学会、2015年

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本ビジネス実務学会会員（九州四国ブロック幹事）・九州経済学会 ・日本キャリア教育学会 ・日本創造学会

## 6. 担当授業科目

社会人基礎力演習2単位・1年2年・前期、教養演習2単位・1年・前期、プレインターンシップ2単位・1年2年・通年、問題解決演習2単位・2年3年・後期、ライフキャリア論2単位・12年・前期、キャリア教育論2単位・3年・前期、人的資源管理論2単位・2年前期、組織マネジメント2単位・3年・前期

## 7. 社会貢献活動

- ・ 一般社団法人日本経営協会 参与
- ・ 田川市男女共同参画推進協議審議会 会長（審議会、女性リーダー育成研修講師、男女共同参画市民意識調査など）
- ・ 久留米六つ門大学運営委員
- ・ 特定非営利法人久留米10万人女子会、フォーラム企画監修

## 8. 学外講義・講演

- ・ 一般社団法人日本経営協会女性ビジネススクール女性リーダー育成プログラム講師
- ・ 久留米六つ門大学 講師 「日本企業における SDG s の取り組み」
- ・ 田川市男女共同参画推進センターゆめっせ主催「女性リーダー育成研修会」講師
- ・ あすばる男女共同参画フォーラム 2021 特定非営利法人久留米 10 万人女子会主催「コロナ後をどう生きる？～育児、介護の地域力をあげて私たちが望む社会へ」2021 年 11 月 28 日 企画&ワークショップ講師

## 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	奥村 賢一
----------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。私が現在行っている種な研究テーマは以下の三点です。

一点目は、「学校ソーシャルワーク実践に関する研究」です。近年、複雑多様化する不登校・いじめ・非行等の教育課題を改善していくためにスクールソーシャルワーカーに求められる専門的役割や機能について実証研究を中心に行っています。二点目は、「児童虐待防止に向けた家族支援に関する研究」です。わが国の深刻な社会問題である児童虐待を早期発見・未然防止していくために求められる家族支援の具体的方法について研究を行っています。三点目は、「知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究」です。知的障害・発達障害（児）者の地域生活の充実を推進していく動きが広まりを見せていますが、利用可能な社会資源は限られており、障害特性に対応した専門的支援も不足しているのが現状です。このような状況を改善していくための一つの方策として、地域の有機的ネットワークを活用したソーシャルワークを研究しています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 奥村賢一（2022）「第4章 援助論としてのソーシャルワーク」「第6章 子どもと家庭に対する支援—虐待と貧困から捉える子ども家庭福祉—」「第11章 学校を拠点に実践を行うスクールソーシャルワーカー—子どもの教育保障に向けたソーシャルワーク—」横山登志子編『社会福祉実践とは何か』放送大学教育振興会.
- ・ 金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵。野尻紀恵編（2019）『新版 スクールソーシャルワーカー実務テキスト』, 学事出版.
- ・ 奥村賢一（2022）「知的障害児・者の家族支援」公益社団法人日本知的障害者福祉協会『さぽーと』69（1）34-37.
- ・ 奥村賢一（2021）「面接場面で支援者に求められる基本姿勢—バイスティックの7原則を中心に—」公益社団法人日本知的障害者福祉協会『さぽーと』68（8）32-35.
- ・ 奥村賢一（2021）「スクールソーシャルワーカーが行うアウトリーチの現状と課題—不登校に対する理解と対応を中心に—」『ソーシャルワーク研究』第46巻，第4号，40-46.
- ・ 奥村賢一（2021）「今、学校に求められるソーシャルワークの視点」『令和2年度論轉—福岡市立小学校長会研究紀要—』1-3.
- ・ 奥村賢一（2019）「親が別居・離婚している子どもに対する学校の対応」『教育と医学』第67巻，第6号，68-77.

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 奥村賢一（2022）「コロナ禍における学校現場とソーシャルワーク」コメンテーター，日本学校

ソーシャルワーク学会第15回全国大会・課題別研究分科会（オンライン）。

- ・ 奥村賢一（2019）「福岡県のスクールソーシャルワーカー事業の展開」日本学校ソーシャルワーク学会九州沖縄ブロック第11回研究大会・実践報告（電気ビル共創館）。

<報告書>

- ・ Kenichi Okumura（2020）Japanese School Social Workers in the Covid-19 Pandemic, Asia Network of School Social Work Newsletter , 1, 1-3.
- ・ Kenichi Okumura（2019）The Training System for School Social Workers, Asia Network of School Social Work, 8-23.

<評論>

- ・ 奥村賢一（2019）「学校に根差したSSWの活動形態と勤務形態」『月刊生徒指導』第49巻，第10号，56-57.

<辞書>

- ・ 奥村賢一（2021）「12 特別支援教育コーディネーター」一般社団法人日本ケアマネジメント学会編『ケアマネジメント事典』168-169.
- ・ 奥村賢一（2021）「非行少年」「少年審判」「矯正教育／試験観察」中坪史典・山下文一・松井剛太ほか『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房，538-539.
- ・ 奥村賢一（2019）「エコマップ」「エンパワメント」「岡村重夫」ほか九州社会福祉研究会編『21世紀の現代社会福祉用語辞典—第2版』学文社.

### ③過去の主要業績

- ・ 門田光司・奥村賢一（2009）『スクールソーシャルワーカーのしごと—スクールソーシャルワーカーのための実践ガイド』中央法規出版.
- ・ 奥村賢一（2009）「不登校児童生徒の状況改善に向けた家族支援の有効性に関する一考察—パワー相互作用モデルを基盤にした学校ソーシャルワーク」『学校ソーシャルワーク研究』第4巻.
- ・ 奥村賢一（2009）「ストレングスの視点を基盤にしたケースマネジメントの有効性に関する一考察—軽度知的障害者の地域生活支援実践を通して」『社会福祉学』第50巻，第1号.

## 3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費（基盤研究C）「子スクール（学校）ソーシャルワーク実習・実習指導プログラムの開発」117万円，令和3年度～令和5年度.
- ・ 科学研究費（基盤研究B）「子どもの貧困を支援するスクールソーシャルワークの介入プログラム構築とその評価」1,755万円，令和元年度～令和4年度.

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本学校ソーシャルワーク学会、日本ソーシャルワーク学会、日本子ども虐待防止学会、福岡県立大学社会福祉学会

## 6. 担当授業科目

【学部】不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、子供学習支援論・1単位・1年・後期、相談援助実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年、児童福祉論・2単位・2年・前期、相談援助実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年、相談援助実習・4単位・3年・通年、相談援助演習B・4単位・3年・通年、社会福祉学演習・4単位・3年・通年、相談援助演習C・1単位・3年・後期、学校ソーシャルワーク論・2単位・3年・後期、学校ソーシャルワーク実習指導・1単位・3年～4年・通年、学校ソーシャルワーク実習・2単位・4年・後期、家族福祉論・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年

【大学院】特別研究Ⅰ・4単位・1年、特別研究Ⅱ・4単位・2年、子ども家庭福祉研究・2単位・1・2年・前期、子ども家庭福祉演習・2単位・1・2年・後期

## 7. 社会貢献活動

- ・ 一般社団法人福岡県スクールソーシャルワーカー協会・副会長
  - ・ 公益社団法人北九州市障害者相談支援事業協会・理事
  - ・ 日本学校ソーシャルワーク学会・査読委員
  - ・ 福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー
  - ・ 福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー
  - ・ 福岡市こども・子育て審議会・委員
  - ・ 福岡市登校支援対策会議・副委員長
  - ・ 福岡市教育委員会再発防止検討委員会・委員長
  - ・ 福岡県社会福祉審議会・臨時委員
  - ・ 田川市要保護対策地域協議会代表者会議・委員
  - ・ 福岡市いじめ防止対策推進委員会・副委員長
  - ・ 香春町いじめ防止等対策委員会・副委員長
- 他

## 8. 学外講義・講演

- ・ 令和3年度大分市教育委員会学校教育相談研修「チーム学校におけるスクールソーシャルワーカーの役割」オンライン、2021年8月
- ・ 令和3年度福岡教師塾「積極的生徒指導を実現する学校経営—保護者や関係機関を巻き込むには—」オンライン、2021年9月.
- ・ 令和3年度福岡市主任児童委員研修会「地域における子どもや家庭へのサポート—私ができる見守りとは—」男女共同参画推進センターアミカス、2021年10月.

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ 不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	金 恩愛
------------------	----	-----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

研究分野は、日韓対照研究。とりわけ、日本語と韓国語における表現様相の相違点の解明を中心テーマとする。韓国語と日本語は、同じ漢字文化圏という背景とともに、文法的な類似性もあって、両言語間に存在する表現様相の違いにはなかなか気づきにくい。私は、日本語と韓国語のこうした違いを、表現のあり方を問う表現様相という観点から捉えなおしている。表現様相という観点から見たとき、まず言えるのは、日本語は韓国語に比べ相対的に名詞的な表現が好まれ、韓国語は日本語に比べ相対的に動詞的な表現が好まれるという点である。こうした日韓表現様相論に立脚した研究成果は、言語教育にも即応用できるものである。今後は、韓国語と日本語における表現様相の違いを明らかにしていく研究とともに、そこから得られた研究成果を、言語教育の現場にどのように還元できるか、教材作りや、辞書編纂、日韓翻訳という角度から考えていきたい。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 金恩愛(2020)「日本語の名詞志向構造と韓国語の動詞志向構造」東京大学大学院総合文化研究科博士論文.
- ・ 山崎玲美奈・金恩愛(2020)『起きてから寝るまで韓国語表現 1000』東京：アルク
- ・ 金恩愛(2021)「ネイティブにぐっと近づく擬音語・擬態語 26」韓国語ジャーナル 2021』東京：アルク.

### ②その他最近の業績

- ・ 金恩愛(2021)「コロナ時代の韓国語教育—オンライン教育を中心に」2021年度九州・沖縄地域韓国語教師ワークショップにて講義. 主催：福岡韓国教育院. 2021.11.17
  - ・ 金恩愛(2021)「YouTube を活用した韓国語教育について—音読学習に注目して」第1回東アジア言語文化フォーラムにて発表. 主催：東アジア言語文化研究会. 2022.3.26
- <エッセイ>
- ・ 金恩愛(2018.4～2021.3)「日本の風景」(原文は韓国語)『福岡韓国教育院心』
  - ・ 金恩愛(2021)「変化する時代、変化する韓国語教育」(原文は韓国語)『福岡韓国教育院 2021Vol.1』

### ③過去の主要業績

- ・ 金恩愛(2006)「日本語の「-さ」派生名詞は韓国語でいかに現れるか—翻訳テキストを用いた表現様相の研究—」『日本語教育』129号。東京：日本語教育学会
- ・ 油谷幸利・金美仙・金恩愛(2015)『韓国語実力養成講座 1 間違いやすい韓国語表現 100 上級編(韓国語実力養成講座 3)』東京：白帝社
- ・ KIM Eunae. 2018. Korean. In Tasaku Tsunoda(ed.), Levels in clause linkage. A crosslinguistic survey,353-401. Berlin&Boston: De Gruyter Mouton.

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

朝鮮学会、韓国日本語教育学会、韓国日本語学会、東アジア言語文化研究会

### 6. 担当授業科目

コリア語Ⅰ-(1)・コリア語Ⅰ-(2)・2単位・1年・通年、コリア語Ⅱ-(1)・コリア語Ⅱ-(2)・2単位・2年・通年、コリア語Ⅲ-(1)・コリア語Ⅲ-(2)・2単位・3年・通年、教養演習・1単位・1年・前期、韓国の社会と文化・2単位・2年・後期、グローバル社会論・2単位・2年・後期

### 7. 社会貢献活動

「話してみよう韓国語第12回福岡大会」(審査員)2021年12月4日

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	河野 高志
----------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2006年3月京都府立大学福祉社会学部卒業。2012年3月京都府立大学大学院公共政策学研究科福祉社会学専攻博士後期課程修了。博士（福祉社会学）。京都府立大学、京都女子大学、神戸親和女子大学の非常勤講師を経て、2012年10月に本学着任。専門はソーシャルワーク論、ケアマネジメント論です。これまでの研究では、①英米を中心としたケアマネジメント発展過程の整理、②ミクロ・レベルからマクロ・レベルにおけるケアマネジメントの特徴の抽出、③ソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の検討を行ってきました。現在は、地域包括ケアシステムにおける多職種連携と、地域共生社会におけるソーシャルワーカーの活用に関する研究を進めています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- 河野高志 (2021) 『ソーシャルワークとしてのケアマネジメントの概念と展開 ―地域包括ケアシステムにみるミクロからマクロの実践―』株式会社みらい
- 河野高志 (2021) 「地域共生社会の実現に向けたソーシャルワーカーの役割と課題 - 先行研究の分析を通じた検討 -」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、pp.19-38
- 河野高志 (2021) 「地域包括ケアシステムの構築における課題と進捗状況の検討 - 地域包括支援センターの全国調査を通して -」『社会福祉学』第62巻第2号、pp.76-90

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- 河野高志 「地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進要因」日本社会福祉学会 第67回秋季大会、大分大学、2019年9月22日

#### <辞典>

- 九州社会福祉研究会編 (2019) 『21世紀の現代社会福祉用語辞典 (第2版)』学文社

### ③過去の主要業績

- 河野高志 (2012) 『ソーシャルワークにおけるケアマネジメント方法の構築 ―実践研究による方法の理論的検証―』京都府立大学大学院公共政策学研究科博士学位論文
- 河野高志 (2019) 「地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進要因」『社会福祉学』第60巻第1号、pp.63-74
- 河野高志 (2010) 「海外のソーシャルワーク事情 - 英米の比較からみる日本のケアマネジャーの課題 -」『月刊ケアマネジメント』12月号、環境新聞社、pp.12-14



### 3. 外部研究資金

令和 2～5 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）「地域共生社会の構築におけるソーシャルワーカー活用の効果に関する研究」（研究代表者：河野高志）2,080 千円

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本リハビリテーション心理学会

### 6. 担当授業科目

《学部》

「社会福祉学概論Ⅱ」（2 単位・1 年・後期）、「ソーシャルワーク演習 A」（1 単位・1 年・後期）、  
「相談援助演習 A」（2 単位・2 年・通年）、「相談援助実習指導Ⅰ」（2 単位・2 年・通年）、「相談援助実習指導Ⅱ」（1 単位・3 年・通年）、「相談援助の理論と方法 A」（2 単位・2 年・前期）、  
「相談援助実習」（4 単位・3 年・通年）、「相談援助の理論と方法 D」（2 単位・3 年・前期）、  
「相談援助演習 C」（1 単位・3 年・後期）、「社会福祉学演習」（2 単位・3 年・通年）、「卒業論文」（6 単位・4 年・後期）

《大学院》

「ソーシャルワーク研究」（2 単位・1～2 年・前期）  
「ソーシャルワーク演習」（2 単位・1～2 年・後期）

### 7. 社会貢献活動

直轄地区居住支援協議会 委員  
一般社団法人日本社会福祉学会 第 6 期代議員

### 8. 学外講義・講演

出前講義「社会福祉学入門」大分県立中津北高校、2021 年 10 月 15 日

### 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	柴田 雅博
------------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1999年九州大学システム情報科学研究科修士課程を修了、2005年同大学同研究科博士後期課程を単位取得退学。財団法人九州システム情報技術研究所に勤務後、九州大学システム情報科学研究科に戻り研究員を勤める。2012年フェリス女学院大学情報センター助手を勤めたのち、2015年本学人間社会学部講師に着任する。

専門は自然言語処理という人間が日常使っている言葉（自然言語）をコンピュータで解析し他の処理に応用する研究である。その中で私は特にWWW上にある膨大なテキストデータを利用し、そこから言語知識を獲得し、英日のフレーズ翻訳知識を収集したり対話処理に応用したりといったことを行っている。そのほか、情報教育、プログラミング教育に関する研究も行っている。

本学では情報学教育を中心として、教育プログラム「データサイエンス・プログラム」に携わっている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博, 許棟翰, 藤田和利, 松崎貴之, 小松啓子「社会福祉法人における業務支援システムの導入効果と課題—T社会福祉法人の事例を通じて—」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.28, No.1, pp.51-63, (2019.9).
- ・ 柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果(2019年度)」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.28, No.2, pp.55-69, (2020.2).
- ・ 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博「障害福祉サービス事業所におけるICTシステム導入の実績とそれに伴う業務効率の意識—T県におけるアンケート調査を通じて—」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.29, No.2, pp.47-60, (2021.3).
- ・ 柴田雅博「幼児期プログラミング教育用教材の分析」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.29, No.2, pp.103-114, (2021.3)
- ・ 柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果(2020年度)」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.29, No.2, pp.179-190, (2021.3).
- ・ 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博「介護サービス事業所におけるICT導入の実績とそれに伴う業務効率の意識—A県におけるアンケート調査を通じて—」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.30, No.1, pp.63-75, (2021.10).
- ・ 柴田雅博「2020年度のオンライン授業への取り組み—NII主催のサイバーシンポジウムを通して—」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.30, No.1, pp.77-88, (2021.10).

- ・ 大久保淳子, 坂無淳, 柴田雅博『英国の初等教育におけるプログラミング教育の現状と動向—教科「Computing」の分析—』, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.30, No.1, pp.127-139, (2021.9).
- ・ 柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果(2021年度)」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, Vol.30, No.2 (2022.3掲載予定) .

## ②その他最近の業績

### <学会発表>

- ・ 寺島正博, 石崎龍二, 柴田雅博, 許棟翰, 松崎貴之, 藤田和利. 小松啓子:「日本の障害福祉サービス事業所における業務支援システムの導入とその課題—T 社会福祉法人の事例を通じて—」, 第98回韓国日本学会国際学術大会, (2019.2).
- ・ 大久保淳子, 坂無淳, 柴田雅博:「就学前のプログラミング的思考の育成カリキュラムの開発」, 国際幼児教育学会第41回大会, (2020.9).

## ③過去の主要業績

- ・ 柴田雅博, 富浦洋一, 田中省作:「Web上の語の共起性に基づいたコロケーションの翻訳支援」, 情報処理学会論文誌, Vol.46, No.6, pp.1479-1491, (2005.6).
- ・ 柴田雅博, 富浦洋一, 西口友美:「雑談自由対話を実現するためのWWW上の文書からの妥当な候補文選択手法」, 人工知能学会論文誌, Vol.24, No.6, pp.507-520, (2009.9).
- ・ M. Shibata, T. Funatsu, Y. Tomiura: “Extraction of Alternative Candidates for Unnatural Adjective-Noun Co-occurrence Construction of English”, *Procedia - Social and Behavioral Sciences*, Vol.27, pp.32-41, (2011.11).

## 3. 外部研究資金

- ・ 日本学術振興会, 科学研究費基盤研究(C), 「大学生のITセキュリティに関する新たな教育プログラムの構築」(研究代表者: 中村晋介) 3,380千円, 平成28年度~令和元年度,, 研究分担者.
- ・ 日本学術振興会, 科学研究費基盤研究(C), 「プログラミング的思考の育成カリキュラムの開発—就学前~小学校の接続を焦点として—」(研究代表者: 大久保淳子) 3,510千円, 令和元年度~令和3年度, 研究分担者.

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

情報処理学会, 電子情報通信学会, 人工知能学会, 言語処理学会, 日本情報教育学会

## 6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期，情報処理の基礎と演習・2単位・1年・前期，情報処理応用演習・1単位・1～2年・後期，Webデザイン演習・1単位・2年・前期，情報ネットワーク論・2単位・2年・後期，データベース論・2単位・2年・後期，グローバル社会論・2単位・2年・後期（オムニバス），プログラミング演習・1単位・3年・前期，情報検索システム論・2単位・3年・後期

## 7. 社会貢献活動

## 8. 学外講義・講演

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ R3 研究奨励交付金研究 (COC) 「保健福祉分野における業務改善のための情報ネットシステム・モデル開発」，研究分担者
- ・ R3 研究奨励交付金研究（データサイエンス）「教育効果の高いオンライン授業運営に関する研究」，研究代表者
- ・ R3 研究奨励交付金研究（横断型教育プログラム開発）「データサイエンスプログラムのプログラム体系化と教材開発に関する研究」，研究分担者
- ・ R2 研究奨励交付金研究（重点領域）「地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データの GIS 分析による地域診断モデルの開発」，研究分担者

人間社会学部／地域社会コース	職名	准教授	氏名	堤 圭史郎
----------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2008年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。同大学都市文化研究センター研究員、同大学都市研究プラザ GCOE 特別研究員に従事。2009年、博士（文学）を取得。2010年4月より本学に着任。2011年、共著書『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』により、第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を共同受賞。2014年、一般社団法人社会調査協会より、第4回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞。

主な研究分野：社会学の立場から貧困問題・都市問題・地域問題を研究している。とりわけホームレスの人々をめぐる様々な「問題」について研究してきた。近年は、生活困窮者支援モデルに関する研究、大都市都心のコミュニティ状況把握、公式統計を用いた社会的排除地域析出に関する研究等を行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 堤圭史郎・坂無淳・阪井裕一郎,2021,「福岡県内自治体の男女共同参画推進状況——政策意思決定・行政組織・地域自治への女性参画に着目して」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29-2: 61-74.
- ・ 堤圭史郎,2020,「排除と差別に抗する地域社会の可能性—貧者の施設をめぐるコンフリクトに着目して」谷富夫・稲月正・高畑幸編『社会再構築への挑戦』ミネルヴァ書房.
- ・ 堤圭史郎,2019,「貧者の施設と地域社会—施設コンフリクトと『良好な関係』」『理論と動態』12: 78-94.
- ・ 堤圭史郎,2019,「『都心回帰』する大阪の貧困」鯨坂学・西村雄郎・丸山真央・徳田剛編『さまざまよえる大都市・大阪—「都心回帰」とコミュニティ』東信堂: 263-278

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ ○堤圭史郎・相川陽一,「小規模非合併農協の取組にみられる移住促進要因—大分県中津市下郷地区における地域生活文化圏の形成と展開 (1)」, 第92回日本社会学会大会,東京女子大学, 2019年10月6日.
- ・ ○相川陽一・堤圭史郎,「小規模非合併農協による地域自治の可能性—大分県中津市下郷地区における地域生活文化圏の形成と展開 (2)」, 第92回日本社会学会大会,東京女子大学, 2019年10月6日.
- ・ ○坂無淳・阪井裕一郎・堤圭史郎,「福岡県における地方自治体のジェンダー政策—男女共同参画推進体制の類型化」第77回西日本社会学会大会,佐賀大学, 2019年5月25日.

#### <研究報告書等>

- ・ 特定非営利活動法人 抱樸, 2019, 『社会的孤立状態にある「中卒スネップ」等捕捉することが困難な子どもたちの実態把握に関する調査手法の研究、高校卒業時に家族不在状態にある児童・若者たちへの切れ目のない支援に関する研究、家族ごと孤立状態にある世帯への支援に関する研究、及びそれらを支える地域づくりに関する研究に関する事業報告書』厚生労働省平成 30 年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金（社会福祉推進事業）。（第 4 章を共同執筆）

#### <書評>

- ・ 堤圭史郎, 2022, 「書評 コミュニティ理論と社会思想」『社会分析』49.（近刊）
- ・ 堤圭史郎, 2019, 「中澤秀雄／嶋崎尚子編著『炭鉱と「日本の奇跡」—石炭の多面性を掘り直す』」『日本都市社会学会年報』37: 123-125.

### ③過去の主要業績

- ・ 奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎, 2014, 『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店.
- ・ 堤圭史郎, 2014, 「多重債務経験者等の生活問題に関する調査研究—福岡県立大学人間社会学部公共社会学科の社会調査実習」『社会と調査』12:85-89.（本稿にて第 4 回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞）
- ・ 青木秀男編, 2010, 『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』, ミネルヴァ書房.（序章「ホームレス・スタディーズへの招待」5 章「家族規範とホームレス—扶助か桎梏か」（妻木進吾との共著）を執筆。本稿にて第 7 回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を共同受賞）

### 3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省, 科学研究費補助金（基盤研究C）, 「生活困窮者自立支援に基づく排除と差別に抗する包摂=連帯型地域社会の可能性」, 課題番号 18K02000, 2018~20 年度, 1,950 千円, 研究代表者.
- ・ 文部科学省, 科学研究費補助金（基盤研究B）, 「大阪大都市圏住民の社会的紐帯と近隣効果の研究：混合研究法による都市社会調査」, 課題番号 20H01578, 2020~24 年度, 13,130 千円, 研究分担者（研究代表者：川野英二・大阪市立大学）.

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

関西社会学会、地域社会学会（編集委員）、西日本社会学会、日本社会学会（理事選挙管理委員）、日本社会病理学会、日本社会分析学会、日本都市社会学会（事務局担当理事）、貧困研究会、ソシオロジ同人

## 6. 担当授業科目

社会学A・2単位・1年・前期      社会学B・2単位・1年・後期  
社会病理学・2単位・2年・前期      社会変動と社会問題・2単位・2年・後期  
公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期      公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期  
卒業論文・6単位・4年・通年  
地域問題研究・2単位・大学院・前期      地域問題演習・2単位・大学院・後期

## 7. 社会貢献活動

- ・ 一般社団法人日本伴走型支援協会・伴走型支援研究会・委員
- ・ 川崎町地域公共交通会議・委員
- ・ 添田町子ども・子育て会議・会長
- ・ 田川市社会教育委員
- ・ 田川市地域公共交通会議・副会長
- ・ 特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・研究員
- ・ 福岡県隣保館人権課題把握調査検討委員
- ・ 福岡県人権啓発情報センター企画委員会・委員      等

## 8. 学外講義・講演

- ・ 北京 JAC 講座「福岡県内自治体のジェンダー平等推進の現状と政策的課題：公開データの批判的活用をもとに」講師（坂無淳・阪井裕一郎と共同。2022年2月5日 於クローバープラザ）。

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ 「筑豊の子供を守る会」資料集成研究会

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	寺島 正博
----------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究対象については、知的障害者のグループホーム（以下、GHと省略する）従事者における専門職性、および、無自覚の障害者虐待等である。

GH従事者の専門職性については、近年の「地域生活移行」の風潮に伴いGHは増加の一途を辿っている。しかし、利用者の増加に伴いニーズは多様化をみせ、その範囲は拡大し続けているにも関わらず、それを受け止めるGH従事者の専門職性が必ずしも追いついていない。「GH従事者は専門職と成り得るのか」といった研究テーマを設定し、歴史研究や理論研究、さらには、実態解明の研究を基に専門職への道筋について探究してGH従事者の専門職性を実証的に検討している。

また、昨今、新聞等が大きく報道しているように、障害者への虐待は重大な人権侵害となる。この障害者虐待に対し、国内外で未だ明らかにされていない無自覚の虐待（障害福祉サービス従事者・養護者・使用者が自覚をせずに障害者へ行う虐待）に着目し、その実態を明らかとし、無自覚の虐待の解消と防止に向けた支援モデルの研究を行っている。

具体的には、障害福祉サービス従事者や市町村虐待防止センター職員等が、無自覚の虐待に対し、被害者（障害者）と加害者（障害福祉サービス従事者（同僚）・養護者・使用者）にどのような意識を持ち、どのような支援を展開し、どのような支援課題を抱えているのか、また、無自覚の虐待の発生要因と個人属性や環境がどのような関係性にあるのかを明らかとし、無自覚の虐待の解消と防止に向けた支援モデルの構築を行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <論文>

- ・（単著）寺島正博「障害福祉サービス従事者における『養護者による障害者虐待』の支援に関する研究－全国訪問系サービス事業所のアンケート調査を通して－」（査読有）『発達障害者支援システム学研究』第19巻第2号，2020年，103-113頁.
- ・共著）寺島正博、石崎龍二、柴田雅博「介護サービス事業所におけるICT導入の実績とそれに伴う業務効率の意識 - A県におけるアンケート調査を通じて - 」（『福岡県立人間社会学部大学紀要』第30巻第1号，2021年，63-75頁.
- ・（共著）寺島正博、石崎龍二、柴田雅博「障害福祉サービス事業所におけるICT導入の実績とそれに伴う業務効率の意識 - T県におけるアンケート調査を通じて - 」（『福岡県立人間社会学部大学紀要』第29巻第2号，2021年，47-60頁.
- ・（共著）寺島正博 石崎龍二 柴田雅博 許棟翰 小松啓子 松崎貴之「社会福祉法人における業務支援システムの導入効果と課題 - T社会福祉法人の事例を通じて - 」（『福岡県立人間社会学部大学紀要』第28巻第1号，2019年，51-63頁.



## ②その他最近の業績

### <学会発表>

- ・ (共同) 許棟翰・寺島正博・柴田雅博「日本の障害福祉サービス事業所における業務支援システムの導入とその課題—T 社会福祉法人の事例を通じて—」『第 98 回韓国日本学会国際学術大会』(査読有), 口頭発表, 2019 年.
- ・ (共著)『2022 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2021 年.
- ・ (共著)『2022 精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規, 2021 年.
- ・ (共著)『2021 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2020 年.
- ・ (共著)『2021 精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2020 年.
- ・ (共著)『2020 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2019 年.
- ・ (共著)『2020 精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規, 2019 年.

### <辞典>

- ・ (共著) 寺島正博 「知的障害者相談員」、「バンク＝ミケルセン」「ピア・カウンセリング」、「S T (言語聴覚士)」他全 18 項目,九州社会福祉研究会編(編集代表:田畑洋一・鬼崎信好・門田光司・倉田康路・片岡靖子・本郷秀和編集代表)『新版 21 世紀の現代社会福祉用語辞典』,学文社,2019 年.

## ③過去の主要業績

### <著書>

- ・ (単著) 寺島正博『障害者の地域移行への援助—グループホーム従事者の専門職性』文芸社, 2012 年.

### <論文>

- ・ (単著) 寺島正博「障害福祉サービス従事者における『無意識の不適切行為』に関する研究—目撃従事者の観点によるその発生・増幅要因とその意識化要因の検討—」(査読有)『障害理解研究』第 19 号, 2018 年, 11-20 頁.
- ・ (単著) 寺島正博「障害福祉サービス従事者における無意識の不適切行為の防止に関する研究—全国アンケート調査による無意識の不適切行為の認識からの検討—」(査読有)『九州社会福祉学』第 13 号, 2017 年, 56-67 頁.

## 3. 外部研究資金

「障害児者の『養護者による無意識の虐待』における従事者の支援モデルに関する研究」平成 30 年度科学研究費助成事業(若手研究)研究代表者, 3,380 千円, 平成 30 年度~令和 3 年度.

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

- ・ 日本社会福祉学会
- ・ 日本ソーシャルワーク学会
- ・ 日本発達障害学会
- ・ 日本発達障害支援システム学会
- ・ 日本障害理解学会

## 6. 担当授業科目

相談援助実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年、相談援助実習指導Ⅱ・2単位・3年・通年、相談援助演習B・2単位・3年・通年、社会福祉学演習・2単位・3年～4年・後期～前期、卒業論文・6単位・4年・通年、障害者福祉論・2単位・2年・前期、就労支援・1単位・3年・前期、精神保健福祉論Ⅰ・2単位・2年・後期、相談援助演習C・1単位・3年・後期

## 7. 社会貢献活動

- ・ 飯塚市指定管理者選定委員長
- ・ 糸田町公共交通会議副会長
- ・ 糸田町地方創生人口減少対策委員
- ・ みやこ町障害福祉施策検討委員

## 8. 学外講義・講演

- ・ 長崎南高校のSSH事業「未来デザインスクール」講師

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ 「保健福祉分野における業務改善のための情報ネットシステム・モデル開発」令和3年度研究奨励交付金（COC研究）研究代表者，439,100円（令和3年度），令和3年度～令和4年.

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	中原 雄一
------------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

運動やスポーツ活動を含めた身体活動の重要性について研究を行っており、青年期を中心に幼児や勤労者などを対象に幅広く検討している。また、健康運動指導士やジュニアスポーツ指導員、健康経営アドバイザーの資格を活かし、実際に現場での運動指導や助言なども行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ <著書> 中原雄一. 子どもの保健と安全 (高内正子編著). 教育情報出版, 担当: 50-51,64-65. 2020.
- ・ <総説> 中原雄一. 介護者・介護職従事者における運動の効用 (特集 運動療法の新領域: 広がるターゲット). 体育の科学,69(2): 118-122. 2019.
- ・ <論文等> 中原雄一、池田孝博. コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の実態: 2020年度と2021年度で相違はみられるのか. 大学体育スポーツ学研究, 19: 2022. (印刷中/早期公開済)
- ・ 池田孝博、中原雄一. コロナ禍での緊急事態宣言下における福岡県立大学新入生の健康状態とその関連要因. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 30(1): 191-199. 2021.
- ・ 中原雄一、池田孝博. コロナ禍における緊急事態宣言下の大学新入生の身体活動状況と精神的健康度. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 29(2): 115-122. 2021.
- ・ 池田孝博、杉野寿子、大久保淳子、鷲野彰子、中原雄一、伊勢慎. 保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 29(2): 215-223. 2021.
- ・ 杉野寿子、田中美樹、吉川未桜、中原雄一、吉田麻美、池田孝博. 保育士養成課程における保健・健康に関する学びの研究. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 29(1): 73-80. 2020.
- ・ 中原雄一、砂原里南、高橋楓. ラグビーワールドカップ2019日本大会を通じた「ささええる」スポーツの事例. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 28(2): 111-122. 2020.
- ・ 池田孝博、中原雄一、陸麗君、松岡佐智、佐藤繁美. 福岡県立大学人間社会学部紀要の査読制度導入後の現状と諸課題. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 28(2): 123-131. 2020.
- ・ 中原雄一、池田孝博. 幼児期を対象に運動・スポーツ活動の取り組みを行っている自治体の特徴. 福岡県立大学人間社会学部紀要, 28(1): 27-35. 2019.
- ・ 中原雄一、西脇雅人、藤本敏彦、池田孝博. 大学体育における実技と講義の同時受講が大学生の健康度・生活習慣に与える影響. 大学体育スポーツ学研究, 16: 13-18. 2019.

### ②その他最近の業績

- ・ <特別講演> 中原雄一. 大学生における体育系課外活動と精神的健康度の関係. 令和元年度東北体育・スポーツ学会大会 (仙台), 2019.

- ・ <学会発表> 神藤隆志、北濃成樹、永田康喜、中原雄一、鈴木一宏、永松俊哉. 男子高校生における学校運動部活動の早期離脱の関連要因. 第 23 回日本健康支援学会年次学術大会 (Web 開催), 2022.
- ・ 藤本敏彦、永山貴洋、中原雄一. コーチングを用いたソフトボールの授業の事例報告. 第 10 回大学体育スポーツ研究フォーラム (オンライン開催), 2022.
- ・ 中原雄一、角田憲治、藤本敏彦、池田孝博. コロナ禍に伴う緊急事態宣言下の身体活動促進の効果. 第 76 回日本体力医学会大会 (Web 開催), 2021.
- ・ 中原雄一、池田孝博. コロナ禍における大学新入生の歩数と精神的健康度の実態—2020 年度と 2021 年度で相違はみられるのか—. 九州体育・スポーツ学会第 70 回記念大会 (オンライン開催), 2021.
- ・ Ikeda T, Nakahara Y. An investigation into the relationship between lifestyle, health status, mental stress and virus-fixated anxiety among university freshmen during the Covid-19 pandemic. 26th Annual Congress of the European College of Sports Science (Virtual Congress), 2021.
- ・ 中原雄一、池田孝博. コロナ禍に伴う緊急事態宣言が大学新入生の身体活動状況と精神的健康度に及ぼす影響. 第 9 回大学体育スポーツ研究フォーラム (オンライン開催), 2021.
- ・ 中原雄一. 幼児期における運動・スポーツ活動の自治体の取り組み. 第 75 回日本体力医学会大会 (Web 開催), 2020.
- ・ Nakahara-Gondoh Y, Tsunoda K, Ikeda T, Fujimoto T. Cross-sectional and longitudinal relationships between physical fitness and health status among university students. American College of Sports Medicine 67th Annual Meeting (Virtual Experience), 2020.
- ・ 中原雄一、角田憲治、池田孝博、藤本敏彦. 体力レベル別にみた大学生の 1 年間の精神的健康度の変化. 第 74 回日本体力医学会大会 (つくば), 2019.
- ・ 黒川修行、中原雄一、小宮秀明、前田順一. 咀嚼能力と体力との関連性について. 第 74 回日本体力医学会大会 (つくば), 2019.
- ・ 中原雄一、角田憲治、池田孝博、藤本敏彦. 女子大学生における体力レベルと精神的健康度との関連. 日本体育学会第 70 回大会 (横浜), 2019.
- ・ Nakahara-Gondoh Y, Tsunoda K, Fujimoto T. Comparisons of physical fitness, physical activity and psychological well-being by participation in extracurricular sports activities. Asia-Singapore Conference on Sport Science 2019. (Singapore), 2019.
- ・ 中原 (権藤) 雄一、神藤隆志、北濃成樹、永松俊哉、酒本勝太、永田康喜、具志堅武、鈴木一宏. 男子高校生における部活動種目による体組成と体力レベルの比較: 横断的検討. 日本発育発達学会第 17 回大会 (東京), 2019.

### ③過去の主要業績

- ・ <論文> Gondoh Y, Tashiro M, Itoh M, Masud M, Sensui H, Watanuki S, Ishii K, Takekura H, Nagatomi R and Fujimoto T. Evaluation of individual skeletal muscle activity by glucose uptake during pedaling exercise at different workloads using positron emission

tomography. J Appl Physiol. 107(2): 599-604, 2009.

- ・ 中原（権藤）雄一、角田憲治、甲斐裕子、朽木勤、内田賢、永松俊哉. 勤労者における介護の有無と精神的健康度、身体活動量に関する検討. 厚生の指標, 63(5): 1-6. 2016. (第 18 回川井記念賞)
- ・ <著書> 中原（権藤）雄一. 楽しく学ぶ運動遊びのすすめ ―ポートフォリオを活用した保育実践力の探求― (柴田卓、石森真由子編著). みらい, 担当ページ: 86, 126-128. 2017.

### 3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 平成 30 年度～令和 4 年度, 交付金額 4,030 千円 研究課題「大学生において体力は精神的健康度の予測因子となり得るか? : 4 年間にわたる縦断研究」(代表)
- ・ 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 平成 31 年度～令和 3 年度, 交付金額 1,950 千円 研究課題「高等学校の体育における学習指導要領遂行の実態調査」(分担)

### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本体力医学会(評議員)、日本体育・スポーツ・健康学会、日本運動生理学会、日本発育発達学会、日本学校保健学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本健康学会、九州体育・スポーツ学会

#### 6. 担当授業科目

<学 部>健康スポーツ論・2 単位・1 年前期、教養演習・1 単位・1 年前期、健康科学実習Ⅰ・1 単位・1 年前期、健康科学実習Ⅱ・1 単位・1 年後期、子どもの保健・2 単位・1 年後期  
<大学院>特別研究Ⅰ 4 単位・1 年通年、子どもの身体教育研究・2 単位・1 年前期、教育課題研究 B・2 単位・1 年後期、子ども教育実践実習Ⅰ・1 単位・1 年後期、特別研究Ⅱ 4 単位・2 年通年、地域教育課題演習・2 単位・2 年前期、子ども教育実践実習Ⅱ・1 単位・2 年前期、子ども身体教育演習・2 単位・1-2 年後期

#### 7. 社会貢献活動

- ・ 日本体力医学会北九州地方会 幹事 ・ 学術論文の査読: 大学体育スポーツ学研究

#### 8. 学外講義・講演

#### 9. 附属研究所の活動等

令和 3 年度 附属研究所重点領域研究: 研究課題名「子どもの健康と保育に関する専門職連携の模索―福岡県の医療及び保育の現場での実態調査と養成校の実践―」(研究代表者: 杉野寿子) 研究分担者

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	中村 晋介
------------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1. 若者の意識・世代間ギャップに関する研究:「他者」を理解するための技法を洗練させてきた社会学や社会人類学に基づいて、現代の日本に生きる若い世代の社会意識（恋愛観，社会観，就業観，ファッション選好，インターネットに対する意識など）の解説を試みています。
2. ジェンダー論・結婚観に関する研究：日本社会における「女性の社会進出」や「非婚社会の行く末」について、社会学的な観点から研究しています。
3. 大学生（特に文系大学生）の IT セキュリティを向上させる方法について、量的調査と質的調査の両方を用いて検討しています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 中村晋介・柴田雅博・石崎龍二「文系大学生の IT セキュリティ実践の現状と課題 (2)——教育プログラムの効果測定」中村晋介編『大学生の IT セキュリティに関する新たな教育プログラムの構築』福岡県立大学人間社会学部，2020 年 3 月。
- ・ 中村晋介「女子大学生・専門学校生の恋愛積極性・恋愛観に関する比較研究」『現代の社会病理』No.34:75-89, 2019 年 10 月。
- ・ 中村晋介「日本人がオリンピックで日本代表を応援するのは当たり前か？」友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編『社会学で描く現代社会のスケッチ』(株)みらい，2019 年 8 月。

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 中村晋介「女子大学生・専門学校生の恋愛への積極性——ファッション選好との関係に着目して」日本社会病理学会 第 35 回大会（流通経済大学），2019 年 9 月。
- ・ 中村晋介・阪井俊文「青年期女性の恋愛観に関する尺度構成の試み」日本発達心理学会 第 30 回大会（早稲田大学），2019 年 3 月。

### ③過去の主要業績

- ・ 中村晋介「大学生と恋愛——恋愛に対する積極性の促進要因と阻害要因に着目して」『現代の社会病理』No.31:95-108, 2016 年 9 月。
- ・ 中村晋介「大学生の web セキュリティ実践」『福岡県立大学人間社会学部紀要』vol.21-2:1-14, 2013 年。
- ・ 中村晋介「社会学者と社会参加——ピエール・ブルデューのネオリベラリズム批判」『西日本社会学会年報』No.3:53-69, 2005 年。

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本社会学会，日本社会病理学会，日本発達心理学会，日本青年心理学会，日本家政学会，  
日本社会分析学会，日本情報教育学会，西日本社会学会

### 6. 担当授業科目

プレ・インターンシップ・2 単位・1 年・前期，教養演習・1 単位・1 年・前期，社会調査  
法・2 単位・1 年・後期，社会学史Ⅰ・2 単位・2 年・前期，社会学史Ⅱ・2 単位・2 年・後  
期，質的調査法・2 単位・2 年，後期，現代社会論A（ジェンダー・世代）・2 単位・2 年・  
前期，グローバル社会論・2 単位・2 年・後期，

### 7. 社会貢献活動

川崎町子ども・子育て会議 会長  
福岡県立飯塚研究開発センター 入居審査委員  
NPO 福祉用具ネット 理事  
九州大学社会学同窓会 常任幹事

### 8. 学外講義・講演

「占いはなぜあたるのか」九州国際大学附属高等学校，2021 年 12 月 1 日.

### 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	廣田 久美子
----------------	----	-----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2009年3月九州大学大学院法学府公法・社会法学専攻博士後期課程単位取得満期退学。2018年4月に本学着任。専門分野は社会法（社会保障法）。

主な研究課題：障害のある人の雇用保障と就労支援保障を研究している。とくに、日本の障害者の就労支援のあり方について、障害者総合支援法、障害者雇用促進法等の雇用保障法制を中心として、就労支援の中心となっている、就労継続支援給付の現状と課題、支援つき雇用等の雇用促進施策との連携、賃金・工賃と公的給付の関係などについて、障害者権利条約第27条の「労働によって生計を立てる権利」の保障という観点から検討を行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 大曾根寛、奥貫妃文、木村茂喜、原田欣宏、廣田久美子『改訂版 社会福祉と法』放送大学教育振興会、2020年
- ・ 増田雅暢、脇野幸太郎、西山裕、木村茂喜、嶋田佳広、濱畑芳和、河谷はるみ、廣田久美子『よくわかる公的扶助論』法律文化社、2020年
- ・ 廣田久美子「発達障害のある人の就労支援と所得保障ードイツ労働生活参加給付を参考にして」福岡県立大学人間社会学部紀要第29巻第2号、91-102頁、2021年

### ②その他最近の業績

### ③過去の主要業績

- ・ 廣田久美子「障害者の就労支援と所得保障」社会保障法第33号（日本社会保障法学会編、法律文化社）、131-144頁、2018年5月
- ・ 廣田久美子「障害のある人への補装具とリハビリテーション保障」宮崎産業経営大学法学論集第24巻第1・2号、77-102頁、2016年3月
- ・ 廣田久美子「障害者雇用に関する義務規定の法的効力」『社会法の基本理念と法政策ー社会保障法・労働法の現代的展開』（山田晋・有田謙司・西田和弘・石田道彦・山下昇編、法律文化社）219-234頁、2011年8月

## 3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成分）（基盤研究(C)）平成29年度～令和3年度 交付金額4,290千円

研究課題：発達障害者等に対する経済的自立のための就労支援の保障（研究代表者）



#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本社会保障法学会、  
日本労働法学会  
日本職業リハビリテーション学会  
日本障害法学会

#### 6. 担当授業科目

社会福祉学演習・2単位・3年・通年、相談援助実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年、相談援助実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年、社会保障論Ⅰ・2単位・1年・前期、権利擁護と成年後見制度・2単位・3年・前期、社会保障論Ⅱ・2単位・1年・後期、公的扶助論・2単位・2年・後期、相談援助演習C・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・後期

#### 7. 社会貢献活動

福岡県職業能力開発審議会委員  
福岡県総合計画審議会委員  
福岡県営住宅管理審議会委員  
田川市部落差別解消審議会委員  
飯塚市職員倫理審査会委員  
飯塚市政務活動費審査会委員

#### 8. 学外講義・講演

#### 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	准教授	氏名	藤澤 健一
----------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

教育学（教育制度・政策の理論と歴史、師範学校を中心とする教員養成史、教員研修史、教員団体史）

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 単著「近代沖縄における地方教育部会の変容過程—校長層の役職者への選出をめぐる—」琉球沖縄歴史学会編『琉球沖縄歴史』第3号、2021年8月
- ・ 単著「近代沖縄における地方教育部会の変容過程—校長層の役職者への選出をめぐる—」琉球沖縄歴史学会編『琉球沖縄歴史』第3号、2021年8月

### ②その他最近の業績

- ・ 書評：萩原真美著『占領下沖縄の学校教育—沖縄の社会科成立過程にみる教育制度・教科書・教育課程—』六花出版、2021年2月、『沖縄タイムス』2021年3月27日
- ・ 書評：我部政男著『日本近代史のなかの沖縄』不二出版、2021年7月、『図書新聞』第3514号、2021年10月9日

### ③過去の主要業績

- ・ 編著『沖縄の教師像—数量・組織・個体の近代史』榕樹書林、2014年3月
- ・ 編著『移行する沖縄の教員世界—戦時体制から米軍占領下へ—』不二出版、2016年10月

## 3. 外部研究資金

研究代表者：科学研究費補助金基盤研究（B）「米軍占領下の沖縄における現職教員研修制度の再構築過程に関する研究」20H01631（2020年度～2024年度）、総額（直接経費）6760千円

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本教育制度学会会員  
 日本教育政策学会理事  
 日本教育行政学会会員  
 日本教育学会会員  
 日本教育史研究会会員

## 6. 担当授業科目

教育学概論 B・2 単位・1 年前期、教師論・2 単位・1 年後期、教育史・2 単位・2 年前期、学校インターンシップ・2 単位・2～3 年、教育の方法と実践・1 単位・3 年後期、教育実習事前事後指導・2 単位・3 年後期から 4 年前期、中学校教育実習・4 単位・4 年、高校教育実習・4 単位・4 年、教職実践演習・2 単位・4 年後期、公共社会学研究 I・2 単位・3 年前期、公共社会学研究 II・2 単位・3 年前期、卒業研究・4 年

## 7. 社会貢献活動

田川市奨学生選考委員会委員長  
田川市教育事務点検評価委員会委員長  
添田町教育委員会事務点検評価委員

## 8. 学外講義・講演

長崎県立長崎南高等学校未来デザインスクール出前講義（2021 年 10 月 29 日）

## 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	准教授	氏名	美谷 薫
----------------	----	-----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2005年 筑波大学大学院博士課程生命環境科学研究科地球環境科学専攻(5年一貫制) 修了, 博士(理学). 宇都宮市役所市政研究センター専門研究嘱託員, 埼玉大学教養学部非常勤講師などを経て, 2009年, 宇都宮市役所入庁. 自治振興部地区行政課, 上下水道局経営企画課などに勤務. 2016年4月より本学に着任. 専門分野は人文地理学, 地域行政論.

大学院在籍時には, 1950年代の「昭和の大合併」や高度経済成長期の合併の後の市町村行政における地域経営の特徴を, 長期スパンでの事業費配分などに着目して明らかにすることを研究課題とした. その後, 宇都宮市役所市政研究センター在職時には, 「平成の大合併」の時期にあわせて導入された地域自治制度の実態調査のほか, 大都市制度や道州制といった地方制度の再編とその宇都宮市への影響に係る研究などを担当した. また, 宇都宮市役所在籍時には(担当業務としてであるが) コミュニティ政策の動向や行政サービスの地域差などについての調査に取り組んできた.

今後は, 「平成の大合併」が落ち着いてから15年程度が経過することもあり, 市町村合併に伴う行政体制の再編や, 地域社会・地域経済への合併の影響について, 丁寧な事例調査に基づいて明らかにすることを研究上の主要な課題としている. また, 事業を取り巻く環境の変化により, 上水道事業の広域再編が推進されていることから, 実務経験をもとに, そのあり方や課題についても検討していきたいと考えている.

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 美谷 薫 2021. 水道事業広域再編に係る都道府県の「圏域」設定の特性. 福岡県立大学人間社会学部紀要 30(1): 141-153.
- ・ 美谷 薫 2020. 福岡県田川地域における行政・公共的団体の地域システム. 日本地理学会発表要旨集 97: 184.

### ②その他最近の業績

#### <報告書>

- ・ 美谷 薫 2020. コミュニティ政策からみた行政・地域・市民の役割分担: 田川地域の動向から. 『福岡県立大学研究奨励交付金研究報告書 福岡県における市民セクターの研究—協働のまちづくりの実現可能条件の検討—』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科.

#### <学会発表>

- ・ 美谷 薫 2019. 福岡県東峰村における住民の生活行動と行政に対する住民意識. 日本地理学会2019年秋季学術大会「新しい公共」の地理学研究グループ研究集会(新潟大学).

### ③過去の主要業績

- ・ 美谷 薫・梶田 真 2017. ローカル・ガバナンスをめぐる政策的展開：市町村行政の「守備範囲」と「公共」の担い手を中心に. 佐藤正志・前田洋介編『ローカル・ガバナンスと地域』ナカニシヤ出版, 20-38.
- ・ 神谷浩夫・梶田 真・佐藤正志・栗島英明・美谷 薫編著 2012. 『地方行財政の地域的文脈』古今書院.
- ・ 美谷 薫 2006. 宇都宮市における地区間の親密度に関する研究. 市政研究うつのみや 2 : 54-59.

### 3. 外部研究資金

日本学術振興会科学研究費助成事業（基金分） 基盤研究（C）「人口減少社会における行政地域システムの構築に向けた基礎的研究」研究代表者（課題番号 19K01175, 2019～2021 年度, 2021 年度交付金額 520 千円）

日本学術振興会科学研究費助成事業（科学研究費補助金） 基盤研究（B）「ローカルガバナンスにおける地域とは何か？ 地方自治の課題に応える地理的枠組みの探究」研究分担者（研究代表者：佐藤正志, 課題番号 20H01393, 2020～2023 年度, 2021 年度交付金額 280 千円）

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本地理学会, 人文地理学会, 経済地理学会, 地理空間学会, 日本行政学会, 日本公共政策学会

### 6. 担当授業科目

地理学・2 単位・1 年・後期	地理学概論・2 単位・2 年・前期
地方自治論・2 単位・2 年・後期	地域社会分析法 C・2 単位・3 年・前期
公共社会学研究 I・1 単位・3 年・前期	地域計画論・2 単位・3 年・後期
公共社会学研究 II・1 単位・3 年・後期	卒業論文・6 単位・4 年・通年

### 7. 社会貢献活動

田川市経営評価改革推進委員会委員（副委員長） 嘉麻市行政経営推進審議会委員（会長）  
香春町教育振興基本計画策定委員会委員（副委員長） 添田町地域公共交通会議委員  
福智町地域公共交通会議委員 「田川の宝！ 彦山川を創る会」会長  
田川広域水道企業団水道料金等審議会委員（副委員長）  
田川広域連携推進プロジェクト推進会議専門委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

附属研究所重点領域研究「地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データの GIS 分析による地域診断モデルの開発」研究分担者

人間社会学部／心理コース	職名	准教授	氏名	麦島 剛
--------------	----	-----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

発達障害・ストレス関連疾患・加齢についての生理心理学的研究

ADHD や自閉症などの発達障害、統合失調症等に見られる注意に関する障害、ストレスに関連する疾患、および認知症には、中枢神経機能の変化が関与する。そこで、神経生理学・行動薬理学・学習心理学の手法と理論を用いて、薬物による中枢神経系の活動変化・ストレス負荷・神経系の先天的異常が、電気生理学的神経活動・学習・社会行動・不安に対してどのような影響をもつのかを検討している。具体的には、おもに、以下について探求している。1) ADHD・統合失調症にみられる前注意過程を含む注意障害と catecholamine 神経系の活動異常との関連を電気生理学的に解明すること。2) ADHD を併発するとみられるてんかんモデル動物を用いて、ADHD における衝動性と不注意をオペラント学習理論と行動薬理学により解明すること。3) benzodiazepine 受容体サブタイプによる不安やストレス反応への関与の違いの解明。4) 老齢動物の注意機能・情動行動・記憶への認知改善薬（認知症治療薬）等の効果の解明と、これに基づく老年心理学領域での考察。これらの研究は、理論的進歩のみならず、より効果的な治療薬の開発や、より構造化された心理療法（行動療法）の開発の一助となると考えられる。また老年学や進路指導論（教育心理学）の立場から総合科学的考察を行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- Inoue M, Matsuoka H, Harada K, Mugishima G, Kameyama M. (2020). TASK channels: channelopathies, trafficking, and receptor-mediated inhibition. *Pflugers Arch.* 472 (7), 911-922.
- Shinba T, Murotsu K, Usui Y, Andow Y, Terada H, Takahashi M, Takii R, Urita M, Sakuragawa S, Mochizuki M, Kariya N, Matsuda S, Obara Y, Matsuda H, Tatebayashi Y, Matsuda Y, Mugishima G, Nedachi T, Sun G, Inoue T, Matsui T. (2020) Usefulness of heart rate variability indices in assessing the risk of an unsuccessful return to work after sick leave in depressed patients. *Neuropsychopharmacol Rep.* 40 (3), 239-245.
- 森寺亜伊子・榛葉俊一・吉井光信・井上真澄・東華岳・坂徳子・久保浩明・麦島剛.(2020). 自然発症高血圧ラット(SHR)におけるペア刺激聴覚性事象関連電位の波形昇降相違性：注意欠如・多動性障害の感覚ゲーティング不全との関連. *生理心理学と精神生理学*,38(1), 4-11.
- Shinba T, Murotsu K, Usui Y, Andow Y, Terada H, Kariya N, Tatebayashi Y, Matsuda Y, Mugishima G, Shinba Y, Sun G, Matsui T. (2021). Return-to-Work Screening by Linear Discriminant Analysis of Heart Rate Variability Indices in Depressed Subjects. *Sensors (Basel)*, 21(15), 5177.
- 麦島 剛 (2022). 精神薬理学 大浦賢治(編)実践につながる新しい教養の心理学 Pp.229-241. ミネルヴァ書房

## ②その他最近の業績

- ・ <学会報告> 麦島剛・久保浩明・渡部翔太・岡崎啄也・井上真澄・吉井光信・榛葉俊一 ADHDモデル動物 SHR の N50 抑制と ADHD 治療薬 methylphenidate 投与の効果. 2019 年 5 月, 第 37 回日本生理心理学会大会.
- ・ 水流百香・吉田萌・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛 大学生の確率割引課題における選択行動に關与する諸要因の検討—衝動性・ADHD 傾向・見通し力・ギャンブル嗜好性— 2019 年 8 月, 第 37 回日本行動分析学会 年次大会.
- ・ 吉田萌・水流百香・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛 ADHDモデルマウスの遅延価値割引課題における衝動的選択行動の研究—Sooner-Smaller 選択の遅延時間を変数とする心理的等価点の検討— 2019 年 8 月, 第 37 回日本行動分析学会 年次大会.
- ・ 麦島剛・加藤優花・榛葉俊一 マウスの脳波パワースペクトルに対する軽度ストレス負荷の影響と clonidine 投与の効果. 2019 年 9 月, 日本心理学会第 83 回大会.
- ・ Mugishima, G. Nagata, K., Shinba, T., Kubo, H., Moridera, A., Nakamoto, Y. Inoue, M., Yoshii, M. Effects of d-limonene inhalation on latent inhibition with conditioned taste aversion in DDY and EL mouse. 2019 年 10 月, The 79th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
- ・ 麦島剛・久保浩明・石川鴻志・森寺亜伊子・井上真澄・東華岳・吉井光信・榛葉俊一 EL マウス (ADHD モデル動物) の大脳皮質におけるミスマッチ陰性電位様反応. 2020 年 5 月 日本生理心理学会第 38 回大会.
- ・ 水流百香・有森のはら・吉田萌・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛 マウスの遅延価値割引課題における関数モデルへの適合度の検討. 2020 年 8 月 日本行動分析学会第 38 回年次大会.
- ・ 吉田萌・水流百香・川嶋拓・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛. モデル動物 EL マウスのトレードオフのない遅延価値割引における衝動性. 2020 年 8 月 日本行動分析学会第 38 回年次大会.
- ・ 砂原里南・森寺亜伊子・榛葉俊一・吉井光信・井上真澄・東華岳・坂徳子・久保浩明・麦島剛. ADHD モデルラット (SHR) の paired stimulation に対する P50 抑制様反応および波形昇降相違性への methylphenidate 投与の効果. 2021 年 9 月 日本心理学会第 85 回大会.
- ・ 麦島剛・春成 雄太・砂原 里南・森寺 亜伊子・久保 浩明・井上 真澄・東 華岳・吉井 光信・榛葉 俊一 ADHD モデル動物 EL マウスの自発脳波における  $\theta/\beta$  比. 2021 年 9 月 日本心理学会第 85 回大会.
- ・ 吉田萌・水流百香・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛 ADHDモデルマウスの確率割引課題における選択への atomoxetine 投与の効果. 2021 年 9 月 第 39 回日本行動分析学会年次大会.
- ・ 水流百香・吉田萌・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛 ADHDモデル動物の衝動性と確率割引課題における高リスク選択の関係性. 2021 年 9 月 第 39 回日本行動分析学会年次大会.



- ・ <学会講演> 麦島剛 ADHDモデル動物の衝動性と不注意：価値割引を中心に 2021年11月 第29回行動数理研究会.
- ・ <学会開催> 第36回日本生理心理学会大会, 2018年5月. 事務局長. 福岡県北九州市.
- ・ 第40回日本行動分析学会年次大会 2022年10月予定 準備委員会委員長 福岡県北九州市

### ③過去の主要業績

- ・ 麦島 剛 (2015) アルツハイマー病の動物モデル—高齢期の生理心理学における研究法の一方向性— 福岡県立大学心理臨床研究, 7, 67-76.
- ・ 麦島 剛 (2016) 神経経済学の進展と視座：衝動性をめぐる心理臨床・エネルギー政策・組織経営への応用と視座. 福岡県立大学心理臨床研究, 8, 25-35.
- ・ 麦島 剛 訳 (2018) Näätänen, R., Elyse S. Sussman, E.S., Salisbury, D., Shafer, V.L. 著 認知機能不全の指標としてのミスマッチ陰性電位. 福岡県立大学心理臨床研究, 10, 25-46.

### 3. 外部研究資金

日本学術振興会 科学研究費基盤研究(C) (単独獲得)「ADHD動物研究によるニューロフィードバック・薬物療法・応用行動分析の相乗化」課題番号 20K03029, 429万円, 2020～2022年度

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

- ・ 日本心理学会、日本生理心理学会、日本動物心理学会、日本神経精神薬理学会、日本行動分析学会、早稲田大学心理学会
- ・ 第36回日本生理心理学会大会準備委員会 事務局長
- ・ 第40回日本行動分析学会年次大会 大会長

### 6. 担当授業科目

生理心理学 2単位, 2年後期、心身科学 2単位, 2年前期、加齢基礎論 2単位, 2年後期 2年、心理学実験Ⅰ 2単位, 2年前期、心理学実験Ⅱ 2単位, 2年後期、心理学研究法, 2単位, 2年後期、老年心理学 2単位, 3年後期、演習 2単位, 3年前期・3年後期・4年前期、卒業論文指導 6単位, 4年、神経生理学特論 2単位, 修士1年、老年心理学特論 2単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士2年

### 7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県立大学生生活協同組合 理事長

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1997年6月一橋大学社会学研究科博士課程修了。博士（社会学）。農林水産省農業総合研究所（現農林水産政策研究所）海外部特別研究員、中国華東理工大学社会与公共管理学院准教授を経て2019年4月から本学に着任。

私の初期研究は高度経済成長にともなう日本の地域社会の構造変化に焦点をあて、「個」と「共同」の視点からアプローチしてきた。その後、「個」と「共同」の枠組みで、日本社会との比較をしながら、改革開放後の中国の地域社会の変容の解明に取り組んできた。

近年、グローバル化のなかの都市コミュニティと移民問題に焦点をあてた研究を進めている。主に日本における外国人問題、特に華僑・華人の起業とコミュニティ、また中国の「農民工」の国内移動と都市コミュニティ問題、中国の都市基層社会の変容、日中コミュニティの比較に関する調査研究である。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書（分担執筆 編著）>

- ・ 陸麗君 2019年3月、「第4章 新華僑のビジネス動向と地域コミュニティへの波及効果—カラオケ居酒屋、民泊、福祉アパート経営の実態から—」水内俊雄・福本拓・コルナトウスキヒェラルド編『グローバル都市大阪の分極化の新たな位相 —日本型ジェントリフィケーションの多様性』、URP 先端的都市研究シリーズ 17、大阪市立大学都市研究プラザ、pp69-81.
  - ・ 陸麗君 2019年5月、「第16章 インナーシティの新華僑と地域社会」 鱒坂学・西村雄郎・丸山真央・徳田剛編著『さまよえる大都市・大阪 —「都心回帰」とコミュニティ—』、東信堂、pp316-324.
  - ・ 陸麗君 2019年4月、「第6章「対立」から「融合」と「管理」へ—流動人口のネットワークをめぐる流入地での戦略—」南裕子・閻美芳編著『中国の「村」を問い直す』、明石書店、pp176-198.
  - ・ 陸麗君 2021年8月、「第14章 【中国】管理か自治か—居民委員会の「治理」モデル—」大内田鶴子・鱒坂学・玉野和志編著『世界に学ぶ 地域自治』学芸出版社、pp.224-239.
  - ・ 陸麗君・蕭閔偉・水内俊雄編著 2021年6月 『大都市における人口構造の変化と空間の変容』、URP 先端的都市研究シリーズ 28、大阪市立大学都市研究プラザ.
  - ・ コルナトウスキヒェラルド・陸麗君編著 2022年3月 『外国人・寮付き派遣労働者の地域生活を支える社会的インフラ』、URP 先端的都市研究シリーズ 33、大阪市立大学都市研究プラザ.
- #### <論文>
- ・ 陸麗君「世界のコミュニティ 中国 中国との比較からみた日本の町内会」2020年6月、『建築ジャーナル』No.1305 2020年6月号 pp.15-17.

#### <報告>

- 池田孝博・中原雄一・陸麗君・松岡佐智・佐藤繁美 2020年2月、「福岡県立大学人間社会学部紀要の査読制度導入後の現状と諸課題」、『福岡県立大学人間社会学部』Vol.28 No.2、pp123-131.

#### ②その他最近の業績

##### <書評>

- 陸麗君 2022年3月、「奈倉京子編著『中華世界を読む』（東方書店、2020年）『日中社会学研究』2022年第29号

##### <学会発表>

- 陸麗君 2019年6月1日、「新華僑のビジネスと地域コミュニティとの共生」日中社会学会 第31回大会 東京農工大学.
- 陸麗君 2020年11月1日、「新型コロナウイルス蔓延下における華僑・華人の滞在と経済活動の現状と課題」第93回 日本社会学会 (Zoomによる発表) .
- 陸麗君 2020年12月12日、「感染症パンデミック危機状況下における外国人の経済活動と居住の現状と課題」大阪市立大学主催「東アジア包摂都市ネットワーク国際シンポジウム「2020年度共同利用・共同研究課題(4) (Zoomによる発表) .
- Toshio Mizuuchi , Lijun Lu , Zechuan Zhu “The revival of a declining shopping street in the old inner-ring area through the vigorous action of Chinese immigrants; the case of Osaka”“Urban Mobilities in the 21st Century”FFJ-MICHLIN FOUNDATION WORKSHOP 6th July 2021. (Zoomによる発表) .

#### ③過去の主要業績

- 陸麗君 2016年12月、「華人・華僑の移住と同郷的なネットワーク」『評論・社会科学』第119号 同志社大学社会学会、pp.63~79.
- 陸麗君 2017年6月、「越境にともなう起業と社会圏の形成—関西地域の新華僑・華人の経済活動を中心に—」『日中社会学研究』第25号、pp.22-31.
- 陸麗君 2018年3月、「第5節インナーシティにおけるニューカマーと都市空間の再形成」、大阪市立大学都市研究プラザ編『先端的都市研究拠点 2017年度公募型共同研究によるアクションリサーチ』大阪市立大学都市研究プラザ『URP先端的都市研究シリーズ13』、pp54~60.

#### 3. 外部研究資金

- 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究C)「在留外国人のトランスナショナル起業とその社会的影響—華人・華僑起業者を中心に」(研究課題番:21K01906)2021-2024年度 研究代表者2021年度交付基金 1170千円
- 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究B)「生活困窮者自立支援の実践に見る社会包摂原理の日本的受容に関する学際的探究」(研究課題番:21H00636)2021-2024年度 研究分担者(研究代表者 水内俊雄・大阪市立大学)

- ・ 文部科学省 科学研究費補助金（基盤研究 C）「大都市ガバナンス改革の都市政治社会学的研究」（研究課題番：20K02089）2020-2023 年度 研究分担者（研究代表者 丸山真央・滋賀県立大学）
- ・ 大阪市立大学先端的都市研究拠点「共同利用事業・共同研究公募」20201 年度採択課題「外国人労働者の自立生活を支える社会的連帯ネットワーク——コミュニティハブ概念を中心に」2021 年度（研究代表者 コルナトウスキヒェラルド・九州大学）

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本社会学会、地域社会学会、日中社会学会、関西社会学会

#### 6. 担当授業科目

中国語Ⅰ-(1)A・1 単位・1 年・前期      中国語Ⅰ-(1)B・1 単位・1 年・前期  
 中国語Ⅰ-(2)A・1 単位・1 年・後期      中国語Ⅰ-(2)B・1 単位・1 年・後期  
 中国の社会と文化・2 単位・1 年と 2 年・後期  
 中国語Ⅱ-(1)A・1 単位・2 年・前期      中国語Ⅱ-(1)B・1 単位・2 年・前期  
 中国語Ⅱ-(2)A・1 単位・2 年・後期      中国語Ⅱ-(2)B・1 単位・2 年・後期  
 都市社会学・      2 単位・2 年・前期  
 中国語Ⅲ-(1)・      1 単位・3 年・前期      中国語Ⅲ(2)・1 単位・3 年・後期  
 公共社会学研究Ⅰ・1 単位      3 年・前期      公共社会学研究Ⅱ・1 単位      3 年・後期  
 卒業論文・6 単位・4 年・通年

#### 7. 社会貢献活動

田川市「バリアフリー方針」作成協議会委員  
 田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員

#### 8. 学外講義・講演

昭和女子大学 社会調査研修「福岡からアジアを見るーアジアの窓口としての都市部のグローバルな地域おこし」講義  
 「地域おこしの研究実践から考える「都市ー地域おこしー移民」

#### 9. 附属研究所の活動等

中国華東理工大学社会与公共管理学院客員研究員  
 大阪市立大学都市研究プラザ 特別研究員

人間社会学部／こどもコース	職名	准教授	氏名	鷺野 彰子
---------------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コース卒業、ニューヨーク州立大学パーチェス・カレッジ大学院及びデン・ハーグ王立音楽院大学院修了、大阪大学大学院文学研究科博士課程後期修了、博士（文学）。2011年より本学に就任。スタンフォード大学人文科学大学院客員研究員(2016年度)。

ピアノ及び歴史的楽器（クラヴィコード、フォルテピアノ）の演奏活動、また19世紀の演奏様式を研究しており、近年は20世紀初期の歴史的録音やピアノロール等の資料を用いた演奏分析研究を行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

### ②その他最近の業績

- ・ 【学会発表】鷺野彰子「演奏の転換点：近代的ピアノイズムの出現」日本音楽表現学会，愛知教育大学（愛知），2019年6月6日。
- ・ 【学会発表】Akiko Washino, Elucidating the modern and romantic aspects of Josef Hofmann's pianism through performance analysis, 国際音楽学会東アジア大会(IMSEA), 蘇州大学（中国）2019年10月18日。
- ・ 【学会発表】Akiko Washino, Mazurka inflections in Chopin's Waltz op. 42: A performance analysis of the recordings and editions of Moriz Rosenthal and other contemporary pianists, 国際音楽学会東アジア大会(IMSEA), International Chopinological Conference, The Institute of Art of the Polish Academy of Sciences（ワルシャワ），2019年11月20日。
- ・ 【学会発表】鷺野彰子「前奏を演奏する文化：初期録音に残された「前奏」演奏」日本音楽表現学会，誌上発表，2020年11月30日。
- ・ 【一般誌論稿・雑誌記事】鷺野彰子，2019「第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール：「正統な」ショパン演奏は見つかるのか？」『JMES ニューズレター』2019年度第2号。
- ・ 【一般誌論稿・雑誌記事】鷺野彰子，2020「正統的な演奏？：古楽器・フォルテピアノを通して考える」『京都音楽家クラブ会報』2020年4月号。
- ・ 【一般誌論稿・雑誌記事】鷺野彰子，2022，レコード誕生物語第52回「現代に通じるモダニスト。J.ホフマンのザ・ゴールドデン・ジュビリー・コンサート」『レコード芸術』2022年4月号。
- ・ 【書評】鷺野彰子「タイタニック号の若きヴァイオリニスト」（クリストファー・ウォード著，小笠原真司訳）『週刊読書人』2020年1月3日版，6。

### ③過去の主要業績

- ・ 【演奏】 鷺野彰子「シューベルトとヴォジーシェク」  
ザ・フェニックスホール 2007年2月, 大倉山記念館 2007年1月.
- ・ 【演奏】 鷺野彰子「モーツァルトとショパン～隠れた水脈～」  
衍芸館 2008年10月, ザ・フェニックスホール 2008年10月.
- ・ 【演奏】 鷺野彰子「クラヴィコード and/or ピアノ」 ザ・フェニックスホール 2009年12月.

### 3. 外部研究資金

平成 31 (令和元) 年度-令和 3 年度 科学研究費補助金・基盤(C)  
「19 世紀の演奏文化における前奏演奏」(課題番号: 19K00256)  
研究代表者 3,380,000 円

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本音楽学会 日本音楽表現学会

### 6. 担当授業科目

(学部)

音楽Ⅰ・2単位・1年・通年、音楽Ⅱ・1単位・2年・前期、音楽Ⅲ・1単位・2年・後期、  
幼児と表現 B・1単位・3年・前期、保育内容の指導法・表現 B・1単位・3年・後期、  
演習・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年、  
保育内容演習・2単位・4年・後期、保育・教育実践演習(幼稚園)・2単位・4年・後期  
(大学院)

子ども教育表現研究・M1年・2単位・前期、子ども教育表現演習・M1年・2単位・後期、  
教育課題研究 B・M1年・1単位・後期、子ども教育実践実習Ⅰ・M1年・2単位・後期、  
子ども教育実践実習Ⅱ・M2年・2単位・前期、地域教育課題演習・M2年・2単位・前期、特  
別研究・M1～2年・4単位・通年

### 7. 社会貢献活動

福岡県文化芸術振興審議会委員  
福岡県幼児教育アドバイザー

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／こどもコース	職名	講師	氏名	伊勢 慎
---------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

岡山大学大学院教育学研究科学校教育専攻幼児教育講座修了、修士（教育学）。

修了後、保育者として現場経験が3年あります。授業や研究においてもその時の経験を活かし、子どもの育ちに寄与できるよう取り組んでいます。特に、初めての実習である保育実習Ⅰ（保育所）を担当しているため、現場での基本的なことから核となる子ども理解、指導案等の書き方などの指導に力を入れています。

主な研究分野は、幼児教育、保育の内容に関すること、保育者養成に関することなどです。近年では、園内研修や保育者の前向きな働き方についても研究をしています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- ・ 中坪史典，山下文一，松井剛太，伊藤嘉余子，立花直樹，伊勢慎，その他：『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』（第1部⑤労働環境），ミネルヴァ書房，2021
- ・ 田中敏明，伊勢慎，尾花雄路，金丸智美，川俣美砂子，徳安敦，永渕美香子，前田志津子，松井尚子：『コンパス保育原理—未来を生きる子どもの保育—』，建帛社，2019

#### <論文>

- ・ 高口知浩，伊勢慎，古橋啓介：「公立保育所における同僚性の形成に関する質的研究—離職保育者の語りから—」，福岡県立大学人間社会学部紀要第30巻(1)，2021
- ・ 池田孝博，杉野寿子，大久保淳子，鷲野彰子，中原雄一，伊勢慎：「保幼小連携におけるアプローチカリキュラムに関する研究の動向と課題」，福岡県立大学人間社会学部紀要第29巻(2)，2021
- ・ 伊勢慎：「私立保育園保育士の長期勤務要因に関する研究」，国際幼児教育研究第26巻，2019
- ・ 古橋啓介，池田孝博，杉野寿子，大久保淳子，中原雄一，伊勢慎：「子ども・子育て支援新制度導入後の基礎自治体の実態」，福岡県立大学人間社会学部紀要第27巻(1)，2019

## ②その他最近の業績

- Makoto ISE : Study on New Mental Health Measures for Nursery School Teachers in Post-Covid Era. The 42nd conference of the International Association of Early Childhood Education, 2021
- 伊勢慎 : 「量的にみる保育士の長期勤務におけるポジティブな要因に関する研究」, 日本保育学会第 74 回大会, 2021
- 井手裕子, 伊勢慎 : 「保育者の情報収集の実態から考える保育者支援」, 国際幼児教育学会第 42 回大会, 2021
- 森山也子, 伊勢慎 : 「公立保育所保育士が感じている日常的な労働負担感を軽減する方策についての研究」, 国際幼児教育学会第 42 回大会, 2021
- 伊勢慎 : 「長期勤務保育者の特徴とその継続要因とは」, 日本保育学会第 73 回大会, 2020
- 高口知浩, 伊勢慎 : 「保育の楽しさを失った元公立保育士が語る離職ストーリー」, 日本乳幼児教育学会第 29 回大会, 2019

## ③過去の主要業績

- 中坪史典, 境愛一郎, 濱名潔, 保木井啓史, 伊勢慎, サトウタツヤ, 安田裕子 : 『質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインする 保育者が育ち合うツールとしての KJ 法と TEM』, ミネルヴァ書房, 2018
- 牧野桂一, 中ノ子寿子, 箕輪潤子, 伊勢慎, 相浦雅子, 山田朋子, 大谷朝, 森暢子, 渡邊由恵 : 『福岡県保育士等キャリアアップ研修テキスト～保育実践～』, 総合健康推進財団, 2018
- 伊勢慎 : 「公立保育者と私立保育者の勤務継続要因の特徴」, 日本保育学会第 71 回大会, 2018

## 3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）基盤研究C : 「アフターコロナ時代における保育士の新しいメンタルヘルス対策の実行手法の検討」（代表）, 交付金額 4,030 千円, 2021-2023

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本保育学会, 国際幼児教育学会, 日本子ども社会学会, 日本質的心理学会, 日本発達心理学会, 日本乳幼児教育学会, 日本混合研究法学会



## 6. 担当授業科目

(学部)

- ・ 保育内容総論・2単位・2年・前期
- ・ 保育の計画と評価・2単位・2年・後期
- ・ 保育実習指導Ⅰ・2単位・2～3年・通年
- ・ 保育実習Ⅰ・4単位・3年・前期
- ・ 乳児保育Ⅱ・2単位・3年・前期
- ・ 保育実習指導Ⅱ-A・1単位・3年・後期
- ・ 保育実習Ⅱ-A・2単位・3年・後期
- ・ 演習・2単位・3年・後期・通年
- ・ 卒業論文・6単位・4年・通年
- ・ 保育・教職実践演習(幼稚園)・2単位・4年・後期

(大学院)

- ・ 教育課題研究A・2単位・修士1年・前期
- ・ 子ども保育計画研究・2単位・修士1年・前期
- ・ 子ども保育計画演習・2単位・修士1年・後期
- ・ 子ども教育実践演習Ⅱ・1単位・修士1年・後期
- ・ 地域教育課題演習・2単位・修士2年・前期
- ・ 特別研究・4単位・修士2年・通年(副指導担当)

## 7. 社会貢献活動

- ・ 香春町教育委員会評価委員委員長
- ・ 国際幼児教育学会理事
- ・ 国際幼児教育学会第42回大会実行委員会事務局長

## 8. 学外講義・講演

- ・ 熊毛地区保育連合会職員研修会講師
- ・ 北九州市保育士研修「領域・言葉」講師

## 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	講師	氏名	鬼塚 香
----------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2010年上智大学大学院総合人間科学研究科社会福祉専攻博士前期課程修了、修士（社会福祉学）。目白大学人間学部人間福祉学科助教を経て、2018年4月に本学に着任。精神保健福祉士・社会福祉士、福祉住環境コーディネーター2級取得。

大学卒業後、公的機関や精神科病院で、ソーシャルワーカーとして10年以上、精神障害者をはじめ生活支援を必要とする方々の支援を行ってきました。働くなかで、ソーシャルワーカーが専門職としてどのように成長していくのかに関心を持ち、大学院に進学しました。その後、ソーシャルワークという仕事のやりがいを伝えたい、ソーシャルワーカーの活躍をバックアップできるような研究をしたいと考えるようになり、大学教員となりました。現在は、社会福祉専門職の成長過程や精神障害者をはじめとした支援を必要とする方々への支援のあり方をテーマにして、研究を行っています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 鬼塚香「ソーシャルペダゴジー理論と実践の学びから見えてきた日本のソーシャルワーク理論と実践の課題」『科研費共同研究「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究－日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に－」成果報告書（基盤研究B 代表細井勇 2018年度から2021年度 課題番号18H00950）』、2022年3月。
- ・ 鬼塚香・住友雄資「2021年度教育実践報告『精神保健福祉演習』－『なりきりプレゼンテーション』導入の効果と課題－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第30巻（2）、2022年3月。
- ・ 鬼塚香「わが国でソーシャルワーカーが行うクライアントの日常生活支援の理論化に向けた課題～『Social Pedagogy Tree』を手掛かりに～」『草の根福祉』第51号、2021年12月。
- ・ 畑香理・鬼塚香・住友雄資「2020年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－コロナ禍における教育実践と今後の課題－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第30巻（1）、2021年10月。
- ・ 鬼塚香・住友雄資「2020年度教育実践報告『精神保健福祉演習』－『心理情緒的支援』を学生が理解するまで－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻（2）、2021年3月。
- ・ 住友雄資・鬼塚香「『精神保健福祉援助演習』におけるロールプレイ活用の到達点と課題－クライアントを演じることを出発点に－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻（1）、2020年10月。
- ・ 鬼塚香・住友雄資「2019年度教育実践報告『精神保健福祉演習』-充実した演習を行うための前提と準備－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻（1）、2020年10月。
- ・ 畑香理・鬼塚香・住友雄資・平川明美「2019年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－精神保健福祉士に必要な技能を習得するための教育の試行－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻（1）、2020年0月。

- ・ 住友雄資・鬼塚香「『精神保健福祉援助演習』の演習教育法に関する研究動向と課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻(2)、2020年2月。
- ・ 畑香理・住友雄資・鬼塚香・平川明美「218年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－効果的な事前学習につなげる教育法の試みを中心に－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻(1)、2019年9月。

## ②その他最近の業績

- ・ 鬼塚香「(書評) 船戸良隆著『我が国籍は天に在り 志の信仰に生きる』」『キリスト教社会福祉学研究』第54号、2022年2月。
- ・ 細井勇・鬼塚香「(招待講演) デンマークの対人専門職『ペタゴ』シリーズ～『ペタゴ』の源流『ソーシャルペタゴジー』って何?～」NPO法人DAKKO講演会、2021年8月。
- ・ 鬼塚香「(講演座長) ペダゴ養成大学での学びについて 専門性の高い、包括的で遊び心のあるペダゴになる方法とは」一般社団法人日本ソーシャルペダゴジー学会第2回ミニ講演会、2021年8月。
- ・ 鬼塚香「(口頭発表) バルセロナ自治大学による公開プログラム Social Pedagogy across Europe を受講して」ソーシャルペダゴジー研究会、2021年7月。
- ・ 井上牧子・北川博司・鬼塚香・紅林聡美・寺島法弘「3 精神保健福祉相談援助の基盤」公益社団法人日本精神保健福祉士協会編『第20～22回 精神保健福祉士国家試験問題専門科目回答・解説集』へるす出版、2020年6月。
- ・ 細井勇・伊藤篤・稲葉美由紀・鬼塚香・杉野寿子・三上邦彦・森茂起「イギリスにおける児童ケアとソーシャルペダゴジースコットランド及びロンドン訪問調査報告書」2019年度科研費研究報告書、2020年3月。
- ・ 井上牧子・北川博司・鬼塚香・紅林聡美・寺澤法弘・大塚淳子「3 精神保健福祉相談援助の基盤」公益社団法人日本精神保健福祉士協会編『第19～21回 精神保健福祉士国家試験問題専門科目解答・解説集』へるす出版、2019年6月。

## ③過去の主要業績

- ・ 鬼塚香・住友雄資「2021年度教育実践報告『精神保健福祉演習』－『なりきりプレゼンテーション』導入の効果と課題－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第30巻(2)、2022年2月。
- ・ 鬼塚香「わが国でソーシャルワーカーが行うクライアントの日常生活支援の理論化に向けた課題～『Social Pedagogy Tree』を手掛かりに～」『草の根福祉』第51号、2021年12月。
- ・ 細井勇・伊藤篤・稲葉美由紀・鬼塚香・杉野寿子・三上邦彦・森茂起「イギリスにおける児童ケアとソーシャルペダゴジースコットランド及びロンドン訪問調査報告書」2019年度科研費研究報告書、2020年3月。

### 3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業【基盤研究(B)】研究代表者：細井勇（福岡県立大学）「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究ー日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」30年度～32年度（33年度まで延長）、研究分担者.
- ・ 福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金事業（COC 研究）研究代表者：細井勇 「『筑豊の子供を守る会』関係資料集成の刊行に向けて」令和3～4年度，研究分担者.

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本社会福祉学会  
日本精神障害者リハビリテーション学会  
日本キリスト教社会福祉学会  
福岡県立大学社会福祉学会  
日本精神保健福祉士協会  
全国精神保健福祉相談員会

### 6. 担当授業科目

社会福祉学演習・2単位・3年・通年、精神保健福祉援助技術各論Ⅰ・2単位・3年・前期、精神科リハビリテーション学Ⅰ・2単位・3年・前期、精神保健福祉論Ⅲ・2単位・3年・後期、精神保健福祉演習・1単位・3年・前期、精神保健福祉援助演習・2単位・3年後期～4年後期、精神保健福祉援助実習指導・3単位・3～4年・通年、精神保健福祉援助実習・5単位・4年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年

### 7. 社会貢献活動

直方市障がい者差別解消調整委員会 委員長  
日本精神保健福祉士協会学会誌投稿論文等査読小委員会 委員  
旧田川東高校跡地活用検討委員会 委員  
福岡県立大学社会福祉学会 事務局

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	講師	氏名	河本 恵美
------------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2012年北九州市立大学大学院社会システム研究科 博士前期課程を修了、2017年同大学院社会システム研究科地域社会システム専攻 博士後期課程修了、博士(学術)。同年より2019年3月まで、同大博士研究員として引き続き研究。2019年、福岡県立大学人間社会学部専任講師。その他、2007年海上保安庁関門海峡海上交通センター運用管制官海事英語講師(至2016年)、2009年海上保安学校門司分校海事英語講師(現在に至る)、2014年下関市立大学非常勤講師英語演習(至2019年)、2017年北九州市立大学外国語学部英米学科非常勤講師(至2019年)、2014年度・2018年度福岡県立大学非常勤講師英語IVなど。研究分野は、海事英語及び日韓海事文化の比較研究である。近年、海上輸送による貿易量が増加しているが、その船舶の大半は外国船籍である。海上交通の発展に伴い、外国船舶の海難事故も増加傾向である。海の安全を支えている海上管制官は、安全航行に必要な情報を提供しているが、外国船舶に対しては英語での交信が必須であることから、実践的な海事英語を効果的に習得しなければならない。研究内容は、海難事故報告書や管制官の交信データを収集し、母語に干渉された英語の誤用表現を分析している。同時に、船員は非英語話者が大半であることから、各国の英語の特徴の分析も必要となる。海上交通における海難事故や海上での被害を防止するために、日本と韓国間による海事英語や海事文化の比較研究も行い、日韓海上交通管制官の外国船への対応を文化面からも検証している。今後は更に調査範囲を拡大し、より多くの交信データや海難事事故例を収集し、日韓で管制官を交えた研究を目標としている。

海事英語教育研修においては、海上交通管制官が現場で外国船舶の乗組員と円滑にコミュニケーションを取ることが出来るよう、より効果的な海事英語研修の構築を目指し、また各管制官やオペレーターの英語力向上、及び通信における運用能力向上も目標としている。

現在日本と韓国の二国間で調査・研究を行っているが、大連海洋大学(中国)とも共同研究・調査を実施し、福岡・釜山・大連の3都市で海事英語教育の発展のため、まだ同時に日中韓の関係改善にも本研究が貢献出来ることを期待している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 柴田雅博・石崎龍二・河本恵美・増満誠・中本亮 R2年度採択 付属研究所研究奨励交付金(データサイエンス研究) 「ウィズコロナ、アフターコロナにおけるオンライン授業の運営に関する研究」

### ②その他最近の業績

### ③過去の主要業績

- Kawamoto, E. (March. 2018). A Comparative Study of Communication Styles: A Study of the Differences and Similarities of Communication Patterns in Japan and Korea. Journal of Social System Studies Published by Graduate School of Social System Studies, The University of Kitakyushu, Vol. 16, pp. 1-16.
- Williamson, Rodger S. and Kawamoto, E. (2017). A Comparative Study of the Actions and Procedures of Korean and Japanese Vessel Traffic Service Officers. Journal of World Ocean Development published by World Ocean Development Institute at Korea Maritime and Ocean University, Vol. 26, pp. 200-227.
- Kawamoto, E. (2017). A Comparative Study of Maritime Cultures: A Study of the Actions and Procedures of Vessel Traffic Service Officers in Japan and Korea (北九州市立大学大学院社会システム研究科博士論文)

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

社会言語科学会、日本人類言語学会

### 6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、

英語Ⅱ-(1)・1単位・1年・前期      英語Ⅱ-(2)・1単位・1年・後期

英語Ⅳ-(1)・1単位・3年（公共社会・人間形成学科）・前期

英語Ⅳ-(2)・1単位・3年（公共社会・人間形成学科）・後期

英語Ⅳ-(1)・1単位・3年（社会福祉学科）福祉英語・前期

英語Ⅳ-(2)・1単位・3年（社会福祉学科）福祉英語・前期

### 7. 社会貢献活動

### 8. 学外講義・講演

- ポートラジオオペレータートレーニング 海事英語講師

### 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	講師	氏名	小林 亮太
--------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2020年3月に広島大学教育学研究科を修了し、福岡県立大学人間社会学部の講師として大学教育、研究に従事しています。研究テーマは、大きく感情制御と内受容感覚の2つです。まず、感情制御については、普段の生活の中で感じるネガティブな感情（例：不安、怒り）をどうしたら緩和することができるのか？ どういった方略が有効なのか？といったことを検討してきました。今後はこうした感情制御のメリットを追求するとともに、そのデメリット（弊害）の解明や日常応用について研究をしていきたいと考えています。

次に、内受容感覚についてですが、そもそも内受容感覚という用語は、身体内部の反応（例：心臓の鼓動、胃の収縮）に関する感覚を意味します。そしてたとえば、不安なときに心臓がドキドキするように、あるいは怒っているときに腸が煮えくり返ると表現するように、この内受容感覚は感情と密接に結びついています。これまで私はこうした内受容感覚への意識（注意）の向きやすさと感情体験の関連について研究を行ってきました。現在は、内受容感覚への意識を簡単に測定できる尺度を作成することに力を注いでおり、子ども向けの尺度も作成していければと思案しています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- 小林亮太 (2021). Q24 適応上の問題行動を抱える児童生徒の感情の特徴について説明しなさい / Q25 社会的スキルトレーニング (social skill training, SST) について説明しなさい 藤田晃之・森田愛子 (編) 新・教職課程演習第 8 巻 特別活動・生徒指導・キャリア支援 共同出版 pp.139-144.
- 小林亮太・本多樹・町澤まる・市川奈穂・中尾敬 (2021) 日本語版 Body Perception Questionnaire-Body Awareness (BPQ-BA) 超短縮版の作成 —因子構造, および信頼性, 妥当性の検討— 感情心理学研究, 28, 38-48.
- Sugimura, K., Iwasa, Y., Kobayashi, R., Honda, T., Hashimoto, J., Kashihara, S., Zhu, J., Yamamoto, K., Kawahara, T., Anno, M., Nakagawa, R., Hatano, K., & Nakao, T. (2021). Neuronal noise to identity confusion-association between long-range temporal correlations in intrinsic EEG activity and subjective sense of identity. Scientific Reports, 11, 422.

## ②その他最近の業績

### <学会発表>

- ・ 小林亮太・本多樹・町澤まる・市川奈穂・中尾敬 (2021). 日本語版 Body Perception Questionnaire-Body Awareness (BPQ-BA) 超短縮版の信頼性, 妥当性の検討 日本心理学会第 85 回大会
- ・ 本多樹・小林亮太・中尾敬 (2021). 日本語版 Body Perception Questionnaire-Body Awareness (BPQ-BA) 超短縮版と内受容感覚の鋭敏さの関連の検討 日本心理学会第 85 回大会
- ・ 浦野由平・小林亮太・榊原良太 (2021). 日本語版認知的感情制御尺度改訂版の作成と信頼性・妥当性の検証 日本心理学会第 85 回大会

## ③過去の主要業績

- ・ Yang, W., Makita, K., Nakao, T., Kanayama, N., Machizawa G. M., Sasaoka, T., Sugata, A., Kobayashi, R., Hiramoto, R., Yamawaki, S., Iwanaga, M., & Miyatani M. (2018). Affective auditory stimuli database: An expanded version of the International Affective Digitized Sounds (IADS-E). Behavior Research Methods, 50, 1415-1429.
- ・ Kobayashi, R., Miyatani, M., & Nakao, T. (2018). High working memory capacity facilitates distraction as an emotion regulation strategy. Current Psychology, 1-9.
- ・ 小林亮太・宮谷真人・中尾敬 (2018). 心のゆとりを有する者はネガティブ感情状態からの回復が早いのか? — 心のゆとりに関する実験的研究 — 対人社会心理学研究, 18, 21-36.

## 3. 外部研究資金

日本学術振興会 研究スタート支援 (代表) 感情制御のデメリット: 再評価は準備不足に繋がるか? 課題番号 21K20289, 2021~2022 年度

## 4. 受賞

感情心理学研究第 28 巻優秀論文賞 (2021 年 7 月 10 日)

## 5. 所属学会

日本心理学会, 日本感情心理学会, 日本認知心理学会, 日本社会心理学会, 日本認知・行動療法学会など

## 6. 担当授業科目

心理実習 I・1 単位・2 年・通年 (共同), 心理学実験 I・2 単位・2 年・前期 (共同), 心理学実験 II・2 単位・2 年・後期 (共同), 心理学研究法・2 単位・2 年・後期 (共同), 認知心理学 (知覚・認知心理学)・2 単位・3 年・前期, 心理実習 II・1 単位・3 年・通年 (共同)



7. 社会貢献活動

査読：Japanese Psychological Research, Current Psychology, Psychological Report, ストレス科学研究, 感情心理学研究, 福岡県立大学心理教育相談室紀要  
梅光学院高等学校 大学等連携「卒業研究」プログラム

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

## 1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は社会学とジェンダー研究です。具体的なテーマとしては、1 つめに高等教育におけるジェンダー平等についてです。大学院生や入職の段階、研究者になった後など各段階でのジェンダー差やワーク・ライフ・バランスについて研究しています。2 つめに、コミュニティと子育てについてです。日本の共同保育の事例研究や、近年はイギリスのロンドンでのコミュニティ開発と子育てについての研究をしています。3 つめに、大学教育における学生の主体的な参加を促す技法についてです。これまで学生が実際にデータを集め分析する科目を教えてきました。他科目でもファシリテーションなどの手法を取り入れています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 坂無淳・平林真伊・河野銀子，2021，「シンガポールの高次接続と STEM 分野への女子の進学——大学入学基準と GCE—A レベルの数学の分析を中心に」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(1): 51-61.
- ・ 大久保淳子・坂無淳・柴田雅博，2021，「英国の初等教育におけるプログラミング教育の現状と動向——教科『Computing』の分析」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(1): 127-39.
- ・ 堤圭史郎・坂無淳・阪井裕一郎，2021，「福岡県内自治体の男女共同参画推進状況——政策意思決定・行政組織・地域自治への女性参画に注目して」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29(2): 61-74.
- ・ Bolton, Matthew, 2018, *How to Resist: Turn Protest to Power*, London: Bloomsbury Publishing. (藤井敦史・大川恵子・坂無淳・走井洋一・松井真理子訳，2020，『社会はこうやって変える！——コミュニティ・オーガナイズング入門』法律文化社。) 翻訳担当：第4章，第6章，第7章
- ・ 坂無淳，2020，「ディスカッションの経験を積もう」『旅する大学生のガイドブック——レポートの書き方』福岡県立大学教養演習テキスト出版会，38-9.
- ・ 坂無淳，2020，「女性の労働者協同組合による移民女性のエンパワーメントと連帯——ロンドン・タワーハムレッツ区の事例から」『社会分析』47: 43-59.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表・研究会>

- ・ 坂無淳，2021，「専門職とジェンダー・ステレオタイプ——大学教員は男性向き・女性向き職業と考えられているのか」広島大学高等教育研究資源ナショナルセンター2021 年度公開研究会（於広島大学（オンライン）），7月31日。
- ・ 坂無淳，2020，「日本の高等教育機関で実施されているジェンダー施策の実態と課題」日本ジェンダー学会第23回大会（於奈良女子大学（オンライン）），9月27日。

- ・ 大久保淳子・坂無淳・柴田雅博, 2020, 「就学前のプログラミング的思考の育成カリキュラムの開発」国際幼児教育学会第41回大会(於広島大学(オンライン)), 9月19-30日.
- ・ 坂無淳, 2019, 「移民女性への持続的なエンパワーメントはどのように可能になっているか」日本NPO学会第21回年次大会(於龍谷大学), 6月2日.
- ・ 坂無淳・阪井裕一郎・堤圭史郎, 2019, 「福岡県における地方自治体のジェンダー政策——男女共同参画推進体制の類型化」第77回(2019年度)西日本社会学会大会(於佐賀大学), 5月25日.

<報告書・書評・評論・エッセイ>

- ・ 坂無淳編, 2021, 『社会調査実習報告書2020 社会学系学科卒業生の生活と意識——卒業生調査の再分析から』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科. (全158ページ)
- ・ 坂無淳, 2020, 「イギリスの豊富な実例からコミュニティ・オーガナイズの手法を学ぶ」, WAN ウェブサイト.
- ・ 坂無淳, 2020, 「大石茜著『近代家族の誕生——女性の慈善事業の先駆, 「二葉幼稚園」』『図書新聞』3456: 5.
- ・ 坂無淳, 2019, 「福元真由美著『都市に誕生した保育の系譜』——アソシエーションイズムと郊外のユートピア』『図書新聞』3414: 3.
- ・ 坂無淳, 2019, 「地方を変える女性たち——カギは『ビジョン』と『仕組みづくり』!」『Cutting-Edge』66: 2.

③過去の主要業績

- ・ 坂無淳, 2018, 「日本の高等教育と科学技術におけるジェンダー政策——男女共同参画基本計画と科学技術基本計画を中心に」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26(2): 19-35.
- ・ 坂無淳, 2015, 「大学教員の研究業績に対する性別の影響」『社会学評論』65(4): 592-610.
- ・ 坂無淳, 2014, 「都市における保育の共同——埼玉県新座団地の共同保育の事例から」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』2: 61-80.

3. 外部研究資金

科研費, 若手研究(研究代表者), 高等教育におけるジェンダー・バランスの不均衡とその是正に関する実証研究, 3770千円, 2018~2022年

科研費, 基盤B(研究分担者, 研究代表者: 藤井敦史), 社会的連帯経済の「連帯」を紡ぎ出すものは何か——コミュニティ開発の国際比較研究, 15730千円, 2018~2023年

科研費, 基盤B(研究分担者, 研究代表者: 河野銀子), 女子の理系進路選択拡大に向けたSTEM分野の新たな高大接続モデル——4か国比較から, 15470千円, 2019~2023年

科研費, 基盤C(研究分担者, 研究代表者: 大久保淳子), プログラミング的思考の育成カリキュラムの開発——就学前~小学校の接続を焦点として, 3510千円, 2018~2022年

4. 受賞

## 5. 所属学会

日本社会学会, 日本ジェンダー学会, 日本教育社会学会, 北海道社会学会, 西日本社会学会, ISA (International Sociological Association), RC32 Women, Gender, and Society, RC04 Sociology of Education

## 6. 担当授業科目

データ分析の基礎・2単位・1年・前期, 教養演習・1単位・1年・前期, 統計学・2単位・1年・後期, 社会統計学Ⅰ・2単位・2年・前期, 社会統計学Ⅱ・2単位・2年・後期, ジェンダー論・2単位・3年・前期, 公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ・各1単位・3年・前後期, 社会福祉学演習・2単位・3年・通年, 演習・2単位・3年・通年, 卒業論文・6単位・4年・通年

## 7. 社会貢献活動

2021～現在, 福岡県福智町男女共同参画審議会委員

2021～現在, 福岡県「地域のリーダーを目指す女性応援研修」アドバイザー

2020～現在, 福岡市男女共同参画推進センターアドバイザーの会委員

2019～現在, 広島大学高等教育研究開発センター客員研究員

2018～現在, 田川市男女共同参画センター運営委員・ゆめっせフェスタ実行委員

## 8. 学外講義・講演

坂無淳, 2021, 「第45回 映画とリレートーク・バザーの集い」リレートーク登壇者, ムーブフェスタ, 主催 高齢社会をよくする北九州女性の会 (於北九州市立男女共同参画センター・ムーブ), 7月20日.

## 9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学令和3年度研究奨励交付金 (横断型教育プログラム開発研究) (研究分担者, 研究代表者: 佐藤繁美), データサイエンスプログラムのプログラム体系化と教材開発に関する研究, 2021～2022年

人間社会学部／こどもコース	職名	講師	氏名	櫻井 晋伍
---------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業、同大学院美術研究科芸術学専攻美術教育研究分野修了。

主に、水彩画の表現技法を用いた絵画制作研究を行っている。また、幼児の造形教育について、保育現場の協力を得て、製作活動と鑑賞教育に関する調査研究を行っている。

授業では、保育士および幼稚園教諭養成のための造形表現関連科目を担当している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 櫻井晋伍「3歳未満児の造形活動に関する考察－現職保育者へのアンケート調査を通して－」大学造形美術教育研究第18号，2020年

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 犬童昭久、王寺直子、栗山裕至、櫻井晋伍、白石恵里、丁子かおる、樋口和美、前村晃、宮崎祐治「トーランスの創造性テストの再考と試行Ⅲ－児童期（9～10歳児）における実態調査と分析の展開－」美術科教育学会第44回東京大会，2022年

### ③過去の主要業績

- ・ 櫻井晋伍「保育者養成課程における壁面構成の制作技能育成に関する考察－鑑賞教育を通じた実践－」大学造形美術教育研究第16号，2018年
- ・ 櫻井晋伍「幼稚園教育実習の造形活動に関する研究－学生の実践事例を通して－」久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科研究紀要<信愛保育研究>，2017年
- ・ 櫻井晋伍「保育者養成課程における鑑賞教育に関する考察－日本画の構図と色彩に着目して－」久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科研究紀要<信愛保育研究>，2017年

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

- ・ 美術科教育学会
- ・ 日本美術教育学会
- ・ 日本保育学会
- ・ 日本保育文化学会

## 6. 担当授業科目

〈学部〉造形Ⅰ・1単位・1年前期、造形Ⅱ・1単位・1年後期、幼児と表現A・1単位・2年前期、保育内容の指導法・表現A・1単位・2年後期、保育内容演習・2単位・4年後期、保育・教職実践演習（幼稚園）・2単位・4年後期、演習・2単位・3年通年

〈大学院〉子ども造形表現研究・2単位・前期、子ども造形表現演習・2単位・後期、教育課題研究B・2単位・後期、子ども教育実践実習Ⅰ・1単位・後期

## 7. 社会貢献活動

- ・ 令和3年度全国保育士養成セミナー企画委員

## 8. 学外講義・講演

- ・ 嘉穂東高校入試説明会，2021年7月
- ・ 京都高校入試説明会，2021年8月
- ・ オータムスクール人間社会学部講座「保育士・幼稚園教諭という仕事の魅力について」2021年9月

## 9. 附属研究所の活動等

2021年度研究奨励交付金（若手奨励研究）による研究「筑豊地区の地域材を活用した木育の教育実践－保育者養成課程における試み－」（研究代表者）

人間社会学部／こどもコース	職名	講師	氏名	董 秋艶
---------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2014.3 九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻博士後期課程を満期退学

2014.4-2016.3 九州大学大学院人間環境学研究院の学際企画室 テクニカルスタッフ

2016.4-2019.3 九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門 助教

2015.3 九州大学より博士（教育学）の学位を授与されました。

2019.4 本学着任

研究課題は、これまで中国の近代女子教育の成立史を解明すると共に、その成立をめぐる日中関係史を解明してきた。現在は日清戦争後の中国における日本女子教育情報の経路に関する研究を進んでいる。課題を解決するために、主に当時の日中両国のヒトやモノなどの動きに関する資・史料を駆使している。また、中国の近代幼児教育成立に関する日中関係史の研究にも関心がある。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <論文>

- ・ 董秋艶 (2021) 「清末中国における日本の女子教育の情報 —下田歌子の『新撰家政学』(1900)の中国語翻訳書に着目して—」『教育基礎学研究』九州大学教育基礎学研究会、第18号、2021(令和3)年3月末までに掲載予定。
- ・ 董秋艶 (2019) 「清末中国中央政府の「日本モデル」教育改革—1901年の新政に着目して—」『九州大学大学院教育学研究紀要』第21号、73—84頁

### ②その他最近の業績

#### <教科書>

- ・ 董秋艶 (2021) 「中国の公教育（学校教育）原理及び理念（歴史）」『教育制度エッセンス—多様性の中で制度原理を考えるために—』（第3部 中国編 第2章1節 210—213頁）

#### <研究資料>

- ・ 董秋艶 (2019) 「中国における乳幼児教育の現状と課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第28巻第1号、111—120頁

#### <学会発表>

- ・ 董秋艶 (2019) 「下田歌子と清末中国の女子教育—『新選家政学』(1900年)に着目して—」教育史学会、静岡大学

### ③過去の主要業績

- ・ 董秋艶 (2014) 「清末中国における日本女子教育情報—受容の経路に着目して—」『九州教育学会研究紀要』九州教育学会 第41巻 121—128頁
- ・ 董秋艶 (2013) 「清末中国女子教育の制度化における日本女子教育情報の役割—吳汝綸の日本教育視察(1902)をめぐって—」『国際教育文化研究』九州大学大学院人間環境学研究院国際教育文化研究会 第13号 161—172頁
- ・ 董秋艶 (2012) 「日清戦争後中国における日本の女子教育情報—吳汝綸による日本視察(1902)を通して—」『日本の教育史学』教育史学会紀要 第55号 72—83頁

### 3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業(若手研究)令和元年度—令和3年度 3900千円 研究課題「日清戦争後の中国における日本女子教育情報の経路に関する研究」

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

教育史学会、アジア教育学会、九州教育学会

### 6. 担当授業科目

<学部>教育学概論A・2単位・1年・前期、保育学・2単位・2年・前期、生涯教育論・2単位・2年・後期、教育制度論・2単位・3年・後期、幼稚園教育実習事前事後指導・1単位・3年前期から4年前期、保育・教育実践演習(幼稚園)・2単位・4年・後期、幼稚園実習I・II・2単位・3年・前・後期、その他。

<大学院>子ども教育制度研究・2単位・1年・前期、子ども教育制度演習・2単位・1年・後期、教育課題研究A・2単位・1年・前期、教育課題演習A・2単位・1年・後期、子ども教育実践実習II・2単位・2年、地域教育課題演習・2単位・2年。

### 7. 社会貢献活動

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等



人間社会学部／地域社会コース	職名	講師	氏名	福本 純子
----------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

早稲田大学人間科学部卒業、早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、熊本大学大学院社会文化科学教育部博士後期課程を単位取得退学。下関市立大学経済学部特任教員（地域貢献担当）等を経て、2021年に本学着任。

主な研究分野は、地域社会学、環境社会学、農村社会学。農山村、とくに中山間地域へのフィールドワークを中心に、地域住民の方々にお話を聴きながら研究を進めています。主な研究テーマは（1）再生可能エネルギーと（2）農山村の地域課題です。（1）再生可能エネルギーの中でも特に小規模な水力発電に注目し、地域社会との関係について研究しています。たとえば、農山村に現存する小水力発電所の地域での運営方法や役割を分析することを通じて、持続可能な地域づくりについて探求しています。（2）農山村の地域課題については、特に農業に関する課題（耕作放棄地、獣害、担い手問題など）に焦点をあて、日本の農村のあり方について考えています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ <著書>福本純子, 2021, 「社会学・農村社会学の研究動向」藤井和佐編『日本農村社会の行方——<都市—農村>を問い直す（年報村落社会研究 57 集）』農山漁村文化協会, 233-245.
- ・ <著書>近藤祉秋・合原織部・福本純子, 2021, 「嗅ぎあう世界の狩猟と獣害——九州山地の事例から」近藤祉秋・吉田真理子編『食う、食われる、食いあうマルチスピーシーズ民族誌の思考』青土社, 237-271.
- ・ <論文>松岡崇暢・本田恭子・福本純子, 2021, 「獣害対策に向けた小水力発電の導入が山口県下の農山村に与えた影響——農山村の持続と再生に寄与する地域づくりの発展」『宮崎大学地域資源創成学部紀要』4: 59-69.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 山本努・福本純子, 「若者（大学生）の原子力発電についての意識：研究ノート（続）」西日本社会学会第 79 回大会, オンライン, 2021 年 5 月 23 日.
- ・ 福本純子, 「過疎農山村における社会的排除とムラの自律的対応——広島県庄原市 X 集落における稲作縮小の事例から」日本社会病理学会第 36 回大会, テーマセッション「若手・中堅にとっての社会病理学の可能性——現代の社会的排除を捉える方途」, 神戸学院大学（オンライン）, 2021 年 3 月, （招待講演・テーマセッション）.
- ・ 山本努・福本純子, 「若者（大学生）の原子力発電についての意識：研究ノート」西日本社会学会第 78 回大会, 2020 年 5 月.

#### <書評>

- ・ 福本純子, 2020, 「宮本結佳著『アートと地域づくりの社会学—直島・大島・越後妻有にみる記憶と創造—』『西日本社会学会年報』18: 123-124.

#### ③過去の主要業績

- ・ <著書>福本純子, 2018, 「コミュニティが担う再生可能エネルギー—東広島市の農村小水力発電の事例から」鳥越皓之・足立重和・金菱清編『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』ミネルヴァ書房, 483-502.
- ・ <論文>福本純子, 2019, 「生産基盤縮小にみる集落の自律的再編—広島県庄原市の中山間地域における稲作の縮小を事例として」『熊本大学社会文化研究』17: 291-308.
- ・ <学会発表> Fukumoto, Junko, “Community-based Renewable Energy Structures in Industrialized Societies: A Case of Small Hydropower in Rural Community” The 14th World Congress of the International Rural Sociology Association (IRSA), Ryerson University, Toronto, Canada, August 2016.

#### 3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究B)「ポスト農業社会の食・農・自然に視点をおいた農業社会学の構築」2020~2023年度, 研究分担者(研究代表者: 牧野厚史・熊本大学).

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本社会学会、環境社会学会、日本村落研究学会【理事・事務局(会計担当)】、西日本社会学会、日本社会分析学会、山口地域社会学会、日本社会病理学会

#### 6. 担当授業科目

地域社会学 A・2 単位・1 年・後期	社会調査の設計・2 単位・2 年・前期
社会福祉調査法・2 単位・2 年・後期	地域社会学 B・2 単位・3 年・前期
福祉社会学・2 単位・3 年・前期	卒業論文・6 単位・4 年・通年

#### 7. 社会貢献活動

2021 年 7 月～現在, 行橋市総合計画審議会 委員

2021 年 7 月～2022 年 2 月, 田川市農業振興ビジョン策定委員会 副委員長

## 8. 学外講義・講演

- Fukumoto Junko, “Community-based Renewable Energy Structures: A Case of Small Hydropower in a Japanese Rural Community”u: japan lectures, University of Vienna (ウィーン大学) (online), 09.12.2021.
- 福本純子, 「農村小水力発電の可能性」(紹介記事), 長周新聞, 2021年7月14日.
- 福本純子, 「再生可能エネルギーの社会学—農村小水力発電の事例から考える」市民大学公開講座, 下関市立大学 (オンライン), 2021年7月8日.

## 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／社会福祉コース	職名	講師	氏名	松岡 佐智
----------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院人間社会学研究科修士課程修了，修士（福祉社会学）。

私は現在，高齢者福祉と社会福祉教育を主な研究分野としています。高齢者福祉分野では，これまで，「高齢者の生きがい支援のあり方」，「認知症高齢者に係る職員の職務意識と資質向上に関する研究」等について取り組んできました。現在は，自らの意見を表明出来にくい認知症高齢者の権利擁護を推進していく必要性を踏まえ，「高齢者虐待の防止に向けた課題」について研究を進めています。特に，虐待通報・相談等件数及び虐待判断件数は増加傾向にある入所施設の職員に焦点を当て，「施設内虐待防止に向けたセルフチェックシステムの開発」について研究に取り組んでいます。

また，社会福祉教育分野では，社会福祉士の実習教育のあり方にも取り組んできました。これまでの具体的な取組みとして，「福岡県内の社会福祉施設におけるボランティアの受入れ実態に関する調査研究」，「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究」及び「社会福祉士養成における相談援助実習の実習内容の課題」等の研究を実施してきました。今後も継続して，社会福祉専門職養成としての実習のあり方や学生に対する実習教育方法，及び実習受入れ側の施設等との連携のあり方等を研究テーマとして取り組んでいきたいと考えています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 松岡佐智「介護老人福祉施設における施設内虐待防止策に関する一考察 ―施設長インタビュー調査から―」『九州社会福祉学』，日本社会福祉学会九州地域ブロック，第18号，2022年3月発刊予定。
- ・ 松岡佐智「介護老人福祉施設における介護職員の虐待防止意識に影響を与える要因」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30(1)，福岡県立大学，2021年10月。
- ・ 松岡佐智「施設内虐待の発生要因と予防策に対する介護老人福祉施設職員の認識の比較 ―施設長・生活相談員・主任介護職員による自由記述の分析―」『九州社会福祉学』，日本社会福祉学会九州地域ブロック，第17号，15-28，2021年3月。
- ・ 松岡佐智「施設内虐待の発生要因と防止策の課題―高齢者虐待に関する先行研究等の整理から―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29(1)，福岡県立大学，35-44，2020年10月。
- ・ 松岡佐智・本郷秀和「介護老人福祉施設における施設内虐待防止に向けた課題―施設内虐待の要因に対する施設長・生活相談員・主任介護職員の認識の比較―」『高齢者虐待防止研究』16(1)，日本高齢者虐待防止学会，55-67,2020年3月。

- 池田孝博・中原雄一・陸麗君・松岡佐智・佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部紀要の査読制度導入後の現状と諸課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』28(2), 福岡県立大学, 123-131. 2020年3月.
- 秋竹純・本郷秀和・松岡佐智「有料老人ホーム職員のバーンアウト傾向と認知症高齢者へのケアの状況：調査結果にみる施設内虐待の予防に向けた課題」『地域ケアリング』21(8), (株)北陸社, 64-68, 2019年7月.

## ②その他最近の業績

### <学会発表>

- 松岡佐智「施設内虐待の予防に向けた介護老人福祉施設職員の意識と課題－九州圏域の介護老人福祉施設職員の意識調査の結果から－」日本社会福祉学会第67回秋季大会口頭発表(会場：大分大学), 2019年9月.

### <辞典>

- 松岡佐智「地域共生社会」, 「アドバンスケアプランニング」, 計2項目, 九州社会福祉研究会(編)『現代社会福祉用語辞典 第3版』, 学文社, 2022年3月.
- 松岡佐智「感染予防」, 「環境療法」, 「パワー/パワーレスネス」, 「プライマリ・ケア」, 「ブラッドショー」, 「精神障害」, 「精神障害者生活訓練施設(援護寮)」, 「精神障害者福祉ホーム」, 「精神障害者保健福祉手帳」, 「施設福祉サービス」, 「指定介護老人福祉施設」, 「生活の質」, 「生活リハビリ」, 「成人病」, 「前期高齢者」, 「保育士」, 「保育所」計17項目, 九州社会福祉研究会(編)『現代社会福祉用語辞典 第2版』, 学文社, 2019年6月.

### <調査報告書>

- 松岡佐智・本郷秀和・鬼崎信好『大和証券ヘルス財団 第44回調査研究助成研究業績集：施設内虐待予防のためのセルフチェックシート開発に向けた介護老人福祉施設職員の意識調査』公益財団法人大和証券ヘルス財団, 2019年.

## ③過去の主要業績

- 松岡佐智・本郷秀和・畑香理・田中将太「高齢者虐待における地域包括支援センターと介護支援専門員の連携の意義と課題－地域包括支援センターにおけるインタビュー調査を通して－」『高齢者虐待防止研究』14(1), 36-48, 日本高齢者虐待防止学会, 2018年3月.
- 松岡佐智・田中将太・袖井智子「社会福祉士養成における相談援助実習の実態と課題(1)－旧相談援助実習ガイドラインからみた実習内容の課題－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』22(2), 福岡県立大学, 2014年1月.
- 松岡佐智・本郷秀和「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究－福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性Ⅱ－」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』17(2), 福岡県立大学, 2009年1月.

### 3. 外部研究資金

令和 2-3 年度 科学研究費補助金【若手研究】テーマ：「施設内虐待の兆候発見に向けたセルフチェックシートの開発に関する研究」169 万円(総額)， 研究代表者

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本社会福祉学会， 日本高齢者虐待防止学会， 日本地域福祉学会， 日本介護福祉学会

### 6. 担当授業科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」(2 単位・1 年前期)，「ソーシャルワーク演習 A」(1 単位・1 年後期)，「相談援助演習 A」(2 単位・2 年通年)，「相談援助実習指導Ⅰ」(2 単位・2 年通年)，「相談援助の理論と方法 C」(2 単位・2 年後期)，「相談援助実習指導Ⅱ」(1 単位・3 年通年)，「相談援助実習」(4 単位， 3 年通年)，「相談援助演習 C」(1 単位， 3 年後期)，「社会福祉学演習」(4 単位， 3 年通年)，「福祉専門職特講 A」(2 単位、3 年後期)，「卒業論文」(6 単位・4 年後期)

### 7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県介護保険審査会 三者合議体委員
- ・ 飯塚市指定管理者評価委員会 委員長
- ・ 北九州市社会福祉協議会 ふれあいネットワーク活動推進事業第三者評価委員会 委員
- ・ 福岡県日常生活自立支援事業契約締結審査会 委員

### 8. 学外講義・講演

- ・ (公財)福岡県人権啓発情報センター 人権相談従事職員研修「対人援助技法Ⅲ (演習)」
- ・ 新宮高等学校 出前講義 「社会福祉学入門」

### 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／心理コース	職名	助教	氏名	中藤 広美
--------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

15年間幼稚園や保育所で乳幼児保育および保育者養成に携わった経験を基盤とした研究活動です。

保育現場においてペアレントトレーニングの手技を応用した保育内容のスキルアップに関する研究を進めていきたいと考えています。

具体的には近隣の協力園へ出向き保育に参加し、保育現場の実情を把握するよう努めています。保育者と園児の困った行動を目立たなくしたり、望ましい行動を増やしたりするための物理的・空間的環境の構造化、物的環境の選択、人的環境として保育者の手助けの方法、日課の展開について、実際の保育の場面で実態調査をし、効果的な保育環境のありかたを探っています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

### ②その他最近の業績

#### <巻頭言>

- ・ 中藤広美,福岡県立大学心理臨床研究,14巻,2022年3月

#### <報告書>

- ・ 中藤広美,「筑豊の盆行事 先祖供養と盆口説き」,福岡県立大学附属研究所公開講座Ⅲ報告書,2019

#### <寄稿>

- ・ 中藤広美,「お盆の体験を語る」,郷土田川 51号,106-107,田川郷土史研究会編,2021年4月1日
- ・ 「ペアレントトレーニングの広がり：地域へ、そして、さまざまな支援者へ」,シンポジスト,福岡県立大学心理教育相談室,福岡県立大学,2019年3月2日

### ③過去の主要業績

- ・ 福田恭介・中村恵美子・中藤広美・小山憲一郎・酒井志織・香月眞美,ペアレントトレーニング手法を用いたスキルアッププログラムが保育者・教師の子ども支援認知に及ぼす効果,2018年3月31日,福岡県立大学心理教育相談室紀要 10,3-14,
- ・ 中藤広美,酒井志織,ペアレントトレーニングを保育現場に応用するための講座および研修会の実践報告,福岡県立大学人間社会学部紀要 2016, Vol 25, No2
- ・ 中藤広美,鷺野彰子「実習前教育における学生教育の課題と方法—環境構成に関する学生の理解状況を踏まえて—」,福岡県立大学人間社会学部紀要 2015, Vol. 24, No. 1, 17-31

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本保育学会  
日本発達心理学会  
日本こども学会  
日本行動分析学会  
九州心理学会

日本行動分析学会第40回年次大会準備委員

### 6. 担当授業科目

幼児と環境  
保育内容の指導法 環境  
保育・教職実践演習（幼稚園）

（大学院・心理教育相談室）

心理実践実習 A（ペアレントトレーニング）

ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアッププログラム

### 7. 社会貢献活動

社会福祉法人三和会評議員選任・解任委員  
社会福祉法人三和会第三者委員  
幸袋こども園保育アドバイザー  
直方市巡回相談員  
NPO 福祉用具ネット理事  
福岡県幼児教育アドバイザー

### 8. 学外講義・講演

幸袋こども園職員研修会（全10回）  
直方市子育て支援センター研修会「わたしとぼくの基本的生活習慣」

### 9. 附属研究所の活動等



人間社会学部／社会福祉コース	職名	助教	氏名	畑 香理
----------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院人間社会学研究科社会福祉専攻修士課程修了、修士（社会福祉）。

私は、これまで医療機関でソーシャルワーカーとして患者や家族への相談援助を行ってきた経験があることから、医療ソーシャルワーク実践について関心を持ち、研究に取り組んでいます。近年、日本の保健・医療・福祉の制度・政策面は大きく変化を遂げており、効率的な医療政策の下で、患者はもちろん、患者を支える家族への経済的・身体的・精神的負担は深刻です。また、入院患者の中には脳卒中・内臓疾患・骨折等の後遺症に伴う機能障害・介護者問題・住宅問題・金銭問題等、様々な理由で在宅生活を断念せざるを得なくなった方も少なくありません。入院患者が地域生活を再び安心して送れるような専門的支援やネットワーク構築等が求められています。医療ソーシャルワーカーは病院と地域社会をつなぎ、患者や家族を支援していく役割を担っており、今後ますます医療ソーシャルワーカーの専門的支援が求められると考えます。以上のことから、私は医療ソーシャルワークを基盤とした支援方法に関する研究をすすめ、実践上の課題等についてもこれから研究していきたいと考えています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 畑香理「被虐待高齢者への支援」日本医療ソーシャルワーク学会監修、村上須賀子・大垣京子・小嶋章吾・中川美幸編著『地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト（第2版）』日総研,2021年9月.
- ・ 畑香理「大腿骨骨折を経験した高齢者の語りからみる生活課題とストレスの特徴－入院から退院後の在宅生活を中心に－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30（1），2021年10月.
- ・ 畑香理・鬼塚香・住友雄資「2020年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－コロナ禍における教育実践と今後の課題－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30（1），2021年10月.
- ・ 畑香理「高齢の大腿骨骨折患者への支援に関する一考察－患者の性別に着目した医療ソーシャルワーカーの支援の特徴－」『厚生の指標』68（7），2021年7月.
- ・ 畑香理・鬼塚香・住友雄資・平川明美「2019年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－精神保健福祉士に必要な技能を習得するための教育の試行－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』29（1），2020年10月.
- ・ 畑香理「大腿骨骨折患者の支援における医療ソーシャルワーカーの役割に関する一考察－回復期リハビリテーション病棟へのアンケート調査から－」『医療と福祉』53（2），2019年11月.
- ・ 畑香理「高齢の大腿骨骨折患者に対する支援の現状－男女別、経験年数別にみた医療ソーシャルワーカーの支援状況の差異－」『地域ケアリング』21（12），株式会社北隆館，2019年11月.
- ・ 畑香理・住友雄資・鬼塚香・平川明美「2018年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－効果的な事前学習につなげる教育法の試みを中心に－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』28（1），2019年9月.

## ②その他最近の業績

### <学会発表>

- ・ 松枝美智子・増満誠・中本亮・宮崎初・畑香理・本郷秀和「厚生労働省統計データによる精神医療の質に関連する要因の探索と予測モデルの作成」日本看護科学学会学術集会第 41 回大会口頭発表, 2021 年 12 月.
- ・ 畑香理「大腿骨骨折を経験した高齢者の生活課題の特徴ー入院から退院後の在宅生活に焦点をあててー」日本社会福祉学会九州地域部会第 62 回大会紙面発表, 2021 年 6 月.  
<辞書>九州社会福祉研究会編『21 世紀の現代社会福祉用語辞典 第 2 版』学文社, 2019 年 6 月.  
<その他>畑香理「福祉専門職養成の立場から」福岡県医療ソーシャルワーカー協会『FUKUOKA 医療ソーシャルワーク』42, 2021 年 7 月.

## ③過去の主要業績

- ・ <著書>畑香理「第 15 章 社会福祉の実践事例:医療ソーシャルワーカーと多職種協働の実際」鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論 (第 4 版)』講談社, 2018 年 12 月.
- ・ <論文>畑香理・本郷秀和「退院援助からみる医療ソーシャルワーカーの役割と大腿骨骨折を経験した人への支援ー先行研究の分析からー」『九州社会福祉学』15, 日本社会福祉学会九州部会, 2019 年 3 月.
- ・ <その他>畑香理・住友雄資・奥村賢一・平川明美・浦田愛「2017 年度教育実践報告:『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』ー実習連絡協議会における意見を踏まえた取り組みを中心にー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』27 (1), 2018 年 9 月.

## 3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 若手研究, 交付金額 1,040 千円  
「大腿骨骨折を経験した女性高齢者に対する支援モデルの検討」2019 年度~2021 年度, 研究代表者.
- ・ 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 C, 交付金額 4,420 千円  
「地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割」2019 年度~2023 年度, 本郷秀和・鬼崎信好・村山浩一郎・松岡佐智・畑香理・田中将太・梶原浩介・島崎剛.

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本保健医療社会福祉学会、日本高齢者虐待防止学会、日本地域福祉学会、日本医療ソーシャルワーク学会、日本看護科学学会、福岡県立大学社会福祉学会

## 6. 担当授業科目

「精神保健福祉援助実習指導」(3単位・3～4年・通年)、「医療ソーシャルワーク論」(2単位・3年・前期)、「精神保健福祉援助実習」(5単位・4年・通年)

## 7. 社会貢献活動

- ・日本社会福祉学会 九州地域ブロック 事務局
- ・福岡県立大学社会福祉学会 事務局
- ・田川市地域包括ケアシステム推進協議会 医療・介護・住まい部会 委員
- ・田川市国民健康保険運営協議会 副会長

## 8. 学外講義・講演

令和3年度福岡県人権相談従事者職員研修～技能向上コース～ 講師,テーマ「記録表現講座(実習)」(会場:福岡県人権啓発情報センター),2022年1月.

## 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／こどもコース	職名	助教	氏名	二見 妙子
---------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

障害学研究を土台としたインクルーシブ教育（保育）の研究を行っています。過去には1970年代に日本各地で展開された障害児教育運動の通史的な調査を行いました。今後は、インクルーシブ教育の先進地であるイタリアの法制度や実践の調査から、日本のインクルーシブ保育（教育）が発展するための視点や方法を明らかにしたいと考えています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- 『卒業論文集 2021 年度』（編集二見妙子、阿久根桃香、瀬本紗来、立花淳乃、的場芽生、三好穂高、保武ひかり、植木印刷、2022 年 3 月 1 日）

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- 「インクルーシブ教育を推進するための実践に関する研究—北イタリアの『レッジョエミリアアプローチ』を事例に」（公教育計画学会：石川県金沢市石川勤労者福祉文化会館：2019 年 6 月 15 日）。

「山下栄一による『教育心理学への現象学的接近』とレッジョエミリアアプローチ」

（障害学研究会九州沖縄部会熊本研究集会：2019 年 8 月 10 日：熊本学園大学）。

「インクルーシブな教育保育内容の研究—ボローニャインクルーシブ教育センター アリーチェエイモラ氏の講演より」（障害学研究会九州沖縄部会：2021 年 3 月 27 日：鹿児島研究集会 zoom）

「広教組四十年史 産業別ストライキと賃金・権利闘争の高揚の考察」（TU 研：2022 年 3 月 15 日：zoom）

#### <報告書>

「アドボチャイルド活動の報告」『福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター』（共：二見妙子、建部正雄：2019 年 10 月）。

「レッジョエミリアアプローチと障害児のインクルージョン」『福岡県立大学平成 30 年度研究奨励交付金研究成果報告書』（2020 年 3 月）。

「アドボチャイルド活動と『教育』—倉石／仁平の教育化に関する議論を手がかりに」『福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター事業報告書』7-9、（2020 年 10 月）。

- 「インクルーシブな社会をめざす専門性の模索——日伊の制度と実践の比較を通じて」（2021 年 3 月）

「インクルーシブ教育・保育を推進する制度と実践に関する研究—日伊におけるドキュメンテーション活用と比較を通じて」『福岡県立大学奨励交付金研究成果報告書』（2022 年 3 月）

#### <書評>

- 『「独立子どもアドボカシーサービスの構築に向けて」』（堀正嗣編、栄留里美、久佐賀真里、鳥海直美、農野寛治）を読む』『公教育計画研究 11』177-179（2020 年 7 月）。

### ③過去の主要業績

#### <著書>

- ・ 『インクルーシブ教育の源流—1970年代の豊中市における原学級保障運動』（単：現代書館;2017年4月15日出版）。

#### <論文>

- ・ 「インクルーシブ教育運動の構造分析—1970年代の大阪府豊中市における原学級保障運動の分析と教育運動を活性化させる戦略の解明」（熊本学園大学大学院社会福祉学研究科提出博士論文2016年1月）。
- ・ 『共に生きる教育』の運動における条件整備論の陥穽」堀正嗣編『共生の障害学』（2012年：第6章、明石書店）。

### 3. 外部研究資金

科学研究費助成事業、若手研究、「イタリア1971年118号法制定のために教育運動が果たした役割」、4,420,000円、2021年～2023年

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

障害学会、社会福祉学会、公教育計画学会

### 6. 担当授業科目

特別支援教育・2年・1単位・前期。

障害児保育・2年・2単位・後期。

演習・3年・2単位・通年

卒業論文・4年・6単位・通年

特別支援教育演習 2単位・大学院・前期。

教育課題演習B・2単位・大学院1年・後期・オムニバス。

### 7. 社会貢献活動

- (1) 家庭的保育室「はぐくみ・こころ・めばえ」苦情処理第3者委員会評価委員。
- (2) 障害児を普通学校へ全国連絡会会員。
- (3) 田川郡香春町子ども食堂「キッチン小春ちゃん」実行委員。

## 8. 学外講義・講演

- (1) 公開講座『インクルーシブな社会をめざす専門性の模索』(2021年2月19日)にて報告「日伊の障害児教育の特徴」。
- (2) 講演「インクルーシブ教育をどう進めるか」(九州数学教育協議会、2021年6月19日)

## 9. 附属研究所の活動等

人間社会学部／地域社会コース	職名	助手	氏名	佐藤 繁美
----------------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

- ・ 大原孫三郎における地域社会構想の研究
- ・ 石井十次、岡山孤児院における地域社会構想の研究
- ・ 地域の権力構造の研究

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 石崎龍二,佐藤繁美,「福岡県立大学人間社会学部における統計演習の教育効果 (2021 年度)」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 30 巻第 2 号, pp.53-66,福岡県立大学,2022 年 3 月.
- ・ 佐野麻由子,坂無淳,田代英美,佐藤繁美,「公共社会学科における高大連携授業の実践——鞍手高校 SGH 事業への参加とその効果——」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 30 巻第 2 号, pp.67-76,福岡県立大学,2022 年 3 月.
- ・ 石崎龍二,佐藤繁美,「同期型・非同期型オンライン授業による多変量解析に関する統計演習の教育効果 (2020 年度)」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 30 巻第 1 号, pp.155-168,福岡県立大学,2021 年 10 月.
- ・ 石崎龍二,佐藤繁美,「オンデマンド型オンライン授業による統計演習の教育効果 (2020)——学生の自己評価と授業改善点——」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 29 巻第 2 号,pp.163-178,2021 年 3 月.
- ・ 石崎龍二,佐藤繁美,「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果 (2019 年度)」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 29 巻第 1 号,pp.59-72,2020 年 10 月.
- ・ 石崎龍二,佐藤繁美,「統計演習科目における学生の自己評価と授業改善点 (2019)」,『福岡県立大学人間社会学部紀要』,第 28 巻第 2 号, pp.71-86,福岡県立大学,2020 年 2 月.
- ・ 石崎龍二,佐藤繁美,「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果 (2018 年度)」,第 28 巻第 1 号, pp.73-87,福岡県立大学,2019 年 9 月.
- ・ 石崎龍二,佐藤繁美,「統計演習科目における学生の自己評価に基づいた教育効果の検証 (2018)」,第 27 巻第 2 号, pp.125-142,福岡県立大学,2019 年 2 月.

### ②その他最近の業績

### ③過去の主要業績

### 3. 外部研究資金

科学研究費助成事業(基盤研究(C))31年度～4年度 交付金額 4,420千円  
研究課題、「自立的地域社会」の構想と事業展開  
一大原孫三郎・石井十次の理念の継承と再構成 — (研究代表者)

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本社会学会、関西社会学会、日本社会分析学会

### 6. 担当授業科目

- ・ 社会調査実習Ⅰ（補助） 2単位・2年・実習・前期
- ・ 社会調査実習Ⅱ（補助） 2単位・2年・実習・後期
- ・ データ処理とデータ解析Ⅰ（補助） 1単位・3年・演習・前期
- ・ データ処理とデータ解析Ⅱ（補助） 1単位・3年・演習・後期

### 7. 社会貢献活動

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等



看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	石田 智恵美
-----------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府 発達・社会システム専攻 教育学コース 博士後期課程 単位取得退学。

学習者に存在するであろう知識構造を想定し、知識の構造化を促進するための教授方略の研究・開発を行っている。具体的には、講義・演習・実習をつなぐための方略を授業で実践し、「わかる授業」を目指した授業研究を実施している。その他、卒後教育の一貫として、卒後1～2年目の看護職者を対象とした、タスクマネージメント研修や、臨床の看護師を対象とした研究指導を行っている。また、看護実習指導者講習会、認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）の研修において、看護職者の知識の構造化の促進を目指している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 石田智恵美 中本亮 アクティブラーニングによる演習と看護学生の思考に関する研究, 福岡県立大学紀要 2020年3月

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 石田智恵美 中本亮 アクティブラーニングによる演習と知識の活用に関する研究 日本教育工学会 2020年春季全国大会 2020年2月 長野
- ・ 石田智恵美 中本亮 e-learning を活用した知識の変容に関する考察 日本教育工学会 2021年春季全国大会 2021年3月 関西学院大学（オンライン）

### ③過去の主要業績

- ・ 石田智恵美 久米弘 看護学生のための知識の構造化のための講義・演習・実習連携評価モデル 大学教育第10号 九州大学高等教育総合開発研究センター pp.77-97. 2004.
- ・ 石田智恵美 看護学実習における臨床指導者を含めた教材化と教師の役割 九州大学大学院教育学コース院生論文集 飛梅論集第6号 pp.23-48. 2006.
- ・ 石田智恵美 動的なプログラム学習による学習者の知識の構造化に関する研究—会話による知識構造推測型の発問生成ストラテジーの効果— 教育学習心理学研究 第3巻 第2号 pp.37-53. 2007.

## 3. 外部研究資金

科学研究費補助金（基盤研究C） 課題番号：19K10742 看護学生の知識の変容を目指したアクティブラーニングの構築 2019年～2021年

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本教育工学会，日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本教授学習心理学会，日本赤十字看護学会 日本教育学会

#### 6. 担当授業科目

<学部>

国際看護論・1単位・2年・後期，健康科学・2単位・2年・後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，看護研究・2単位・3年・前期，看護教育学・1単位・3年・前期，看護実践論・1単位・3年・前期，教師論・2単位・3年・前期，ケアリング論・2単位・3年・前期  
ケアリングサイエンス・2単位・人間社会学部3年&看護学部4年・後期，看護管理論・1単位・4年・後期，統合実習・2単位・4年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

看護教育学特論・2単位・1年・前期，看護教育学演習・2単位・1年・後期，看護教育学・2単位・1年・後期，看護管理学・2単位・1年・後期，基盤看護学特別研究・8単位・1～2年・通年，マネジメント助産学特論・2単位・2年・前期，コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期，助産学課題研究・4単位・1～2年・通年

#### 7. 社会貢献活動

- ・ 嘉麻赤十字病院 研究指導 5月～3月まで1回/月 院内研究発表会の講評
- ・ 地方独立行政法人川崎町立病院評価委員 2020年8月～2022年7月

#### 8. 学外講義・講演

認定看護管理者教育課程 セカンドレベル講師 「ヘルスケアサービス管理論」，「看護組織管理論」

#### 9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	江上 千代美
-----------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

### 親のレジリエンスを高めるための家族支援に関する介入研究

**親の養育レジリエンスの向上：**親の養育レジリエンスの向上を目指す介入とそのメカニズムを明らかにする研究を行っています。また、子育てスタイル、ストレス（生体指標と質問紙）、子どもの行動等の関係性を明らかにすることも行っています。トリプル P (positive parenting program) という認知行動療法を用いて、トリプル P を学んだ親は「子育てが楽しくなった。」「子育てに自信がついた」、「もう一人子どもを産んでみようかな。」という感想がよく聞かれ、未来を担う健全な子どもの育成や少子化対策にもつながっています。トリプル P の名前にも反映しているように子どもをもつ全ての親が楽しく学ぶことで健全な家族づくり、ひいては健全な街づくりを目指すことができます。

### 観察力に反映する看護アセスメントのシュミレーションシステムの開発

「目は心の鏡」に、代表されるように、目の動きは人の精神生理的な指標であり、目の動きにはさまざまな人の行動理解や支援の手がかりが含まれています。これまで行ってきた発達障害の対人的視覚認知機能障害や不注意等の解明と支援につながる研究をもとに、現在、看護学生や看護師のセーフティ・マネジメント支援を目標とした臨床に活かせる研究を行っています。さまざまな看護場面におかれたときに看護学生や看護師はどのような目の動きをするのか、教育や経験により異なるのか、変化しない場合には何が影響しているのかという検討を基に、どのようなセーフティ・マネジメント支援の必要性があるのか、どのような集団教育および個人教育につなげる必要があるのか課題提示と支援プログラムの開発に取り組んでいます。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<論文>

- Egami C (2018). Triple P intervention support to improve caregiving resilience for caregivers with children with developmental problemspp. Science Impact Ltd,27-29(3).
- Okabe R, Egami C(3 番目 11 人中)et al(2017). Increased cortisol awakening response after completing the summer treatment program in children with ADHD. Brain Dev, 39(7), 583-592.
- 江上千代美,塩田昇(2020).Child Adjustment and Parent Efficacy Scale – Developmental Disability (CAPES-DD) の日本語版作成の試み福岡県立大学看護学研究紀要,17,37-45.
- 江上千代美,塩田昇,恵良友彦,田中美智子(2020).発達障がいのある児の母親の養育レジリエンスの向上を目指して –Stepping Stones Triple P (トリプル P) による RCT を用いた試行的介入–, 福岡県立大学看護学研究紀要,17,1-4 .
- 江上千代美,田中美智子,松浦江美,安酸史子(2020).関節リウマチ患者に対する慢性疾患セルフマネジメントプログラムの効果 –唾液コルチゾール・RR 間隔・DAS28・VAS 指標を用いて–, 福岡県立大学看護学研究紀要,17,27-35.

- ・ 田中美智子,江上千代美,近藤美幸,長坂猛(2017).眼への温熱刺激による身体反応および主観的評価に対する加齢の違い,日本看護技術学会誌,16(1).
- ・ Akira Y, Chiyomi E(3 番目 7 人中) et al(2016). Behavioral and Neural Enhancing Effects of a Summer Treatment Program in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder
- ・ Egami C, et al(2015). Developmental trajectories for attention and working memory in healthy Japanese school-aged children.Brain Dev,37(9),840-8.
- ・ 江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子(2014).下腹部と腰部の温罨法が生体に及ぼす効果の検討, 福岡県立大学看護学研究紀要,11(2),45-51.
- ・ 江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子(2014).温罨法が末梢と心臓の自律神経系に及ぼす効果,日本看護技術学会,12(3),34-9,2014.
- ・ Ohya T, Morita K, Yamashita Y, Egami C, Ishii Y, Nagamitsu S, Matsuishi T. Impaired exploratory eye movements in children with Asperger's syndrome. Brain Dev. 36(3), 241-7, 2014.
- ・ 江上千代美,近藤美幸,福田恭介,田中美智子(2012).看護場面における看護学生の危険認知力評価-眼球運動指標の活用-.福岡県立大学看護学研究紀要,10:13-20
- ・ 江上千代美,近藤美幸,福田恭介,田中美智子,他(2012).看護場面における看護学生の危険認知と眼球運動との関係. 看護人間工学研究誌,12:15-20.

## ②その他最近の業績

- ・ 江上千代美,山下裕史朗(2015).発達障がい児をもった母親の養育レジリエンス向上に向けた支援~母親の変化と子どもの行動~,第 24 回日本 LD 学会,佐賀,349-350.

## ③過去の主要業績

- ・ Yushiro Yamashita, Chiyomi E et al .:Summer treatment program for children with attention deficit hyperactivity disorder: Japanese experience in 5 years. Brain Dev. 33, 260-7, 2011.
- ・ Egami C, Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Matsuishi T: Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain Dev. 31(10), 750-7, 2009.

## 3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究(C)）2015 年度～2018 年度 交付金額 4,810 千円  
 研究課題、トリプル P 介入によって発達障害児をもつ母親の子育てレジリエンスは向上するか  
 科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究(C)）2018 年度～2021 年度 交付金額 4,290 千円  
 発達障害の診断前の児の親の養育レジリエンス向上・基本的な生活習慣の習得を目指して・

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本生理学会会員、日本小児神経学会会員、日本 LD 学会会員、日本看護学教育学会員、日本看護研究学会会員、日本看護技術学会会員、看護人間工学部会員、日本看護科学学会会員

## 6. 担当授業科目

<学部>

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年次・前期，生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年次・後期，生態・病態看護学実験 2単位・2年次，専門看護学ゼミ・2単位・3年次・通年，総合実習・2単位・4年次・前期，生態機能看護学Ⅲ、卒業研究・2単位・4年次・通年，

<大学院>

Advanced 生理学・病態生理学・2単位・1年次、基盤看護学特別研究 8単位  
実験看護学演習 2単位・1年次 実験看護学特論 2単位・1年次

## 7. 社会貢献活動

子育て支援活動：久留米市・田川市・香春町・志免町・朝倉市

## 8. 学外講義・講演

子育て支援に関する講演会の講師

## 9. 附属研究所の活動等

久留米大学

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	尾形 由起子
-----------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

超高齢多死社会において、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続するための公衆衛生看護活動に関する研究をしている。具体的には、①地域住民がねたきりになっても住み慣れた地域で暮らし続けるため当事者である住民自身が自分の思いを表出する場を作ること②地域包括ケアシステムを構築するための多職種協働し研修のあり方を検討すること③医療依存度の高い人々が終末期を迎えるにあたり当事者の意志決定支援（ACP）について検討することを主な研究テーマとしている。多職種と共にこのようなテーマを実践的に活動し、住み慣れた地域で介護が必要になっても、当事者の願いを尊重し安心して暮らし続けることができるよう、看護職（病院看護師、訪問看護師、保健師）や多職種の方々と研鑽している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 櫛直美, 尾形由起子, 小野順子, 中村美穂子, 大場美緒, 吉田麻美, 猪狩崇, 平塚淳子, 田中美樹, 吉川未桜, 山下清香, 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察, 福岡県立大学看護学紀要, 18巻, 2022
- ・ 吉川未桜, 吉田麻美, 平塚淳子, 中村美穂子, 大場美緒, 小野順子, 猪狩崇, 山下清香, 田中美樹, 櫛直美, 尾形由起子, 新型コロナウイルス感染拡大化における訪問看護ステーションの困難と対応, 福岡県立大学看護学紀要, 18巻, 2022
- ・ 田中美樹, 吉川未桜, 尾形由起子, 櫛直美, 吉田麻美, 小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み, 福岡県立大学看護学紀要, 18巻, 2022
- ・ 小野順子, 山下清香, 中村美穂子, 中本亮, 櫛直美, 田中美樹, 吉川未桜, 吉田麻美, 尾形由起子, A県における訪問看護ステーションの災害対策現状と課題-災害時の在宅医療継続にむけて-, 福岡県立大学看護学紀要, 18巻, 2022
- ・ 杉本由利子, 山下清香, 小野順子, 香月眞美, 山口のり子, 尾形由起子, 市町村保健師の発達障害児に対する連携技術の構成概念の検討, 日本地域看護学会誌 24 (2), 2021
- ・ 尾形由起子, 社会・環境と健康 公衆衛生学 2021年度, 柳川洋, 尾島俊之編著, 医歯薬出版株式会社, 2021
- ・ 尾形由起子, 小野順子, 山下清香, 櫛直美, 眞崎直子, 多職種による終末期までの療養生活に対する意思決定支援内容の検討, 福岡県立大学看護学紀要, 17巻, 13-20, 2021
- ・ 山口のり子, 福岡洋子, 中村美穂子, 猪狩崇, 尾形由起子, 官民学協働による地域住民を含めた「ケアカフェ」実践報告, 福岡県立大学看護学紀要, 17巻, 21-26, 2021
- ・ 檜橋明子, 中村美穂子, 小野順子, 山下清香, 手島聖子, 尾形由起子, 保健師の実践能力に対する公衆衛生看護実習の効果, 福岡県立大学看護学紀要, 17巻, 27-36, 2021
- ・ 眞崎直子, 松原みゆき, 林真二, 竹島正, 橋本修二, 三徳和子, 尾形由起子, 都市型準限界集落の防災健康危機管理についての住民の意識調査, 日本看護福祉学会雑誌, 25 (2), 187-197, 2020

## ②その他最近の業績

### <学会発表>

- ・ 山口のり子, 尾形由起子, 施設看取りを推進するために求められる医療と介護の連携～インタビュー調査を通して～, 第80回日本公衆衛生学会, 2021.10
- ・ 廣木里香, 尾形由起子, 地域住民の主体性と終末期までの在宅療養意思決定に関する認識との関連, 第80回日本公衆衛生学会, 2021.10
- ・ 尾形由起子, 矢津剛, (座長) 浦川雅広, 酒井智恵美, 平野頼子, コミュニティにおけるアドバンスケアプランニング, 日本在宅医療連合学会地域フォーラム シンポジウム, 2020, 10月
- ・ 山下清香, 榎直美, 小野順子, 中村美穂子, 廣瀬理絵, 尾形由起子, 訪問看護ステーションの連携強化における保健所保健師の役割における考察, 第78回日本公衆衛生学会, 2019, 高知
- ・ 中村美穂子, 小野順子, 廣瀬理絵, 岩崎玲奈, 榎直美, 尾形由起子, A県における退院支援部門の実態及び退院支援・退院調整に関する意識調査 ―第一報―, 第78回日本在宅ケア学会, 2019 宮城

## ③過去の主要業績

- ・ 尾形由起子, 岡田麻里, 榎直美, 野口忍, 山下清香, 松尾和枝, 眞崎直子, 三徳和子, 終末期がん療養者の満足な在宅看取
- ・ 尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 吉田恭子, 杉本みぎわ, 阿部久美子, 岡田麻里, 終末期がん療養者の配偶者による在宅看取り実現のためのセルフマネジメントに対する支援の検討―多職種フォーカス・グループインタビューの結果より―福岡県立大学看護学紀要, 14巻, 2017
- ・ 尾形由起子, 社会・環境と健康 公衆衛生学 2021年度, 柳川洋, 尾島俊之編著, 医歯薬出版株式会社, 2021

## 3. 外部研究資金

- ・ 尾形由起子 (研究代表者), 地域に密着した住民の主体的介護促進のための教育支援モデルの開発, 文科省科学研究 (基盤 C) 2017-2019 (2021 期間延長)
- ・ 尾形由起子 (研究分担者, 榎直美), 通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究, 文科省科学研究 (基盤 C) 2018-2020 (2021 期間延長)
- ・ 尾形由起子, (研究分担者, 山下清香) 保健師の住民参加促進力向上教育プログラムの開発, 文科省科学研究 (基盤 C) 2018-2020 (2021 期間延長)
- ・ 岡田麻里 (研究代表者), 尾形由起子 (研究分担者), 訪問看護師の多職種協働による地域看取りケアの振り返り支援教育プログラムの開発, 文科省科学研究 (基盤 C) 2020-2022

## 5. 所属学会

日本公衆衛生看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本地域看護学会, 日本在宅ケア学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本学校保健学会, 日本看護技術学会, 日本医療・病院管理学会

## 6. 担当授業科目

### 【看護学部】

公衆衛生看護学Ⅰ（2単位）2年後期，家族看護論（1単位）2年前期，公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ（1単位）3年後期，公衆衛生看護学Ⅱ（2単位）4年前期，公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ（2単位）4年前期，公衆衛生看護技術論Ⅰ（2単位）4年前期，公衆衛生看護技術論Ⅱ（2単位）4年前期，公衆衛生看護学Ⅲ（1単位）4年後期，公衆衛生管理論（2単位）4年生後期，組織協働活動論（2単位）4年後期，公衆衛生看護学実習Ⅰ（1単位）4年前期，公衆衛生看護学実習Ⅱ（4単位）4年後期，

### 【看護学研究科】

地域看護学特別研究（2単位）修士1年前期，地域看護学特別演習（2単位）修士1年後期，看護研究法（2単位）修士1年前期，看護政策論（2単位）修士1年前期

## 7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県地域在宅推進協議会委員（H20年度～現在に至る），地域在宅医療推進協議会員（：京築保健福祉環境事務所，嘉穂保健福祉環境事務所），宗像医師会在宅医療連携拠点事業運営委員会（いづれも H20 年度～現在に至る）
- ・ 福岡県訪問看護連携強化事業（委託事業）（平成 28 年度～現在に至る）
- ・ 田川市地域支え合い体制づくり検討委員会（平成 26 年度～現在に至る）
- ・ 香春町地域福祉計画策定委員（委員長）（平成 27 年度～現在に至る）
- ・ みやこ町健康づくり推進委員会（委員長）（平成 27 年度～現在に至る）
- ・ 北九州市人権施策審議会委員（平成 27 年～現在に至る）
- ・ 田川保健福祉環境事務所運営協議会（平成 30 年度）
- ・ 築上町地域福祉計画策定委員会（令和元年度）・日本公衆衛生看護学会 査読および座長
- ・ 日本地域看護学会 評議委員および査読委員・日本在宅ケア学会 査読委員および座長
- ・ 日本看護研究学会 評議員 ・ 田川市立病院評価委員会 委員
- ・ 一般財団法人 日本看護学教育評価機構（看護学分野）九州ブロック担当理事
- ・ 全国保健師教育機関協議会 九州ブロック担当理事

## 8. 学外講義・講演

- ・ 飯塚地区在宅医療連携研修会 講師（済生会飯塚病院，飯塚市立病院）
- ・ 田川市郡在宅医療多職種研修会 講師
- ・ 北九州市中堅保健師研修会 講師

## 9. 附属研究所の活動等

令和 3 年度研究奨励交付金計画書（附属研究所重点領域研究）：地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データの GIS 分析による地域診断モデルの開発



看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	永嶋 由理子
-----------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

平成 18 年久留米大学大学院心理学研究科（博士課程）人間行動学専攻単位取得満期退学。

主な研究として、看護技術の熟達化を解明するために認知心理学を援用した実証研究に取り組んでいる。この研究は、平成 16 年度～平成 17 年度の科研(基盤研究(C))に採択されたが、引き続き平成 18 年度～平成 20 年度科研(基盤研究(C))においても採択されたことで、継続的に調査及び実験研究を進めてきた。関連研究で平成 23 年度～平成 25 年度科研(基盤研究(C))が採択されたことで、平成 24 年度は研究計画に沿って、看護技術の熟達化を思考の視点から客観的に解明するため、光イメージング脳機能測定装置を使用しプレ実験を行った。プレ実験を受け平成 25 年度は本実験を実施し、一部興味深い結果を得ることができた。平成 26 年度、新たに科研(平成 26 年度～平成 29 年度挑戦的萌芽研究)が採択され、引き続きメインテーマとしている看護技術の熟達化検証に取り組んだ結果、アイマークレコーダー装着での実験で視線の合理性(熟達に伴い無駄な視線の動きが減少する)が一部捉えられた。令和 1 年度に採択された科研(令和 1 年度～令和 3 年度基盤研究 C)においても、関連研究を引き続き実施し、実験の精度を高めつつ、科学的及び心理学的見地から研究に取り組んでいく予定である。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<論文>

- ・ 松枝 美智子,村田 節子,江上 史子,松井 聡子,渡邊智子,永嶋由理子, 医療施設等の看護管理者が高度実践看護師に提供したい支援, 星槎大学大学院紀要,第 3 巻第 1 号,2021.
- ・ 淵野由夏,永嶋由理子,加藤法子,藤野靖博,於久比呂美,宮崎千尋. 基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討,福岡県立大学看護学研究紀要,第 17 巻,2020
- ・ 宮崎千尋,永嶋由理子,看護職を目指す学生の主体的学習活動と学習意欲および自己効力感の検討ー公立大学と私立大学の比較ー,福岡県立大学看護学研究紀要,第 16 巻,2019.
- ・ 松枝美智子,江上史子,渡邊智子,松井聡子,村田節子,永嶋由理子.A 県の医療機関等の看護管理者の高度実践看護師に対する雇用ニーズ,福岡県立大学看護学研究紀要,第 16 巻,2019.

### ②その他最近の業績

<報告書>

- ・ 宮崎千尋,永嶋由理子, 看護職を目指す学生の主体的学習活動に関する内的要因の検討～学習意欲と自己効力感に焦点をあてて～,平成 29 年度研究奨励交付金報告書, 2019.

### ③過去の主要業績

- ・ 永嶋由理子,特集 意欲と主体性を育てる 実習計画・指導・記録評価のポイント,患者アセスメントと看護過程に関する評価のポイント. 看護人材育成, 8・9 月号, p50-55, 2015.

- ・ 永嶋由理子,看護技術の熟達化における思考過程深化の解明,久留米大学大学院心理学研究科中間論文,P1-59,2006.
- ・ 永嶋由理子,山川裕子,血圧測定技術を構成する下位スキルの検討. 福岡県立大学看護学部紀要, 2(2),p1-8,2005.

### 3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基盤研究 C）,「看護技術の熟達形成に関わる促進要因の検討」, 403 万, 研究代表, 2019～2022 年年度.

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本看護学会, 日本看護科学学会, 本看護研究学会, 日本看護学教育学会, 日本教育心理学会, 日本協同教育学会

### 6. 担当授業科目

<学部>

基礎看護学概論・2 単位・1 年・前期, 基礎看護学実習 I・1 単位・1 年・前期, 基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期, フィジカルアセスメント論・1 単位・2 年・前期, 看護過程・1 単位・2 年・前期, 基礎看護学実習 II・2 単位・2 年・前期, シンプトンマネジメント論・1 単位・後期, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 統合実習・2 単位・4 年・前期, 卒業研究 2 単位・4 年・通年

<大学院>

看護理論・2 単位・1 年・前期, 看護心理学特論・2 単位・1 年・前期, 看護心理学演習 2 単位 1 年・後期, 課題研究・1～2 年・通年, 基盤看護学特別研究・1～2 年・通年

### 7. 社会貢献活動

- ・ 日本看護研究学会査読委員
- ・ 田川市住宅政策審議会委員
- ・ 福岡ゆたか中央病院地域協議会委員

### 8. 学外講義・講演

- ・ 「看護論」の講義, 福岡県看護教員養成指導者講習会講師, 2021 年 5 月
- ・ 「看護過程」の講義・演習, 福岡県立大学看護実践教育センター特定行為研修, 2021 年 8 月
- ・ 出前講義, 長崎県立佐世保西高等学校, 2021 年 8 月

### 9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	福田 和美
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として集中治療室、外科病棟、呼吸器内科病棟での臨床経験のあと、佐賀大学大学院医学研究科看護学専攻（看護学修士）に進学し、手術を受けた乳がん患者の看護を行う看護師の共感に関する研究を行いました。その後大学教員になり、九州大学大学院医学系学府保健学専攻に進学し、術後せん妄患者の家族への看護に関する研究を行い、博士課程を修了しました（看護学博士）。現在は、術後せん妄の予防的ケアも含めたうえでの患者や家族の看護に関する研究を継続して行っています。また、成人看護学教育におけるシミュレーション教育の導入や効果的な教授方法について研究を行っています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 村田和子, 笹山万紗代, 福田和美, 大場美緒, 政時和美, 山口馨子, 中井裕子, 古庄夏香 (2021) : 成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリット型学内実習の実践報告, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 18 巻掲載予定.
- ・ 山口馨子, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子, 中井裕子, 福田和美 (2021) : クリティカルケア実習における看護学生の体験—フォーカス・グループインタビューの分析—, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 18 巻掲載予定.
- ・ 政時和美, 大場美緒, 古庄夏香, 中井裕子, 村田和子, 笹山万紗代, 山口馨子, 福田和美 (2021) : 学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 18 巻掲載予定.
- ・ 村田和子,福田和美 (2020) : 成人看護学におけるシミュレーション教育に関する文献検討, 福岡県立大学看護学紀要, 第 17 巻, p63-70.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 福田和美, 中尾久子(2021年) : 看護師が行う術後せん妄患者の家族への情報提供の現状, 第 41 回日本看護科学学会学術集会 (愛知 : オンライン).
- ・ 村田和子, 福田和美 (2020年) : 看護基礎教育における患者教育に関する文献検討, 第 46 回日本看護研究学会学術集会 (大阪市 : オンライン).
- ・ Kazumi Fukuda, Hisako Nakao (2020) : Experience of families visiting patients immediately after the operation, the 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Osaka : オンライン).
- ・ 村田和子, 福田和美 (2019) : 成人看護学におけるシミュレーション教育に関する文献の検討, 第 45 回日本看護研究学会学術集会 (大阪市).

### ③過去の主要業績

<論文>

- ・ 福田和美, 中尾久子 (2015) : 術後せん妄を発症した高齢患者の家族の体験, *The Journal of Nursing Investigation*, 第13巻1,2号, p 20-27.
- ・ 渡邊美保, 福田和美 (2014) : がん患者を対象とした全人的苦痛に対するタクティールケアの効果, *日本看護医療学会雑誌*, 第16巻2号, p 40-48.
- ・ Kazumi Fukuda, Hisako Nkao (2013) : Effects of post-operative delirium of patients on family members and their response, *The Journal of Nursing Investigation*, 11 (1,2) , p 1-13.

<学会発表>

- ・ Kazumi Fukuda, Hisako Nakao (2017) : An overview of how nurses interact with the families of postoperative patients, *The 2nd Asia-Pacific Nursing Research Conference (Taipei)*.
- ・ 福田和美, 中尾久子 (2016) : 術後せん妄を発症した患者に対する家族の表情と行動第35回日本看護科学学会学術集会 (広島).
- ・ Kazumi Fukuda, Hisako Nakao (2014) : Experience of family members of patients who exhibited postoperative delirium, *7th International Nurse Practitioner /Advanced Practice Nursing Network Conference (London)* .

### 3. 外部研究資金

科学研究費助成事業 (基金分) 基盤研究 (C) 令和2年~5年, 交付金額 3,120 千円, 研究課題: 情報提供を基盤とした術後せん妄に対する看護師と家族の協働的ケアプログラムの開発 (研究代表者)

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本クリティカルケア学会、日本がん看護学会、日本看護医療学会、日本老年看護学会、Sigma Theta Tau International

### 6. 担当授業科目

<学部>

成人看護学概論・1単位・2年・前期、チーム医療・1単位・2年・前期、成人慢性看護学・2単位・2年・後期、成人急性看護学・2単位・2年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人急性看護学実習・3単位・3~4年・後前期、成人慢性看護学実習・3単位・3~4年・後前期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、看護研究・2単位・3年前期、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・1単位・4年生・通年

<大学院>

Advanced 臨床薬理学・2単位・1年・通年、成人看護学特論・2単位・1年前期、成人看護学演習・2単位・1年後期、看護研究法・2単位・1年前期、終末期高齢者看護論・2単位・1年前期、ウイメンズヘルステ論・1単位・1年前期、ウイメンズヘルス演習・1単位・1年後期、臨床看護学特別研究・1～2年・8単位・通年、課題研究・1～2年・4単位・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県看護協会 教育研修体系再構築プロジェクト 委員
- ・ 福岡県看護協会 看護研究倫理審査委員会 委員長
- ・ 日本看護協会 第53回日本看護学会学術集会 抄録選考委員
- ・ The Journal of Nursing Investigation 査読者
- ・ 済生会福岡総合病院 特定行為研修管理委員会 外部委員

8. 学外講義・講演

- ・ 出前講義 新宮高校 「生活習慣病と看護」
- ・ 飯塚市立病院看護部研修会（看護過程・接遇研修）講師

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	松浦 賢長
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

母子保健学者，思春期保健学者，性教育学者。保健学博士（東京大学）

東京大学を卒業後，同大学院に進学し，東京大学医学系研究科博士課程を修了（保健学博士）。日本総合愛育研究所母子保健研究部に研究員として勤務後，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部母子保健学教室に研究助手として勤務。帰国後，京都教育大学教育学部にて衛生学（学部）および学校保健学（大学院）を担当する助教授として教員養成に10年間携わる。再度，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部人口・家族計画学教室に助手として勤務し，平成15年度から本学看護学部開設と同時に地域看護学講座教授として着任した。その後，学部改組によりヘルスプロモーション看護学系学校保健領域（養護教諭養成課程を含む）教授を経て，看護学部教授。また，本学の附属図書館長を平成20年度から21年度まで兼務。平成22年度～23年度には，本学の4つのセンターを有する附属研究所長を兼務。平成24年度，不登校・ひきこもりサポートセンター長。平成25年度から，教員兼務理事を務める。

母子保健学：全国学会レベルでは，日本小児保健学会が10年に一度行う幼児健康度調査（令和3年度）の委員長を務めている。国レベルでは，わが国の母子保健（健やか親子21）については，第1回中間評価時（2005年），第2回中間評価時（2009年），最終評価時（2014年）に評価研究メンバーとして九州から只一人参画し，健やか親子21（第2次）策定に係った。また，長年にわたり厚生労働科学研究（山縣然太郎班）のメンバーとして政策研究を遂行してきている。わが国の産後うつ病の頻度の把握をはじめとして，研究成果が厚生労働行政政策に反映されている。現在は，成育医療基本法に基づく成育医療等基本方針の指標策定研究に関わっている（山縣班）。わが国の乳幼児健診の標準化にいてもグランドデザインから関わり（山崎嘉久班），わが国で初めての全国標準問診項目の開発を担当した。県レベルにおいても，福岡県の乳幼児健診マニュアルの開発委員長を務めた。現在は，福岡県教育委員，福岡県青少年問題協議会委員長，福岡県性暴力対策会議座長，福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会副委員長，福岡市子ども子育て審議会委員長，北九州市思春期保健連絡会会長などを拝命している。平成25年度（12月1日）には，第26回日本保健福祉学会学術集会を主催。本学を保健福祉学の拠点とするべく業績を発信中である。平成30年度健やか親子21全国大会（津市）にて，厚生労働大臣表彰を受けた。

思春期学：学会レベルでは，日本思春期学会の常務理事および性の健康医学財団の幹事を務める傍ら，九州思春期研究会の会長として，山積する思春期の課題に取り組んでいる。国レベルでは，健やか親子21の指標の見直しを担当し，厚生労働省と文部科学省の協力のもと，慎重な性行動を予測する指標の開発を行い，国の施策に反映させた。また，思春期やせ症予防のためのマニュアル（全国版）を開発・出版した。現在，日本版Bright Futures作成を目標とする研究班に関わっている（福大：永光教授班）。また，平成20年度からは文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に不登校の子どもたちへの援助力を養成するためのプログラムが採択され，推進責任者としてプログラムを実行した（～平成22年度）。県レベルでは，福岡県エイズ・性感染症対策委員を拝命し，また，北九州市の性感染症対策のための大規

模調査（2007年）、久留米市の思春期問題調査（2014年）を担当した。平成23年度（8月26日～28日）には、第30回日本思春期学会学術集会を主催した。

性教育学：学会レベルでは、いまだ学問として発展途上にあることから、性教育学を確立するべく、全国の若手研究者とともに性教育学構築フォーラムを主催し、わが国で初めてとなる性教育学の書籍を出版した。国レベルでは、カプラン・マイヤー法を初めて用いた日本人の性行動の分析をおこない、厚生労働省人口問題研究所等から評価を受けた。また、新しい学校性教育のスタイルである「カフェテリア方式」を開発し、全国に導入されている。現在は全国の若手研究者とともに「思いやり」と「共感」の違いに着目しつつ、脳科学・進化心理学の成果を利用し、性教育学モデルを組み立てている。県レベルでは、福岡県の性教育関連事業の委員等を務め、小集団学習福岡方式の開発に寄与した。現在は特別支援学校の性教育に取り組む。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 松浦賢長，他（編著）（2021.8）. 思春期学基本用語集（日本思春期学会）. 東京：講談社.
- ・ 松浦賢長. (2021.3). 学校における生命と性の教育. 「生命と性」の教育（近藤洋子編著）. 東京：玉川大学出版部.
- ・ 松浦賢長，他（編著）（2020.11）. 子どもの保健（日本小児保健協会幼児健康度調査委員会）. 東京：ジアース教育新社.
- ・ 松浦賢長（編著）. (2018.3). ワークシートから始める特別支援教育のための性教育. 東京：ジアース教育新社.
- ・ 松浦賢長，小林康毅，荻田香苗（編著）. (2018.3). コンパクト公衆衛生学. 東京：朝倉書店.
- ・ 松浦賢長，笠井直美，渡辺多恵子（編著）. (2017.3). 学校看護学. 東京：講談社.

### ②その他最近の業績

### ③過去の主要業績

## 3. 外部研究資金

- ・ 厚生労働科学研究費補助金，健やか次世代育成総合研究事業「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」班：30万円，（主任研究者：山梨大学 山縣然太郎教授）. 分担研究者.
- ・ 厚生労働科学研究費補助金，成育疾患克服等次世代成育基盤研究事業「乳幼児の身体発育及び健康度に関する調査実施手法及び評価に関する研究」班：110万円，（主任研究者：国立保健医療科学院 横山徹爾部長）. 分担研究者.
- ・ 厚生労働科学研究費補助金，成育疾患克服等次世代成育基盤研究事業「身体的・精神的・社会的（biopsychosocial）に健やかな子どもの発育を促すための切れ目のない保健・医療体制提供のための研究」班：50万円，（主任研究者：東京大学 岡明教授）. 分担研究者.

- AMED, 成育疾患克服等総合研究事業「思春期健診およびモバイルテクノロジーによる思春期のヘルスプロモーション」研究：40 万円, (主任研究者：久留米大学 永光信一郎准教授). 分担研究者.

#### 4. 受賞

厚生労働大臣表彰 (母子保健・健やか親子 21 全国大会：三重県津市にて)

#### 5. 所属学会

日本思春期学会 (常務理事), 日本保健福祉学会 (理事), 日本看護科学学会 (社員), 日本公衆衛生学会, 日本小児保健協会 (幼児健康度調査委員長), 日本母性衛生学会, 日本健康教育学会, 日本学校保健学会, 日本民族衛生学会, 日本性感染症学会, 日本性科学会

#### 6. 担当授業科目

<学部>

公衆衛生学, 保健統計学, 学校保健学, 性教育学, 教育方法論, 健康教育論, 養護実習 (教育実習), 養護実習事前事後指導, 教職実践演習, 不登校ひきこもり援助論, 子供学習支援論

<大学院>

看護研究法, ヘルスプロモーション科学, ヘルスプロモーション看護学特別研究, 思春期ヘルスプロモーション特論/同演習

#### 7. 社会貢献活動

- 日本思春期学会・常務理事 (教育担当理事)
- 日本思春期学会・性教育委員会委員長
- 日本小児保健協会・幼児健康度調査委員長
- 財団法人性の健康医学財団・幹事
- 九州思春期研究会・会長
- 福岡県青少年問題協議会・会長
- 福岡県性暴力対策会議・座長
- 福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会・副会長
- 北九州市思春期保健連絡会・会長
- 福岡市こども子育て審議会・委員長
- ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアム・取組担当者
- 福岡県教育委員会がん教育推進委員会・委員長
- 福岡県教育委員会性に関する指導推進協議会・会長
- 田川市子ども子育て会議・会長

#### 8. 学外講義・講演

#### 9. 附属研究所の活動等



看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	村方 多鶴子
-----------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院で勤務後、教育の分野（高等学校衛生看護科・専攻科、医療技術短大、看護学部など）で長年働いてきました。その後、精神科を専門とする訪問看護ステーションにて看護師として勤務後、再び教育・研究の場に戻り、令和3年度に本学に着任しました。

研究分野としては、精神障害をもつ母親の子育てに関する研究などを行っていましたが、訪問看護ステーション勤務後は主に、精神科訪問看護ステーションにおける新任スタッフ育成に関する研究を行っています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 萱間真美、稲垣中編集（2021）：精神看護学Ⅰ、第3章（発達段階別にみる発達課題と精神の健康）3-1 発達理論と発達課題、南江堂、p 131-135.
- ・ 吉川隆博・木戸芳史編集（2021）：精神看護、第2部（アセスメント:リカバリー志向の包括的アセスメントをする技術）3-4 社会的アセスメント（家族、環境）、中央法規、p 113-117.

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 村方多鶴子（2020）：精神障害者を対象とした訪問看護を行う新任スタッフを育成する管理者のサポート、第40回日本看護科学学会学術集会（Web開催）。
- ・ 村方多鶴子（2019）：精神科勤務経験がないスタッフが精神科訪問看護を始めるうえで成長に役立つと認識しているサポート内容、第39回日本看護科学学会学術集会（石川）

### ③過去の主要業績

- ・ 村方多鶴子（2018）：集中的な支援が必要な精神障害者に対する24時間電話対応、精神科臨床サービス、18(3)、p 54～58
- ・ 村方多鶴子（2018）：訪問看護における電話対応、精神科臨床サービス、18(3)、P59～P62
- ・ 村方多鶴子、角田秋（2017）：必要な精神医療を受けずに子どもと同居している母親への支援アウトリーチ推進事業による手厚い支援の分析、精神障害とリハビリテーション、21(2)、p 188～195

## 3. 外部研究資金

科学研究費助成事業若手研究、2019～2022年度（期間延長）、交付金額1,690千円、研究課題：精神障害者を対象とした訪問看護を行う新任スタッフ育成プログラムの開発（研究代表者）

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本社会精神医学会、  
日本精神障害者リハビリテーション学会、日本在宅看護学会

## 6. 担当授業科目

### <学部>

精神看護学概論・2単位・2年・前期、看護倫理学・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・  
2年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3年前期、  
精神看護学実習・2単位・3年後期～4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研  
究・2単位・4年・通年

### <大学院>

助産学課題研究4単位・1年・通年、精神科診断治療実習・2単位・2年・通年、Advanced精  
神看護専門看護師直接ケア実習・2単位・2年・通年、Advanced精神看護専門看護師役割実  
習・2単位・2年・通年

## 7. 社会貢献活動

## 8. 学外講義・講演

静岡県立大学大学院：広域看護学特論Ⅰ、地域における看護活動・精神訪問看護

宮崎県立看護大学：宮崎県立看護大学 地域貢献事業 措置入院者の退院後支援力育成事業  
関係機関との連携のポイント

## 9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	石村 美由紀
-----------	----	-----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

不妊支援、妊婦教育、助産師教育に関する研究に取り組んでいる。特に不妊支援においては、不妊専門相談センターのあり方に関する研究を行うとともに、不妊カウンセラーの資格を活かし、不妊当事者のおしゃべり会を定期的に開催したり、行政の不妊相談員として活動している。妊婦教育においては、マタニティサロン・ムーンという妊婦教室の企画・運営に携わっている。助産師教育においては、助産学実習における学生のパワーレスに関する研究や、分娩介助技術習得過程に関する研究を行い教育の質の向上に努めている。また小中高校生対象の性教育も積極的に行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- 金子あやみ, 鳥越郁代, 石村美由紀 (2020). 「進まない分娩」に対する開業助産師の助産ケア. 日本助産学会誌 34 (2), 204-215.
- 道園亜希, 古田祐子, 佐藤繭子, 石村美由紀 (2019). 小学生の子どもをもつ保護者が家庭で行った就学前後の性教育の実態. 福岡県立大学看護学部紀要 16 (1),

### ②その他最近の業績

- 橋本優, 石村美由紀, 佐藤香代 (2018). 有効性と安全性の高い骨盤位矯正法—温灸・膝胸位・施行なし群の比較—. 第 59 回日本母性衛生学会学実集会, , 2018.10.
- 針持萌, 鳥越郁代, 石村美由紀, 古田祐子 (2018). 看護学生の基礎体温の変動パターンおよび月経随伴症状とそのセルフケア行動の実態調査. 第 33 回日本助産学会学実集会, 福岡, 2019.3.
- 金子あやみ, 鳥越郁代, 石村美由紀 (2018). 「進まない分娩」に対する開業助産師の分娩進行を促すための助産ケア. 第 33 回日本助産学会学実集会, 福岡, 2019.3.
- 安河内静子, 古田祐子, 石村美由紀, 吉田静, 鳥越郁代 (2018). 助産所での継続ケア実習が助産師としてのアイデンティティ形成に及ぼす過程. 第 33 回日本助産学会学実集会, 福岡, 2019.3.

### ③過去の主要業績

- 石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 道園亜希, 林千絵, 清田哲子(2017). 死産を体験した母親の次子の妊娠・出産・育児に関する研究(第 2 報)—次子の出産・育児体験の語りから—. 母性衛生 58(2), 346-354.
- 石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代, 鳥越郁代(2016). 学士課程における助産実践能力(分娩介助技術および健康教育)の到達状況と課題. 福岡県立大学看護学部紀要 13(1), 1-10.
- 石村美由紀. (2016). 「自治体ウェブサイトから得られる不妊専門相談センター事業の情報と課題」. 日本生殖看護学会誌 13(1), 21-27.

### 3. 外部研究資金

科研費：「行政が担う不妊専門相談センターを活用した不妊支援システムの構築」

基盤研究 C（課題番号 17K12311）

事業期間：平成 29 年度から令和 2 年度まで（延長して令和 4 年度まで）

交付金額：1,076,425 円

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本母性衛生学会，日本助産学会，日本不妊カウンセリング学会（不妊カウンセラー資格取得），  
日本生殖看護学会（編集委員），日本思春期学会（代議員、性教育認定制度委員・幹事），日本  
看護科学学会，福岡母性衛生学会（学術集会座長）

### 6. 担当授業科目

<学部>

女性看護学概論(1)・2 年前期，女性看護学(2)・2 年後期，女性看護学演習 I (1)・3 年前期，  
女性看護学演習 II (1)・3 年後期，女性看護学実習(2)・3 年後期，専門看護ゼミ(2)・3 年通年，  
卒業研究(2)・4 年後期，統合実習(2)・4 年前期，

<大学院>

助産学特論(2)・1 年前期，助産学演習(2)・1 年後期，ウイメンズヘルスト論(1)・1 年前期，  
ウイメンズヘルス演習(1)・1 年後期，基礎助産学特論(2)・1 年前期，基礎助産学演習(2)・1  
年通年，助産実践学 I (2)・1 年前期，助産実践学 II (4)・1 年通年，助産実践学 III (2)・1 年後  
期，助産実践学 IV (2)・1 年後期，ホリスティック助産学特論(1)・1 年前期，ホリスティック  
助産学演習(2)・1 年後期，コミュニティ助産学特論(1)・1 年前期，コミュニティ助産学演習  
(2)・1 年後期，マネジメント助産学特論(2)・2 年前期，助産学実習 I (1)・1 年前期，助産学  
実習 II (8)・1 年後，助産学実習 III (2)・2 年前期，助産学実習 IV (1)・2 年前期，助産学実習 V  
(2)・2 年後期，特別研究 (8)・通年，課題研究 (4)・通年，

## 7. 社会貢献活動

- ・ 北九州市不妊専門相談センター 不妊症相談担当
- ・ 不妊カウンセラー（日本不妊カウンセリング学会認定）
- ・ アドバンス助産師
- ・ 妊婦教室（マタニティサロン・ムーン）（香春町共催）全5回シリーズ
  - セッション1：いのちを育む食 ～はじめましてのご挨拶 野菜の力を体験～
  - セッション2：かおりでほぐす心とからだ ～私と赤ちゃんを癒す優しいタッチ～
  - セッション3：案ずるより産むがやすし ～ヨガと骨盤ワークでリラックス～
  - セッション4：世界に一つだけの私のお産 ～うむ力うまれる力 ありのままのあなた～

同窓会

## 8. 学外講義・講演

- ・ 講演「大切なあなたの性 - “こころ”と“からだ”を正しく知ろうー」. 福岡市立多々良中学校1年生. (2021.12)

## 9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	榎 直美
-----------	----	-----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

北九州市立大学社会システム研究科地域社会システム専攻博士後期課程修了、博士（学術）。研究分野は「地域・在宅で生活する療養高齢者とその家族の支援」をテーマとし、特に近年は認知症を抱える家族介護者の“持てる介護力”に着目して、その潜在的介護力を引き出し向上させていくための多職種協働による効果的な介入方法について研究中です。介護保険制度が施行され家族の身体的介護負担は軽減された側面もありますが、孤立した家族介護者の寂しさや閉塞感は以前と変わっていないように感じます。本当に必要な看護支援を見出すためには、自ら介護家族者と触れ合いその苦悩を感じ取る感性が必要だと考えます。そのために介護する側とされる側の方々に寄り添った医療・福祉連携の多職種研修会や介護関係の研修会講師など地域での実践活動を積極的に行い、その活動を通して、介護保険制度にはないインフォーマルな関係性を構築していきたいと思えます。そして目指すはエビデンスに基づいた家族介護者のエンパワメント向上への看護支援です。

## 2. 研究業績

### ① 最近の著書・論文

- ・ <著書> 尾形由紀子，山下清香監修，榎直美．地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学演習・実習．第2章地域の健康課題のアセスメント．クオリティケア，2019年9月．
- ・ <論文> 榎直美，尾形由起子，小野順子，中村美穂子，大場美緒，吉田麻美，猪狩崇，平塚淳子，田中美樹，吉川未桜，山下清香．在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察．福岡県立大学看護学研究紀要，19巻，2022年，3月．
- ・ 榎直美．家族介護者の介護肯定感形成のための対処行動の検討，日本ホスピス・在宅ケア研究会雑誌，第29巻3号，2021，12月．
- ・ 御手洗みどり，榎直美，楠凡之．看護学の実習におけるシミュレーション教育の学習効果—臨地実習経験のある学生の学びのレポートからの分析—，北九州市立大学文学部紀要，第29巻，2022，P19-30．
- ・ 小野順子，山下清香，中村美穂子，中本亮，榎直美，田中美樹，吉川美桜，吉田麻美，尾形由起子．A県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題—災害時の在宅療養継続に向けて—．福岡県立大学看護学研究紀要，19巻，2022年，3月．
- ・ 田中美樹，吉川未桜，尾形由起子，榎直美，吉田麻美．小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み．福岡県立大学看護学研究紀要，19巻，2022年，3月．
- ・ 吉川未桜，吉田麻美，平塚淳子，中村美穂子，大場美緒，小野順子，猪狩崇，山下清香，田中美樹，榎直美，尾形由起子．新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応．福岡県立大学看護学研究紀要，19巻，2022年，3月．
- ・ 尾形由起子，小野順子，山下清香，榎直美，眞崎直子．多職種による終末期までの療養生活に対する意思決定支援内容の検討．福岡県立大学看護学研究紀要，第18巻．2021，3月．
- ・ 榎直美・尾形由起子・江上史子．家族介護者の介護力構造因子における関連要因と介護負担感

への影響。日本看護研究学会雑誌,Vol. 42 No.1. 2019. 3月.

- ・ 榎直美. 多職種連携による協同的ケアを組み込んだ地域包括ケア推進に向けての一考察. 地域ケアリング. 北隆館, Vol. 21 No.11.2019.10月.
- ・ 榎直美. 認知症を抱える家族介護者への地域支援の取り組みへの提言—認知症を抱える家族介護者と専門職者による語り合いの場を通して—. 地域ケアリング. 北隆館, Vol. 21 No.6.2019.6月.
- ・ 猪狩崇・石崎龍二・榎直美・柴田雅博・小野順子・檜橋明子・杉本みぎわ・尾形由紀子. 地域包括ケアシステム構築に向けた人的ネットワーク形成・運営に関する一考察. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第16巻. 2019. 3月.

### ②その他最近の業績

- ・ <学会発表> 御手洗みどり, 雪松和子, 廣瀬理絵, 榎直美. 老年看護学におけるシミュレーション実習の学習効果について～臨地実習経験のある学生の学びのレポートからの分析～. 第47回日本看護研究会,web開催. 2021年.
- ・ 榎直美, 雪松和子, 江上史子, 廣瀬理恵. 認知症カフェ開設に向けた人材育成の取り組みの効果について. 第40回日本看護科学学会. Web開催. 2020年. 12月.
- ・ 榎直美, 小野順子, 中村美穂子, 廣瀬理絵, 山下清香, 尾形由起子. 在宅医療推進における訪問看護師の連携に関する研究—連携強化事業を通して(第1報)—. 第78回日本公衆衛生学会総会. 高知. 2019. 10月.
- ・ 山下清香, 尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 迫山博美. 訪問看護ステーションの連携強化における保健所保健師の役割に関する考察. 第78回日本公衆衛生学会総会. 高知. 2019. 10月.
- ・ 中村美穂子, 小野順子, 廣瀬理絵, 岩崎玲奈, 榎直美. 尾形由起子 A 県における退院支援部門の実態及び退院支援・退院調整に関する意識調査 —第一報—. 第24回日本在宅ケア学会学術集会. 仙台, 2019年7月.
- ・ 江上史子, 丸山泰子, 榎直美. デイサービスでの BPSD の軽減に関連する効果的なケアの要因. 第24回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会. 大分. 2019. 11月.
- ・ <報告書> 「令和2年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業」報告書, 2021年3月.
- ・ 「令和元年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業」報告書, 2020年3月.
- ・ 「平成31年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業」報告書, 2019年3月.
- ・ 「平成31年度付属研究所重点領域研究報告書」地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データの GIS 分析による地域診断モデルの開発, 2020年3月.

### ③過去の主要業績

- ・ 『博士論文』家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究 - 家族介護者の介護力向上のために必要な看護支援の検討. 全115頁. 2015年3月.

## 3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤 C (平成 30～33 年) 「認知症カフェにおける家族介護者の介護力獲得支援モデルの開発」研究代表者
- ・ 福岡県訪問看護連携強化事業受託金 (2020～2022 年) 研究分担者(代表 ; 尾形由起子)

- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤 C（平成 29～33 年）「簡易型認知行動療法プログラムの生活習慣改善への効果検証」研究分担者（代表；田中美加）

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会、日本老年看護学会、日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護医療学会、日本在宅ホスピスケア研究会

#### 6. 担当授業科目

老年看護学・2単位・2年・後期,老年看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期,老年看護学演習Ⅱ, 1単位・3～4年・通年, 老年看護実習Ⅰ・1単位・2年・通年,老年看護実習Ⅱ・2単位・3～4年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 統合実習・2単位・4年・前期,卒業研究・2単位・4年・後期,老年看護学特論・2単位・修士1年,老年看護学演習・2単位・修士1年, 高齢者医療保健福祉政策・ケアシステム論 2単位・修士1年,

#### 7. 社会貢献活動

- ・ NPO 法人「ヘルスアイランドライツサポートうりずん」第三者評価委員会委員長
- ・ 北九州市生きがい・働き方検討会委員                      ・ 田川市地域包括ケアシステム推進協議会委員
- ・ 田川市高齢者保健福祉計画有識者会議委員
- ・ NPO 法人「福祉・医療機関教育評価機構」理事・第三者評価委員
- ・ NPO 法人「生涯現役支援センター」高齢者健康相談員
- ・ 令和3年度「人に優しい町・田川をつくる会」理事
- ・ 北九州在宅医療・介護塾世話人として年間を通して多職種連携研修会やフォーラム等開催による実践活動.
- ・ 筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参画し年間を通し地域住民との協同的実践活動.

#### 8. 学外講義・講演

- ・ 北九州病院グループ看護師研修会講師.「フィジカルアセスメント」, 北九州病院本部. 2021年11月.
- ・ 北九州市介護従事者研修会オンライン開催講師「高齢者の誤嚥予防～あきらめない食事へのアプローチ～」ウエル戸畑, 2021年10月、11月.
- ・ 出前講義講師「『ヘルシーエイジング』一楽しく、健やかに老いるために」, 長崎県立津島高校. 2021年10月.

#### 9. 附属研究所の活動等

- ・ 附属研究所奨励研究令和3年度（附属研究所重点領域研究）, 地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データの GIS 分析による地域診断モデルの開発.
- ・ 筑豊市民大学ヘルシーエイジングゼミアドバイザー.



看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	芋川 浩
-----------	----	-----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1987年に大阪大学 大学院医学研究科を修了後(医科学修士)、名古屋大学 大学院理学研究科博士後期課程修了(理学博士)を経て、岡崎国立共同研究機構・基礎生物学研究所にて日本学術振興会・特別研究員(PhD)、科学技術振興機構(JST) ERATO 吉里再生機構プロジェクト・グループリーダー、University College London (UCL) 上級研究員、RIKEN 発生再生総合科学研究センター上級研究員を経て、2005年本学に着任。

現在、再生医療に関する研究を、脊椎動物で唯一手足などを再生できるイモリや再生の王様であるプラナリアなどを用いて解析している。ヒトなどは、一度手足や臓器・器官を失うと、元通りに再生させることはできないが、イモリという有尾両生類は、手足や水晶体、網膜などを一度失っても、その後完全に再生できる(イモリ(井守)はヤモリ(家守)とは違いますよ!)。また、近年のめざましい生命科学の進歩により、手足をつくる主な遺伝子群もわかってきた。実は、手足をもつ脊椎動物は、全く同じ遺伝子を用いて手足を形成している。では、同じ遺伝子を持っているのに、なぜヒトは再生できず、イモリは再生できるのか?その難問を解明しようと研究を進めている。

近年注目されている iPS 細胞を使っても、3次元臓器・器官の形成に世界で誰もまだ成功していない。このような夢の再生医療の実現を再生の王様であるプラナリアやイモリから教えてもらいたいと考え、2017年、世界で2例目となる「イモリの培養細胞株」の樹立に成功した。日本初の樹立である。このイモリの細胞株を使って、試験管内での3次元組織構築に挑んでいる。

また、このような再生医学的アプローチばかりではなく、「スキンケア」の開発により、福岡県立大学初の特許取得にも成功した。さらに、医療に使える殺菌抗菌効果の解析も進めており、ヨーグルトやニンニク、長ネギ、わさびなどで興味深い結果も得られている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- 芋川浩, 山井ゆり. ドクダミの殺菌・抗菌効果の解析 -揮発性成分の有効性-. 福岡県立大学看護学研究紀要 19: 印刷中, 2022
- 芋川浩, 藤野まりか. 味噌の殺菌抗菌効果の解析. 福岡県立大学看護学研究. 18: 1-11, 2021
- 芋川浩, 古谷弥椰. 常在菌に対する生ワサビ抗菌効果の解析. 福岡県立大学看護学研究紀要. 17: 17-25, 2020
- 芋川浩, 有馬萌美, 水城明美. ショウガの殺菌・抗菌効果とその実用化に向けた解析. 福岡県立大学看護学研究紀要. 16: 83-94, 2019
- 鳥越郁代, 加藤法子, 松井聡子, 許棟翰, 芋川浩, 清原智佳子, 松浦賢長. 学生の専門分野における学習意欲を高める国際研修プログラムの開発. 福岡県立大学看護学研究紀要. 16: 111-119, 2019

## ②その他最近の業績

### <学会発表>

- ・ 芋川 浩. ドクダミの殺菌抗菌効果について. 第46回日本看護研究学会 学術集会 仙台市(オンライン開催) 2021.
- ・ 芋川 浩. 市販のニンニクにはどの程度の殺菌・抗菌効果があるのか? 第46回日本看護研究学会 学術集会 札幌市(オンデマンド開催) 2020.
- ・ 芋川 浩. ヨーグルトの抗菌効果の解析. 第45回日本看護研究学会 学術集会 大阪市 2019.

## ③過去の主要業績

- ・ 芋川 浩 (単著)『ライフサイエンス 生命の神秘』木星舎, p1-143, 2017年
- ・ 芋川 浩. 『皮膚創傷部治癒用組成物及び同皮膚創傷部治癒用組成物の製造方法』日本国特許庁・特許公報(B2) p1-20, 2016年
- ・ Y. Imokawa & K. Yoshizato. Expression of Sonic Hedgehog Gene in Newt Regenerating Limb Blastemas Recapitulates That in Developing Limb Buds. Proc. Natl. Acad. Sci. USA 94, 9159-9164 (1997).

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本動物学会、日本看護研究学会

## 6. 担当授業科目

生物学・2単位・1年・前期、教養演習・2単位・1年・前期、遺伝学・2単位・1年・後期、看護生化学・2単位・1年・後期、化学・2単位・1年・後期、生態病態看護学実験 A・2単位・2年生・前期、生態病態看護学実験 B・2単位・2年生・前期、グローバル社会論・2単位・2年生、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、日本事情(科学事情 I&II)・2単位・交換留学生・後期休講

## 7. 社会貢献活動

- ①宗像市(教育委員会)・福津市(教育委員会)による青少年育成事業の委員として、  
海とマリンスポーツに親しむ推進事業を小中学生等に指導している
- ②西南学院大学・非常勤講師 (科目名：生命科学 I(7), 生命科学 I(8), 生命科学 II(7),  
生命科学 II(8))
- ③聖マリア学院大学・非常勤講師 (科目名：生物学)

## 8. 学外講義・講演

- ・ 令和 03 年 06 月 08 日 福岡常磐高等学校 (高校訪問・オンライン)
- ・ 令和 03 年 07 月 06 日 福岡県立八幡中央高等学校 (高校訪問)
- ・ 令和 03 年 07 月 21 日 福岡県立鞍手高等学校 (高校訪問)
- ・ 令和 03 年 07 月 26 日 福岡県立八幡高等学校 (高校訪問)
- ・ 令和 03 年 07 月 27 日 福岡県立中間高等学校 (本学訪問、1 年生)
- ・ 令和 03 年 07 月 27 日 福岡県立中間高等学校 (高校訪問、3 年生)
- ・ 令和 03 年 09 月 09 日 福岡県立小倉東高等学校 (高校訪問)
- ・ 令和 03 年 09 月 09 日 自由ヶ丘高等学校 (高校訪問)
- ・ 令和 03 年 10 月 27 日 福岡ファッションビル (入試説明会)

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	加藤 法子
-----------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

平成 15 年 4 月より本学に着任し、基礎看護学の教育に携わっています。

研究は、看護技術・看護教育をキーワードに、看護技術の科学的検証や科学的根拠に基づいた技術教育プログラムの開発、実習による教育効果の検討など、看護基礎教育の充実を目指した研究に取り組んでいます。現在は主に、吸引技術に関する基礎的研究や吸引技術教育に関する研究を行っています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 塩田昇、廣瀬理絵、松山美幸、加藤法子、蔵元恵里子、田中美智子、江上千代美、「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか、福岡県立大学看護学部研究紀要、19 巻、
- ・ 淵野由夏、永嶋由理子、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美、宮崎千尋、基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討、福岡県立大学看護学研究紀要、17 巻、57-61,2020.
- ・ 鳥越郁代、加藤法子、松井聡子、許棟翰、芋川浩、清原智佳子、松浦賢長. 韓国、大邱韓医大学校における韓方医学及び看護短期研修プログラムの開発. 福岡県立大学看護学研究紀要. 16 巻、111-119,2019.

### ②その他最近の業績

### ③過去の主要業績

- ・ 加藤法子,呼吸困難感により自宅にこもりかちな在宅酸素療養患者.安酸史子,奥祥子編,患者がみえる成人看護の実践,メディカ出版,2007
- ・ 加藤法子,淵野由夏,永嶋由理子: 高齢在宅酸素療法患者の自己効力感に影響を及ぼす要因の検討.福岡県立大学看護学研究要,4(2),64 - 68.2007  
加藤法子.呼吸器系器官に問題のある対象へのフィジカルアセスメント.臨床看護,34 ( 4 ) ,457-490.2008.
- ・ 加藤法子:高齢者の栄養管理. 三原博光,松本百合美編著,豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援,関西学院大学出版会,2013.

## 3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究(C)）29 年度～31 年度 交付金額 2,470 千円  
研究課題、経験知に基づいた吸引技術教育の検討（研究代表者）

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本産業衛生学会

#### 6. 担当授業科目

##### <学部>

基礎看護学概論・2単位・1年・前期，基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年・前期，基礎看護技術論・2単位・1年・後期，フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期，看護過程・1単位・2年・前期，基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年・前期，シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期，統合実習・2単位・4年・前期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年

##### <大学院>

看護理論・2単位・1年・前期

#### 7. 社会貢献活動

- ・ 田川市男女共同参画委員会委員
- ・ ゆめっせフェスタ実行委員会

#### 8. 学外講義・講演

#### 9. 附属研究所の活動等

- ・ 看護実践教育センター
- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	四戸 智昭
-----------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

アルコール依存症などの依存症問題、児童虐待、不登校・ひきこもりなど主に家族機能に関する行動病理学を主な研究対象としています。具体的には、①不登校・ひきこもりの子を抱えた親の問題、②幼児期に児童虐待を受けた人の複雑性 PTSD に関する問題、③生活保護受給世帯におけるアルコール依存症の問題 などに関して調査研究をしています。

家族のあり方が多様化している一方で、その家族が地域から孤立してしまっているような悲しいニュースを聞かない日はありません。地域保健活動などでこういった分野に関わっていらっしゃる方や学校関係者の方、また、福祉関係者の方、ご要望があればいつでもお話しを伺いに参ります。お気軽にメールでご連絡ください。

(E-MAIL : shinohe@fukuoka-pu.ac.jp)

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<著書>

- ・ 四戸智昭著. 「第3章資料を探そうー上手に本を探すテクニクー」. 『旅する大学生のガイドブックーレポートの書き方 2021 年度版』. 福岡県立大学教養演習テキスト出版会. 2021 年 4 月.

<論文>

- ・ 四戸智昭. 「新型コロナ感染症による孤独と不安」. 『岩手の保健』. 226 号. 岩手県国民健康保険団体連合会. 2021 年 3 月.

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 柿原 愛、四戸 智昭. 「HSP とアダルト・チルドレンの関連性に関する一考察」. 日本嗜癖行動学会第 31 回学術集会. 熊本. 2021 年 11 月.

### ③過去の主要業績

- ・ 四戸智昭著. (単著). 『浪費を止める小さな習慣』. (2001). 光文社
- ・ 丸山久美子編著. 柏木哲夫、佐藤禮子、吉井光信、楯林義孝、石谷邦彦、平山正実、日野原重明、萬代隆、宮崎貴久子、小林美智子、丸山久美子、加藤淳、竹村和久、須田誠、南隆男、木島恒一、四戸智昭、大塚健樹、鈴木則子、小泉晋一、松井洋、西村洋一、作田明、小谷みどり. ”第 14 章家族の孤立という危機ーディスコミュニケーションが生む家族の苦悩ー”. 『21 世紀の心の処方学ー医学・看護学・心理学からの提言と実践ー』. (2008). 東京、アートアンドブレイン出版.
- ・ 西日本新聞朝刊連載、家族百景Ⅱ、四戸智昭、「不登校・ひきこもり考ー親子の視点から」 2013 年 8 月 13 日～12 月 24 日 (全 19 回)

### 3. 外部研究資金

科学研究費補助金（基盤研究 C） R1（H31）～R3「不登校・ひきこもり当事者家族に変化を促す支援者のためのフローチェックリストの研究」（研究代表者 四戸智昭）

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本嗜癪行動学会（学会誌編集委員）、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本アルコール関連問題学会、日本看護アディクション学会、子ども虐待防止学会

### 6. 担当授業科目

情報処理演習Ⅰ・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、現代社会と嗜癪・2単位・1年・後期、不登校ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、看護学研究・2単位・3年・後期、家族看護学・1単位・3年・前期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期、日本事情B・留学生・前期、日本事情A・留学生・後期、大学院看護学研究法・2単位・1年・前期、大学院家族社会学特論・2単位・1年・後期

### 7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県覚せい剤・麻薬禍対策協議会・委員
- ・ 田川市いじめ問題対策委員会・委員長
- ・ 北九州市依存症対策連携会議・委員
- ・ 福岡県薬物再乱用対策推進会議・委員

### 8. 学外講義・講演

- ・ 楠の会、2021年6月
- ・ ビハーク福岡、講演：コロナ過とひきこもり、2021年8月
- ・ 福岡市精神保健福祉センターひきこもりを理解する市民講演会、コロナ禍での家族の不安と孤立～つながることをあきらめないで～、2021年10月
- ・ AA福岡地区秋季イベント、講演：孤独を超えて～一緒に進もう、ひとりではない～、2021年10月
- ・ 福岡県ひきこもり支援者地域ネットワーク研修、2021年11月
- ・ 福岡県教育委員会、不登校よりそいネット事業、昼夜逆転とゲーム依存、2022年1月
- ・ 水巻看護助産学校、特別講義、2022年2月

### 9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	杉野 浩幸
-----------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

広島大学大学院工学研究科博士課程後期修了、博士（工学）。看護系教育機関における教員を対象とした学会発表支援・情報機器操作支援など、ICT テクノロジーを活用した研究・教育を行っている。現在の研究テーマは、1) 看護系教育機関における効果的な細菌学演習マニュアルの作成、2) 中堅看護従事者のための学会参加支援プログラムの開発、3) 看護師、看護学部教員を対象とした細菌培養 実験の指導、4) 看護系教育機関における効率的な細菌学演習を支援するデータベースの構築と運用、5) 効率的な看護研究・教育を支援するデジタル素材無償配信システムの構築と運用

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 杉野浩幸、効率的な看護研究・教育推進を支援するための ICT 技術支援：ICT 器機利用トラブル対処状況に基づく支援方法の検討、日本看護研究学会第 26 回九州・沖縄地方学会学術集会、オンライン、2022 年 2 月 2 日～2 月 15 日
- ・ 杉野浩幸、看護学部基礎教育における感染看護教育効果向上への取り組み：常在細菌・真菌類を用いた実験を活用した事例、日本看護学教育学会・学術集会、オンライン、2021 年 8 月 18 日～9 月 17 日
- ・ 杉野浩幸、効率的な看護研究・教育推進を支援するための ICT 技術サポート体制構築：ICT 関連トラブルの現状と対応策の検討、日本看護研究学会・第 47 回学術集会、オンライン、2021 年 8 月 23 日～9 月 3 日
- ・ 杉野浩幸、効率的な看護研究・教育推進を支援するための ICT 技術サポート体制構築-2：遠隔授業におけるトラブルの現状と対応策の検討、日本看護研究学会・第 47 回学術集会、オンライン、2021 年 8 月 23 日～9 月 3 日



### ③過去の主要業績

- H. Sugino, S. Furuichi, S. Murao, M. Arai and T. Fujii, Characterization of a Rhodotorula-lytic enzyme from Paecilomyces lilacinus having  $\beta$ -1,3-mannanase activity. 2004, Biosci. Biotechnol. Biochem. 68:757-760
- H. Sugino, Y. Terakawa, A. Yamasaki, K. Nakamura, Y. Higuchi, J. Matsubara, H. Kuniyoshi, and S. Ikegami, Molecular characterization of a novel nuclear transglutaminase that is expressed during starfish embryogenesis. 2002, Eur. J. Biochem. 269:1957-1967
- H. Sugino, M. Sasaki, H. Azakami, M. Yamashita, and Y. Murooka, A monoamine-regulated Klebsiella aerogenes operon containing the monoamine oxidase structural gene (maoA) and the maoC gene. 1992. J. Bacteriol. 174:2485-2492

### 3. 外部研究資金

文部科学省、学術研究助成基金助成金（科研費（基盤 C））、効率的な看護研究・教育を支援するデジタル素材無償配信システムの構築と運用、1,800 千円、2019 年 4 月～2023 年 3 月

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本看護教育学会  
日本看護学研究学会

### 6. 担当授業科目

教養演習・1 単位・1 年・前期、感染・免疫看護学演習・1 単位・1 年・後期、生態・病態看護学実験 A, B・1 単位・2 年・前期、看護研究・2 単位・3 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年

### 7. 社会貢献活動

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	田中 美樹
-----------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として集中治療室、NICU 等での勤務を経てのち、名古屋大学大学院医学系研究科博士前期課程修了、人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程 単位取得満期退学後より看護教育に携わり、2011 年本学に着任しました。

現在、本学こどもコース教員と連携し、入院中であつても子どもが子どもらしく生活するため保育士と看護師が専門性を発揮しながら協働するための研究および教育に取り組んでいます。また、子どもが初めて訪れる医療機関である小児科外来において、子どもが安心・安全に受診するための Preparation (プレパレーション) について取り組んでいます。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 田中美樹、吉川未桜、尾形由起子、榎直美、吉田麻美「小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み」福岡県立大学看護学部紀要、19 巻、2022 年
- ・ 吉川未桜、吉田麻美、平塚淳子、中村美穂子、大場美緒、小野順子、猪狩崇、山下清香、田中美樹、榎直美、尾形由起子「新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応」福岡県立大学看護学部紀要、19 巻、2022 年
- ・ 小野順子、山下清香、中村美穂子、中本亮、榎直美、田中美樹、吉川美桜、吉田麻美、尾形由起子「A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題-災害時の在宅療養継続に向けて-」福岡県立大学看護学部紀要、19 巻、2022 年
- ・ 榎直美、尾形由起子、小野順子、中村美穂子、大場美緒、吉田麻美、猪狩崇、平塚淳子、田中美樹、吉川未桜、山下清香「在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察」福岡県立大学看護学部紀要、19 巻、2022 年
- ・ 杉野寿子、田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、中原雄一、池田孝博「保育士養成課程における保健・健康の学びに関する研究」福岡県立大学人間社会学部紀要、29 巻 1 号、2020 年

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 川添優、吉川未桜、吉田麻美、田中美樹「予防接種を受ける子どもの親の意思決定要因とその過程で生じる不安・迷いに関する文献研究」第 67 回日本小児保健協会学術集会、2020 年
- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、道園亜希、宮城由美子「年長クラスの子どもの対象に“いのち”をテーマにした健康教育実施の効果～保護者へのアンケート調査からの検討～」第 25 回日本保育保健学会、2019 年
- ・ 田中美樹 招待講演「子どもと家族のプリパレーション～外来で子どもの”こころの準備“を支えるために～」第 29 回日本外来小児科学会、2019 年
- ・ 吉田麻美、吉川未桜、田中美樹「小児看護学実習における学生のインシデント 傾向の分析と課題」第 20 回九州・沖縄小児看護教育研究会、2019 年

### ③過去の主要業績

- ・ 吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子「赤ちゃん先生を活用した小児看護技術演習の効果」福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.13.no.1、2016 年
- ・ 吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子、「小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み」、福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.12 no.1、2015 年
- ・ 田中美樹「保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援」保育と保健、vol.19 no.2.pp68-72、2013 年

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本小児保健協会、日本外来小児科学会、日本子ども健康科学学会、日本保育園保健協議会、九州・沖縄小児看護教育研究会、日本看護研究学会、日本小児看護学会

### 6. 担当授業科目

(看護学部)「小児看護学概論」・1 単位・2 年前期、「小児看護学」・2 単位・2 年・後期、「小児看護学演習Ⅰ」・1 単位・3 年、「小児看護学演習Ⅱ」・1 単位・3 年、「小児看護学実習」・2 単位・3 年、「専門看護学ゼミ」・2 単位・3 年、4 年前期、「統合実習」・2 単位・4 年、「卒業研究」・2 単位・4 年、

(人間社会学部)「子どもの健康と安全」・1 単位・2 年前期

### 7. 社会貢献活動

田川市子育て支援事業にこにこ子育て講座「こんなときどうする？小児看護の基礎知識」

### 8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県 消防職員専科教育第 38 回救急科講義「小児・新生児」
- ・ 田川市保育士研修会「保育所（園）での感染対策-子どもの安全を守るために-」

### 9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	中井 裕子
-----------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

桜美林大学大学院国際研究科博士前期課程修了、修士（老年学）。主に老年看護学・成人看護学の教育に携わっています。主な研究分野は高齢者看護，周術期看護，看護教育です。主な研究テーマは高齢者に対する急性期看護，周術期患者のニーズ，臨床での看護学生のリアリティショックを緩和するための演習方法の検討です。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- 山口馨子，笹山万紗代，大場美緒，村田和子，中井裕子，福田和美．クリティカルケア実習における看護学生の体験－フォーカス・グループインタビューの分析－．福岡県立大学看護学研究紀要 2022；19：
- 村田和子，笹山万紗代，福田和美，大場美緒，政時和美，山口馨子，中井裕子，古庄夏香．成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告．福岡県立大学看護学研究紀要 2022；19：
- 政時和美，大場美緒，古庄夏香，中井裕子，村田和子，笹山万紗代，山口馨子，福田和美．学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み．福岡県立大学看護学研究紀要 2022；19：
- 中井裕子，笹山万紗代，政時和美，松井聡子．手術室見学実習における看護学生の学び．福岡県立大学看護学研究紀要 2020；17：35-46.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- 本田優季，中井裕子．手術室新人看護師に対する支援の現状と課題についての文献検討．日本看護研究学会第46回学術集会（Web開催）2020.
- 平田美結，中井裕子．手術室看護師と医師の連携の現状と手術室看護師に必要な能力についての文献検討．日本看護研究学会第46回学術集会（Web開催）2020.
- 笹山万紗代，中井裕子，政時和美，松井聡子．手術室見学実習における学生の学び．日本看護研究学会第45回学術集会（大阪）2019.
- 鎌田美乃里，中井裕子．救急看護師のストレスについての文献検討．日本看護研究学会第45回学術集会（大阪）2019.
- 假屋真帆，中井裕子．外国人患者の看護における看護師の困難に関する文献検討－コミュニケーションに注目して－．日本看護研究学会第45回学術集会（大阪）2019.

### ③過去の主要業績

- ・ 中井裕子, 榎本麻里, 三枝香代子, 堀之内若名. 成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討 (第二報). 千葉県立衛生短期大学紀要 2009 ; 27(1・2) : 143-151.
- ・ 中井裕子, 堀之内若名, 三枝香代子, 榎本麻里. 成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討. 千葉県立衛生短期大学紀要 2008 ; 26(2) : 105-112.
- ・ 大谷則子, 堀之内若名, 中井裕子, 榎本麻里. 手術室見学実習における学び—二つの実習形態の比較検討による考察—. OPE NURSING 2006 ; 21(6) : 98-108.

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護技術学会、日本老年社会科学会

### 6. 担当授業科目

成人慢性看護学・2単位・2年・後期、成人急性看護学・2単位・2年・後期、老年看護学・2単位・2年・後期成人看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人慢性看護学実習・3単位・3年・通年、成人急性看護学実習・3単位・3年・通年、老年看護学実習Ⅱ・3単位・3年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・後期、成人看護学演習・2単位・修士1年・後期

### 7. 社会貢献活動

福岡県立大学：新型コロナウイルスワクチン職域接種業務

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	古庄 夏香
-----------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

佐賀医科大学医学部看護学科卒業、大学病院・総合病院で臨床経験を積んだ後、佐賀大学（佐賀医科大学より名称変更）大学院医学系研究科看護学専攻修了、修士（看護学）。血液透析を受ける患者の看護に関する研究、看護師の実践知に関する研究、看護学生のリフレクションに関する研究、看護過程に関する研究を行っています。透析を受ける患者は近年高齢化してきており、それに伴い原疾患や既往歴も複雑化してきています。また、透析を行うことによっておこる様々な合併症により全身状態が悪化している場合や、体調不良により日常生活に支障をきたしていることもあり、QOLが低下している状態にあります。そのため、多職種が協働し介入を行うことで、患者の全身状態の改善や QOL の向上につながるのではないかと考え研究を行っています。現在、患者の QOL の向上を目的として透析を受けている患者を対象に九州歯科大学との共同研究を行っています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- 古庄夏香、前田ひとみ、血液透析患者の口腔乾燥および衛生状態、栄養状態並びに健康関連 QOL の実態調査、第 40 回日本看護科学学会学術集会、オンライン開催、2020 年
- 清原智佳子、平塚淳子、古庄夏香、外来通院中のウイルス性肝炎患者の療養生活に対する思い、第 46 回日本看護研究学会学術集会、オンライン開催、2020 年

### ③過去の主要業績

- 古庄夏香、黒田裕子、安藤敬子、小田正枝、林みよこ、中木高夫、山勢博彰、柏木公一、伊藤美佐江、電子カルテ稼働中の施設における看護師の思考過程の分析、看護診断 13 巻 2 号、p.5～12、2008
- 編集者：小田正枝共著者：小田正枝、井出裕子、山勢博彰、藤野成美、伊東美佐江、小田日出子、焼山和憲、下舞紀美代、古川秀敏、宇佐美しおり、窪田恵子、穴井めぐみ、古庄夏香（執筆順）、事例でわかる看護理論を看護過程に生かす本、照林社、2008
- Kumi Uchiyama、Hiroko Kukihara、Natsuka Furusho、Meaning of an Amyotrophic Lateral Sclerosis Patient's and his Main Caretaker's Worldview in Home Care、International Nursing Care Research、11(2)、p.69～81、2012

### 3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究(C)）2019年度～2022年度） 交付金額 4,290 千円  
研究課題「高齢血液透析患者の唾液分泌促進と口腔内衛生改善に向けた口腔ケアプログラムの開発」（研究代表）

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護診断学会、日本腎不全看護学会、質的統合法研究会、日本がん看護学会

### 6. 担当授業科目

<学部>

成人看護学概論・1単位・2年・前期、成人慢性看護学・2単位・2年・後期、成人急性看護学・2単位・2年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人慢性看護学実習・3単位・3～4年・後前期、成人急性看護学実習・3単位・3～4年・後前期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・1単位・4年生・通年、チーム医療論・1単位・2年・後期、教養演習・1単位・1年・前期

<大学院>

成人看護学特論・2単位・1年・前期、成人看護学演習・2単位・1年・後期

### 7. 社会貢献活動

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	増満 誠
-----------	----	-----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

鹿児島大学医療技術短期大学部看護学科卒業後、名古屋大学医学部附属病院（集中治療部・救急部）、医療法人同心会杉田病院（精神科）で看護師として6年、鹿児島大学医学部保健学科、国際医療福祉大学福岡看護学部で教員としての9年を経て、平成25年4月より福岡県立大学に着任しました。また平成22年に福岡県立大学大学院看護学研究科を修了しました。

主な研究は、看護における「間」（時間や空間）をどのように解釈するのか、演出するのか、とくに沈黙を中心に探究しています。また、教材としてのコミュニケーション感性トレーニングを開発中です。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書（分担執筆）>

- 増満 誠：「学びを止めない」オンライン授業の工夫と課題：日本看護協会出版会編集部編；新型コロナウイルススナースたちの現場レポート、日本看護協会出版会、p648-652、2021

#### <論文>

- 上田智之、増満 誠、木村涼平、田出美紀、山崎不二子、松浦賢長：看護系大学教員に対して新卒看護師がもつめるメンタリング機能、九州看護福祉大学紀要、22(1)、p3-13、2022
- 田出美紀、山崎不二子、増満 誠、上田智之、木村涼平、二重作清子、一原由美子、松浦賢長：地域拠点の大学教員が新卒看護師を支援するメンター制導入の検討と課題 - 制度導入に対する大学教員と新卒看護師の考え -、日本看護教育学会誌、31(3)、p47-60、2022
- 原田直樹、梶原由紀子、田原千晶、増満 誠、松浦賢長：元不登校児童生徒とその保護者の不登校をめぐる意識差と家族機能についての研究、福岡県立大学看護学研究紀要、19、p1-12、2022
- 木村涼平、山崎不二子、増満 誠、一原由美子、田出美紀、上田智之、松浦賢長：看護系大学新卒看護師の大学訪問時期と大学教員への相談状況に関する実態調査、日本看護学教育学会誌、30(1)、33-42、2020
- 増満 誠、大塚まり子、安田 緑、山川光子、八尋万智子、野田和美、宮尾久美子、野口さとみ：ちょっと気になる学生・新人ナースの支援を考える グループワークにおいて意識化された学生・新人看護師の強み 看護学校と職場の情報交換会の成果から、第50回日本看護学会論文集：看護教育、p51-54、2020.
- 恵良友彦、松枝美智子、江上千代美、増満 誠：抑うつ状態に対するアロマセラピーを用いた介入研究の現状と課題、福岡県立大学看護学研究紀要、17、5-15、2020.
- 中本亮、増満 誠、別城佐和子、佐多愛子、生駒千恵、松浦賢長：2型糖尿病患者を対象としたうつ状態とQOLとの相関分析、福岡県立大学看護学研究紀要、16、55-61、2019



## ②その他最近の業績

### <研究報告>

- ・ 増満 誠, 岡村祥子, 森雄太, 阿南沙織, 上田智之, 緒方浩志, 木村涼平, 田出美紀, 松浦賢長, 山崎嘉久: 乳幼児健診データを活用した被災地における乳幼児の健康状況の検討～小規模自治体におけるデータ収集と分析～, 厚生労働行政推進調査事業費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業)) 分担研究報告書, 2020.
- ・ 増満 誠, 中本亮, 生駒千恵, 石本佐和子, 佐多愛子, 松浦賢長, 劉宇, 赤司千波: 2型糖尿病患者におけるうつ傾向と QOL との関連に関する日中比較研究と予防介入プログラムの構築, 福岡県立大学平成 29 年度研究奨励交付金研究成果報告書, 2019.
- ・ 松枝美智子, 本郷秀和, 増満 誠, 中本亮, 宮崎初, 鬼塚香, 池田智, 山本智之: 精神医療の質評価指標の数値と精神医療福祉従事者数との関連, 福岡県立大学平成 30 年度研究奨励交付金研究成果報告書, 2020.

### <学会報告(国内学会筆頭のみ)>

- ・ Tomoyuki Ueda, Miwa Shimojo, Mayumi Hamasaki, Makoto Masumitsu, Hiroshi Ogata and Ryohei Kimura ; IMPACT OF THE WELLNESS RECOVERY ACTION PLAN ON THE MENTAL HEALTH OF NURSES、24rd East Asian Forum of Nursing Scholars, 2021.
- ・ 増満 誠, 中本亮, 生駒千恵, 別城佐和子, 佐多愛子, 松浦賢長, 劉宇, 赤司千波: 2型糖尿病患者におけるうつ傾向と QOL との関連に関する日中比較研究、第 32 回日本保健福祉学会学術集会、オンライン発表(東京)、2020.
- ・ 増満 誠: コミュニケーション教育における「4つの指示での描画課題」で描かれた描画のパターン分析による教材化研究～第 2 報 高校生を対象として～、第 33 回日本看護福祉学会学術大会(誌上発表)、2020.
- ・ 増満 誠, 松枝美智子, 中本亮, 池田智, 宮崎初: 看護師配置数による病院種別と精神病床の平均在院日数の関連、日本看護研究学会九州・沖縄地方会、誌上発表、2020.
- ・ 増満 誠, 大塚まり子, 安田緑, 山川光子, 八尋万智子, 野田和美, 宮尾久美子, 野口さとみ: 「ちょっと気になる学生・新人ナースの支援を考える」グループワークにおいて意識化された学生・新人看護師の強み、第 50 回日本看護学会－看護教育－学術集会、和歌山、2019.
- ・ Tomoyuki Ueda, Makoto Masumitsu, Ryohei Kimura, Miki Taide, Fujiko Yamasaki, Yumiko Ichihara, Kencho Matsuura : Study on factors comprising the mentoring function of nursing college faculty members required by new nurse graduates, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka of Japan, 2020.
- ・ Michiko Matueda, Makoto Masumitsu, Ryo Nakamoto, Hajime Miyazaki, Satoshi Ikeda, Tomoyuki Yamamoto, Kaori Onitsuka, Hidekazu Hongo : Relationship between average of psychiatric hospital stay and number of Advanced Practice Nurses (APNs) worldwide: Literature review, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka of Japan, 2020.

- Junko Hiratsuka, Makoto Masumitsu, Chikako Kiyohara : Eximination of factors influencing medical safety climate among ward nurses, The6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Sience, Osaka of Japan, 2020.
- Tomohiko Era, Michiko Matsueda, Chiyomi Egami, Makoto Masumitsu : Current status and Issues of intervention research using Aromatherapy for depressive state : Comparison of prior researches in Japan and foreign countries, The6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Sience, Osaka of Japan, 2020.
- Tomoyuki Ueda, Yoshihiko Saito, Miwa Shimojo, Makoto Masumitsu, Mayumi Hamasaki : The Effect of the Wellness Recovery Action Plan on the Mental Health of Nurses-A Comparison of Feelings of Hope and Self-Affirmation, 23th East Asian Forum of Nursing Scholars, Thailand, 2020.

<ガイドライン>

- COVID-19 の対応に従事する医療者を組織外から支援する人のための相談支援ガイドライン (作成メンバー) (参照 HP : <https://www.japmhn.jp/remotepfaguide>). 2020

<ポータルサイト>

- 厚生労働省受託事業「新型コロナウイルス感染症に対応する障害者施設等の職員のためのサポートガイド作成業務等一式」における、新型コロナウイルスの流行下に障害福祉施設等で働く方のためのポータルサイト「新型コロナ 障害のある人 共に歩む人」(セルフケア班メンバー) 参照 HP: <https://cdcwf.jp/>

### ③過去の主要業績

<論文>

- 増満 誠 : 看護場面における沈黙に関する看護研究の動向と課題, 国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部・福岡看護学部紀要, 6, 21-29, 2010.

### 3. 外部研究資金

- 文部科学省科学研究費補助金, 基盤研究(C), 高度実践看護師の患者との対話場面における沈黙の意味解釈と活用技法の検討, 令和 3~5 年度、研究代表者.
- 文部科学省科学研究費補助金, 基盤研究(C), 脳活動のモニタリングと集団認知行動療法を融合した児童虐待防止プログラムの開発, 令和 3~5 年度、研究分担者 (研究代表者: 木村涼平).
- 文部科学省科学研究費補助金, 基盤研究(C), 仮設住宅を退去した被災者の生理学及び心理学的影響と回復を促す集団プログラムの開発, 令和 2~4 年度、研究分担者 (研究代表者: 緒方浩志).

### 4. 受賞

令和 3 年度 なし

## 5. 所属学会（令和3年度）

日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本看護研究学会，日本心理学会，日本保健福祉学会、国際ケアリング学会（広報委員）、日本看護福祉学会、日本教師学会

## 6. 担当授業科目

<学部>

教養演習・1単位・1年・前期，不登校ひきこもり援助論・2単位・1年・前期，基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期，基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期，看護情報学・1単位・2年・後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，統合実習・2単位・4年・通年，疫学・2単位・2年・後期，卒業研究・2単位・4年・後期

<大学院>

データ解析演習・2単位・1年・後期

## 7. 社会貢献活動

国際ケアリング学会（広報委員）、福岡県看護協会教育委員会委員長、日本精神科看護協会教育認定委員会査読委員、日本保健福祉学会査読委員、日本精神科看護協会福岡県支部広報委員長・こころの日実行委員長・査読委員、九州思春期研究会 代表理事、介護労働安定センター福岡支部嘱託ヘルスカウンセラー、鹿児島市立皇徳寺中学校同窓会長、福岡県立大学大学院看護学研究科ナーシングネットワーク代表、看護教師力向上塾「かんでら」主宰

## 8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県立大学出前講義（全3回）「看護の道も一歩から～看護職へのキャリアデザインを考える～」，福岡県立糸島高等学校；10月27日、福岡県立伝習館高等学校；11月10日、福岡県立嘉穂高等学校；11月30日
- ・ 福岡県看護協会出前授業（全2回）「看護の道も一歩から～看護職へのキャリアデザインを考える～」，福岡県立須恵高等学校；6月23日、福岡県立西田川高等学校；11月5日。
- ・ 聖マリア病院継続教育研修会、「おとなの発達障害」の理解と対応～対象理解のコミュニケーション力からともに考える～、全3回（7月31日、8月24日、9月27日）
- ・ 福岡県看護協会スキルアップ研修「看護研究コース（全3日間）」、6月22日、8月17日、10月26日

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ 不登校ひきこもりサポートセンター教員スタッフ（家族交流会・訪問支援担当）
- ・ 公開講座小部会（小部会長）

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	山下 清香
-----------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2002年まで福岡県保健師として勤務し、保健師業務、看護行政及び福岡県立大学看護学部開設準備に携わった。兵庫県立看護大学大学院修士課程修了後、2004年福岡県立大学看護学部に着任し、地域看護学及び公衆衛生看護学の教育研究に携わっている。

行政保健師の活動、保健師教育を主な研究分野としており、現在、行政保健師の住民参加を促進する技術向上を目的とした教育プログラムの開発に取り組んでいる。住民との協働による健康な地域づくりを推進する保健師の技術を明らかにし、効果的な基礎教育及び現任教育プログラムを開発したいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 尾形由起子・山下清香編集. 地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学演習・実習. 2019年9月. クオリティケア
- ・ 尾形由起子・小野順子・山下清香・榎直美・眞崎直子. 2021年3月. 多職種による終末期までの療養生活に対する意思決定支援内容の検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第18巻第1号. 2021年3月
- ・ 檜橋明子・中村美穂子・小野順子・山下清香・手島聖子・尾形由起子. 保健師の実践能力に 対する公衆衛生看護学実習の効果－学生の自己評価に着目して－. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第18巻第1号. 2021年3月
- ・ 杉本由利子・山下清香・小野順子・香月眞美・山口のり子・尾形由起子. 市町村保健師の発達障害児に対する連携技術の構成概念の検討. 日本地域看護学会誌, 第24巻2号. 2021年8月
- ・ 小野順子・山下清香・中村美穂子・中本亮・榎直美・田中美樹・吉川美桜・吉田麻美・尾形由起子. A県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題-災害時の在宅療養継続に向けて-. 福岡県立大学看護学部紀要, 19巻. 2022年3月
- ・ 吉川未桜・吉田麻美・平塚淳子・中村美穂子・大場美緒・小野順子・猪狩崇・山下清香・田中美樹・榎直美・尾形由起子. 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応 . 福岡県立大学看護学部紀要, 19巻. 2022年3月
- ・ 榎直美・尾形由起子・小野順子・中村美穂子・大場美緒・吉田麻美・猪狩崇・平塚淳子・田中美樹・吉川未桜・山下清香. 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要, 19巻. 2022年3月

## ②その他最近の業績

### <学会発表>

- ・ 榎直美, 小野順子, 中村美穂子, 廣瀬理絵, 山下清香, 尾形由起子. 在宅医療推進における訪問看護師の連携に関する研究—連携強化事業を通して(第1報)—. 日本公衆衛生学会. 高知市. 2019年10月
- ・ 山下清香, 尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 迫山博美. 訪問看護ステーションの連携強化における保健所保健師の役割に関する考察. 日本公衆衛生学会. 高知市. 2019年10月

## ③過去の主要業績

- ・ 尾形由起子・岡田麻里・榎直美・野口忍・山下清香・松尾和枝・眞崎直子・三徳和子. 終末期がん療養者の満足な在宅看取りを行った配偶者の介護体験. 2017年8月. 日本地域看護学会誌 20巻2号, p64-72, 2017年
- ・ 山下清香・尾形由起子・小野順子・手島聖子・檜橋明子・迫山博美. 地域の介護予防活動の推進における保健師の役割について—高齢者サロンの世話役および指導員の認識から—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第13巻第1号. 2015年3月

## 3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業(基金分)(基盤研究(C))30年度~32年度. 研究課題 行政保健師の住民参加促進力量向上教育プログラムの開発(研究代表者)
- ・ 科学研究費助成事業(基金分)(基盤研究(C))29年度~31年度. 研究課題地域に密着した住民の主體的介護促進のための教育支援モデルの開発(研究代表者, 尾形由起子), 分担研究者

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本地域看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本糖尿病教育・看護科学学会, 日本公衆衛生看護学会, 日本在宅ケア学会

## 6. 担当授業科目

教養演習（1単位，1年前期），公衆衛生看護学Ⅰ（2単位，2年後期），専門看護学ゼミ（2単位，3年通年），家族看護学（1単位，3年前期），公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ（1単位，3年後期），統合実習（2単位，4年通年），卒業研究（2単位，4年通年），公衆衛生看護学Ⅱ（2単位，4年前期），公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ（2単位，4年前期），公衆衛生看護技術論Ⅰ（2単位，4年前期），公衆衛生看護技術論Ⅱ（2単位，4年前期），公衆衛生看護学実習Ⅰ（1単位，4年前期），組織協働活動論（2単位，4年後期），公衆衛生看護学Ⅲ（1単位，4年後期），公衆衛生看護管理論（2単位，4年後期），公衆衛生看護学実習Ⅱ（4単位，4年後期），地域看護学特論（2単位，大学院），地域看護学演習（2単位，大学院），ヘルスプロモーション看護学特別研究（8単位，大学院）

## 7. 社会貢献活動

- ・ 田川市「田川市民健康づくり推進協議会」委員
- ・ 田川市「田川市防災会議」委員
- ・ 田川市「田川市地域包括ケアシステム推進協議会 保健（予防）・生活支援部会」委員
- ・ 飯塚市「飯塚市健康づくり・食育推進協議会」副委員長
- ・ 桂川町「健康づくり推進協議会」委員
- ・ 川崎町健幸長寿のまちづくり事業（運動・スポーツ習慣化促進事業）実行委員会委員
- ・ 福岡県看護協会保健師職能委員会 委員

## 8. 学外講義・講演

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ 保健師スキルアップ事業
- ・ 重点領域研究「GISを活用した地域診断モデルの開発」

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	吉田 恭子
-----------	----	-----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

高齢社会を支える一つの方法としての介護保険法は、在宅療養者やその家族、その人々を取り巻く保健福祉医療職種の在り方を再考する機会となりました。要援護者の増加への対策を中心に介護保険法は改正を繰り返しており、介護予防への取り組みと同時に、多死時代を迎えるにあたり、死にゆく人と家族へのケアも重要になってきます。そのため、在宅療養中の高齢者とその家族のケアマネジメントをテーマとして、質の高い生活を維持できるような看護実践の検討について考えています。

また、ヤングケアラーの支援について検討しています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 吉田恭子. (2022). 日本のヤングケアラーに関する研究の文献検討ー看護分野の課題と役割, 福岡県立大学看護学研究紀要 第19巻, 89-97
- ・ 吉田恭子. (2019). 小規模多機能型居宅介護の従事者に生じる終末期ケアに係る課題の検証, 福岡県立大学看護学研究紀要 第16巻, 95-101

### ②その他最近の業績

- ・ 吉田恭子、小規模多機能型居宅介護における看取りの経過ー援助者の視点からー、日本社会福祉学会第68回秋季大会、2020
- ・ 吉田恭子、小規模多機能型居宅介護における終末期ケアの実態調査ー疾病およびケア内容の実態ー、日本看護研究学会学術集会、大阪、2019

### ③過去の主要業績

- ・ 吉田恭子. (2018). 小規模多機能型居宅介護職員の介護経験が職場満足と終末期ケアに与える影響, 九州社会福祉研究 第42号, 1-12
- ・ 吉田恭子、小規模多機能型居宅介護の従事者が考える看取りの必要に影響すること、日本老年看護学会学術集会、福岡、2018
- ・ 吉田恭子、小規模多機能型居宅介護における職場満足と近親者への看取り介護経験との関連、日本社会福祉学会九州地域部会、熊本、2017

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本看護福祉学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、日本社会福祉学会、日本看護科学学会

## 6. 担当授業科目（補助）

在宅看護学概論・1単位・2年・前期、在宅看護学・2単位・2年・後期、キャリア像確立講義Ⅰ・1単位・1～2年・後期、在宅看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、在宅看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・通年、在宅看護学実習・2単位・3～4年・通年、キャリア像確立講義Ⅱ・1単位・3～4年・後期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・1単位・4年生・通年、在宅看護学特論・1単位・1年・前期、在宅看護学演習・1単位・1年・後期

## 7. 社会貢献活動

認定NPO法人 日本セラピューティック・ケア協会 危機管理委員会

## 8. 学外講義・講演

福岡県消防学校、「在宅医療法患者の処置」、2022年2月

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員



看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	吉田 静
-----------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1998年から7年間、助産師として九州労災病院に勤務。2005年から1年間本学に臨時職員として勤務後、2007年本学に着任。2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了、修士（看護学）。2021年3月、国際医療福祉大学大学院博士課程修了、博士（助産学）。

現在、子供の喪失経験を持つ者の悲嘆過程と提供されるケアや支援、また医療者の支援を主な研究分野としている。特に、子供の喪失経験を持つ人々へのケアやサポートの中心は「母親」にあり、「父親」は母親を支える役割を期待され、支援も等閑されやすい。そのためニーズを把握した上で子どもの喪失経験を持つ父親へ提供できるケアモデルを開発し、医療者の役割、課題等を明らかにする。また子どもを喪失した家族に携わる看護者へのケアや支援も検討している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 吉田静. (2021). 子どもを喪失した父親が看護者に求めるケアに関する研究. 国際医療福祉大学大学院博士論文, A4版, 全134頁.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 吉田静, 佐藤香代. (2022). 子どもを喪失した父親の体験と看護者に求めるケア. 第36回日本助産学会学術集会, 大阪 (オンライン)
- ・ 吉田静, 佐藤香代, 山下恵子, 藤木久美子. (2019). 「子どもを喪失した家族に携わる看護者の会」に参加した看護者の気持ちの変容. 第60回母性衛生学術集会, 千葉.
- ・ 藤木久美子, 佐藤香代, 江島峰子, 吉田静. (2019). 「身体感覚活性化マザークラス医療者セミナー」に参加した医療者の気づき. 第60回母性衛生学術集会, 千葉.
- ・ 安河内静子, 古田祐子, 鳥越郁代, 石村美由紀, 吉田静. (2019). 助産所での継続ケア実習が助産師としてのアイデンティティ形成に及ぼす要因. 第33回日本助産学会, 福岡.

### ③過去の主要業績

#### <教材開発>

- ・ 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラスの哲学と実践. 2012年.
- ・ 吉田静, 佐藤香代. わが国における「おむつ」の起源. (2012). 第53回母性衛生学術集会, 福岡.
- ・ 吉田静. (2009). 子どもを喪失した父親の体験. 福岡県立大学大学院修士論文, A4版 全68頁.

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本助産学会，日本母性衛生学会，日本死の臨床研究会

### 6. 担当授業科目

#### <学部>

女性看護学概論・1単位・2年・前期，女性看護学・2単位・2年・後期，女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期，女性看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期，女性看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年

#### <大学院>

ウイメンズヘルスト論・1単位・1年・前期，ウイメンズヘルス演習・1単位・1年・後期，基礎助産学特論・2単位・1年・前期，基礎助産学演習・2単位・1年・通年，助産学特論・2単位・1年・前期，助産学演習・2単位・1年・後期，コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期，コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期，ホリスティック助産学特論・1単位・1年・前期，ホリスティック助産学演習・2単位・1年・後期，マネジメント助産学特論・2単位・2年・前期，助産実践学Ⅰ（妊娠期）・2単位・1年・前期，助産学実践Ⅱ（分娩期）・4単位・1年・通年，助産学実践Ⅲ（産褥期）・2単位・1年・後期，助産学実習Ⅰ（外来ケア実習）・1単位・1年・前期，助産学実習Ⅱ（周産期ケア実習）・8単位・1～2年・後期，助産学実習Ⅲ（助産所実習・継続ケア実習）・2単位・2年・前期，助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア実習）・1単位・2年・前期，助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）・2単位・2年・後期，助産学課題研究・4単位・1～2年・通年

### 7. 社会貢献活動

- ・ COVID-19 ワクチン接種（2021.7-8）
- ・ 第4回マタニティサロンムーン（2021.9-10）
- ・ 母親と子どもを護る多職種の会講演会（2021.9-2022.1）
- ・ 福岡市委託事業「働くママとパパのマタニティスクール」（2021.5-2022.3）

### 8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県立福岡女子商業高等学校（2021.6.9）

### 9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	小野 順子
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府を修了（人間環境学修士）。福岡市で保健師として勤務し、地域保健（公衆衛生看護）活動に従事する。その後、大学教員として保健師養成に従事し、2010年に福岡県立大学看護学部に着任。

公衆衛生（地域）看護学分野で、地域診断、介護予防、在宅医療の推進、保健師教育に関する研究を行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<著書>

- 尾形由紀子,山下清香,櫛直美,江上千代美,岡田麻里,小野順子,香月眞美,迫山博美,高原洋城,中村美穂子,檜橋明子,山口のり子,地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習,2019年9月,クオリティケア,p37-53,62-68,77-84,85-93

<論文>

- 小野順子,山下清香,中村美穂子,中本亮,櫛直美,田中美樹,吉川美桜,吉田麻美,尾形由起子. A県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題-災害時の在宅療養継続に向けて-,福岡県立大学看護学研究紀要,19巻,2022
- 櫛直美,尾形由起子,小野順子,中村美穂子,大場美緒,吉田麻美,猪狩崇,平塚淳子,田中美樹,吉川未桜,山下清香. 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察. 福岡県立大学看護学研究紀要,19巻,2022
- 吉川未桜,吉田麻美,平塚淳子,中村美穂子,大場美緒,小野順子,猪狩崇,山下清香,田中美樹,櫛直美,尾形由起子. 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応. 福岡県立大学看護学研究紀要,19巻,2022
- 尾形由起子,小野順子,山下清香,櫛直美,眞崎直子,多職種による終末期までの療養に対する意思決定支援内容の検討,福岡県立大学看護学研究紀要,18巻,2021
- 檜橋明子,中村美穂子,小野順子,山下清香,手島聖子,尾形由起子,保健師の実践能力に対する公衆衛生看護学実習の効果-学生の自己評価に着目して-福岡県立大学看護学研究紀要,18巻,2021
- 猪狩崇,石崎龍二,櫛直美,柴田雅博,小野順子,檜橋明子,杉本みぎわ,尾形由起子,地域包括システム構築に向けた人的ネットワーク形成・運営に関する一考察,福岡県立大学看護学研究紀要,16巻,2019

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- 小野順子,尾形由起子,山下清香,櫛直美,檜橋明子,猪狩崇,中村美穂子,石崎龍二,美谷薫. 地域包括ケアシステム構築に向けた根拠に基づく地域診断と意思決定支援策の検討. 日本地域看護学会第23回学術集会,2020年8月(誌上開催)

### ③過去の主要業績

#### 3. 外部研究資金

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本公衆衛生学会、地域看護学会、公衆衛生看護学会、日本在宅ケア学会

#### 6. 担当授業科目

##### 【学部】

公衆衛生看護学Ⅰ（2単位,2年後期）, 専門看護学ゼミ（2単位,3年通年）  
家族看護学（1単位,3年前期）, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ（1単位,3年後期）,  
卒業研究（2単位,4年通年）, 統合実習（2単位,4年通年）,  
公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ（2単位,4年前期） 公衆衛生看護技術論Ⅰ（2単位,4年前期）,  
公衆衛生看護学Ⅱ（2単位,4年前期）, 公衆衛生看護技術論Ⅱ（2単位,4年前期）,  
公衆衛生看護学実習Ⅰ（1単位,4年前期）, 公衆衛生看護学Ⅲ（1単位,4年後期）,  
組織協働活動論（2単位,4年後期）, 公衆衛生看護管理論（2単位,4年後期）,  
公衆衛生看護学実習Ⅱ（4単位,4年後期）

##### 【大学院】

地域看護学特論（2単位,1年前期）, 地域看護学演習（2単位,1年後期）

#### 7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県田川保健所感染症の審査に関する協議会委員（2017年4月～現在）
- ・ 田川市男女共同参画審議会委員（2019年4月～現在）
- ・ IHEAT（Infectious disease Health Emergency Assistance Team）活動（2021年～）  
COVID-19感染症の積極的疫学調査等に従事

#### 8. 学外講義・講演

##### 【附属研究所運営】

- ・ 附属研究所調整部会委員
- ・ 附属研究所研究推進部委員

##### 【研究】

- ・ 附属研究所重点領域研究「地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断モデルの開発」研究メンバー

【報告書】

- ・ 小野順子. 福岡県における新型コロナウイルス感染症の動向.  
令和2年度福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金研究報告書（若手奨励研究）
- ・ 村山 浩一郎, 石崎 龍二, 美谷 薫, 柴田 雅博, 尾形由起子, 櫟 直美, 山下 清香, 小野順子, 猪狩 崇, 中村美穂子. 地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データの GIS 分析による地域診断.  
令和2年度福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金研究報告書（重点領域研究）

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	小出 昭太郎
-----------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

教育については、学生が、社会学的な研究方法や「ものの見方」を臨床や政策などの実践に生かすことができるようになることを目標にしています。

主な研究分野は、第1に、保健医療・社会保障の制度・政策に関して、制度・政策策定者サイドの視点よりも市民・患者サイドの視点に基づいた歴史研究・理論的研究・調査研究を行ってきました。現在は、イギリスの医療保障財源の設計根拠に関する歴史研究を行っており、この研究においても主に市民・患者サイドの視点に着目しています。第2に、健康の社会的不平等に関する研究を行ってきました。特に、性・年齢層別の検討を行っています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

### ②その他最近の業績

### ③過去の主要業績

- ・ 小出昭太郎・田村誠、「1991年英国 NHS 改革後の政府規制とその背景——「病院サービスの購入者」の設定に関する問題」、『病院管理』、第36巻第1号、1999年。
- ・ 小出昭太郎・田村誠、「イギリス NHS 成立時における財源調達方式の設計の根拠に関する考察」、『医療政策に関わる一般市民・医療従事者の価値判断とその論拠（平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書）（研究代表者：田村誠）』、2001年。
- ・ 小出昭太郎・山崎喜比古、「収入と general health perceptions との関連の性・年齢による差異」、『要介護状態及び健康の形成過程における社会経済的要因の役割に関する実証的研究（平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書）（研究代表者：武川正吾）』、2006年。

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本保健医療社会学会、日本社会福祉学会、日本医療・病院管理学会、日本公衆衛生学会、日本看護研究学会、東北哲学会

## 6. 担当授業科目

<学部>

教養演習・1単位・1年・前期、保健社会学・1単位・1年・後期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、チーム医療論・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、看護研究・2単位・3年・前期、卒業研究・2単位・4年・通年、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期

<大学院>

データ解析特論・2単位・修士1年・前期

## 7. 社会貢献活動

## 8. 学外講義・講演

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	塩田 昇
-----------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

産業医科大学医療技術短期大学看護学科卒業後、産業医科大学病院（集中治療室）で看護師を6年経験した後、専門学校、大学で18年間の勤務を経て平成29年に福岡県立大学に着任しました。

研究は、養育レジリエンス・睡眠をキーワードに、親の養育レジリエンスについて発達障がいのある子どもをもつ親を対象に養育レジリエンスが向上する要因、そして発達障がいのある子どもの親とその子どもの睡眠問題を明らかにすることです。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 江上 千代美, 塩田昇, 恵良 友彦, 田中 美智子. 発達障がいのある児の母親の養育レジリエンスの向上を目指して－Stepping Stones Triple P（トリプルP）によるRCTを用いた試行的介入－, 福岡県立大学看護学研究紀要, 17, 1-4. 2020.
- ・ 江上千代美, 塩田昇. Child Adjustment and Parent Efficacy Scale－Developmental Disability（CAPES-DD）の日本語版作成の試み福岡県立大学看護学研究紀要, 17, 37-45. 2020.
- ・ 田中 美智子, 江上 千代美, 松山 美幸, 塩田 昇, 藏元 恵里子, 長坂 猛. 薬害被害当事者による講義を受講した学生の学び：テキストマイニングによる分析と内容分析. 看護展望, 45(7), 663-669. 2020.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 母親の睡眠関連問題とその学童期の子どもの睡眠習慣の検討. 塩田 昇, 江上 千代美. 第47回日本看護研究学会学術集会. オンデマンド. 2021.
- ・ 看護学生の倫理観を養う教育内容の検討－「薬害被害者」の講演をとおして－. 廣瀬理絵, 塩田昇, 江上 千代美, 田中 美智子. 第46回日本看護研究学会学術集会. オンデマンド. 2021.
- ・ 定型発達児の親の養育レジリエンスと親に及ぼす効果：親の効力感, 子どもと家庭への適応. 塩田 昇, 江上 千代美, 田中 美智子. 第46回 日本看護研究学会学術集会. 札幌. 2020

### ③過去の主要業績

- ・ Shiota N, Narikiyo K, Masuda A, Aou S. Water spray-induced grooming is negatively correlated with depressive behavior in the forced swimming test in rats. J Physiol Sci. vol66 no3, p265-73. 2016.
- ・ 塩田昇. セルフケア行動の神経行動学的・神経化学的研究. 九州工業大学大学院博士論文. 2016.



### 3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業（基金分）（若手 29 年度～33 年度 交付金額 4,160 千円）  
研究課題,継続的なトリプル P 介入による睡眠の質,量の改善とメラトニン分泌・代謝に関する研究（研究代表者：塩田昇）

### 4. 受賞

なし

### 5. 所属学会

日本看護学教育学会会員,日本看護研究学会会員,日本看護技術学会会員,日本看護科学学会,日本生理学会会員,日本心身医学会会員,

### 6. 担当授業科目

生態機能看護学Ⅰ・2 単位・1 年次・前期, 生態機能看護学Ⅱ・2 単位・1 年次・後期, 生態機能看護学Ⅲ・1 単位・4 年次・後期, 生態病態看護学実験・1 単位・2 年次・前期, 病態看護学Ⅱ・2 単位・2 年次・前期,基礎看護実習Ⅰ・1 単位・1 年次・前期, 基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年次・通年, 統合実習・2 単位・4 年次・通年, 看護倫理学・2 単位・2 年次・前期, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年次・通年, 卒業研究・2 単位・4 年次・通年

### 7. 社会貢献活動

子育て支援活動：久留米市・香春町

### 8. 学外講義・講演

令和 3 年 7 月 3 日 自由ヶ丘高等学校（高校訪問）

令和 3 年 7 月 27 日 折尾愛真高等学校（高校訪問）

### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	藤野 靖博
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

生理学的指標などを用いて、看護技術がひとの体に及ぼす影響について明らかにして、臨床における看護援助に還元できるように努めていきたいと考えています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 瀧野由夏、永嶋由理子、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美、宮崎千尋：基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 17, p.57-61, 2020.

### ②その他最近の業績

### ③過去の主要業績

- ・ 藤野靖博：ウォームアップが歩行運動時の循環応答・深部温度に及ぼす影響. 日本人間工学会看護人間工学部会誌 (8), 15-20. 2007.
- ・ 矢崎義雄、篠山重威、藤野靖博他：心不全下巻－最新の基礎・臨床研究の進歩. 日本臨床社. 2007.

## 3. 外部研究資金

研究代表者：文部科学省、科学研究費補助金（基盤研究 C）「カプサイシジンとサーキュレーターを用いた睡眠導入効果に関する実験検証」、2019～2021 年度

## 4. 受賞

日本看護研究学会、日本看護科学学会、看護人間工学会、日本看護学教育学会

## 5. 所属学会

## 6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、看護過程・1単位・2年・前期、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	政時 和美
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は災害や救急に関する研究を行っている。また、2012年には、リンパ浮腫指導技能者の資格を得、「リンパ浮腫」を通じてスキンケアなど皮膚に関する勉強会を開催している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<論文>

- ・ 政時和美, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子 : A 地区における看護師のリンパ浮腫ケアを実践するために必要な教育, 福岡県立大学看護学部紀要, 2019
- ・ 松井聡子, 清水夏子, 永尾寛子, 笹山万紗代, 政時和美 : 実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の魅力的な態度, 福岡県立大学看護学部紀要, 2019
- ・ 中井裕子, 笹山万紗代, 政時和美, 松井聡子 : 手術室見学実習における看護学生の学び, 福岡県立大学看護学研究紀要 第 17 巻, 2020
- ・ 政時和美, 大場美緒, 古庄夏香, 中井裕子, 村田和子, 笹山万紗代, 山口馨子, 福田和美 : 学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み, 福岡県立大学看護学研究紀要 第 18 巻, 2021

### ②その他最近の業績

<示説>

- ・ 笹山万紗代, 中井裕子, 政時和美, 松井聡子 : 手術見学実習における学生の学び, 第 45 回日本看護研究学会学術集会, 大阪, 2019
- ・ 石橋小春, 政時和美, 矢野優香 : 術前患者の心理と看護についての文献検討, 第 45 回日本看護研究学会学術集会, 大阪, 2019
- ・ 矢野優香, 政時和美, 石橋小春 : ICU の患者家族が抱くニーズに関する文献検討, 第 45 回日本看護研究学会学術集会, 大阪, 2019
- ・ 大久保綾, 政時和美 : プリパレーションの実践と教育に関する課題について, 第 46 回日本看護研究学会学術集会, Web 開催, 2020
- ・ 政時和美, 古庄夏香, 大場美緒 : 在宅患者への災害時における避難支援に関する文献検討第 47 回日本看護研究学会学術集会, Web 開催, 2021

### ③過去の主要業績

## 3. 外部研究資金

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本看護科学学会、日本リンパ学会、日本看護研究学会、日本看護医療学会

#### 6. 担当授業科目

成人看護学概論・1単位・2年・前期、成人急性看護論・2単位・2年・後期、成人急性看護学実習・3単位・3年～4年・前期～後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・3単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年～4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期、統合実習・2単位・4年、災害看護・1単位・2年、成人看護学演習・2単位・修士1年・後期

#### 7. 社会貢献活動

#### 8. 学外講義・講演

#### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	安河内 静子
-----------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

1990年より、5年間、九州大学医学部附属病院周産母子センターで勤務後(助産師)、1996年より8年間、福岡市保健福祉センターで勤務(保健師)、地域母子保健活動の実践を経験し、2004年4月より本学に着任、現在に至る。同年3月国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻課程修了(保健医療学修士)。

女性がエンパワーメントしていく過程を支援するマザークラスの開催、育児サロンの開催、小中学校での性教育など思春期保健から女性のライフサイクルを見据えた教育活動を行っている。研究分野は、妊産婦の禁煙プログラムに関する研究、乳児の皮膚と洗浄法に関する研究などに取り組んできた。現在は、妊娠期から産後の周産期のボンディング障害に関する研究に取り組んでいる。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

### ②その他最近の業績

- ・ 安河内静子, 古田祐子, 鳥越郁代, 石村美由紀, 吉田静. (2019). 助産所での継続ケア実習が助産師としてのアイデンティティ形成に及ぼす過程. 第33回日本助産学会学術集会, 福岡

### ③過去の主要業績

- ・ 古田祐子, 安河内静子. (2016) 簡易型 S 皮膚洗浄法が肌トラブルを有する乳児と実施者である養育者に及ぼす影響, 福岡県立大学看護学部紀要 15, 福岡県立大学, 11-20
- ・ 安河内静子, 古田祐子, 佐藤香代. (2015) .大学院における助産師教育に対するニーズ調査, 福岡県立大学看護学部紀要 14, 福岡県立大学, 53-62 .
- ・ 安河内静子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代. (2010). 医療者が「身体感覚活性化マザークラス」を体験した効果-体験録の分析から-. 福岡県立大学看護学部紀要 7(2), 63-71.

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本助産師会、日本母性衛生学会、日本助産学会、日本禁煙科学会、日本思春期学会(代議員)、日本看護技術学会

## 6. 担当授業科目

### <学部>

女性看護学・2単位・2年・後期，女性看護演習Ⅰ・1単位・3年・前期，女性看護学演習Ⅱ・3～4年・通年，女性看護学実習・2単位・3～4年・通年，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年

### <大学院>

ホリスティック助産学特論・1単位・1年・前期，ホリスティック助産学演習・1単位・1年・後期，助産学特論・2単位・1年・前期，基礎助産学特論・1単位・前期，基礎助産学演習・1単位・1年・前期，助産実践学Ⅱ・4単位・通年，助産実践学Ⅲ・2単位・1年・後期，コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期，コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期，マネジメント助産学特論・2年 実習Ⅰ・2単位，助産学実習Ⅰ・1年・前期，助産学実習Ⅱ・8単位・1年・後期，助産学実習Ⅲ・2年・前期，助産学実習Ⅳ・2年・前期，助産学実習Ⅴ・2年・2単位・後期

## 7. 社会貢献活動

- ・ マタニティサロン：産前・産後サポート事業（香春町共催），香春町．（4回開催）
- ・ 福岡県田川保健所感染症診査協議会委員
- ・ 新型コロナウイルス感染症疫学調査【IHEAT】，嘉穂・鞍手保健環境福祉事務所
- ・ 新型コロナウイルスワクチン接種業務，福岡県立大学

## 8. 学外講義・講演

## 9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	安永 薫梨
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月に福島県立医科大学大学院看護学研究科修士課程修了。

2004年4月より本学に着任。

現在、研究に関しては「患者の怒りを受けた精神科看護師の心的安全空間生成とその評価～パセルフケアセラピィを用いた介入の評価」について取り組んでいます。

教育に関しては、学生が自分自身の内と外の安全感を確かめながら、自己理解、他者理解を深めると共に、オレム－アンダーウッドのセルフケアモデルを、精神疾患を持つ患者に対し、展開できるよう講義、演習、実習を行っています。

今後も、さらに精神疾患を持つ患者の力動的な理解を深め、患者が本当に求めているものは何か、を探求し、患者が望む生活の実現に向け、日々、トレーニングを積みながら、教育、研究、実践に取り組んでいきたいと思っております。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 安永薫梨,宇佐美しおり.(2021). 精神科看護師の安全空間生成に関する質問紙の信頼性と妥当性の検証. PASセルフケアセラピィ看護学会第4回大会抄録集,p29.
- ・ 安永薫梨.(2020). 心的安全空間維持に関する構成概念妥当性の検証. PASセルフケアセラピィ看護学会第3回大会抄録集,p19.
- ・ 安永薫梨,宇佐美しおり.(2019). 精神科看護師が患者に怒りを向けられた際の心的安全空間維持を構成する概念の明確化. PASセルフケアセラピィ看護学会第2回大会抄録集,p17.
- ・ 安永薫梨,宇佐美しおり.(2019). 精神科看護師の心的安全空間維持に関する質問紙の信頼性の検証. PASセルフケアセラピィ看護学会第2回大会抄録集,p17.
- ・ 安永薫梨,宇佐美しおり.(2019). 精神科看護師の心的安全空間の維持に関する質問紙の開発～エキスパートパネルによる内容妥当性、表面妥当性の検証～. 国際力動的心理学学会第24年次大会抄録,p32.

#### <国家試験問題の解説>

- ・ 松枝美智子,安永薫梨,他.(2020). 第109回看護師国家試験問題解説.メディカ出版.
- ・ 松枝美智子,安永薫梨,他.(2019). 第108回看護師国家試験問題解説.メディカ出版.



### ③過去の主要業績

- ・ 安永薫梨. (2015). 「精神科看護における患者から看護師への暴力(Violence)」に関する文献レビュー. 日本精神保健看護学会誌, 24(1),1-11.
- ・ 安永薫梨. (2011). 精神疾患をもつ患者が看護師への暴力を思いとどまったその思いと試み.日本精神保健看護学会誌.20(2),21-27.
- ・ 安永薫梨. (2006). 精神科閉鎖病棟における患者から看護師への暴力の実態とサポート体制, 日本精神保健看護学会誌, 15(1), 96-103.

### 3. 外部研究資金

PASセルフケアセラピィ看護学会、日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護協会

\*PASセルフケアセラピィ看護学会第3回大会実行委員

\*PASセルフケアセラピィ看護学会事務局員

\*PASセルフケアセラピィ看護学会第4回大会事務局員

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

### 6. 担当授業科目

<学部>

教養演習・1単位・1年・前期、精神看護学概論・2単位・2年・前期、医療安全・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3年後期、精神看護学実習・2単位・3年後期~4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院：精神看護専門看護師コース>

精神看護専門看護師役割実習・2単位・通年、精神科診断治療実習・2単位・通年、Advanced精神看護専門看護師直接ケア実習・2単位・通年、Advanced精神看護専門看護師役割実習・2単位・通年

### 7. 社会貢献活動

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	吉川 未桜
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

小児看護学教育に関する研究や看護と保育の連携、看護職による子育て支援や訪問看護に関する研究を行っている。小児看護学教育では、子どもと関わる機会の少ない近年の学生が、子どもを具体的にイメージし、子どもと家族へ根拠ある適切な看護を実践する能力を身につけられる教育方法の探求を行っている。また、地域の幼稚園・保育園における健康教育や保育と看護の連携に関する研究、小児在宅ケアの充実のための小児訪問看護に関する研究により、あらゆる健康段階の子どもと家族が、より健康で健やかに成長発達できる子育て支援の充実を目指している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 吉川未桜・吉田麻美・平塚淳子・中村美穂子・大場美緒・小野順子・猪狩崇・山下清香・田中美樹・櫛直美・尾形由起子. 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応. 福岡県立大学看護学部紀要第 19 巻. 2022 年 3 月.
- ・ 田中美樹・吉川未桜・尾形由起子・櫛直美・吉田麻美. 小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み. 福岡県立大学看護学部紀要第 19 巻. 2022 年 3 月.
- ・ 櫛直美・尾形由起子・小野順子・中村美穂子・大場美緒・吉田麻美・猪狩崇・平塚淳子・田中美樹・吉川未桜・山下清香. 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要第 19 巻. 2022 年 3 月.
- ・ 小野順子・山下清香・中村美穂子・中本亮・櫛直美・田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・尾形由起子. A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題－災害時の在宅療養継続に向けて－. 福岡県立大学看護学部紀要第 19 巻. 2022 年 3 月.
- ・ 杉野寿子・田中美樹・吉川未桜・中原雄一・吉田麻美・池田孝博. 保育士養成課程における保健・健康に関する学びの研究. 福岡県立大学人間社会学部紀要. 第 29 巻 1 号. 2020 年 10 月.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 川添優・吉川未桜・吉田麻美・田中美樹. 予防接種を受ける子どもの親の意思決定要因とその過程で生じる不安・迷いに関する研究. 第 67 回日本小児保健協会学術集会、2020 年 11 月. 福岡 (Web 開催)
- ・ 吉田麻美・吉川未桜・田中美樹. 小児看護学実習における学生のインシデント～傾向の分析と課題～. 第 20 回九州・沖縄小児看護教育研究会. 2019 年 8 月. 福岡
- ・ 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・道園亜希・宮城由美子. 年長クラスの子どもの対象に”いのち”をテーマにした健康教育実施の効果～保護者へのアンケート調査からの検討～. 第 25 回日本保育保健学会. 2019 年 5 月. 神戸

### ③過去の主要業績

- ・ 吉川未桜・青野広子・仲村彩・吉田麻美・田中美樹・宮城由美子. 赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護技術演習の効果. 福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号. 2016 年 3 月.
- ・ 青野広子・吉川未桜・田中美樹・江上千代美・宮城由美子. 小児看護技術支援における看護学部 4 年生の看護技術動作の傾向と感想の検討. 福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号. 2016 年 3 月.
- ・ 吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子. 小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み. 福岡県立大学看護学部紀要 12 巻 1 号. 2015 年 3 月.

### 3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金（基盤研究 C）研究代表者、「先天性心疾患の乳幼児・家族への包括的地域子育て支援に関する研究」、260 万円，平成 29 年度～令和 3 年度.

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本看護科学学会・日本小児看護学会・日本看護研究学会・日本小児保健協議会・日本保育園保健学会・九州小児看護教育研究会・子ども健康科学学会

### 6. 担当授業科目

小児看護学概論・1 単位・2 年・前期、小児看護学・2 単位・2 年・後期、小児看護学演習 I・1 単位・3 年・前期、小児看護学演習 II・1 単位・3 年・後期、小児看護学実習・2 単位・3 年前期～4 年後期、統合実習・2 単位・4 年・通年、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年

### 7. 社会貢献活動

### 8. 学外講義・講演

吉川未桜、田川市ファミリーサポートセンター会員養成講習会、「小児看護の基礎知識」、2021 年 10 月 5 日. 田川市.

### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	猪狩 崇
-----------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

平成 28 年度に着任いたしました。現在は主に在宅看護学領域教育を担当しています。主な研究分野は理論看護学、地域・在宅看護学、補完代替看護学（統合医療と看護）で、地域包括ケア分野、精神看護分野での実践経験の視点も研究・教育に活用しています。看護史（特にドイツ）研究にも取り組んでいます。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 櫛直 美, 尾形 由起子, 小野 順子, 中村 美穂子, 大場 美緒, 吉田 麻美, 猪狩 崇, 平塚 淳子, 田中 美樹, 吉川 未桜, 山下 清香: 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察; 福岡県立大学看護学部紀要 19号, 2022 (2月末刊行予定)
- ・ 吉川 未桜, 吉田 麻美, 平塚 淳子, 中村 美穂子, 大場 美緒, 小野 順子, 猪狩 崇, 山下 清香, 田中 美樹, 櫛直 美, 尾形 由起子: 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応; 福岡県立大学看護学部紀要 19号, 2022 (2月末刊行予定)
- ・ 山口のり子, 福岡洋子, 中村美穂子, 猪狩 崇, 尾形 由起子: 官民学協働による地域住民を含めた『ケア・カフェ』実践報告; 福岡県立大学看護学部紀要 18号, 21-26, 2021

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 増満 誠, 松枝 美智子, 中本 亮, 恵良 友彦, 脇崎 裕子, 猪狩 崇, 宮崎 初, 青木 裕史, 青木 典子, 谷口 研一郎, 津野 稔一, 藤本 裕二, 安藤 愛, 中島 充代, 大場 裕司, 江頭 薫, 中山 アツ子: みんなに知ってほしい! 「ともにつくり共に学ぶ」を叶えるリカバリー・カレッジで私たちが大切にしていること～立ち上げ方、続け方、在り方～; 日本精神保健看護学会第 31 回学術集会ワークショップ. 2021 年 6 月 5 日 (web 開催)
- ・ 増満 誠, 松枝 美智子, 中本 亮, 恵良 友彦, 猪狩 崇, 中島 充代, 池田 智, 安藤 愛, 脇崎 裕子, 清田 由起子, 児玉 ゆう子, 津田絵美: リカバリー・カレッジの意味の探求; 第 40 回日本看護科学学会交流集会, 2020 年 12 月 13 日 (web 開催)
- ・ 猪狩 崇: F.ナイチンゲールのみいだした休息(夜間の睡眠と昼間の休息)の意義について考える; ナイチンゲール研究学会 第 40 回学術集会・研究懇談会, 学士会館 東京. 2019.10.6

### ③過去の主要業績

- ・ 猪狩 崇, 石崎 龍二, 櫛直 美, 柴田 雅博, 小野 順子, 檜橋 明子, 杉本 みぎわ, 尾形 由起子; 地域包括支援ケアシステム構築へ向けて人的ネットワーク形成・運営に関する一考察; 福岡県立大学看護学部紀要 16号, 161-128, 2019.3.31 (H30 年度研究)

- ・ 猪狩 崇、石崎 龍二、櫛 直美、柴田 雅博、小野 順子、檜橋 明子、杉本 みぎわ、尾形 由起子：地域包括ケアシステム構築に向けた地域医療情報連携ネットワークシステム導入に関する一考察；福岡県立大学看護学部紀要 15 号, 83-90, 2018 .3.31 (H29 年度研究)
- ・ 猪狩 崇：対応困難な事例にしないための対象理解の構造 (博士学位論文)；看護科学研究第 8 巻, p.25-40, 看護科学研究学会. 2013.

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

看護科学研究学会、ナイチンゲール研究学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護教育学会、宮崎県立看護大学看護学研究会、日本教師学学会

### 6. 担当授業科目

教養演習 (1 年生)、キャリア像確立講義 I (1、2 年生)、在宅看護学 (2 年生)、災害看護学 (2 年生)、在宅看護学演習 I (3 年生)、在宅看護学実習 (3、4 年生)、統合実習 (4 年生)、卒業研究ゼミ (4 年)

### 7. 社会貢献活動

添田町地域包括支援センター運営協議会委員 (令和元年 4 月 1 日着任～継続中)

添田町社会福祉協議体アドバイザー (令和 2 年 4 月 1 日着任～継続中)

### 8. 学外講義・講演

添田町社会福祉協議会、「添田縁ジョイプロジェクト 支えあいの地域づくり基調講演」コメンテーター、添田町立オークホール、令和 3 年 12 月 21 日

添田町社会福祉協議会「そえだ縁ジョイプロジェクト 支えあいの地域づくり講座」講師 (オンデマンド開催) 1「介護保険制度を知ろう」令和 4 年 2 月 8 日、2「認知症への理解」令和 4 年 3 月 8 日開催予定。

### 9. 附属研究所の活動等

令和 3 年度附属研究所研究奨励金研究 (若手奨励・個人) 奨励金獲得。研究テーマ：猪狩 崇 「在宅療養 ALS 患者の社会参加へのピアサポート活動に携わる意識と活動を支援する看護職の役割についての研究」2022 年 3 月研究報告予定。

令和 3 年度附属研究所重点領域研究参加。研究テーマ：小野 順子、村山 浩一郎、櫛 直美、美谷 薫、山下 清香、柴田 雅博、猪狩 崇、中村 美穂子、石崎 龍二、尾形 由起子「GIS を活用した地域診断モデルの開発」2022 年 3 月研究報告予定。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	江崎 千尋
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程終了、修士（看護学）。看護師として循環器内科・心臓血管外科病棟で勤務した後、2016年度より本学へ着任する。

主な研究として、看護職を目指す学生の主体的学習活動に関する内的要因について検討を行っている。特に主体的学習活動に関する内的要因と考えられている学習意欲と自己効力感に着目し、これら三者の関連性や影響を検討することで、学生の主体的学習活動につながる学習支援に役立てたいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 宮崎千尋, 永嶋由理子: 看護職を目指す学生の主体的学習活動と学習意欲および自己効力感の検討ー公立大学と私立大学の比較ー. 福岡県立大学看護学研究紀要, 16, 25-34, 2019.
- ・ 淵野由夏, 永嶋由理子, 加藤法子, 藤野靖博, 於久比呂美, 宮崎千尋: 基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 17, 57-61, 2020.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 中本亮, 宮崎千尋, 井田真実: 実習指導者の研修転移を目指した研修プログラム開発のための文献研究. 第39回日本看護科学学会学術集会, 2019年11月.

### ③過去の主要業績

#### <論文>

- ・ 於久比呂美, 永嶋由理子, 宮崎千尋, 藤野靖博, 淵野由夏, 加藤法子, 津田智子: 病室環境が生体反応にもたらす影響への検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10 (1), 39-46, 2012.

#### <学会発表>

- ・ 宮崎千尋, 永嶋由理子: 看護職を目指す学生の学習意欲と自己効力感の検討ー学年間の比較に焦点をあててー. 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018年12月.
- ・ 於久比呂美, 宮崎千尋, 永嶋由理子: 看護師の自己教育力に影響を及ぼす要因の検討ー自己効力感と心理的自立に焦点をあててー. 第38回日本看護科学学会学術集会, 2018年12月.

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会

6. 担当授業科目

基礎看護技術論・2単位・1年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	於久 比呂美
-----------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

### 1) 看護師の自己成長に関する研究

これまで看護師の成長力をもたらす促進因子の一部について検討してきました。今後は、得られた研究知見に詳細な分析を積み重ねるとともに、他の促進因子の解明を引き続き進め、看護師に向けた教育プログラムの開発などを考えています。

### 2) 看護技術に関する研究

看護技術の科学的検証を行い、エビデンスに基づいた看護技術教育方法の開発に取り組んでいます。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 淵野由夏, 永嶋由理子, 加藤法子, 藤野靖博, 於久比呂美, 宮崎千尋: 基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 17, 2020.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 於久比呂美: 看護師の自己効力感および心理的自立が自己教育力に及ぼす影響－臨床経験 10 年以上の看護師に焦点をあてて－, 第 45 回 日本看護研究学会学術集会, 2019 年 8 月.
- ・ 於久比呂美: 患者との良好な関係性を確立している看護師の特色に関する文献検討, 第 41 回 日本看護科学学会学術集会, 2021 年 12 月.

## 5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会

## 6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期、基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・通年、フィジカルアセスメント論・2 単位・2 年・前期、看護過程・1 単位・2 年・前期、シンプトンマネジメント論・1 単位・2 年・後期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員



看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	梶原 由紀子
-----------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、重心障害児（者）病棟，消化器内科・小児科，大学保健室，高等学校で養護助教諭として勤務しました。児童生徒一人一人が安全にそして安心した学校生活を過ごすため，また現場の養護教諭の先生方の支援のために研究を進めていきたいと考えています。

### 【養護教諭の研修プログラム開発に関する研究】

養護教諭の危機管理力の研修の開発に関して取り組んでいます。昨今、重度の障害がありつつ地域で暮らす子どもが増加し，地域の学校に通学する子どもたちが増加しています。学校においては，緊急時には専門的な対応が求められ，保健管理の中核を担う養護教諭の役割も大きいと考えます。養護教諭の資質の向上のために，具体的な対策の現状や課題，また，研修においてどのようなプログラムが必要か等，養護教諭の研修プログラムの開発を行っています。

### 【特別支援学校養護教諭の特定行為におけるリスク認識に関する研究】

制度の改正に伴い教員を含む介護職員等が限定された特定行為を実施できるようになり、特別支援学校では、看護師と連携しながら教員が医療的ケアを実施しています。このような特別支援学校の養護教諭における特定行為に関する専門的な対応や事故やリスクに関する現状について調査研究を行っています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・（発表予定）梶原由紀子，原田直樹，田原千晶，松浦賢長（2022），養護教諭の危機対応に関する研修についての調査研究，福岡県立大学看護学部紀要 19.
- ・一般社団法人日本思春期学会編(2021)；思春期学 基本用語集，講談社.
- ・日本小児保健協会幼児健康度調査委員会編著(2020)；1980年から10年ごとの幼児健康度調査の結果と分析 子どもの保健 小児保健に携わるすべての人に，第4章 p52 - 53, column p41,p54,56,株式会社ジアース教育新社.
- ・永光信一郎，坂下和美，作田亮一，岡田あゆみ，松浦賢長，重安良枝，藤井智香子，大谷良子，松島奈穂，北島翼，原田直樹，梶原由紀子，松岡美智子，千葉比呂美，石井隆大(2020)；ティーンズ検診 思春期のこどもへの健康指導マニュアル，リスク因子 33p 33，久留米大学.
- ・梶原由紀子（2019）.科研（若手 B）「インクルーシブ教育における養護教諭の危機対応力向上に関する短期研修プログラム開発」研究成果報告書，1-67.
- ・梶原由紀子.(2019)，養護教諭の危機対応力の研修プログラムに関する研究，平成 29 年度福岡県立大学研究奨励交付金研究成果報告書，120-125.

### ②その他最近の業績

### ③過去の主要業績

- ・ 清原智佳子, 梶原由紀子, 尾形由起子, 小野順子, 田中美樹, 石村美由紀, 江上千代美(2018). 発達障がいをもつ子どもの親を対象に行ったステップングストーンズトリプル P 受講前後のパイロット・スタディ. 福岡県立大学看護学研究紀要 15, 47-53
- ・ 松浦賢長, 笠井直美, 渡辺多恵子編者(2017); 保健の実践科学シリーズ 学校看護学, 第 12 章 感染症対策 I 93-97, 第 13 章 感染症対策 98-103, 第 15 章 救急処置 112-118, 第 26 章 特別支援教育・医療的ケア 187-192, 講談社サイエンティフィク.
- ・ 松浦賢長, 大矢崇志, 梶原由紀子, 田中祥一郎, 岡松由記, 田原千晶, 増満誠, 原田直樹, 山崎喜久, 山縣然太郎. すべての子どもを対象とした要支援情報の把握と一元化に関する研究 厚生労働科学研究補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究(2018). 平成 29 年度総括・分担研究報告書, 194-197.

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本看護研究学会, 日本看護科学学会, 日本思春期学会, 日本学校保健学会, 日本保健福祉学会, 日本公衆衛生学会, 日本 LD 学会, 日本学校救急看護学会, 九州学校保健学会, 日本災害看護学会, 九州思春期研究会.

### 6. 担当授業科目

不登校・ひきこもり援助論・2 単位・1 年・前期, 教育と社会・地域・1 単位・1 年・前期, 子ども学習支援論・1 単位・1 年・後期, 公衆衛生学・2 単位・1 年・後期, 保健統計学・2 単位・2 年・前期, 養護概説・2 単位・2 年・後期, 教育方法論・1 単位・看護 2 年・後期, 健康科学・2 単位・2 年・後期, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 学校保健学・1 単位・3 年・前期, 健康教育論, 2 単位・3 年・前期, 性教育学・2 単位・看護 3 年/人社 3 年・前期, 統合実習・2 単位・4 年・通年, 卒業研究・2 単位・4 年・通年, 養護実習事前事後指導・1 単位・4 年・前期, 養護実習・4 単位・4 年・前期, 教職実践演習(養護教諭)・2 単位・4 年・後期,

## 7. 社会貢献活動

- ・ 九州思春期研究会, 理事
- ・ 思春期学会, 理事
- ・ 日本保健福祉学会, 幹事
- ・ 筑豊地区教育相談ネットワーク会議, 委員
- ・ 福岡県立西田川高校学校関係者評価委員
- ・ 学生防犯サークルオリオンズ, コーディネーター
- ・ 子育て支援活動 久留米市

## 8. 学外講義・講演

- ・ (予定) 福岡県立西田川高校 アレルギー研修会 (R4.2月) 講師

## 9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ 不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

看護学部／老年看護学科	職名	助教	氏名	清原 智佳子
-------------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

生活習慣病と言われる慢性疾患の中で、ウイルスに特化した疾患が身体・心理に及ぼす影響に着目し、ウイルス性疾患である C 型慢性肝炎患者に焦点を当てた研究を行っている。主に病態の進行と身体活動量の変化に着目し、身体的、心理的、社会的側面からの調査を行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 韓国大邱韓医大学大学校における漢方医学及び看護短期研修プログラムの開発 福岡県立大学看護学研究紀要 16 巻 2019
- ・ C 型慢性肝炎患者の日常生活・運動に着目して・QOL・加速度計による実態調査 研究書影交付金研究成果報告書 2021

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 共著 Floor nurses of hospital perspectives on factors influencing safety climate.  
→ Perspectives on factors influencing safety climate of Ward nurses.WANS World Academy of Nursing Science Jul 2019
- ・ 筆頭 肝疾患を持つ患者の運動習慣について 第 22 回日本看護医療学会学術集会 9 月 2020 年
- ・ 筆頭 外来通院中のウイルス性肝炎患者の療養生活に対する思い 日本看護研究学会 第 46 回学術集会 9 月 2020 年
- ・ 筆頭 運動・活動を意識している C 型慢性肝患者の生活行動の実態 日本慢性看護学会 第 15 回 2021 年

### ③過去の主要業績

- ・ C 型慢性肝炎患者の疲労感, QOL と身体活動量に関する研究 日本看護研究学会雑誌 Vol. 37 No. 2 2014
- ・ 発達障がいをもつ子どもの親を対象に行ったステッピングストーンズトリプル P 受講前後のパイロットスタディ 福岡県立大学看護学研究紀要 15 巻 2018

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

5. 所属学会

日本看護研究学会 日本看護医療学会 日本看護慢性学会

6. 担当授業科目

老年看護学演習Ⅰ 1単位 2年 前期（補助）

老年看護学演習Ⅱ 1単位 3年 前期（補助）

老年看護学実習Ⅱ 2単位 3年 前・後期【6クール】

統合実習 4年 1単位 前期【1クール】

4年生ゼミ 2単位 前後期

3年生ゼミ 1単位 前期

老年看護学 2単位 2年 後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	佐藤 繭子
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として5年間外科系病棟、助産師として産婦人科・小児科病棟を8年勤務後、その経験を生かし、2009年より本大学看護学部臨床看護学系助手として着任。2011年3月、福岡県立大学大学院看護学研究科修了、修士（看護学）。現在に至る。

臨床では母乳育児支援の推進に携わり、母親・医療スタッフへの情報提供や知識の啓蒙に努めてきた。現在は母乳育児支援に関する研究だけでなく、ウイメンズ・ヘルス、性教育（幼児～大学生、子を持つ親、成人）にも積極的に取り組んでいる。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 佐藤繭子, 鳥越郁代. 西オーストラリア州における妊産婦支援～帝王切開準備教育・母乳育児支援に焦点を当てて～. 福岡県立大学看護学研究紀要 2021 ; 18 : 37-44.
- ・ メディカコンクール委員会. メディカコンクール第110回看護師国家試験対策テスト第1回解答・解説. メディカ出版 2020. (母性看護学執筆)
- ・ メディカコンクール委員会. メディカコンクール第109回看護師国家試験対策テスト第3回解答・解説. メディカ出版 2019. (母性看護学執筆)
- ・ 森本 眞寿代, 前原 宏美, 佐藤 繭子. わが国の家庭で親が行う性教育に関する研究の動向—看護関連の文献のエビデンスレベル—. 日本看護研究学会雑誌 2019 ; 42 (2) : 231-240.
- ・ 道園亜希, 古田祐子, 佐藤繭子, 石村美由紀. 小学4～6年生の子どもを持つ保護者が家庭で行った就学前後の性教育の実態. 福岡県立大学看護学研究紀要 2019 ; 18(1) : 63-72.

### ②その他最近の業績

<小冊子>

- ・ 古田祐子, 佐藤繭子, 道園亜希, 石村美由紀 (2019). 性～なぜなぜ？どうして？13のQ&A～. 田川市教育委員会.

### ③過去の主要業績

- ・ 佐藤繭子. 助産師の母乳育児支援の実践に影響する要因の検討. 福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文. 2011年3月.

### 3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金・基盤 C (2019-2022 年)「教育と臨床の協働による帝王切開で出産する女性のための出産準備教育プログラム開発」研究分担者 (代表 ; 鳥越郁代)

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本助産学会, 日本性科学会, 日本母性衛生学会

### 6. 担当授業科目

<学部>教養演習・1単位・1年・前期、女性看護学・2単位・2年・後期、女性看護学演習 I・1単位・3年・前期、女性看護学演習 II・1単位・3～4年・後期～前期、女性看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・前期

<大学院>ウイメンズヘルステ論・1単位・1年・前期、基礎助産学特論・2単位・1年・前期、基礎助産学演習・2単位・1年・通年、助産学特論・2単位・1年・前期、助産実践学 II (分娩期)・4単位・1年・通年、助産実践学 III (産褥・新生児期)・2単位・1年・後期、コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期、コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期、助産学実習 I (外来ケア実習)・1単位・1年・前期、助産学実習 II (周産期ケア実習)・8単位・1年・後期、助産学実習 III (継続ケア実習)・2単位・2年・前期、助産学実習 IV (ハイリスクケア実習)・1単位・2年・前期、助産学実習 V (マザークラス実習)・2単位・2年・後期

### 7. 社会貢献活動

日本ラクテーション・コンサルタント協会 出版・販売事業部員

母乳育児に関する学習会の開催「母乳育児支援を学ぶ九州教室」代表・運営

福岡県助産師会子育て・女性健康支援センター相談員

日本助産師会九州・沖縄地区研修会実行委員

マタニティサロン・ムーン 企画・運営 (2021.9-10)

<母乳育児支援に関するセミナー企画・運営>

第 22 回母乳育児支援を学ぶ九州教室, 福岡市 (2021.7)

## 8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県立築城中学校「次世代思春期保健教室」講師. 築城町 (2021.6)
- ・ 福岡県立椎田中学校「次世代思春期保健教室」講師. 築城町 (2021.6)
- ・ 古賀市男女共同参画セミナー「親子で学ぶ性教育:からだについていっしょに学ぼう+こどもでもわかるジェンダーの話」講師. 古賀市 (2021.7)
- ・ 春日市男女共同参画セミナー「自分を大切にするためのおうちで伝える『性』のおはなし」講師. 春日市 (2021.11)
- ・ 小倉北区役所子育て支援ネットワーク講演会「子どもへ伝えたい『性』のはなし」講師. 北九州市 (2021.11)
- ・ 福岡市立柏原小学校4年生「育ちゆく体とわたし」ゲストティーチャー. 福岡市 (2022.1)
- ・ 芦屋町立芦屋小学校4年生性教育ゲストティーチャー. 芦屋町(2022.3)
- ・ 芦屋町立山鹿小学校4年生性教育ゲストティーチャー. 芦屋町(2022.3)
- ・ 西日本新聞「子育て相談室」性教育 2021年11月26日朝刊掲載

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員



看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	手島 聖子
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

養育者が安心して育児ができる環境を構築するために、子どもの発達過程に応じた養育者の育児ストレスや育児不安、育児ストレスに影響を与える個人的・社会的要因を短時間に把握できる質問紙を作成し、4カ月児の養育者と1歳6カ月児の養育者を対象に調査を実施してきました。近年は、被養育体験を基礎に形成された内的ワーキングモデルがどのようにして養育者に世代間伝達されるのか、養育者の成育歴における被虐待歴や親から愛されなかった思い、親との対立、厳格な親に育てられたなど環境要因が養育者自身の育児にどのような影響を与えられるのかについて検討しています。児童虐待予防における保健師の実践活動に活かせるよう研究を進めていきたいと考えています。教育では、主に選択制の保健師教育に携わっています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<著書>

- ・ 尾形由起子、山下清香 編集、地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習、2019年9月、クオリティケア
- ・ 檜橋明子、中村美穂子、小野順子、山下清香、手島聖子、尾形由起子、保健師の実践能力に対する公衆衛生看護学実習の効果、2021年3月、vol.18、27-35、福岡県立大学看護学研究紀要、2021年

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 手島聖子. 「愛着障害」に関する文献検討. 日本子ども虐待防止学会. 日本子ども虐待防止学会第25回学術集会. 2019年12月, 兵庫.

### ③過去の主要業績

- ・ 手島聖子. (2002). 養育者の育児ストレスと育児支援システム：乳幼児健康診査を通した子育て支援と児童虐待の予防について. (財)安田生命社会事業団2001年度研究助成論文集, 37, 30-38.
- ・ 手島聖子. 原口雅浩. (2003). 乳幼児健康診査を通した育児支援：育児ストレス尺度の開発. 福岡県立大学看護学部紀要, 1 (1), 15-27.
- ・ 手島聖子. (2007). 乳幼児健康診査を通した育児ストレス調査：育児ストレス尺度の信頼性と交差妥当性の検討, 家庭教育研究所紀要,29,77-83.

## 3. 外部研究資金

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本公衆衛生学会，日本看護科学学会，日本地域看護学会，日本心理学会，日本発達心理学会，日本公衆衛生看護学会，日本子ども虐待防止学会

#### 6. 担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年、公衆衛生看護学Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅰ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅱ・2単位・4年・前期、精神看護学実習・2単位・3-4年生・通年、統合実習・2単位・4年・通年、公衆衛生看護学実習Ⅰ・1単位・4年・前期、組織協働活動論・2単位・4年・後期、公衆衛生看護管理論・2単位・4年・後期、公衆衛生看護学Ⅲ・1単位・4年・後期、公衆衛生看護学実習Ⅱ・4単位・4年・後期

担当授業科目（補助）

公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、家族看護学・1単位・3年・前期、公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、公衆衛生看護学Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅰ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護学実習Ⅰ・1単位・4年・前期、組織協働活動論・2単位・4年・後期、公衆衛生看護学Ⅲ・1単位・4年・後期、公衆衛生看護管理論・2単位・4年・後期、公衆衛生看護学実習Ⅱ・4単位・4年・後期

#### 7. 社会貢献活動

#### 8. 学外講義・講演

#### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	道園 亜希
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科にて修士を取得。

主に幼少期・思春期における性の健康に関する研究（助産学分野）を行っています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 道園亜希, 古田祐子, 佐藤繭子, 石村美由紀. 小学4～6年生の子どもを持つ保護者が家庭で行った就学前後の性教育の実態. 福岡県立大学看護学研究紀要. 2019. 16. p63-71.

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 田中美紀, 吉岡未桜, 吉田麻美, 道園亜希, 宮城由美子: 「年長クラスの子どもの対象に『いのち』をテーマにした健康教育実施の効果～保護者へのアンケート調査からの検討～」. 第25回日本保育保健学会, 2019年5月, 神戸.
- ・ 道園亜希, 古田祐子, 石村美由紀, 佐藤繭子. 小学生の子どもをもつ親の家庭での性教育の実態. 第32回日本助産学会学術集会, 2018年3月. 横浜.

### ③過去の主要業績

- ・ 道園亜希, 佐藤香代, 石村美由紀. 小学校教諭が行った性教育の体験. 2017年7月. 母性衛生. vol.58 no.2. p412-419.
- ・ 石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 道園亜希, 林千絵, 清田哲子. 死産を体験した母親の次子の妊娠・出産・育児に関する研究(第2報)一次子の出産・育児体験の語りからー. 2017年7月. 母性衛生. vol.58no.2. p346-354.
- ・ 道園亜希, 古田祐子, 佐藤繭子, 石村美由紀. 小学4～6年生の子どもを持つ保護者が家庭で行った就学前後の性教育の実態. 福岡県立大学看護学研究紀要. 2019年. 16. p63-71.

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本助産学会、母性衛生学会、思春期学会

## 6. 担当授業科目

### 【女性看護学】

女性看護学・2単位・2年・後期、女性看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期、女性看護学演習Ⅱ・1単位・3年後期～4年前期、女性看護学実習・2単位・3年後期～4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

### 【統合実習】

統合実習 2単位・4年・前期

### 【大学院助産学】

ウイメンズヘルステ論・1単位・1年・前期、基礎助産学特論・2単位・1年・前期、基礎助産学演習・2単位・1年・通年、助産学特論・2単位・1年・前期、助産実践学Ⅱ（分娩期）・4単位・1年・通年、助産実践学Ⅲ（産褥・新生児期）・2単位・1年・後期、コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期、コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期、助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）・2単位・2年・後期

## 7. 社会貢献活動

小学校・中学校・保護者を対象とした性教育講演会

## 8. 学外講義・講演

小学校、中学校、保護者会等での性教育講演会

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	中本 亮
-----------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

精神科病院で看護師として、その後 2 年課程看護専門学校、3 年課程専門学校で看護学生の教育に従事した。2015 年福岡県立大学大学院看護学研究科看護教育学を修了し、2016 年に精神看護学領域に着任。

専門分野は看護教育学、精神看護学で現在は主に精神看護学実習教育に携わっている。学習上の課題に対して学生との対話を通して、学生が「わかる」経験を積み重ねていき、「もっと知りたい」という意欲を高められるよう支援していきたいと考えている。

現在取り組んでいる研究テーマは、看護教育学分野ではコミュニケーションにおける誤解について研究を行っている。精神看護学分野では、妄想の発生に推論バイアスが存在することを基盤に、妄想の発生と維持の減弱化について検討している。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 中本亮, 増満誠, 別城佐和子, 佐多愛子, 生駒千恵, 松浦賢長. 2 型糖尿病患者を対象としたうつ状態と QOL との相関分析, 福岡県立大学看護学研究紀要, 16, 55-61.2019 年 3 月.
- ・ 石田智恵美, 中本亮. アクティブラーニングによる演習と看護学生の思考に関する研究, 福岡県立大学看護学研究紀要, 2020 年 3 月.
- ・ 中本亮, 安藤愛, 宮崎初, 坂部滂. 被害妄想に対する介入に関する文献レビュー, 福岡県立大学看護学研究紀要 19 巻, 2022 年 3 月予定.
- ・ 小野順子, 山下清香, 中村美穂子, 中本亮, 榎直美, 田中美樹, 吉川未桜, 吉田麻美, 尾形由起子. A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題-災害時の在宅療養継続に向けて-. 福岡県立大学看護学研究紀要 19 巻, 2022 年 3 月予定.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 中本亮, 宮崎千尋, 井田真実. 実習指導者の研修転移を目指した研修プログラム開発のための文献研究. 日本看護科学学会第 39 回学術集会 石川, 2019 年 11 月.
- ・ 松枝美智子, 宮崎初, 増満誠, 中本亮, 池田智, 山本智之. 精神医療の質評価と精神医療福祉人材数との関連に関する日本の研究の現状と今後の課題. 日本看護科学学会第 39 回学術集会 石川, 2019 年 11 月.
- ・ 石田智恵美, 中本亮. アクティブラーニングによる演習と知識の活用に関する研究. 日本教育工学会 2020 年春季国大会 長野, 2020 年 2 月.

- Michiko Matsueda, Makoto Masumitsu, Ryo Nakamoto, Hajime Miyazaki, Satoshi Ikeda, Tomoyuki Yamamoto, Kaori Onitsuka, Hidekazu Hongo. Relationship between average of psychiatric hospital stay and number of Advanced Practice Nurses (APNs) worldwide: Literature review. Poster Session 4, Nursing Policy, P2-251, The 6th International Nursing Research conference of World Academy Nursing Science, Osaka, 2020.2.29.
- 増満誠, 中本亮, 生駒千恵, 別城佐和子, 佐多愛子, 松浦賢長, 劉宇, 赤司千波. 2型糖尿病患者におけるうつ傾向と QOL との関連に関する日中比較研究. 日本保健福祉学会第 33 回学術集会 (オンライン開催). 2020 年 10 月.
- 松枝美智子, 増満誠, 安保寛明, 高橋葉子, 後藤優子, 高野歩, 光永憲香, 稲垣晃子, 安田妙子, 中本亮, 児玉ゆう子, 中島充代, 池田智, 恵良友彦, 清田由紀子, 宮崎初, 津田絵美. 感染症の時代に医療崩壊を防ぐために精神看護の専門家として何ができるのか, 何をなすべきなのか. 日本看護科学学会第 40 回学術集会 (オンライン開催). 2020 年 12 月.
- 増満誠, 松枝美智子, 中本亮, 恵良友彦, 猪狩崇, 中島充代, 池田智, 安藤愛, 脇崎裕子, 清田由紀子, 児玉ゆう子, 津田絵美. 参加者其々にとってのリカバリー・カレッジの意味の探求. 日本看護科学学会第 40 回学術集会 (オンライン開催). 2020 年 12 月.
- 松枝美智子, 増満誠, 中本亮, 池田智, 宮崎初. 各医療機関の精神科平均在院日数と看護のゼネラリスト数との関連. 日本看護科学学会第 40 回学術集会 (オンライン開催). 2020 年 12 月.
- 石田智恵美, 中本亮. e-learning を活用した知識の変容に関する研究. 日本教育工学会 2021 年春季全国大会 (オンライン開催). 2021 年 3 月.
- 松枝美智子, 増満誠, 中本亮, 宮崎初, 本郷秀和. 精神科平均在院日数を対象にした時のリソース・ナース数の予測モデル. 日本精神保健看護学会第 31 回学術集会・総会 (オンライン開催). 2021 年 6 月.
- 増満誠, 松枝美智子, 中本亮, 恵良友彦, 脇崎裕子, 猪狩崇, 宮崎初, 青木裕史, 青木典子, 谷口研一朗, 津野稔一, 藤本裕二, 安藤愛, 中島充代, 大場裕司, 江頭薫, 中山アツ子. みんなに知ってほしい! 「ともに創りともに学ぶ」を叶えるリカバリー・カレッジで私たちが大切にしていること～立ち上げ方, 続け方, 在り方～. 日本精神保健看護学会第 31 回学術集会・総会 (オンライン開催). 2021 年 6 月.
- 松枝美智子, 増満誠, 中島充代, 恵良友彦, 後藤優子, 津野稔一, 矢治亜樹子, 安藤愛, 中本亮, 脇崎裕子, 宮崎初, 清田由起子, 堤一樹, 入江正光, 山本智之, 大場裕司, 江頭薫, 中山アツ子. 精神科長期入院患者の地域移行に向けた, 当事者, ゼネラリスト, 高度実践看護師の協働. 日本精神保健看護学会第 31 回学術集会・総会 (オンライン開催). 2021 年 6 月.

### ③過去の主要業績

- ・ 中本亮, 石田智恵美. 自己調整学習を導入した授業を経験した学生の自己効力感の特徴 — 自由記述をコーレスポネンセス分析して —, 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 67-74. 2016年3月
- ・ 増満 誠, 松村智大, 中本亮, 馬場保子, 谷多江子, 小浜さつき, 石本祥子, 姫野深雪, 佐藤 藤亜紀. 看護大学生の所属大学を超えた交流の効果の検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 51-56, 2016年3月.
- ・ 中本亮, 石田智恵美. 自己調整学習を導入した精神看護学の授業効果. 日本教育工学会 第31回全国大会, 東京. 2015年9月

### 3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究(C)）2021年度～2024年度 交付金額 3,770千円

研究代表者：増満誠 研究課題：高度実践看護師の患者との対話場面における沈黙の意味解釈と活用技法の検討（研究分担者）

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本教育工学会, 日本看護科学学会, 日本精神保健看護学会, PASセルフケアセラピィ看護学会, 日本精神科看護協会、日本看護研究学会

### 6. 担当授業科目

精神看護学概論・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3年・通年、精神看護学実習・2単位・3～4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

### 7. 社会貢献活動

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	平塚 淳子
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

病院の看護師として勤務した後、平成 27 年に福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を修了し、平成 29 年より看護学部の助手として着任いたしました。主な研究分野は、健康管理行動に関する研究、看護倫理に関する研究、在宅看護についてです。在宅看護の研究では、地域で生活を送るサルコペニアに関する研究を行っています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 櫛 直美 尾形由紀子 小野順子 中村美穂子 大場美緒 吉田麻美 猪狩崇 平塚淳子 田中美樹 吉川美桜 山下清香. 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察. 福岡県立大学看護学研究紀要.
- ・ 平塚淳子. 医療安全風土と医療エラーに関する海外文献レビュー. (2019) . 福岡県立大学看護学研究紀要. 第 16 巻, p103-109.

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ Junko hiratsuka, Makoto masumitsu, Chikako kiyohara. Examination of factors influencing medical safety climate among ward nurses. (2020) . The 6 th international nursing research conference of world academy of nursing science. Osaka.
- ・ 放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担制作者 (2020 年から令和 2 年度)

### ③過去の主要業績

- ・ 平塚淳子. 倫理的風土と職務満足に関する海外文献レビュー. (2018) 福岡県立大学看護学研究紀要. 第 15 巻, p91-96.

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護倫理学会, 日本保健福祉学会



## 6. 担当授業科目

在宅看護学・2単位・2年・後期, 災害看護学・1単位・2年後期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 在宅看護学・2単位・2年・後期, 在宅看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期, 在宅看護学演習Ⅱ・1単位・3年生・後期～4年・前期, 在宅看護学実習・2単位・3年・後期～4年・前期, 統合実習・2単位・4年.

## 7. 社会貢献活動

福岡県立大学大学院看護学研究科ナーシングネットワーク交流会企画委員

## 8. 学外講義・講演

## 9. 附属研究所の活動等

令和3年度研究奨励交付金（若手奨励研究）を獲得し、地域で生活を送る高齢者のサルコペニアに関する研究を実施している。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	廣瀬 理絵
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了後、がん看護専門看護師を取得しました。その後5年間、筑豊地域にある医療機関において、がん看護専門看護師として「がん」と共に生きる人、「老い」を生きる人を対象としたエンド・オブ・ライフ・ケアの実践と看護師を対象とした看護倫理教育に携わりました。その後、2015年度より本学へ着任し、看護師を対象とした倫理教育方法に関する研究に取り組み、現在に至ります。

今後も看護倫理教育に取り組み、効果的な看護倫理教育の在り方について研究を進めていきたいと考えています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 榎直美,雪松和子,江上史子,廣瀬理絵 (2020). 認知症カフェ開設に向けた人材育成の取り組みの効果について, 第40回日本看護科学学会.
- ・ 廣瀬理絵,塩田昇,江上千代美,田中美智子 (2021). 看護学生の倫理観を養う教育内容の検討-「薬害被害者」の講演をとおして-,日本看護研究学会第47回学術集会.

### ③過去の主要業績

- ・ 廣瀬理絵 (2015). 「認知機能低下がある終末期高齢がん患者の意思決定支援」, Oncology NURSE, 8 (6) p98-104.
- ・ 廣瀬理絵,渡邊智子 (2017). がん看護専門看護師が行う高齢がん患者の意思決定支援,日本看護科学学会第37回学術集会,仙台

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本看護倫理学会 (評議員), 日本がん看護学会, 日本緩和医療学会, 日本 CNS 看護学会, 日本老年看護学会, 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会

## 6. 担当授業科目

老年看護学概論・1 単位・2 年・前期、老年看護学演習Ⅰ・1 単位・2 年・前期、基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・通年、シンプトンマネジメント論・1 単位・2 年・後期、チーム医療論・1 単位・2 年・後期、成人慢性看護学・2 単位・2 年・後期、専門看護学ゼミ・1 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年

## 7. 社会貢献活動

- ・ がん看護専門看護師活動
- ・ 臨床倫理認定士（臨床倫理アドバイザー）
- ・ 介護認定審査委員（2 回/月）
- ・ 地域包括ケアシステム推進協議会専門部会員

## 8. 学外講義・講演

- ・ 「看護研究指導」, 飯塚市立病院
- ・ 「看護研究講義」, 飯塚市立病院
- ・ 「看護研究発表会」, 一般社団法人福岡県社会保険医療協会社会保険病院 講評
- ・ 「看護研究発表会」, 飯塚市立病院 講評
- ・ 「がん教育」, 小学校

## 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	村田 和子
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

看護基礎教育終了後、総合病院、大学病院で看護師としてICU、CCU、心臓外科病棟で勤務しました。その後、大分大学大学院医学系研究科看護学専攻を修了し、総合病院で院内教育、新人教育などの現任教育に携わりました。看護師のキャリア形成や循環器疾患を抱える患者の看護に興味をもっています。現在は成人看護学の教育に携わり、シミュレーション教育を取り入れながら演習を行っています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 村田和子, 福田和美 (2020) : 成人看護学におけるシミュレーション教育の文献検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第17巻
- ・ 村田和子, 笹山万紗代, 福田和美, 大場美緒, 政時和美, 山口馨子, 中井裕子, 古庄夏香 (2022) : 成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第19巻
- ・ 山口馨子, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子, 中井裕子, 福田和美 (2022) : クリティカルケア実習における看護学生の体験－フォーカス・グループインタビューの分析, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第19巻
- ・ 政時和美, 大場美緒, 古庄夏香, 中井裕子, 村田和子, 笹山万紗代, 山口馨子, 福田和美 (2022) : 学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第19巻

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 村田和子, 福田和美 (2019) : 成人看護学におけるシミュレーション教育の文献検討, 日本看護研究学会第45回学術集会, 大阪
- ・ 村田和子, 福田和美 (2020) : 看護基礎教育における患者教育に関する文献検討, 日本看護研究学会第46回学術集会, Web開催
- ・ 山口馨子, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子, 中井裕子, 福田和美 (2021) : 看護学生のクリティカルケア実習の体験－フォーカス・グループインタビューの分析－, 日本看護研究学会第47回学術集会, Web開催

### ③過去の主要業績

- ・ 小田正枝, 下舞紀美代, 安藤敬子, 中西順子, 村田和子, 古川秀敏, 古庄夏香他, 『大特集 看護計画まで見せます! 実習でよく挙げる看護診断ベスト10』, プチナース, 第18巻, 第13号, 2009, 照林社

- ・ 宇井進, 中川晋, 樺山幸彦, 廣谷隆, 田畑稔, 安藤恵美子, 川渕いづみ, 相良恭子, 星まき子, 菊川智恵, 伊勢田礼子, 村田和子, 中島千夏代, 立石由紀子, 『心疾患テクニカルチェックークリニカルパスにみるナーシングケア』, 第I章(4)「大動脈弁膜症」, 第I章(8)「心不全」, 第I章(9)「感染性心内膜炎」, 第III章(3)「IABP」を担当, メディカ出版

### 3. 外部研究資金

### 4. 受賞

### 5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会

### 6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期, 医療安全・1単位・2年・前期, 成人急性看護学・2単位・2年・後期, 成人慢性看護学・2単位・2年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 成人看護学演習I・1単位・3年・前期, 成人看護学演習II・1単位・3年・前期, 成人急性看護学実習・3単位・3～4年・後期～前期, 成人慢性看護学実習・3単位・3～4年・後期～前期, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

### 7. 社会貢献活動

### 8. 学外講義・講演

### 9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	大場 美緒
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

産業医科大学産業保健学部看護学科卒業。熊本大学医療技術短期大学部助産学特別専攻過程終了。看護師として内科系の臨床で勤務後、看護小規模多機能型居宅介護事業所に勤務。2018年に本学に着任し、基礎看護学、成人看護学に携わっている。

臨床では、神経難病や脳梗塞後の麻痺などで介助が必要となった患者が、住み慣れた自宅に戻ることの困難さを感じていた。そのため、慢性疾患患者が在宅復帰する際に必要となる支援や他職種との連携について探求していきたいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 政時和美、笹山万紗代、大場美緒、村田和子. A 地区における看護師のリンパ浮腫ケアを実践するために必要な教育、福岡県立大学看護学研究紀要、16、2019.
- ・ 榎直美、尾形由起子、小野順子、中村美穂子、大場美緒、吉田麻美、猪狩崇、平塚淳子、田中美樹、吉川未桜、山下清香. 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取り組みに関する一考察、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- ・ 吉川未桜、吉田麻美、平塚淳子、中村美穂子、大場美緒、小野順子、猪狩崇、山下清香、田中美樹、榎直美、尾形由起子. 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- ・ 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美. クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- ・ 村田和子、笹山万紗代、福田和美、大場美緒、政時和美、山口馨子、中井裕子、古庄夏香. 成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.
- ・ 政時和美、大場美緒、古庄夏香、中井裕子、村田和子、笹山万紗代、山口馨子、福田和美. 学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み、福岡県立大学看護学研究紀要、19、2022.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美. 看護学生のクリティカルケア実習の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～、第 47 回日本看護研究学会学術集会、2022.
- ・ 政時和美、古庄夏香、大場美緒. 医療依存度の高い在宅患者への災害時における避難支援に関する文献検討、第 47 回日本看護研究学会学術集会、2022.

### ③過去の主要業績

#### 3. 外部研究資金

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本看護研究学会

#### 6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、看護実践論・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人急性看護学実習・3単位・3～4年・後期、成人慢性看護学実習・3単位・3～4年・後期、統合実習・2単位・4年・通年

#### 7. 社会貢献活動

#### 8. 学外講義・講演

#### 9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	笹山 万紗代
-----------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として手術室・SICUでの臨床経験を経て、2017年より本学に着任し、成人看護学領域に携わっている。技術演習では、学生が患者の状態をイメージ化し、臨床の看護技術を習得できるように関わっている。

研究では、手術室における新人看護師教育について方法や有効性などを明らかにしていきたいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

<論文>

- 山口馨子, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子, 中井裕子, 福田和美: クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～, 福岡県立大学看護学研究紀要 第19巻, 2022
- 村田和子, 笹山万紗代, 福田和美, 大場美緒, 政時和美, 山口馨子, 中井裕子, 古庄夏香: 成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告, 福岡県立大学看護学研究紀要 第19巻, 2022
- 政時和美, 大場美緒, 古庄夏香, 中井裕子, 村田和子, 笹山万紗代, 山口馨子, 福田和美: 学内での対面とオンラインを組み合わせた成人慢性看護学実習の取り組み, 福岡県立大学看護学研究紀要 第19巻, 2022
- 中井裕子, 笹山万紗代, 政時和美, 松井聡子: 手術室見学実習における看護学生の学び, 福岡県立大学看護学研究紀要 第17巻, 2020
- 政時和美, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子: A 地区における看護師のリンパ浮腫ケアを実践するために必要な教育, 福岡県立大学看護学研究紀要 第16巻, 2019
- 松井聡子, 清水夏子, 永尾寛子, 笹山万紗代, 政時和美: 実習施設を就職先として意識するきっかけとなった看護師の魅力的な態度, 福岡県立大学看護学研究紀要 第16巻, 2019

### ②その他最近の業績

<示説>

- 山口馨子, 笹山万紗代, 大場美緒, 村田和子, 中井裕子, 福田和美: クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～, 日本看護研究学会第47回学術集会, Web開催, 2021
- 政時和美, 中井裕子, 笹山万紗代: 病院前救護の実践と教育に関する課題, 日本看護研究学会第46回学術集会, Web開催, 2020
- 笹山万紗代, 中井裕子, 政時和美, 松井聡子: 手術室見学実習における看護学生の学び, 日本看護研究学会第45回学術集会, 大阪, 2019



### ③過去の主要業績

#### 3. 外部研究資金

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本看護研究学会，日本看護科学学会，日本手術看護学会

#### 6. 担当授業科目（補助）

成人看護学概論・1単位・2年・前期、成人急性看護学・2単位・2年・後期、成人慢性看護学・2単位・2年・後期、成人急性看護学成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人急性看護学実習・3単位・3年後期～4年前期、成人慢性看護学実習・3単位・3年後期～4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期 など

#### 7. 社会貢献活動

#### 8. 学外講義・講演

#### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	田原 千晶
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

### <自己紹介>

看護師として小児病棟・GCUに勤務後、平成29年度より本学に着任した。

小児病棟・GCUでは、急性期から慢性期、内科から外科まで幅広い小児看護に携わり、子どもの成長や発達を促す看護について考え、実践してきた。

特に、長期入院やターミナル期の子どもについては、入院しているために制限される遊びやお祝い事などを中心に、1人ひとりの子どもや家族の気持ちに寄り添い、両者の思いや願いをかなえる看護を創造することに力を注いできた。

### <主な研究分野>

近年は医療後術の進歩により子どもの救命率は向上し、NICUを退院後、引き続き人工呼吸器や胃ろうを使用し在宅医療を受ける子どもは増加している。その子どものなかには、日常的なたんの吸引や経管栄養などの医療的ケアを必要とする者もいる。子どもが病院を退院後、在宅療養を行うにあたり、家族の負担や不安は測りしれないほど大きいことが予測され、それらは研究結果としてすでに明らかにされている。

地域包括ケアシステムの充実が図られつつあるなか、在宅療法をしている子どもについての支援は十分といえない現状にある。そのため、「在宅療養をしている医療的ケアが必要な子どもと家族への支援」をテーマに研究を進めている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・（発表予定）梶原由紀子，原田直樹，田原千晶，松浦賢長（2022）．養護教諭の危機対応に関する研修についての調査研究，福岡県立大学看護学部紀要19．

### ②その他最近の業績

- ・ 松浦賢長，大矢崇志，梶原由紀子，田中祥一郎，岡松由紀，田原千晶，増満誠，原田直樹，山崎喜久，山縣然太郎．すべての子どもを対象とした要支援情報の把握と一元化に関する研究 厚生労働科学研究補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究（2018）．平成29年度総括・分担研究報告書，194－197．

### ③過去の主要業績

## 3. 外部研究資金

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本看護協会、日本保健福祉学会

#### 6. 担当授業科目（補助）

不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期，子供学習支援論・1単位・1年・後期，教育と社会・地域・1単位・1年・後期，基礎看護技術論・2単位・1年・後期，基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年，保健統計学・2単位・2年・前期，教育方法論・1単位・2年・後期，シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期，健康科学・2単位・2年・後期，養護概説・2単位・2年・後期，学校保健学・1単位・3年・前期，健康教育論・2単位・3年・前期，性教育学・2単位・看護3年／人社3年・前期，統合実習・2単位・4年・通年，養護実習・4単位・4年・前期，養護実習事前事後指導・1単位・4年・前期，教職実践演習（養護教諭）・2単位・4年・後期，

#### 7. 社会貢献活動

新型コロナウイルスワクチン職域接種

#### 8. 学外講義・講演

#### 9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	中村 美穂子
-----------	----	----	----	--------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了、修士（看護学）。看護師として、呼吸器内科病棟、緩和ケア病棟に勤務、その後 2015 年度より本学へ着任する。これまでの経験の中で、がんを患い、がんによる症状および治療に伴う副作用を持ちながら自宅で過ごす方、そして残された時間や最期の時を住み慣れた自宅で過ごしたいという患者家族の想いに触れてきた。しかし現実ではそのほとんどが病院での看取りとなり、患者家族の願いを叶えるためには、病院から在宅への移行支援及び地域における社会資源の充実や人材育成の必要性を感じている。がん、非がんに関わらず、院内外の看護職及び多職種による退院支援や意思決定支援における職種間の連携の促進をテーマに、地域包括ケアシステムの視点もあわせ探究していきたいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <著書>

- 尾形由起子，山下清香編，山下清香，中村美穂子．第 5 章 演習から実習の展開，地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習，クオリティケア，2019.

#### <論文>

- 榎直美，尾形由起子，小野順子，中村美穂子，大場美緒，吉田麻美，猪狩崇，平塚淳子，田中美樹，吉川未桜，山下清香．在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察，福岡県立大学看護学紀要，19 巻，2021.
- 吉川未桜，吉田麻美，平塚淳子，中村美穂子，大場美緒，小野順子，猪狩崇，山下清香，田中美樹，榎直美，尾形由起子．新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応，福岡県立大学看護学紀要，19 巻，2021.
- 小野順子，山下清香，中村美穂子，中本亮，榎直美，田中美樹，吉川美桜，吉田麻美，尾形由起子．A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題－災害時の在宅療養継続に向けて－，福岡県立大学看護学紀要，19 巻，2021.
- 檜橋明子，中村美穂子，小野順子，山下清香，手島聖子，尾形由起子．保健師の実践能力に対する公衆衛生看護学実習の効果－学生の自己評価に着目して－，福岡県立大学看護学紀要，18 巻，27-35，2020.
- 山口のり子，福岡洋子，中村美穂子，猪狩崇，尾形由起子．官民学協働による地域住民を含めた『ケア・カフェ』実践報告～多職種フォーカス・グループ・インタビューの結果より～，福岡県立大学看護学紀要，18 巻，21-26，2020.

## ②その他最近の業績

### <学会発表>

- ・ 中村美穂子，小野順子，廣瀬理絵，岩崎玲奈，櫛直美，尾形由起子．A県における退院支援部門の実態及び退院支援・退院調整に関する意識調査－第一報－．日本在宅ケア学会，仙台，2019年
- ・ 櫛直美，小野順子，中村美穂子，廣瀬理絵，山下清香，尾形由起子．在宅医療推進における訪問看護師の連携に関する研究 連携強化事業を通して(第1報)．第77回日本公衆衛生学会総会，高知，2019年

## ③過去の主要業績

- ・ 杉本みぎわ，櫛直美，山下清香，猪狩崇，中村美穂子，平塚淳子，山本博美，尾形由起子．A県の訪問看護ステーション交流会事業を通して見えた連携のあり方と今後の課題．日本看護研究学会第23回九州・沖縄地方会学術集会，長崎，2018年
- ・ 中村美穂子，尾形由起子，櫛直美，小野順子，檜橋明子，杉本みぎわ，吉田恭子，猪毛尾和美，馬場順子．在宅療養継続のための連携に対する訪問看護師の意識調査－第一報－．第75回日本公衆衛生学会総会，鹿児島，2017年
- ・ 櫛直美，尾形由起子，小野順子，檜橋明子，杉本みぎわ，中村美穂子，猪毛尾和美，馬場順子，吉田恭子．訪問看護師の在宅医療推進のための多職種連携に関連する要因の検討－第二報－．第75回日本公衆衛生学会総会，鹿児島，2017年

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本公衆衛生学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会

## 6. 担当授業科目（補助）

公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、家族看護学・1単位・3年・前期、公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1単位・3年・後期、公衆衛生看護学Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅰ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生アセスメント論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護学実習Ⅰ・1単位・4年・前期、公衆衛生看護学Ⅲ・1単位・4年・後期、公衆衛生看護管理論・2単位・4年・後期、組織協働活動論・2単位・4年・後期、公衆衛生看護学実習Ⅱ・4単位・4年・後期、統合実習・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

- ・ ケア・カフェたがわ（在宅医療多職種研修会）：年間3回開催

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	山口 馨子
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

総合病院の内科系病棟と3年課程の看護専門学校の経験を経て2019年に本学に着任し、成人看護学に携わっています。演習や実習で学生と共に看護を考え、より良い看護を目指しています。さらに急性期看護学について探究していきたいと考えています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美．クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～．福岡県立大学看護学研究紀要 2022：69-76.
- ・ 前田（山口）馨子、監修：目黒悟、永井睦子．授業デザイン・授業リフレクションの実際 No.7 基礎看護学における授業デザイン・授業リフレクション①～基礎・授業デザイン編～、メヂカルフレンド社 2019；44（3）：60-66.
- ・ 前田（山口）馨子、監修：目黒悟、永井睦子．授業デザイン・授業リフレクションの実際 No.8 基礎看護学における授業デザイン・授業リフレクション②～基礎・授業リフレクション編～、メヂカルフレンド社 2019；44（5）：68-78.

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 山口馨子、笹山万紗代、大場美緒、村田和子、中井裕子、福田和美．クリティカルケア実習における看護学生の体験～フォーカス・グループインタビューの分析～．日本看護研究学会 第47回学術集会、オンライン開催、2021年

### ③過去の主要業績

## 3. 外部研究資金

## 4. 受賞

## 5. 所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会

## 6. 担当授業科目

成人看護学概論・1単位・2年・前期（補助）、成人急性看護学・2単位・2年・後期（補助）、成人慢性看護学・2単位・2年・後期（補助）、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期（補助）、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期（補助）、成人慢性看護学実習・成人急性看護学実習 3単位・3～4年・後期～前期（補助）、統合実習・2単位・4年・通年（補助）

## 7. 社会貢献活動

## 8. 学外講義・講演

## 9. 附属研究所の活動等



看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	吉田 麻美
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、小児科病棟・NICU・障害児訪問保育現場での訪問看護で、退院を見据えた関わりや在宅生活支援に携わってきた。これまでの経験の中で、医療的ケアを必要とする子どもその家族の想いや生活に触れ、地域で生活するための支援不足を日々感じてきた。そのため、子どもやその家族が、住み慣れた地域であたりまえに日常生活を送り社会参加できるための支援について探究したいと考えている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- ・ 吉田麻美：歩ける医療的ケア児の母親の子育てにおける適応していくプロセスの検討. 福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文. 2022年3月.
- ・ 吉川未桜、吉田麻美、平塚淳子、中村美穂子、大場美緒、小野順子、猪狩崇、山下清香、田中美樹、榎直美、尾形由起子：新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応. 福岡県立大学看護学部紀要 19巻、2022年.
- ・ 田中美樹、吉川未桜、尾形由起子、榎直美、吉田麻美：小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み. 福岡県立大学看護学部紀要 19巻、2022年.
- ・ 小野順子、山下清香、中村美穂子、中本亮、榎直美、田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、尾形由起子：A県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題 - 災害時の在宅療養継続に向けて -. 福岡県立大学看護学部紀要 19巻、2022年.
- ・ 榎直美、尾形由起子、小野順子、中村美穂子、大場美緒、吉田麻美、猪狩崇、平塚淳子、田中美樹、吉川未桜、山下清香：在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要 19巻、2022年.

### ②その他最近の業績

#### <学会発表>

- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、道園亜希、宮城由美子：「年長クラスの子どものを対象に“いのち”をテーマにした健康教育実施の効果～保護者へのアンケート調査からの検討～」. 第25回日本保育保健学会、2019年5月、神戸
- ・ 吉田麻美、吉川未桜、田中美樹：小児看護学実習における学生のインシデント 傾向の分析と課題. 第20回九州・沖縄小児看護教育研究会. 福岡. 2019年

### ③過去の主要業績

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本小児保健協会、九州・沖縄小児看護教育研究会

6. 担当授業科目（補助）

小児看護学概論・1単位・2年・前期、小児看護学・2単位・2年・後期、子どもの保健Ⅱ・1単位・2年・前期、小児看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、小児看護学演習Ⅱ・1単位・3年、小児看護学実習・2単位・3年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員